2020年度 基　本　資　料

JCI Hirosaki

2020年度　基本理念

多様性輝く未来へ

公益社団法人 弘前青年会議所

公益社団法人弘前青年会議所
長期ビジョン　60周年～70周年

白神の恵み
お城に桜　美しく
世界に誇れる
安住(あず)ましいまち
それが弘前

世界自然遺産白神山地の恵みに生かされた城下町弘前
築城より400年の月日を経て日本人が
愛してやまない桜を誇らしげに咲かせている
その姿に励まされるように私たちの
まちづくりも紡がれてきた
桜はやさしく咲き　桜は潔らかに散る
桜はしたたかに待ち　津軽人の心を写しだす
築城400年の弘前は　桜にこだわりぬいたまち
先人に感謝と敬意を抱き私たちは未来へ約束する
世界に通じるもう一つの心の遺産「弘前城の桜」を
未来永劫に紡ぐことを

The Creed of Junior Chamber International

We Believe：
That faith in God gives meaning
and purpose to human life ;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations ;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise ;
That government should be of laws
rather than of men ;
That earth,s great treasure lies in
human personality ; and
That service to humanity is the best
work of life.

JCI MISSION

To provide development opportunities.
that empower young people.
to create positive change.

JCI VISION

To be the leading global network of
young active citizens.

ＪＣ宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱　　領

われわれJAYCEEは
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

東北JC宣言

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

目　　次

○2020年度　公益社団法人　弘前青年会議所　基本資料

基本理念・基本方針…… 4
理事長所信…… 5
組織図…… 9
職務分掌…… 10
出向者一覧…… 11
事業計画…… 12
予算書類…… 34
年間公式スケジュール…… 40

○2020年度　公益社団法人　日本青年会議所　基本資料

・公益社団法人　日本青年会議所

基本理念・基本方針…… 43
会頭所信…… 45

・公益社団法人　日本青年会議所　東北地区協議会

基本理念・スローガン・基本方針・事業計画…… 58
東北地区協議会　会長意見書…… 59

・公益社団法人　日本青年会議所　東北地区青森ブロック協議会

基本理念・スローガン・基本方針・事業計画…… 66
東北地区青森ブロック協議会　会長意見書…… 67

○2019年度　公益社団法人　弘前青年会議所　事業・決算

2019年度を振り返って …… 75
事業報告 …… 96
決算書類 …… 234
監査報告書 …… 271

2020年度

公益社団法人弘前青年会議所

基　本　資　料

公益社団法人　弘前青年会議所

理　事　長　所　信

理事長　比内　理佑

【基本理念】

多様性輝く　未来へ

【スローガン】

当事者であれ

【基本方針】

１．会員の拡大と資質向上
２．持続可能な地域社会の発展に向けた取り組み
３．未来を担う青少年の育成
４．組織の運営と改革
５．創立７０周年へ向けて

多様性輝く　未来へ

私たちが生きている今という時代は、日々刻々と変化しています。
１時間、１日という単位でみれば小さなその変化は、１ヶ月、１年と時間の単位を大きくするほど、比例して速く、大きく現れます。

１９５１年１月１５日、戦後まもなく弘前青年会議所は誕生しました。
戦後復興から高度経済成長へ至る、工業社会と呼ばれる私たちの先輩の時代。
私たちが生まれ育ち、今に至る情報社会と呼ばれる時代。
当たり前のように世界中の情報にアクセスでき、その結果として社会的な変化は加速し、今、Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０と呼ばれる、サイバーとフィジカルが融合した、新しい未来へと私たちは向かっています。
日本においてはＩｏＴ、ロボット、ＡＩ、ビックデータ、自動運転等の先端技術の活用により経済発展と社会的な課題の解決を両立する未来が提唱され、世界では国際連合により持続可能な開発目標、ＳＤＧｓが提唱されるなか、この弘前という地において私たちは今、何をするべきなのでしょうか。
それは特別なことではありません。

「事業は青年独自の熱と力を以って経済文化の繁栄と社会一般に貢献し、正義心を涵養して時代を担う清新なる自覚に生きる」
弘前青年会議所設立趣意書にあるこの一節は、今も私たちが受け継ぐ創始の志です。

何を課題と捉え、誰のために、何のために、何を行い、伝えるのか。

私たち自身の考えと責任によって、社会の課題を捉え分析し、仮説を立て行動し、検証して発信、伝播することで社会をより良い方向へと変えていく、誰かに言われたから行うのではなく、自律的な私たちの活動こそが青年会議所の価値であり、その価値があるからこそ私たちの活動は運動となり、世代、時代の変化を超えて継続されてきたと信じています。

今という時代を生きる当事者として、未来という次代へつなげる責任ある世代として、行動してまいりましょう。

会員の拡大と資質向上

青年会議所は２０歳から４０歳までの限られた世代により運営され、一人ひとりが毎年異なる役割を担う、新陳代謝のある組織です。
常とは異なる環境に身を置くことは新しい挑戦へとつながり、それは自身の成長へと発展します。
私たちの成長こそが地域の発展へとつながるという気概を持ち、一人ひとりの会員が資質と品格を高め、仲間と一緒に事業に、地域に向き合う姿こそが、組織としての信頼を高め、運動の成果を高めることにつながると信じています。

一人ではできないことでも、仲間と一緒なら成し遂げられます。
地域の青年へ成長の機会を提供し、地域の可能性を拡大するために、私たちの運動を広めてまいりましょう。

持続可能な地域社会の発展に向けた取り組み

私たちが住み暮らすこの地域と向き合い、その先を考え、実践する。
そんな人が多いほどこの地域の未来は明るくなるけど、そんな人は周りにいますか、そんな人になれていますか。
何とかしてくれる誰かを待つのでなく、当事者としてできる何かを始めましょう。

私たちの故郷を愛することが、この地域を明るくすることにつながります。
そしてそのために、地域に関心を持ち、地域や伝統文化を知ることが必要です。

未来を担う青少年の育成

今の子供たちがこれから生きていく時代は、これまで以上に変化が速く、価値観がより多様化される時代です。
私たちがこれまで経験したことの無い時代を生きる子供たちが、幸せに生きていけるように私たちができることは何でしょうか。

むかし私たちが子供だった頃、周りの大人たちが教えてくれたこと。
今の私たちをかたちづくり、支えとなってくれているもの。
学校だけでは経験出来ないものを、地域の大人として伝えたい。

組織の運営と改革

環境が変わる時、人や組織もまた変わらなければ生き残ることはできません。
私たち青年会議所は、創始の志を変えることなく、しかし事業や組織のかたちを変えることで、時代の変化に合わせて、あるいは時代を先取りして行動することができます。

盤石な組織運営を基礎としながら、一人ひとりの会員がもつ力を最大限発揮し、地域社会へより良い影響を与えるために、まずは自らを改革し、柔軟に在り方を変えて参ります。

創立７０周年へ向けて

弘前青年会議所は２０２１年、創立７０周年の節目を迎えます。

毎年新しく生まれ変わる組織ですが、２０１１年からの１０年間、私たちは長期ビジョンとして「白神の恵み　お城に桜　美しく　世界に誇れる　安住ましいまち　それが弘前」を掲げて、単年度の変化以外の、軸をもった活動を展開して参りました。
今というこの時代に、未来に向かって何を掲げていくべきか。

多様な価値観のなかから、新しい軸をつくりあげます。

当事者であれ

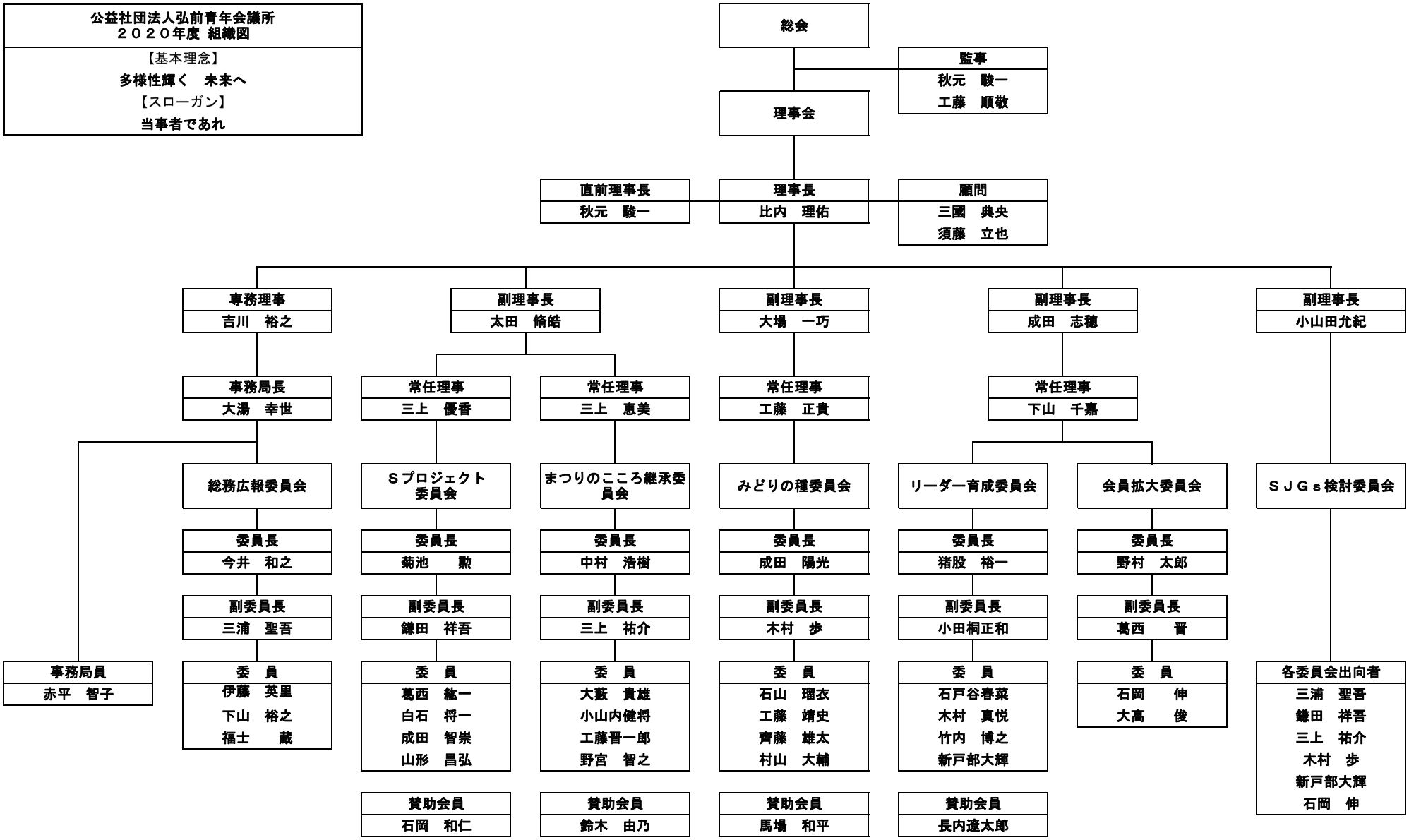
過去に学び、しかし捉われることなく、未来にどう在りたいかを描き、今を動こう。
今、私たちにできる何かとは、全く新しい発想かもしれないし、既存のものの改良や発展かもしれないが、それでも私たちは既存の答えを探す組織ではなく、新しい答えをつくる組織でありたい。

一人ひとりの役割は、仲間を集めるリーダーや活躍するプレイヤー、あるいはマネージャーやサポーターと異なるかもしれないが、この地域に住み暮らす私たちみんなが当事者として行動することで、この地域はもっと良く、明るくなる。

未来のために、より良い故郷をつくるために、できる何かを始めよう！

公益社団法人弘前青年会議所
２０２０年度 組織図

【基本理念】
多様性輝く　未来へ
【スローガン】
当事者であれ



公益社団法人　弘前青年会議所　2020 年度　職務分掌

副理事長

・理事長補佐
・担当委員会の統括責任者
・担当委員会の対外的活動に対する問題処理及び行政機関、関係団体等への折衝並びに応接
・その他

専務理事

・担当委員会の事業統括
・財政管理及び事務局の統括
・公益法人運営の精査・調整
・各種関係団体窓口
・公認会計士窓口
・外部監査対応
・渉外関係窓口
・その他

事務局長

・常任理事会の運営
・専務理事補佐並びに事務局運営
・担当委員会の運営統括
・会費の徴収
・コンプライアンス及び財政指導
・外部監査対応補佐
・HP・各 SNS・広報総合管理
・渉外関係補佐
・その他

担当常任理事

・担当委員会の運営統括
・公益目的に資する企画・運営
・その他

各委員会共通事項

・例会の企画・運営

三役執行部

・わんぱく相撲の企画・運営

総務広報委員長及び委員会

・総会の企画・運営
・理事会の運営
・会議議事録の作成
・アワードの企画・運営
・基本資料、メンバーズリスト、名刺の作成
・新年祝賀会の企画・運営
・あおいりんごの作成・発行
・その他

Ｓプロジェクト委員長及び委員会

・地域連携事業の企画・運営
・その他

まつりのこころ継承委員長及び委員会

・剛情張り大太鼓事業の企画・運営
・その他

みどりの種委員長及び委員会

・青少年事業の企画・運営
・ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会の運営
・その他

リーダー育成委員長及び委員会

・会員研修の企画・運営
・新人研修の企画・運営
・その他

会員拡大委員長及び委員会

・会員拡大窓口
・卒業式の企画・運営
・その他

ＳＪＧｓ検討委員会

・長期ビジョンの準備
・記念誌の準備
・その他

公益社団法人　弘前青年会議所
2020 年度　出向者一覧

日本青年会議所

ＪＣプログラム推進委員会	委　員	秋元　駿一
ＳＤＧｓ推進会議	委　員	太田　脩皓
規則審査会議	委　員	大藪　貴雄
	委　員	下山　裕之

東北地区協議会

広域連携推進委員会	副委員長	白石　将一
	幹　事	大場　一巧
	委　員	石岡　　伸
東北ゼミナール委員会	委　員	工藤　正貴
選挙管理委員会	委　員	三國　典央

青森ブロック協議会

	副会長（役員）	秋元　駿一
	事務局長（役員）	小山田允紀
アカデミー大学	塾　生	下山　千嘉
	塾　生	鎌田　祥吾
	塾　生	三上　祐介
	塾　生	竹内　博之
	塾　生	葛西　紘一
	塾　生	猪股　裕一
ＬＯＭ支援委員会	副委員長	成田　志穂
	委　員	葛西　　晋
青森を護り青森を創る委員会	委　員	石山　瑠衣
アツい青森実現委員会	委　員	石戸谷春菜
総務広報委員会	委　員	福士　　蔵

全国城下町青年会議所連絡協議会

	理　事	須藤　立也

2020年度

公益社団法人弘前青年会議所

事　業　計　画

公益社団法人弘前青年会議所　2020年度　事業・組織体系図

本部
所在地：青森県弘前市大字東長町47番地-2

公1	地域社会の健全な発展に寄与する事業	Sプロジェクト委員会	地域連携事業の企画・運営
		まつりのこころ継承委員会	剛情張大太鼓事業の企画・運営
公2	青少年の健全な育成に寄与する事業	みどりの種委員会	青少年事業の企画・運営
		みどりの種委員会	ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会の運営
		三役執行部	わんぱく相撲事業の企画・運営
他1	会員の資質・親睦向上事業	全体事業	例会の企画・運営
		リーダー育成委員会	会員研修
		リーダー育成委員会	新人研修
他2	会員拡大及び会員相互の情報共有等に関する事業	会員拡大委員会	会員拡大窓口

Sプロジェクト委員会　事業計画書

- 基本理念　：多様性輝く　未来へ
- 基本方針　：持続可能な地域社会の発展に向けた取り組み
- 委員会基本方針　：新しい歴史の1ページを作り、未来という次代へつなげる責任ある世代として行動する
- 事業番号・区分　：公1　地域社会の健全な発展に寄与する事業
- 職務分掌　：・地域連携事業の企画・運営
・その他

基本方針並びに年間事業計画

1.　基本方針

新しい歴史の1ページを作り、未来という次代へつなげる責任ある世代として行動する

2.　事業計画

	事　業　計　画　名	概算予算	公益／共益
1.	Cross. S～新たな物語のはじまり～事業	￥　4，500，000－	公益

各事業の事業計画書

3.　事業計画　（概要）

1.　Cross. S～新たな物語のはじまり～事業　　￥　4，500，000－　　公益

【事業背景】

少子化の進展と人口減少が進む弘前において、地域を支える次世代の子供たちに注目することは重要である。いじめ、不登校、虐待に象徴されるように、地域にとって最も急務で重要な課題は、次世代の子供たちを取り巻く家庭や地域社会の環境を整備することである。

【意義・目的】

次世代の子供たちの未来を考える新たな一日（ANNIVERSARY）を市民とともに創り上げ、市民一人ひとりが当事者意識をもち、郷土に変革をもたらすための行動を促すことを目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

11番	包摂的で安全かつ強靭（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
3、11、12番	持続可能な生産消費形態を確保し、包摂的で安全かつ強靭(レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。あらゆる年齢のすべての人びとの健康的な生活を確保し、福祉を促進ことを狙いとする。

本事業の目的である次世代をテーマにした取り組みは、市民が次世代を認識し行動を起こすことにつながり、それは持続可能な社会そのものを構築し、あらゆる世代の人間にとって、教育・福祉・経済においても必要不可欠な社会を展開することができる。

【事業手法】

CRAFT・ART
※親子で関わりながら学ぶクラフトワークショップの展開
MUSIC・TALK
※子供から子育て世代が楽しめる音楽ライブの展開
※市民が笑いと学びを得られるトークショーの展開
FOOD
※親子で楽しみながら学べる食物アレルギーに配慮したフードコートの展開
KIDS
※子供たちが身体を動かすことのできる遊び場の展開
※子供を取り巻く環境を改善するためのアンケートを実施
※市民の声を集約した調査報告書の作成

【事業対象者】　対外対象者　：一般市民
対内対象者　：会員

【事業実施時期】　2020年8月～9月中

【事業実施場所】　　弘前市内の施設

【パートナー】　　弘前市役所広聴広報課及び文化スポーツ振興課、未来の担い手・地域づくり推進委員会、適宜

【広報戦略】
保育園及び幼稚園、小学校、中学校、高校、短大・大学への各世代への子供向けへの広報宣伝。
地元マスコミを通じた広報リリース、さらにはSNSでの発信並びにボランティアでのファンページつくり。
地元音楽関係者及びART関係者への広報・発信グループつくりを行い、各業界と連携した動きをつくる。

【KPI】
来場者数1万人

【事業の公益性】　　あり

事業の種類　：　地域社会の健全な発展を目的とする事業
別表の号　：　19
該当理由　：　本事業は、市民と共に、次世代の子供達の未来を考える新たな一日を創り上げ、市民一人ひとりが当事者意識を持ち、郷土に変革をもたらす為の行動を促すことを目的としており、「地域社会の健全な発展を目的とする事業」に該当する。
事業の公益性　：

チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
（18）上記の事業区分に該当しない場合	
1．事業目的 （趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄付を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	1．本事業は一般市民全般を対象として、市民と共に、次世代の子供達の未来を考える新たな一日を創り上げ、市民一人ひとりが当事者意識を持ち、郷土に変革をもたらす為の行動を促すことを目的とし、ホームページなどにより広く告知している。
2．事業の合目的性 （趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切になっているかを確認する趣旨） ア　受益の機会の公開（例　受益の機会が、一般に開かれているか）	ア　本事業は一般市民全般を対象としており、特に制限を設けていないことから受益の機会は一般に開かれている。
イ　事業の質を確保するための方策 （例　専門家が適切に関与しているか）	
ウ　審査・選考の公正性の確保 （例　当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が構成に行われているか）	ウ　本事業において、審査・選考は伴わない。
エ　その他 （例　公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ　特定の団体や業界の利益を図るものではない。

まつりのこころ継承委員会　事業計画書

- 基本理念　：多様性輝く　未来へ
- 基本方針　：持続可能な地域社会の発展に向けた取り組み
- 委員会基本方針　：パートナーシップを活性化させて地域へ貢献する
- 事業番号・区分　：公1　地域社会の健全な発展に寄与する事業
- 職務分掌　：・剛情張大太鼓事業の企画・運営
・その他

基本方針並びに年間事業計画

1.　基本方針

パートナーシップを活性化させて地域へ貢献する

2.　事業計画

	事　業　計　画　名	概算予算	公益／共益
1.	剛情張大太鼓事業	￥400,000－	公益

各事業の事業計画書

3.　事業計画（概要）

1.	剛情張大太鼓事業	￥400,000－	公益

【事業背景】

2018年に復活させた剛情張大太鼓を2019年も運行したが、運行の知識や経験、叩き手の人数は不足しており、今後継続して運行するためには後継者へ伝えるべきことを確立する必要がある。

【意義・目的】

剛情張大太鼓の魅力を一般市民に知ってもらい、その経験を剛情張大太鼓継承の礎とし、ノウハウの蓄積と具現化を目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
17．17	様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する

一般市民と会員が協力して弘前ねぷたまつりで剛情張大太鼓を運行することで市民社会のパートナーシップを奨励・推進することができる。

【事業手法】
・叩き手、曳き手、囃子の公募
・後継者育成計画の検討
・弘前ねぷたまつりで剛情張大太鼓を運行
・運行マニュアルの策定検討
・剛情張大太鼓PR動画の作成検討

【事業対象者】　対外対象者　：一般市民、観光客
対内対象者　：会員

【事業実施時期】　2020年8月

【事業実施場所】　弘前ねぷたまつり合同運行　土手町コース及び駅前コース

【パートナー】　公募により参加する一般市民

【広報戦略】
・地元新聞へのプレースリリース

・弘前JCホームページでの剛情張大太鼓運行告知及び参加募集
・弘前JCFacebookでの剛情張大太鼓運行告知及び参加募集
・剛情張大太鼓用SNSを立上げて剛情張大太鼓運行告知及び参加募集

【KPI】
・2020年5月からSNSで週1回告知　運行まで計14回
・叩き手1人辺りの練習参加時間20時間以上

【事業の公益性】　　あり

事業の種類　：　地域社会の健全な発展を目的とする事業
別表の号　：　19
該当理由　：　本事業は一般市民に剛情張大太鼓の魅力を知ってもらい、市民と一体となって剛情張大太鼓を継承することを目的としており、「地域社会の健全な発展を目的とする事業」に該当する。
事業の公益性　：

チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
（18）上記の事業区分に該当しない場合	
1．事業目的 （趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄付を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	1．本事業は一般市民を対象に、剛情張大太鼓の魅力を知ってもらい、市民と一体となって剛情張大太鼓を継承することを目的とし、ホームページ等により広く告知している。
2．事業の合目的性 （趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切になっているかを確認する趣旨） ア　受益の機会の公開（例　受益の機会が、一般に開かれているか）	ア　本事業は市民全般を対象としており、特に制限を設けていないことから受益の機会は一般に開かれている。
イ　事業の質を確保するための方策 （例　専門家が適切に関与しているか）	
ウ　審査・選考の公正性の確保 （例　当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が構成に行われているか）	ウ　本事業において、審査・選考は伴わない。
エ　その他 （例　公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ　特定の団体や業界の利益を図るものではない。

みどりの種委員会　事業計画書

- 基本理念　：多様性輝く 未来へ
- 基本方針　：未来を担う青少年の育成
- 委員会基本方針　：地域の特性や文化に触れることで、子供たちの成長を促進する
- 事業番号・区分　：公2　青少年の健全な育成に寄与する事業
  ・青少年事業の企画・運営
- 職務分掌　：・ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会の運営
  ・その他

基本方針並びに年間事業計画

1.　<u>基本方針</u>

地域の特性や文化に触れることで、子供たちの成長を促進する

2.　<u>事業計画</u>

	事　業　計　画　名	概算予算	公益／共益
1.	みどりの種プロジェクト事業	￥250，000－	公益
2.	ちびっ子ねぷたのお通りだい事業	￥50，000－	公益

各事業の事業計画書

3.　<u>事業計画（概要）</u>

1.　みどりの種プロジェクト事業　　￥250，000－　　公益

【事業背景】

次世代を担う子供達はこれまで以上の速度で変化する時代を生きていかなくてはならず、国際交流が盛んになっていくにつれて、他国の問題も身近に感じる機会が増える。様々な国の人びとと触れ合う中で、個々の国の背景や問題を知らないまま、付き合っていくことは難しい。そのため、世界的な問題には地域を問わず、取り組んでいく必要がある。

【意義・目的】

今以上にグローバルな時代を生きていくことになる子供達が、食の大切さを学びながら、貧困や飢餓などの世界的な課題に対して積極的に行動できるようなになることを目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

1	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
1．2	2030年までに各国定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。

作物栽培を通じて食物の大切さを学びながら、世界の貧困問題を理解する。

2	飢餓に終止符を打ち、食料の安定供給と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。
2．1	2030年までに飢餓を撲滅して全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分に得られるようになる。

作物栽培を通じて食物の大切さを学びながら、世界の飢餓問題を理解する。

【事業手法】
作物の栽培を通じて、食の大切さを学ぶ事業を行う。

【事業対象者】　対外対象者　：市内小学校高学年、市内中学生
　　対内対象者　：会員

【事業実施時期】　2020年5月～10月

【事業実施場所】　　弘前市内

【パートナー】　　弘前市教育委員会

【広報戦略】
新聞

【KPI】参加者の出席率7割を目指す。

【事業の公益性】　　あり

事業の種類　：　児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業
別表の号　：　7
該当理由　：　本事業は子供達が食の大切さを学びながら、他国の問題にも当事者意識をもつことを醸成することを目的としているため、「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」に該当する。
事業の公益性　：

チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
（18）上記の事業区分に該当しない場合	
1．事業目的 （趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄付を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	1．本事業は子供達を対象としており、食の大切さと他国への前向きな関心を醸成することを目的しており、ホームページ等で広く告知している。
2．事業の合目的性 （趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切になっているかを確認する趣旨） ア　受益の機会の公開（例　受益の機会が、一般に開かれているか）	ア　本事業は小学生高学年中学生を対象としており、事業への参加は公募によるため受益の機会は一般に開かれている。
イ　事業の質を確保するための方策 （例　専門家が適切に関与しているか）	イ　本事業にノウハウを持つものが関与しており、外部の知識経験のあるものの助言や協力を得ている。
ウ　審査・選考の公正性の確保 （例　当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が構成に行われているか）	ウ　事業化する案件の意義目的・内容とその効果が本事業と合致するか委員会で十分検討して公正に選考する。
エ　その他 （例　公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ　特定の団体や業界の利益を図るものではない。

2.　ちびっ子ねぷたのお通りだい事業　　￥50，000－　　公益

【事業背景】

世代を超えて受け継がれているねぷたは、これからも弘前の伝統として継承していかなくてはならない。しかし人口減少や少子高齢化の影響で次世代の担い手たる子供達が少なくなっているという現状のなかで、これまで以上に培ってきた伝統をより多くの子供達に関心を持ってもらう必要がある。

【意義・目的】

子供達に、幼少期からねぷたに触れることによって楽しさを感じてもらい、継続して参加してもらう。また例年ねぷたに参加している子供達にも郷土文化に対する深い愛着を醸成してもらうことを目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

4	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
4．2	2030年までに、すべての子供たちが男女の区別なく、質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育にアクセスすることにより、初等教育を受ける準備が整うようにする。

就学前児童がねぷたに参加することにより、早い段階から地域の伝統文化に触れることで生涯を通じた地域文化の学習機会を得ることに寄与する。

【事業手法】
ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会事務局の運営及び当日運行。

【事業対象者】　対外対象者　：弘前市内の幼稚園、保育園、認定こども園
　　対内対象者　：会員

【事業実施時期】　　2020年07月 （予定）

【事業実施場所】　　弘前市内

【パートナー】　　市内保育園、幼稚園、認定こども園、ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会

【広報戦略】
ポスター、新聞、市広報誌

【KPI】7園の参加を促す。

【事業の公益性】　　あり

事業の種類　：　児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業
別表の号　：　7
該当理由　：　本事業は子供達が幼少期からねぷたに触れ親しみ、楽しさを感じてもらい、郷土文化に愛着をもってもらうことを目的としたため「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」に該当する。
事業の公益性　：

チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
（18）上記の事業区分に該当しない場合	
1．事業目的 （趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄付を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	1．定款に、児童又は青少年の健全な育成を目的とすることを明記し、事業目的をホームページで公表している。
2．事業の合目的性 （趣旨：事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切になっているかを確認する趣旨） ア　受益の機会の公開（例　受益の機会が、一般に開かれているか）	ア　本事業の直接的な受益者は、参加する児童達であり、事業参加については公募に寄るため、受益の機会は一般に開かれている。
イ　事業の質を確保するための方策 （例　専門家が適切に関与しているか）	イ　事業運営のバックアップについてノウハウを持つものが関与しており、過去の事業経験者の助言や協力を得ている。
ウ　審査・選考の公正性の確保 （例　当該事業が審査・選考を伴う場合、審査・選考が構成に行われているか）	ウ　本事業は審査・選考を伴わない。
エ　その他 （例　公益目的として設定した事業目的と異なり、業界団体の販売促進、共同宣伝になっていないか）	エ　特定の団体や業界の利益を図るものではない。

三役執行部　事業計画書

- 基本理念　：多様性輝く　未来へ
- 基本方針　：未来を担う青少年の育成
- 委員会基本方針　：青少年が輝くために
- 事業番号・区分　：公1　青少年の健全な育成に寄与する事業
- 職務分掌　：わんぱく相撲事業の企画・運営

基本方針並びに年間事業計画

1.　基本方針

青少年が輝くために

2.　事業計画

	事　業　計　画　名	概算予算	公益／共益
1.	わんぱく相撲事業	￥150，000－	公益

各事業の事業計画書

3.　事業計画（概要）

1.	わんぱく相撲事業	￥150，000－	公益

【事業背景】

わんぱく相撲は1977年に公益社団法人東京青年会議所が青少年健全育成事業として展開した、日本国内200地区の予選大会から勝ち上がり、東京・両国国技館で全国大会が開かれる、小学4年生から6年生が参加できる小学生対象で最大規模の相撲大会であり、長年にわたって多くの子供たちに夢と感動を与え続けてきた実績があるため、今回も開催する必要がある。

【意義・目的】

子供達が心身の鍛錬を通して、心技体を磨くことを目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

4	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、渉外学習の機会を促進する。
4．7	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性
17．17	さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

相撲大会を通して質の高い教育・渉外学習が受けられ心技体を磨くことにつながる

【事業手法】
わんぱく相撲弘前地区大会を開催する。
わんぱく相撲全国大会を開催する

【事業対象者】	対外対象者	：近隣地域の小学4年生から6年生
	対内対象者	：会員

【事業実施時期】　2020年05月　（予定）

【事業実施場所】　相撲競技場

【パートナー】　青森県相撲連盟中弘支部

【広報戦略】
ポスター及び参加募集案内

【KPI】わんぱく相撲地区大会を開催し参加者が負傷者0で安全に大会を終える。また全国大会を引率及び大会を負傷者0で安全に終える。

【事業の公益性】　　あり

事業の種類　：　児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業
別表の号　：　7
該当理由　：　本事業は子どもたちに、相撲を通じ、心身を鍛錬し、礼節を学び、努力や思いやりの精神を養い心豊かに成長させることを目的としているため「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業に該当する。
事業の公益性　：

チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明
（15）競技会	
1. 事業目的 （趣旨：不特定多数でない者の利益の増進への寄与を主たる目的に掲げていないかを確認する趣旨。）	1. 本事業は不特定多数の青少年を対象として、相撲を通じ、心身を鍛錬し、礼節を学び、努力や思いやりの精神を養い心豊かに成長させることを目的とし、ホームページ等により広く告知している。
2. 公益目的として設定した趣旨に沿った競技会となっているか。 （例：親睦会のような活動にとどまっていないか）	2. 児童又は青少年の健全な育成を目的として、全国大会まで開催される小学生対象で最大規模の相撲大会となっている。
3. 出場者の選定や競技会の運営について公正なルールを定め、公表しているか。	3. わんぱく相撲全国大会ホームページで公表されているルールに準じ、校正に運営を行う。

リーダー育成委員会　事業計画書

- 基本理念　：多様性輝く　未来へ
- 基本方針　：当事者であれ
- 委員会基本方針　：JC運動を通じて地域に貢献することによって仲間とともにリーダーになるべく成長することを目指す。
- 事業番号・区分　：他1　会員の資質・親睦向上事業
- 職務分掌　：・会員研修の企画・運営
・新人研修の企画・運営
・その他

基本方針並びに年間事業計画

1.　<u>基本方針</u>

JC運動を通じて地域に貢献することによって仲間とともにリーダーになるべく成長することを目指す。

2.　<u>事業計画</u>

	事　業　計　画　名	概算予算	公益／共益
1.	会員研修	￥75，000－	共益
2.	新人研修	￥25，000－	共益

各事業の事業計画書

3.　<u>事業計画　（概要）</u>

1.　会員研修　　￥75，000－　　共益

【事業背景】

当LOM活動地域において、生産年齢人口は減少を続け6割を割り込み、このままでは地域のリーダーも減少していく恐れがある。活力ある地域であり続けるためには、私たち若い世代の力は不可欠である。そのため、自ら考え率先して動くリーダーを育成する必要がある。

【意義・目的】

地域のリーダーとして模範となれるようにJAYCEEの資質と品格を高め、家庭、職場、地域の様々な場面において自発的によりよい環境へ改善しようとする人材の育成と、後輩会員の育成スキルを身に付けることを目的する。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

4	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
4.4	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び企業に必要な技術を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

会員の資質が向上することで、後進の育成・成長へとつながります。

【事業手法】
研修を開催し、気付きや知識を習得する場を設ける。

【事業対象者】　対外対象者　：なし
対内対象者　：会員

【事業実施時期】　2020年07月、09月、11月

【事業実施場所】　弘前市、弘前市周辺

【パートナー】　OB、外部講師

【広報戦略】
案内文、TEL掛け

【KPI】研修参加率70％

【事業の公益性】　　なし

2.　新人研修　　￥25，000－　　共益

【事業背景】

JC運動の質を維持、向上する為には、会員個々のJCに対する知識が不可欠である。そのため、新人会員がJC運動について学び、理解を深める機会が必要である。

【意義・目的】

新人会員同士の絆を深め、新人会員の資質向上とJC運動について理解を深めることを目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

4番	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
4.4番	2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び企業に必要な技術を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

新人会員の資質が向上することで、JC運動が向上し地域の発展へとつながります。

【事業手法】
新人会員に対し、JCの基本を学ぶ研修の場を設ける。

【事業対象者】　対外対象者　：なし
対内対象者　：2018年度、2019年度、2020年度入会の会員

【事業実施時期】　2020年5月、適宜

【事業実施場所】　弘前市内

【パートナー】　OB、各LOM関係者、その他関係者

【広報戦略】
案内文、電話掛け

【KPI】 2021年度、新人会員かつ理事未経験者の中から理事候補者を3名輩出する。

【事業の公益性】　　なし

会員拡大委員会　事業計画書

- 基本理念　：多様性輝く　未来へ
- 基本方針　：会員の拡大と資質の向上
- 委員会基本方針　：一人でも多くの青年にJC運動を周知し、参加を促し、我々の運動の拡大を目指す。
- 事業番号・区分　：他2　会員拡大及び会員相互の情報共有等に関する事業
- 職務分掌　：・会員拡大窓口
・卒業式の企画・運営
・その他

基本方針並びに年間事業計画

1.　<u>基本方針</u>

一人でも多くの青年にJC運動を周知し、参加を促し、我々の運動の拡大を目指す。

2.　<u>事業計画</u>

	事　業　計　画　名	概算予算	公益／共益
1.	会員拡大事業	￥50，000－	共益
2.	卒業式の企画・運営	￥50，000－	共益

各事業の事業計画書

3.　<u>事業計画（概要）</u>

1.　会員拡大事業　　￥50，000－　　共益

【事業背景】
　弘前JCが直面している会員減少傾向は、各事業等の活動の縮小のみならず、地域の課題解決を担う青年世代の減少をも意味する深刻な問題である。

【意義・目的】
　弘前JCが目指す、多くのJAYCEEが集う、大きく且つ力強い組織実現のために、会員数の大幅な拡大実現を目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

16	平和と公正をすべての人びとに
16．7	あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。

　平和と公正を基調とする、明るい豊かな社会を実現するリーダーの養成のために、地域のレベルにおいて対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を実現する人材の確保、養成及び輩出が必要となる。本事業はその人材の確保という点に該当する。

【事業手法】
1、JC運動の周知
　①JCの認知度を上げる事業を実施、又は参加してJCの認知度の向上を図る。

2、会員からの情報収集及び協力
　①会員全体からの該当者の情報の提供を呼び掛けるほか、会員の拡大活動の補助及び協力を行う。

3、委員会独自の拡大活動
　①委員会独自に地域の該当者を選定し、個別に勧誘を行うほか、OB等への訪問を実施し情報の掘り起こしを行う。
　②市内大学等の地域活動団体に接触して、情報収集を行う。

4、LOM事業への積極的参加による情報収集
　①各委員会が実施する対外事業に積極的に参加し、外部の団体、企業、個人等と接触することで該当者の情報収集を行う。

【事業対象者】　対外対象者　：入会諸規定に該当するすべての人
　　対内対象者　：なし

【事業実施時期】　2020年01月から同年12月

【事業実施場所】　　LOM担当地域

【パートナー】　　OB、LOM担当地域内の企業及び団体、個人

【広報戦略】
1、通年でJCの認知度を向上させる手段を講ずる。
2、戸別訪問によるFace to Faceの広報、勧誘活動を基本とする。
3、大学、公官庁等のこれまで勧誘の手が伸びなかった地域主体における勧誘活動を検討する。

【KPI】
1、会員拡大リスト200名
2、6月末日時点で21名の入会確定
3、弘前近郊に居住する特別会員190名への訪問

【事業の公益性】　　なし

2.　卒業式の企画・運営　　￥50，000－　　共益

【事業背景】

卒業式は卒業生にとって現役会員としての最後の事業である。これを現役会員とOBが一堂に集い祝うことが、卒業生の次の一歩への推進力となる。

【意義・目的】

卒業生のこれまでの運動、活動に対する労いと、卒業生、現役会員、特別会員との語らいを通して、弘前JCへの想いの継承、及び今後の運動拡大のための動機づけとすることを目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

16　　平和と公正をすべての人びとに
16．7　　あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。

平和と公正を基調とする、明るい豊かな社会を実現するリーダーの養成のために、地域のレベルにおいて対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を実現する人材の確保、養成及び輩出が必要となる。本事業は卒業という点で人材の輩出という目的に該当する。

【事業手法】
「2020年度公益社団法人弘前青年会議所卒業式」を企画・運営する。

【事業対象者】　対外対象者　：特別会員、OB、県内各LOM会員、その他関係者
対内対象者　：会員

【事業実施時期】　　2020年12月上旬

【事業実施場所】　　弘前市内

【パートナー】　　なし

【広報戦略】
1、10月前半からの周知を行う。

【KPI】
1、卒業生全員の参加
2、現役会員70%の参加

【事業の公益性】　　なし

SJGs（持続可能な弘前JCの目標）検討委員会　事業計画書

- 基本理念　：多様性輝く　未来へ
- 基本方針　：創立70周年へ向けて
- 委員会基本方針　：2011年からの10年間を見返し、2030年までの10年間を見通す。
- 事業番号・区分　：なし
- 職務分掌　：・長期ビジョンの準備
・記念誌の準備
・その他

基本方針並びに年間事業計画

1.　基本方針

2011年からの10年間を見返し、2030年までの10年間を見通す。

2.　事業計画

	事　業　計　画　名	概算予算	公益／共益
1.	弘前青年会議所創立70周年準備事業	￥0－	共益

各事業の事業計画書

3.　事業計画　（概要）

1.	弘前青年会議所創立70周年準備事業	￥0－	共益

【事業背景】

創立60周年であった2011年から10年、弘前JCは2021年に創立70周年を迎え、その後の10年は創立80周年と共にSDGs達成までの10年でもある。10年という節目は過去を振り返り未来を見通す好機であり、2021年度のスタートを前に準備を整える必要がある。

【意義・目的】

創立70周年を迎えるLOMの運動がより地域や時代に根差したものになるように、綿々と紡がれてきたLOMの歴史や地域との関わりを顧みて検証し、2021年度に引き継ぐことを目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

4	質の高い教育をみんなに
4．7	2030年までに.持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする。

若き能動的な市民の先導的なグローバルネットワークとして、多様化する時代や世界と向き合い、持続可能な目標を掲げ、運動を展開することで、グローバルシチズンシップの拡大につなげる。

【事業手法】

①過去の周年記念誌の情報を整理する。
②過去10年間（2021年度から2020年度）の基本資料より過去の事業を整理する。
　上記①②をもとに、創立70周年に予定された長期ビジョン策定準備と記念誌作成準備を行う。
③取りまとめた内容を会員に向けて発信する。

【事業対象者】　対外対象者　：なし
対内対象者　：会員

【事業実施時期】　通年

【事業実施場所】　なし

【パートナー】　弘前青年会議所OB、特別会員

【広報戦略】
共益事業の為無し

【KPI】 40周年、50周年、60周年の記念誌及び、2011年度から2020年度まで10年分の基本資料の内容を整理し、資料にまとめる。

【事業の公益性】　　なし

総務広報委員会　事業計画書

- 基本理念　：多様性輝く　未来へ
- 基本方針　：組織の運営と改革
- 委員会基本方針　：盤石な組織運営と柔軟な対応力の強化
- 事業番号・区分　：なし、他1　会員の資質・親睦向上事業（例会）
- 職務分掌　：
  ・総会の企画・運営
  ・理事会の運営
  ・会議議事録の作成
  ・アワードの企画・運営
  ・基本資料、メンバーズリスト、名刺の作成
  ・新年祝賀会の企画・運営
  ・あおいりんごの作成・発行
  ・その他（例会）

基本方針並びに年間事業計画

1.　基本方針

盤石な組織運営と柔軟な対応力の強化

2.　事業計画

	事　業　計　画　名	概算予算	公益／共益
1.	各種会議	￥186，000－	共益
2.	弘前JCアワード	￥30，000－	共益
3.	新年祝賀会	￥150，000－	共益
4.	あおいりんご	￥250，000－	共益
5.	例会	￥150，000－	共益

各事業の事業計画書

3.　事業計画　（概要）

1.　各種会議　￥186，000－　共益

【事業背景】

会員の総意を諮る場である総会、臨時総会と、各種事業執行のための協議や審議を行う場である理事会、臨時理事会を定款、諸規定に則り運営する必要がある。

【意義・目的】

各種会議の開催意義を明確にし、法令、定款、諸規定に則り運営を行うことでLOMとしての運動が適正かつ円滑に行われる事を目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

16	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する。
16．7	あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する。

公正なJC運動を行うためにも総会は全会員、理事会は理事・役員が法令、定款、諸規定に則り意思決定することにつながります。

【事業手法】

●01月、08月開催の通常総会及び必要に応じて臨時総会の運営
①召集の通知
　定款及び法律に則って会員に通知を行う。
　ただし、会員の承諾を得たときは書面による通知に代えて電磁的方法により通知を行う。
②会議の司会進行
③出席と定足数、得票の管理
　出欠及び委任状の管理と定足数の確認。決議時の得票確認
④議事録作成
　法令に従い下記の事項を記載した議事録を作成する

・開催日時場所
・議事の経過の要領及び結果
・意見発言の内容の概要
・出席した理事、役員の氏名と人数
・議長の氏名
・議長及び出席した正会員の中から指名された議事録署名人2名の署名押印

●毎月1回開催の定例理事会及び必要に応じて臨時理事会の運営
①召集の通知
開催1週間前までに各理事、各監事、直前理事長及び各顧問に対し、通知を発する。
ただし、緊急を要する場合は通知期間の短縮又は、理事及び監事全員の同意を得る。
②会議の司会進行
③出席と定足数、得票の管理
出欠及び定足数の確認。決議時の得票確認
④議事録作成
法令に従い下記の事項を記載した議事録を作成する
・開催日時場所
・理事及び監事の請求により開催された場合はその旨
・理事会の議事の経過の要領及びその結果
・決議を要する事項について特別の利害関係を有する理事があるときは、その当該理事の氏名
・出席した理事、役員の氏名と人数
・議長の氏名
・理事長及び出席監事の署名押印

【事業対象者】 対外対象者 : なし
対内対象者 : 会員

【事業実施時期】 通常総会：01月、08月（年2回）
理事会：毎月開催（全12回）
常任理事会：毎月開催（全12回）
（臨時総会・臨時理事会等：必要に応じ開催）

【事業実施場所】 ホテルニューキャッスル、他

【パートナー】 なし

【広報戦略】
共益事業のためなし

【KPI】 諸会議において出席者（委任状含む）80%以上を目指します。

【事業の公益性】 なし

---

2. 弘前JCアワード ￥30，000－ 共益

【事業背景】

個人のJC活動量を測るアテンダンスポイント制度に替わり、JC運動を客観的に測る制度が必要である。

【意義・目的】

アテンダンスポイント制度に替わり弘前JCアワードを導入することで、事業の充実に必要不可欠な会員の意識の向上や各委員会の組織強化の機会につなげ、JC運動を活性化することを目的とします。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
17．17	様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

弘前JCの運動を展開するにあたり、アワードを設けることで会員相互の持続可能なパートナーシップの活性化へとつながります。

【事業手法】
・各委員会が設定したKPI指標の達成率の調査。（各事業単位のJC運動を定量的な判断）
・事業実施毎意識調査アンケートを実施。
・最終結果をまとめ数値化、例会部門と事業部門、2部門上位3組に表彰を実施する。

【事業対象者】 対外対象者 : なし
対内対象者 : 会員

【事業実施時期】　　2020年11月

【事業実施場所】　　適宜

【パートナー】　　なし

【広報戦略】
共益事業のためなし

【KPI】 事業実施毎に意識調査アンケートを実施し、80%の回収率を目指す。

【事業の公益性】　　なし

3.　新年祝賀会　　￥150，000－　　共益

【事業背景】

これまでJC運動を支えていただいた特別会員、関係諸団体及びJC関係者に対し、弘前JC創立記念日である1月15日を好機とし感謝の気持ちや当年の方針や思いを伝える場が必要である。

【意義・目的】

これまで多大なるご理解ご協力をいただいた皆様への感謝の気持ちをお伝えすると共に、2020年度新体制より方針を発信しこれまで同様温かいご支援をいただける様な場とすることを目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
17．17	さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

年初から弘前青年会議所に関わる方々が一堂に会し情報を共有することで、弘前青年会議所と行政・関係諸団体・県内外各LOM間のパートナーシップの活性化へと繋がります。

【事業手法】
〇事前準備
・案内状の作成発送
・次第、席次表の作成
〇当日
・受付対応
・司会
・当日スケジュールの企画運営
・来賓、特別会員、友好団体対応
〇事後対応
・御礼状の作成発送

【事業対象者】
対外対象者　：来賓、各種団体、特別会員、2019年度卒業生、県内外各LOM
対内対象者　：会員

【事業実施時期】　　2020年01月15日（水）

【事業実施場所】　　ホテルニューキャッスル　3階　麗峰の間

【パートナー】　　なし

【広報戦略】
共益事業のためなし

【KPI】

案内リスト精査	：理事会上程	2回実施
会員共有	：特別委員会開催	1回実施
リハーサル	：当日開催	1回実施

【事業の公益性】　　なし

4.　あおいりんご　　￥250，000－　　共益

【事業背景】

広報誌あおいりんごを活用し、対内外に向けて弘前JCの魅力をこれまで以上により積極的に発信する必要がある。

【意義・目的】

あおいりんごを通じ、弘前JCの事業や運動内容をより多くの方々に発信・拡散することで周知理解頂き、協力を促す事を目的とする。合わせて運動に参加できなかった会員と運動内容や状況を共有することで、JC活動への意欲向上を促す事を目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
17．17	様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

弘前JCのJC活動情報を発信することで、我々の運動を知り、公的、官民、市民社会とのパートナーシップの活性化へとつながります。

【事業手法】

・あおいりんごの作成・発行
・紙媒体、電子媒体にて発信
・QRコードの配布による発信(他媒体への配布)

【事業対象者】　対外対象者　：行政、各種団体、特別会員、市民
　　対内対象者　：会員

【事業実施時期】　年複数回発行

【事業実施場所】　適宜

【パートナー】　なし

【広報戦略】

・関係諸団体への郵送
・弘前JCHP公開
・QRコード発信
・会員拡大ツールとして使用

【KPI】・Facebook　1記事100「いいね」を目指します。（2019年度：「いいね」37前後）
　　・QRコードへのアクセス数1記事100アクセスを目指します。

【事業の公益性】　なし

5.　例会　　￥150，000－　　共益

【事業背景】

例会は定款第6章第45条により原則として毎月1回開催され、全ての会員が出席義務に基づき一堂に会する貴重な場である。

【意義・目的】

LOMの基盤となる例会を通して、多様性のある組織においての個人の資質向上と当事者意識を醸成し共に成長を遂げる事を目的とする。

【SDGsのゴールとターゲット番号及びその説明】

4番	すべての人びとに包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
4．7番	2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
17番	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
17．17番	様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

毎月1度の会員参加の例会は、弘前JCの根幹になるもので、我々が目指す明るい豊かな社会の実現のためにも、会員相互のパートナーシップを強固にするとともに、会員一人ひとりの高い水準での知識・資質を向上することにつながります。

【事業手法】
会員の資質向上と各々の成長を遂げる例会の企画運営

≪各月毎の担当委員会≫
02月：会員拡大委員会
03月：まつりのこころ継承委員会
04月：Sプロジェクト委員会
05月：みどりの種委員会
06月：SJGs委員会
07月：リーダー育成委員会 （会員研修にて、事業実施計画書を上程）
09月：リーダー育成委員会 （会員研修にて、事業実施計画書を上程）
10月：総務広報委員会
11月：リーダー育成委員会 （会員研修にて、事業実施計画書を上程）

【事業対象者】 対外対象者 ：なし
対内対象者 ：会員

【事業実施時期】 2020年01月～12月

【事業実施場所】 適宜

【パートナー】 適宜

【広報戦略】
共益事業のためなし

【KPI】 例会出席率70％以上を目指します。（2020年度年当初会員数：52人×70％≒37人）

【事業の公益性】 なし

2020年度

公益社団法人弘前青年会議所

予　算　書　類

公益社団法人　弘前青年会議所　正味財産増減計算書（２０２０年度予算）
２０１９年１２月１６日から２０２０年１２月１５日まで
（単位　円）

科　目	当年度	第一次修正予算	増減	備　考
Ⅰ　一般正味財産増減の部				※前年度は2019年度5次修正
１．経常増減の部				
（１）経常収益				
①特定資産運用益	0	0	0	
特定資産受取利息	0	0	0	
特定資産受取配当金	0	0	0	
特定資産受取賃貸料	0	0	0	
②受取入会金	220,000	220,000	0	
受取入会金	220,000	220,000	0	
③受取会費	7,948,750	7,948,750	0	
正会員会費	6,480,000	6,480,000	0	
特別会員会費	405,000	405,000	0	
賛助会員会費	40,000	40,000	0	
新入会員会費	1,023,750	1,023,750	0	
④事業収益	2,390,000	2,390,000	0	
登録料収益	0	0	0	
懇親会費収益	0	0	0	
広告料収益	190,000	190,000	0	
販売収益	2,200,000	2,200,000	0	
事務局受託収益	0	0	0	
雑収益	0	0	0	
⑤受取補助金等	2,110,000	2,110,000	0	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取地方公共団体補助金	2,110,000	2,110,000	0	
受取民間補助金	0	0	0	
受取国庫助成金	0	0	0	
受取地方公共団体助成金	0	0	0	
受取民間助成金	0	0	0	
受取地方公共団体受託金	0	0	0	
受取補助金等振替額	0	0	0	
⑥受取負担金	50,000	50,000	0	
受取負担金	50,000	50,000	0	※弘前青年会議所ＯＢ会より
受取負担金振替額	0	0	0	
⑦受取寄付金	0	0	0	
受取寄付金	0	0	0	
募金収益	0	0	0	
受取寄付金振替額	0	0	0	
⑧雑収益	1,000	1,000	0	
受取利息	1,000	1,000	0	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	12,719,750	12,719,750	0	
（２）経常費用				
①事業費	9,140,400	9,140,400	0	
1 給料手当	1,440,000	1,440,000	0	
2 退職給付費用	0	0	0	
3 福利厚生費	240,000	240,000	0	
4 会議費	146,400	146,400	0	
5 旅費交通費	50,000	50,000	0	
6 通信運搬費	390,000	390,000	0	
7 消耗什器備品費	50,000	50,000	0	
8 消耗品費	562,000	562,000	0	
9 会員支給品費	0	0	0	
10 修繕費	12,000	12,000	0	
11 印刷製本費	480,000	480,000	0	
12 広報費	700,000	700,000	0	
13 燃料費	142,000	142,000	0	
14 光熱水料費	165,000	165,000	0	
15 賃借料	1,203,000	1,203,000	0	
16 保険料	97,000	97,000	0	
17 諸謝金	176,000	176,000	0	
18 租税公課	13,000	13,000	0	
19 渉外費	0	0	0	
20 委託費	2,640,000	2,640,000	0	
21 記念品費	52,000	52,000	0	
22 衛生費	60,000	60,000	0	
23 雑費	522,000	522,000	0	
24 寄付金	0	0	0	
25 事業仮払金	0	0	0	
②管理費	3,579,350	3,579,350	0	
1 給料手当	360,000	360,000	0	
2 退職給付費用	0	0	0	
3 福利厚生費	60,000	60,000	0	
4 会議費	31,600	31,600	0	
5 旅費交通費	0	0	0	
6 通信運搬費	90,000	90,000	0	
7 消耗什器備品費	0	0	0	
8 消耗品費	26,000	26,000	0	
9 会員支給品費	40,000	40,000	0	
10 修繕費	3,000	3,000	0	
11 印刷製本費	90,000	90,000	0	
12 広報費	160,000	160,000	0	
13 燃料費	30,000	30,000	0	
14 光熱水料費	40,000	40,000	0	
15 賃借料	112,000	112,000	0	
16 保険料	9,000	9,000	0	
17 諸謝金	0	0	0	
18 租税公課	10,000	10,000	0	
19 渉外費	774,467	774,467	0	
20 委託費	480,000	480,000	0	
21 記念品費	40,000	40,000	0	
22 衛生費	35,000	35,000	0	
23 雑費	30,000	30,000	0	
24 寄付金	0	0	0	
26 支払負担金	1,158,283	1,158,283	0	
国際青年会議所負担金	95,108	95,108	0	
日本青年会議所負担金	778,500	778,500	0	
国際協力資金	107,675	107,675	0	
We Believe購読料	177,000	177,000	0	
経常費用計	12,719,750	12,719,750	0	

評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0	
①基本財産評価損益等	**0**	**0**	**0**	
②特定資産評価損益等	**0**	**0**	**0**	
③投資有価証券評価損益等	**0**	**0**	**0**	
評価損益等計	**0**	**0**	**0**	
当期経常増減額	**0**	**0**	**0**	
２．経常外増減の部				
（１）経常外収益				
①固定資産売却益	**0**	**0**	**0**	
建物売却益	0	0	0	
車両運搬具売却益	0	0	0	
什器備品売却益	0	0	0	
土地売却益	0	0	0	
借地権売却益	0	0	0	
電話加入権売却益	0	0	0	
②固定資産受贈益	**0**	**0**	**0**	
土地受贈益	0	0	0	
投資有価証券受贈益	0	0	0	
経常外収益計	**0**	**0**	**0**	
（２）経常外費用				
①固定資産売却損	**0**	**0**	**0**	
建物売却損	0	0	0	
車両運搬具売却損	0	0	0	
什器備品売却損	0	0	0	
土地売却損	0	0	0	
借地権売却損	0	0	0	
電話加入権売却損	0	0	0	
②固定資産除却損	**0**	**0**	**0**	
土地減損損失	0	0	0	
投資有価証券減損損失	0	0	0	
③災害損失	**0**	**0**	**0**	
災害損失	0	0	0	
経常外費用計	**0**	**0**	**0**	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	0	0	
一般正味財産期首残高	4,729,816	4,729,816	0	
一般正味財産期末残高	4,729,816	4,729,816	0	
Ⅱ　指定正味財産増減の部				
①受取補助金等	**0**	**0**	**0**	
受取国庫補助金	0	0	0	
受取地方公共団体補助金	0	0	0	
受取民間補助金	0	0	0	
受取国庫助成金	0	0	0	
受取地方公共団体助成金	0	0	0	
受取民間助成金	0	0	0	
②受取負担金	**0**	**0**	**0**	
受取負担金	0	0	0	
③受取寄付金	**0**	**0**	**0**	
受取寄付金	0	0	0	
④固定資産受贈益	**0**	**0**	**0**	
土地受贈益	0	0	0	
投資有価証券受贈益	0	0	0	
⑤基本財産評価益	**0**	**0**	**0**	
基本財産評価益	0	0	0	
⑥特定資産評価益	**0**	**0**	**0**	
特定資産評価益	0	0	0	
⑦基本財産評価損	**0**	**0**	**0**	
基本財産評価損	0	0	0	
⑧特定資産評価損	**0**	**0**	**0**	
特定資産評価損	0	0	0	
⑨一般正味財産への振替額	**0**	**0**	**0**	
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	**0**	**0**	**0**	
指定正味財産期首残高	**0**	**0**	**0**	
指定正味財産期末残高	**0**	**0**	**0**	
Ⅲ　正味財産期末残高	**4,729,816**	**4,729,816**	**0**	

公益社団法人弘前青年会議所　２０２０年度　正味財産増減計算書　内訳表
２０１９年１２月１６日から２０２０年１２月１５日まで

（単位　円）

科目名	公益目的事業会計							収益事業等会計						法人会計	内部取引消去	合計	2020年度 第一次 修正予算	差異
	公1		公2			共通	小計	他1			他2	共通	小計					
	地域社会の健全な発展に寄与する事業		青少年の健全な育成に寄与する事業			共通	小計	会員の資質・親睦向上事業			会員の拡大及び会員相互の情報の共有等に関する事業	共通	小計					
	地域連携事業の企画・運営	剛情張大太鼓事業の企画・運営	青少年事業の企画・運営	わんぱく相撲事業の企画・運営	ちびっこねぶたのお通りだい実行委員会の運営			例会の企画・運営	新人研修	会員研修	会員拡大窓口							
Ⅰ　一般正味財産増減の部																		
１．経常増減の部																		
（１）経常収益																		
①特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取配当金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取賃貸料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②受取入会金	0	0	0	0	0	66,000	66,000	0	0	0	0	44,000	44,000	110,000	0	220,000	220,000	0
受取入会金	0	0	0	0	0	66,000	66,000	0	0	0	0	44,000	44,000	110,000	0	220,000	220,000	0
③受取会費	0	0	0	0	0	2,384,625	2,384,625	0	0	0	0	1,589,750	1,589,750	3,974,375	0	7,948,750	7,948,750	0
正会員会費	0	0	0	0	0	1,944,000	1,944,000	0	0	0	0	1,296,000	1,296,000	3,240,000	0	6,480,000	6,480,000	0
特別会員会費	0	0	0	0	0	121,500	121,500	0	0	0	0	81,000	81,000	202,500	0	405,000	405,000	0
賛助会員会費	0	0	0	0	0	12,000	12,000	0	0	0	0	8,000	8,000	20,000	0	40,000	40,000	0
新入会員会費	0	0	0	0	0	307,125	307,125	0	0	0	0	204,750	204,750	511,875	0	1,023,750	1,023,750	0
④事業収益	2,200,000	190,000	0	0	0	0	2,390,000	0	0	0	0		0	0	0	2,390,000	2,390,000	0
登録料収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
懇親会費収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
広告料収益	0	190,000	0	0	0	0	190,000	0	0	0	0	0	0	0	0	190,000	190,000	0
販売収益	2,200,000	0	0	0	0	0	2,200,000	0	0	0	0	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000	0
事務局受託収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤受取補助金等	2,000,000	110,000	0	0	0	0	2,110,000	0	0	0	0	0	0	0	0	2,110,000	2,110,000	0
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体補助金	2,000,000	110,000	0	0	0	0	2,110,000	0	0	0	0	0	0	0	0	2,110,000	2,110,000	0
受取民間補助金	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体受託金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取補助金等振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	50,000	50,000	0
受取負担金	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	50,000	50,000	0
受取負担金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
募金収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	0	1,000	1,000	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	0	1,000	1,000	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	4,200,000	300,000	0	0	0	2,450,625	6,950,625	0	0	0	0	1,633,750	1,633,750	4,135,375	0	12,719,750	12,719,750	0
（２）経常費用																		0
①事業費	4,500,000	400,000	250,000	150,000	50,000	2,181,500	7,531,500	150,000	25,000	75,000	50,000	1,308,900	1,608,900	0	0	9,140,400	9,140,400	0
1 給料手当	0	0	0	0	0	900,000	900,000	0	0	0	0	540,000	540,000	0	0	1,440,000	1,440,000	0
2 退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 福利厚生費	0	0	0	0	0	150,000	150,000	0	0	0	0	90,000	90,000	0	0	240,000	240,000	0
4 会議費	0	0	0	20,000	0	79,000	99,000	0	0	0	0	47,400	47,400	0	0	146,400	146,400	0
5 旅費交通費	0	0	0	50,000	0	0	50,000	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	50,000	0
6 通信運搬費	20,000	0	5,000	0	0	225,000	250,000	5,000	0	0	0	135,000	140,000	0	0	390,000	390,000	0
7 消耗什器備品費	50,000	0	0	0	0	0	50,000	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	50,000	0
8 消耗品費	300,000	145,000	5,000	3,000	0	65,000	518,000	0	0	5,000	0	39,000	44,000	0	0	562,000	562,000	0
9 会員支給品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 修繕費	0	0	0	0	0	7,500	7,500	0	0	0	0	4,500	4,500	0	0	12,000	12,000	0
11 印刷製本費	0	0	50,000	25,000	0	225,000	300,000	10,000	0	5,000	30,000	135,000	180,000	0	0	480,000	480,000	0
12 広報費	700,000	0	0	0	0	0	700,000	0	0	0	0	0	0	0	0	700,000	700,000	0
13 燃料費	22,000	0	0	0	0	75,000	97,000	0	0	0	0	45,000	45,000	0	0	142,000	142,000	0
14 光熱水料費	5,000	0	0		0	100,000	105,000	0	0	0	0	60,000	60,000	0	0	165,000	165,000	0
15 賃借料	500,000	100,000	30,000	10,000	0	280,000	920,000	50,000	25,000	30,000	10,000	168,000	283,000	0	0	1,203,000	1,203,000	0
16 保険料	40,000	40,000	0	7,000	0	0	87,000	10,000	0	0	0	0	10,000	0	0	97,000	97,000	0
17 諸謝金	0	0	150,000	6,000	0	0	156,000	20,000	0	0	0	0	20,000	0	0	176,000	176,000	0
18 租税公課	3,000	5,000	0	0	0	0	8,000	5,000	0	0	0	0	5,000	0	0	13,000	13,000	0
19 渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20 委託費	2,500,000	50,000	0	0	50,000	0	2,600,000	20,000	0	20,000	0	0	40,000	0	0	2,640,000	2,640,000	0
21 記念品費	0	0	5,000	12,000	0	0	17,000	15,000	0	10,000	10,000	0	35,000	0	0	52,000	52,000	0
22 衛生費	30,000	30,000	0	0	0	0	60,000	0	0	0	0	0	0	0	0	60,000	60,000	0
23 雑費	330,000	30,000	5,000	17,000	0	75,000	457,000	15,000	0	5,000	0	45,000	65,000	0	0	522,000	522,000	0
24 寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25 事業仮払金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②管理費														3,579,350	0	3,579,350	3,579,350	0
1 給料手当														360,000	0	360,000	360,000	0
2 退職給付費用														0	0	0	0	0
3 福利厚生費														60,000	0	60,000	60,000	0
4 会議費														31,600	0	31,600	31,600	0
5 旅費交通費														0	0	0	0	0
6 通信運搬費														90,000	0	90,000	90,000	0
7 消耗什器備品費														0	0	0	0	0
8 消耗品費														26,000	0	26,000	26,000	0
9 会員支給品費														40,000	0	40,000	40,000	0
10 修繕費														3,000	0	3,000	3,000	0
11 印刷製本費														90,000	0	90,000	90,000	0
12 広報費														160,000	0	160,000	160,000	0
13 燃料費														30,000	0	30,000	30,000	0
14 光熱水料費														40,000	0	40,000	40,000	0
15 賃借料														112,000	0	112,000	112,000	0
16 保険料														9,000	0	9,000	9,000	0
17 諸謝金														0	0	0	0	0
18 租税公課														10,000	0	10,000	10,000	0
19 渉外費														774,467	0	774,467	774,467	0
20 委託費														480,000	0	480,000	480,000	0
21 記念品費														40,000	0	40,000	40,000	0
22 衛生費														35,000	0	35,000	35,000	0
23 雑費														30,000	0	30,000	30,000	0
24 寄付金														0	0	0	0	0
25 支払負担金														1,158,283	0	1,158,283	1,158,283	0
国際青年会議所負担金														95,108	0	95,108	95,108	0
日本青年会議所負担金														778,500	0	778,500	778,500	0
国際協力資金														107,675	0	107,675	107,675	0
We Believe購読料														177,000	0	177,000	177,000	0
経常費用計	4,500,000	400,000	250,000	150,000	50,000	2,181,500	7,531,500	150,000	25,000	75,000	50,000	1,308,900	1,608,900	3,579,350	0	12,719,750	12,719,750	0
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 300,000	△ 100,000	△ 250,000	△ 150,000	△ 50,000	269,125	△ 580,875	△ 150,000	△ 25,000	△ 75,000	△ 50,000	324,850	24,850	556,025	0	0	0	0
①基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 300,000	△ 100,000	△ 250,000	△ 150,000	△ 50,000	269,125	△ 580,875	△ 150,000	△ 25,000	△ 75,000	△ 50,000	324,850	24,850	556,025	0	0	0	0
２．経常外増減の部																		
（１）経常外収益																		0
①固定資産売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建物売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車両運搬具売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
什器備品売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
借地権売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話加入権売却益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②固定資産受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（２）経常外費用																		0
①固定資産売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建物売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車両運搬具売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
什器備品売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
借地権売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話加入権売却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②固定資産除却損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地減損損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券減損損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③災害損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
災害損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 300,000	△ 100,000	△ 250,000	△ 150,000	△ 50,000	269,125	△ 580,875	△ 150,000	△ 25,000	△ 75,000	△ 50,000	324,850	24,850	556,025	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	4,729,816	4,729,816	0
一般正味財産期末残高	△ 300,000	△ 100,000	△ 250,000	△ 150,000	△ 50,000	269,125	△ 580,875	△ 150,000	△ 25,000	△ 75,000	△ 50,000	324,850	24,850	556,025	0	4,729,816	4,729,816	0
Ⅱ　指定正味財産増減の部																		
①受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取地方公共団体助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取民間助成金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④固定資産受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土地受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券受贈益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤基本財産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥特定資産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑦基本財産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧特定資産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑨一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	△ 300,000	△ 100,000	△ 250,000	△ 150,000	△ 50,000	269,125	△ 580,875	△ 150,000	△ 25,000	△ 75,000	△ 50,000	324,850	24,850	556,025	0	4,729,816	4,729,816	0

公益事業比率

項　目	費用	公益事業比率
公益目的事業の実施に係る費用	7,531,500	59%
収益事業等に係る費用	1,608,900	
公益法人運営経常費用	3,579,350	
合　　計	12,719,750	

表１．受取会費配賦表

項　目	会計区分	受取会費計	使用割合	振分金額	備　考
正会員会費	公益目的事業会計	6,480,000	30%	1,944,000	48名×135,000
	収益事業等会計		20%	1,296,000	
	法人会計		50%	3,240,000	
特別会員会費	公益目的事業会計	405,000	30%	121,500	3名×135,000
	収益事業等会計		20%	81,000	
	法人会計		50%	202,500	
入会金	公益目的事業会計	220,000	30%	66,000	11名×20,000
	収益事業等会計		20%	44,000	
	法人会計		50%	110,000	
賛助会員	公益目的事業会計	40,000	30%	12,000	4名×10,000
	収益事業等会計		20%	8,000	
	法人会計		50%	20,000	
新入会員会費	公益目的事業会計	1,023,750	30%	307,125	11名
	収益事業等会計		20%	204,750	
	法人会計		50%	511,875	

表２．平成２０年度公益会計基準適用に伴う科目変更管理表

用　途	２０１０年度		用　途	２００９年度
コピー機リース料	賃借料	⇒	コピー機リース料	リース料支出
什器備品	消耗什器備品費		什器備品	什器備品取得支出
コピーカウンター料	印刷製本費		コピーカウンター料	消耗品費支出
退職金	退職給付費用		退職金	退職給付引当資産取得支出

表３．管理費の事業費配賦基準管理表

科　目	会計区分	配賦前管理費	従事割合	配賦金額	備　考
A給料手当	公益目的事業会計	1,800,000	50%	900,000	総支給140,000円／月 残業　10,000円／月
	収益事業等会計		30%	540,000	
	管理費		20%	360,000	
B退職給付費用	公益目的事業会計	0	50%	0	退職給付引当費用
	収益事業等会計		30%	0	
	管理費		20%	0	
C福利厚生費	公益目的事業会計	300,000	50%	150,000	法定福利費等
	収益事業等会計		30%	90,000	
	管理費		20%	60,000	
D会議費	公益目的事業会計	158,000	50%	79,000	理事会7,000円×12回 臨時理事会7,000円×2回 総会11,000円×2回 臨時総会11,000円×2回
	収益事業等会計		30%	47,400	
	法人会計		20%	31,600	
E通信運搬費	公益目的事業会計	450,000	50%	225,000	通話通信料・発送費・往復はがき代等・HP費用
	収益事業等会計		30%	135,000	
	法人会計		20%	90,000	
F消耗品費	公益目的事業会計	130,000	50%	65,000	事務消耗品等
	収益事業等会計		30%	39,000	
	法人会計		20%	26,000	
G印刷製本費	公益目的事業会計	450,000	50%	225,000	コピー機カウンター料 その他　21万円 あおいりんご25万円／基本資料3万円／メンズリ12万
	収益事業等会計		30%	135,000	
	法人会計		20%	90,000	

H光熱水料費	公益目的事業会計	200,000	50%	100,000	光熱費等
	収益事業等会計		30%	60,000	
	法人会計		20%	40,000	
IJ賃借料	公益目的事業会計	560,000	50%	280,000	ｺﾋﾟｰ機ﾘｰｽ　5,724×12=68,688
	収益事業等会計		30%	168,000	家賃 35,000×12=420,000
	法人会計		20%	112,000	他
K雑費	公益目的事業会計	150,000	50%	75,000	
	収益事業等会計		30%	45,000	
	法人会計		20%	30,000	
L修繕費	公益目的事業会計	15,000	50%	7,500	
	収益事業等会計		30%	4,500	
	法人会計		20%	3,000	
M燃料費	公益目的事業会計	150,000	50%	75,000	
	収益事業等会計		30%	45,000	
	法人会計		20%	30,000	
合　計	公益目的事業会計	4,363,000	50%	2,181,500	
	収益事業等会計		30%	1,308,900	
	法人会計		20%	872,600	

表４．　支払負担金内訳

項目	基本	単価	人数	基本+単価*人数	備考
JCI		1,612	48	77,376	期首48名×1,165円
JCI追加		1,612	11	17,732	年間11名×1,165円
			JCI小計	**95,108**	
日本JC	30,000	5,000	48	270,000	期首48名×5,000円
日本JC前期追加		5,000	11	55,000	前期11名×5,000円
日本JC後期追加		2,500	0	0	後期0名×2,500円
地区	5,000	1,500	48	77,000	期首48名×1,500円
地区出向		10,000	1	10,000	ゼミナール1名×10,000円
地区追加		1,500	11	16,500	前期11名×1,500円
ブロック	20,000	5,000	48	260,000	期首48名×5,000円
ブロック出向		7,000	5	35,000	アカデミー5名×7,000円
ブロック追加		5,000	11	55,000	前期11名×5,000円
			JCI小計	**778,500**	
国際協力金		1,825	59	107,675	(期首48名＋年間11名)×1,825円
We Believe		3,000	59	177,000	(期首48名＋年間11名)×3,000円
			合　計	**1,158,283**	

2020年度

公益社団法人弘前青年会議所

年間公式スケジュール

公益社団法人弘前青年会議所　２０２０年度年間スケジュール

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
弘前青年会議所	例会		７日（金）	９日（月）	７日（火）	７日（木）	８日（月）	７日（火）		７日（月）	７日（水）	９日（月）	
	総会	１０日（金）							１８日（火）				
	常任理事会	８日（水）	３日（月）	５日（木）	９日（木）	８日（金）	１０日（水）	８日（水）	６日（木）	９日（水）	５日（月）	５日（木）	２日（水）
	理事会	２３日（木）	２０日（木）	１９日（木）	２２日（水）	２０日（水）	２２日（月）	２２日（水）	２０日（木）	２３日（水）	２１日（水）	２０日（金）	１１日（金）
	主要行事	１５日（水） 新年祝賀会			１１日（土） 太田市新田商工会青年部 新年度祝賀会		６日（土） 斜里ＪＣ 65周年式典	17日(金)～18日(土) 殉難慰霊祭 斜里ねぶたまつり	14日(金)～15日(土) 尾島ねぶたまつり				卒業式
	全国城下町シンポジウム					２２日(金)～２４日(日) 全国城下町シンポジウム 【高岡】							
青森ブロック協議会	役員会議	８日（水） 【青森】	１２日（水） 【青森】	１１日（水） 【青森】	８日（水） 【青森】	１３日（水） 【青森】	３日(水)・２４日(水) 【青森】			２日(水)・３０日((水)) 【青森】	２８日（水） 【青森】		
	会員会議所会議	２５日（土） 【十和田】	２９日（土） 【三沢】	２１日（土） 【弘前】	２５日（土） 【八戸】	２３日（土） 【むつ】	１７日（水） 【黒石】	４日（土） 【青森】		１９日（土） 【ＷＥＢ】	１０日（土） 【五所川原】	１４日（土） 【十和田】	
	アカデミー大学	２５日（土） 開校式・第１講座 【十和田】		１４日（土） 第２講座 【五所川原】		３０日（土） 第３講座 【黒石】		４日(土)～５日(日) 特別講座 【青森】	２２日（土） 第４講座 【三沢】				
	主要行事	２５日（土） 新春名刺交歓会 【十和田】						４日(土)～５日(日) ブロック大会 【青森】				ブロック卒業式 【十和田】	
東北地区協議会	正副会長拡大会議	７日（火） 【仙台】 ２３日　（木） 【仙台】	１８日（火） 【仙台】	１９日（木） 【仙台】	１５日（(水)） 【山形】	２２日（金） 【仙台】	２２日（月） 【仙台】	１４日（火） 【気仙沼】	１７日（月） 【仙台】	１４日（月） 【仙台】	１３日（火） 【八戸】	１３日（金） 【仙台】	
	役員会議	１５日（水） 【仙台】	７日（金） 【仙台】	１０日（火） 【仙台】	３日（金） 【十和田】	１２日（火） 【秋田】	５日（金） 【一関】	８日（水） 【とめ】	２８日（金） 【南陽】		２日(金)・３０日(金) 【天童】　【だて】	２７日（金） 【仙台】	
	会員会議所会議	１７日（金） 【京都】										２８日（土） 【仙台】	
	主要行事		８日(土)～９日(日) ゼミナール開校式 【仙台】	１４日(土)～１５日(日) ゼミナール第１講座 【盛岡】			１日(月)～３０日(火) ゼミナール第２講座 【ゼミ毎に実施】	２５日(土)～２６日(日) ゼミナール第３講座 【秋田】	２９日(土)～３０日(日) 東北青年フォーラム ゼミナール閉校式 【南陽】				
日本青年会議所	正副会頭会議	９日　（木） ３０日　（木）	６日　（木） ２７日　（木）	５日　（木）	２日　（木） ９日　（木） ２８日　（火）	７日　（木）	４日　（木） １８日　（木） ３０日　（火）	９日　（木）		３日　（木） １０日　（木）	１日　（木） ８日　（木） ２９日　（木）	１２日　（木）	３日　（木） １７日　（木）
	常任理事会	１０日　（金）	１４日　（金）	１２日　（木）	１７日　（金）	１５日　（金）	１９日　（金）	１６日　（木）		１１日　（金）	１６日　（金）	２０日　（金）	１８日　（金）
	理事会	１７日　（金） 【京都】	１５日　（土）	１３日　（金）	１８日　（土）	１６日　（土）	２０日　（土） 【沖縄】	１７日　（金）		１２日　（土） ２５日　（金） 【札幌】	１７日　（土）	２１日　（土）	１９日　（土）
	ブロック会長会議												
	総会	１８日　（土） 【京都】		２８日　（土） 【東京】						２５日　（金） 【札幌】			
ＪＣＩ	ＪＣＩ諸会議	ＪＣＩ常任理事会 ／理事会 （ＪＣＩ　ＪＥＭ／ＪＢＭ） 【アメリカ(セントルイス)】				アメリカ 地域会議 【パナマ（パナマ）】 ２０日　（水） ～２３日　（土） ヨーロッパ 地域会議 【アイルランド(ダブリン)】 ２７日　（水） ～３０日　（土）	アジア・太平洋 地域会議(ASPAC) 【カンボジア(アンコール)】 １１日　（木） ～１４日　（日） アフリカ・中東 地域会議 【ブルキナ・ファソ(ワガドゥグー)】 １７日　（水） ～２０日　（土）	JCI中間常任理事会 （JCI MYE） 【アメリカ(セントルイス)】 ２３日　（木） ～２５日　（土）				ＪＣＩ世界会議 【日本(横浜)】 ３日　（火） ～７日　（土）	
その他	ＮＯＭ主要事業	京都会議 【京都】 １６日　（木） ～１９日　（日）	金沢会議 【金沢】 ２１日　（金） ～２３日　（日）					サマーコンファレンス 【横浜】 １８日　（土） ～１９日　（日） 国際アカデミー 【福岡】		全国大会 【札幌】 ２４日　（木） ～２７日　（日）			
	財政審査会議	７日　（火） ８日　（水）	８日　（土） ９日　（日）	７日　（土） ８日　（日）	１１日　（土） １２日　（日）	９日　（土） １０日　（日）	６日　（土） ７日　（日）	１１日　（土） １２日　（日）		５日　（土） ６日　（日）	１０日　（土） １１日　（日）	１４日　（土） １５日　（日）	１２日　（土） １３日　（日）
	公益審査会議	７日　（火）	８日　（土）	７日　（土）	１１日　（土）	９日　（土）	６日　（土）	１１日　（土）		５日　（土）	１０日　（土）	１４日　（土）	１２日　（土）
	コンプライアンス 審査会議	７日　（火）	８日　（土）	７日　（土）	１１日　（土）	９日　（土）	６日　（土）	１１日　（土）		５日　（土）	１０日　（土）	１４日　（土）	１２日　（土）
	ブランディング ミーティング	７日　（火）	８日　（土）	７日　（土）	１１日　（土）	９日　（土）	６日　（土）	１１日　（土）		５日　（土）	１０日　（土）	１４日　（土）	１２日　（土）
	その他	ＪＣＩ諸会議・大会　開催地 【JCI常任理事会/理事会】アメリカ（セントルイス）　【中間常任理事会】アメリカ（セントルイス） 【アメリカ地域会議】パナマ（パナマ）【アフリカ・中東地域会議】ブルキナ・ファソ（ワガドゥグー）【ヨーロッパ地域会議】アイルランド（ダブリン） 【アジア・太平洋地域会議】カンボジア（アンコール）【世界会議】日本（横浜）											

2020年度

公益社団法人日本青年会議所

基　本　資　料

公益社団法人日本青年会議所
2020年度　基本資料（案）

基本計画
（基本理念・基本方針）

基本理念

全ての人びとが

笑顔で生きがいを持てる国

日本の創造

基本方針

1. 組織改革と人材育成による人びとが自然と集う組織への変化
2. 好循環を起こす人と企業による地域経済の再建
3. 持続可能な成長戦略による国家経済の再興
4. 民間外交と国際協力による国際社会との連携
5. JCの存在価値を高める効率的な組織運営

公益社団法人日本青年会議所
2020年度　基本資料（案）

事業計画

［1］ 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIと共に連携して行う運動・事業

1. 柔軟かつ開放的な組織改革と会員拡大を行うための事業の実施
2. 地域社会でＳＤＧｓを推進する事業の実施
3. 選挙における各種討論会の実施

［2］ 日本青年会議所が主催し、各地会員会議所またはJCIや各国青年会議所に対して、参加や参画など協力を依頼して行う事業

1. 京都会議　【 1月】
2. 金沢会議　【 2月】
3. サマーコンファレンス　【 7月】
4. 全国大会北海道札幌大会　【 9月】
5. 国際アカデミー
6. 日本アカデミー
7. TOYP大賞
8. 褒賞
9. 各種視察団・使節団の派遣
10. 国際協力

［3］ JCIが主催し、日本青年会議所が連携して行う運動・事業

1. JCI　ASPAC（カンボジア／アンコール）　【 6月】
2. JCI　世界会議（日本／横浜）　【11月】
3. JCI　AWARDSへの申請　【 5月・10月】
4. JCI　TOYPへの申請　【 5月】

［4］ 日本青年会議所が会頭所信に基づき、地区協議会と連携する事業

1. 柔軟かつ開放的な組織改革を行うための事業の実施
2. 地域社会でＳＤＧｓを推進する事業の実施
3. 地域経済ビジョンを策定・推進する事業の実施
4. JCカップU－11少年少女サッカー予選大会の実施
5. 関係諸団体との互いに強みを生かした防災ネットワークの構築

［5］ 日本青年会議所が会頭所信に基づき、ブロック協議会と連携する事業

1. 柔軟かつ開放的な組織改革を行うための事業の実施
2. 会員拡大の支援
3. 地域社会でＳＤＧｓを推進する事業の実施
4. 選挙における各種討論会の実施
5. 多面的な安全保障に関する国民的議論を巻き起こす事業の実施

公益社団法人日本青年会議所　２０２０年度　会頭所信

石田全史

青年会議所には、素晴らしい出会いがある。
出会いには、人の未来を変える力がある。
私は、誰かの未来をより良く変える存在でありたい。

【はじめに】
１０年後の未来を想像してください。

あなたが暮らす地域の文化は誇りとして受け継がれ、産業は人びとの生活を支える基盤となっている。まちを訪れる人やそこに暮らす人が増え、人びとの所得と幸福度は向上し、地域経済には好循環が起きる。そして地域から日本を支える本来の姿を取り戻している。
我が国は、日本人としての誇りと公共心を持った国民で溢れ、新たな命の誕生に心を踊らせている。権利の行使と義務を果たす責任を自覚した国民によって、誰もが何度でも挑戦できる持続可能な社会が実現し、自主自立国家を確立している。
世界の中の日本は、他国からの圧力に屈せず、自らの力を持って、世界との関係を深化させ、世界の恒久的平和に貢献する国となり、世界からの尊敬と信頼を集めている。

私は令和という時代に、このような未来を描いている。
地域社会の再建が、明るい豊かな国家を築く、そして世界に貢献する日本へ。
描くことができる未来は、必ず実現できると確信している。

厳しい寒さの後に春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる。そうした日本でありたい。そのような願いが込められ、令和という時代は幕を開けた。
悠久の歴史と薫り高き文化、四季折々の美しい自然、このような日本の国柄を次世代へ紡いでいくために、物心両面において豊かな令和の時代を創っていかなくてはならない。
これこそまさに、我々青年に課せられた使命である。

【組織の現状から組織の改革への決断】
１９６０年日本青年会議所は、そのあり方を再確認する必要に迫られ「ＪＣ三信条」「定款」「ＪＣＩクリード」を基礎に、幅広い層からなる会員の思想を束ねた「綱領」が制定された。綱領は、組織としての理念を確立し、会員個人の運動目標を明確に位置づけた。
そして地域社会、国家、国際社会が抱える問題とその解決に向けた責任を自覚することを前提として「明るい豊かな社会を築き上げよう」と、行動指針を定めたのである。
我々は、常に自己研鑽に励み、努力を惜しまず、地域社会を改善する政策を掲げ、市民

意識を変革する運動によって、故郷を少しでもより良くしたいと志を抱き、何事にも挑戦する青年の集いだと信じている。

しかしながら年々会員数は減少を続け、存続すら危ぶまれる会員会議所も複数存在している。政治や行政に主体性を持って参画し、責任ある発言ができる青年の存在が失われてしまったら、その青年が暮らすまちの未来はどうなるのだろうか。誰かが何とかしてくれるという根拠のない妄想に逃げ込み、他人事と捉えていたら、恐らく近い将来には一部の地域にしか存在しない組織になってしまうだろう。

我々はこの現実を悲観的に捉えず、時代に即した組織へと改革できる絶好の機会であると受け止めよう。会員会議所の抱えている事業や運動が、会員減少や組織縮小によって、負担と感じるのであれば、先入観を捨て勇気を持って、整理する決断も必要である。その際、仮に事業や運動がたった一つになっても、全く恥じることはない。むしろ会員の企業、家庭生活に悪影響を及ぼし、名ばかりの会員で連なる組織になることは、さらなる衰退を招いてしまう。まちの経済的発展と会員企業の成長、人びとの生活の質の向上を成し遂げるための政策を掲げ、それぞれの地域に根ざした草の根運動を続けることこそ、組織への信頼獲得と会員拡大につながると信じている。

【地域社会・国家・国際社会における経済の現状】

日本における青年会議所運動がはじめて灯された１９４９年９月、東京青年商工会議所はその設立趣意書において「苦難を打開してゆくために採るべき途は、国内経済の充実と国際経済との密接なる提携」と宣言した。７０年以上の月日が流れ、日本も世界も大きく変容し、国民の価値観も青年会議所を取り巻く環境も変化を続けているが、今なお色褪せぬ宣言である。我々の採るべき途を愚直に進んでいこう。

地域社会に目を向ければ、就業者の約６割が三大都市圏以外の地方で働いており、名目ＧＤＰの約半分を占めている。日本経済の成長には、地域経済の再建が欠かせない。しかし三大都市圏に労働力や投資が集中、地方は高齢化と過疎化が進行し、超人手不足に陥っている。豊かな自然や文化など、地方にはこれから開花する可能性を秘めた価値が眠っている。地方への投資が、地域経済を再建し、日本経済を再興へと導くのである。

そして我が国の経済は、２０１２年時点から名目ＧＤＰ５８兆円、実質ＧＤＰ３７兆円の増加と過去最高を記録。就業者数は２５１万人増加し、なかでも保育の受け皿拡大等によって女性の就業者が２０１万人増加した。若者の失業率は４．６％と、実に１９９２年以来の低水準にまで回復。賃金については、４年連続で２％程度の高い賃上げが実現し、５年連続で最低賃金も引き上げられてはいるが、実質賃金がマイナスとなっている点には注意が必要である。経済力について幾つかの指標があるが、一人当りの購買力平価ＧＤＰ（ＵＳドル）のランキングでは、日本はＯＥＣＤに加盟する３４カ国の中で１８位と高くはない。我々の責任は物心両面の豊かさを実感できる国家経済を築いていくことにある。

国際社会を見渡せば、日本にとって最大の輸出相手国であり、中国に次ぐ輸入相手国で

あるアメリカと、世界第１位の経済大国になりつつある中国との米中貿易紛争の緊張が、再び表面化する可能性を無視することはできない。特に世界の実質ＧＤＰに占めるアジアのシェアは、２０５０年には４８．１％へと激増すると予測されており、アジア諸国との連携はますます重要になる。我が国は、アメリカにとってアジアにおける最大の外交パートナーとして存在感を発揮しているが、アジア諸国の成長速度が西側世界を上回る「イースタニゼーション」が進むという分析を踏まえ、世界における経済大国としての影響力を維持できるよう、国際社会との親密な関係を深めていかなくてはならない。

「日本近代経済の父」と称される渋沢栄一は、企業の経営における道徳の重要性を説き「真の富とは道徳に基づくものでなければ、決して永くは続かない」と述べている。この「道徳経済合一説」は、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の概念にも通じる。企業の経営の根底には、人の役に立ち世の中の役に立つという道徳が欠かせない。そして我々は綱領に沿って社会的・国家的・国際的な責任を自覚し、好循環を起こす人と企業による地域経済の再建と持続可能な成長戦略による国家経済の再興、そして民間外交と国際協力による国際社会との連携に全力を尽くし、経済的発展と幸せを実感できる、全ての人びとが笑顔で生きがいを持ち、暮らしていける日本を築いていこう。

【世界から注目される２０２０年】

近代オリンピックの提唱者であるピエール・ド・クーベルタン男爵は、オリンピックのあるべき姿（オリンピズム）として「スポーツを通して、心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神を持って理解し合うことで、平和でより良い世界の実現に貢献する」といった理想を掲げた。近年では、「環境」という柱を加え、世界の平和と地球環境について考える機会としている。

この４年に一度の世界的なスポーツを通した平和の祭典に、２０５の国と地域から選手やそれを応援する人びとが日本に集まる。

我々の組織においても、ＪＣＩ世界会議が横浜の地で開催され、１１３の国と地域から世界の恒久的平和を希求する仲間が日本を訪れる。我々は一丸となっておもてなしの精神を持って迎え入れよう。地域と世界がつながる時代において、横浜大会へ当事者意識を持って関わることは、国際会議の経験や海外の会員との交流といった、実りある機会となるに違いない。多様性と包摂性を持って、世界から集まる人びとが、日本という国の魅力を感じられる機会を創出していこう。

【人びとが自然と集う組織への進化】

この１０年で人びとの社会的価値観は大きく変化した。一方で会員を受け入れる我々の組織体制は変化してきただろうか。拡大手法や成功事例は幾つも存在しており、成功している会員会議所も少なくないが、近年卒業者数と年間退会者数の合計値を入会者数が上回った年は、残念ながらない。そこで女性や２０代を対象とした拡大戦略の立案を提案した

い。女性会員の比率８％や平均在籍年数４年、入会者の平均年齢３３歳、女性や２０代の会員はこの組織にとって貴重な存在であり、我々の事業や運動により良い変化を起こす可能性を秘めている。日本は男女格差が大きいジェンダー後進国であり、青年が自らの意思と選択によって活躍できる、多様性ある社会を実現していくためにも女性会員の拡大に力を入れる。青年に成長と発展の機会を提供し、社会で活躍できる人材を輩出する組織であり続けるためにも、女性や２０代の心を掴む、柔軟かつ解放的な組織へと進化させる。

日本の青年会議所の未来を見据え、６万７千人を超える会員が存在していた時代から現在の組織の規模を踏まえ、社会により良い変化を起こす人材を育成する組織体制の構築や役割の明確化、さらには会員が減少しても社会に大きなインパクトを与える運動を展開するための連携体制の構築など、最大限の効果を発揮できる組織改革も必要である。

地域における優秀な若者の流出を防ぐために、高等教育機関や若年層の社会人を対象とした起業家の育成に力を入れなければならない。そのような若者と全国各地で地域の未来を共に創り上げるというプロセスから、故郷への誇りを持ち、社会に貢献する人材を育成していこう。いずれは、我々と一緒に活動する仲間となるだろう。会員拡大戦略として、全国各地で社会に貢献する起業家の育成事業を展開していこう。

また、時代の変遷期において改訂されてきたＪＣ宣言文について、社会の変化や会員を取り巻く環境からも検証する必要がある。そして改訂が必要であるという答申がなされれば、我々が描く理想の未来を明確に表現したＪＣ宣言文改訂への議論を進める。さらには２０１０年代運動指針の検証を行い、新しいＪＣ宣言文との整合性を図り、２０２０年代行うべき運動の方向性を示した中期戦略を策定する。

日本青年会議所の役割の一つに、会員会議所のリーダー育成を目的とした成長と発展の機会を提供するというミッションがある。近年は理事長経験者から「就任前にもっと経験を積み、多くの知識を得ておくべきだった」という声を耳にする機会が増えている。

それらの課題を解決するために、地域により良い変化をもたらす力と、組織力を最大化できるマネジメント力を兼ね備えたリーダーを育成するカリキュラムが必要である。また平均在籍年数が４年という由々しき事態を打開するためにも、入会間もない会員の底上げに力を入れ、各地会員会議所の組織力の向上に努める支援も必要である。

観光庁のデータによれば、５年前には約１３４０万人だった外国人旅行者数は、現在では約３１００万人を超えている。最近では地方においても、外国人旅行者の姿を見る機会が増えており、その受け入れ環境の整備が急務である。

地域の国際化に向けた課題を見つけるためには、世界８０を超える国と地域から海外の青年会議所のリーダーが集う国際事業の開催地への立候補も魅力的な選択肢である。世界から集まる同志から、地域の印象について本音を聞ける機会でもあり、その地域の魅力や文化などを伝えることもできる。人と人との交流は、地域と地域を結ぶ可能性を充分に秘めており、自身の価値観においても大きな変化が生まれる経験になることを約束する。

こうした国際事業へのボランティアを活用することで、地域の国際化の課題解決に向け

た研究の一環として、積極的に関わってほしい。
　この国際事業で得られる知識や経験は、グローバルネットワーカーとして、実社会で役立てていくこともできる。世界情勢を理解し、俯瞰的な視点を持つ日本人として国際化が急務な地域で活躍することを期待している。またこの一期一会の出会いが、持続的な関係となるよう、関わった人びとが再会できる機会とその仕組みを創出する。

　年々会員は減少傾向にあるが、個人能力開発のＪＣＩ公式コースやＪＣＩ推奨コース、日本ＪＣ公認プログラムの受講者は、確実に増えている。その背景にはこの組織の目的と意義、歴史を理解したいという意欲を持った会員の存在がある。さらには、組織に関する知識の習得だけではなく、ビジネスでも役立つスキルを身につけることもできる。また、会員でなくとも受けることができるプログラムも存在するため、これを活用し会員拡大につなげてほしい。そしてこの制度は受講して終わりというわけではなく、トレーナーとして登録すれば、実践することが可能である。より多くのトレーナーを輩出できる仕組みと活躍できる場を創出しなければならない。

　青年会議所の魅力の一つに、事業計画と予算の作成がある。会社においても同様の業務はあるが、青年会議所との明確な違いは二つある。一つ目は利益といっても、公の利益を追求すること、二つ目に資金は金融機関や市場からの調達ではなく、会員より預かっている会費や企業からの協賛金を利用することである。さらには事業構築のプロセスを通して社会により良い変化を起こす人材を育成するとともに、社会にアクティブ・シチズンを生み出していくという特徴もある。青年会議所の事業実施と予算執行は、会員や共感を抱き協力してくれた方々の想いが詰まったものであることを忘れてはならない。
　社会課題の解決に向けた政策の立案、人びとの意識や行動に変化を起こす事業の構築、運動を広める戦略を学べる機会を創出する。事業や運動の成功事例となるロールモデルを共有するとともに、活用できる支援体制を構築する。また全国各地の会員会議所が抱える継続事業の検証や改善策など、運動の最大化に貢献できる相談窓口を設置する。

【社会的な責任の自覚】
　国家は地域の集合体であり、地方における人口減少は地域経済規模の縮小に留まらず、日本経済の成長をも妨げてしまう。日本経済の底上げを図るために、地域経済を再建する必要がある。都道府県の枠を超えた広域経済圏の確立に向けて、青年としてのビジョンを描こう。日本には四季があり素晴らしい風景や自然も存在している。地域の文化や特異性を活かしつつ、インバウンドを促進させる時代に即した戦略も必要である。我々は政治や行政に頼らず、自立した豊かな地域を実現するために、そこに住み暮らす人びとの意識を変革する運動を進めていかなくてはならない。また、総務省が発表した２０１９年４月期の失業率は２．４％となり、厚生労働省が発表した有効求人倍率は１．６３倍である。雇用情勢は確実に改善していると言われるが、地方と都市部の賃金格差等により生産年齢人口

の流出が進み「労働力喪失時代」の到来が危惧されている。その労働力を補うために外国人労働者をさらに受け入れる政策には、警鐘を鳴らさざるを得ない。つまり我が国の未来を考えた時、優先すべきは地方企業の労働生産性を高める支援策と所得向上の政策による都市部との所得格差を是正することである。

政府が主導し産学官連携で実現を目指すＳｏｃｉｅｔｙ５．０によって、近い将来には情報化社会を進化させた「超スマート社会」が訪れる。地域の課題を解決すると同時に、変化に伴って生み出される「新しい価値」には、ビジネスチャンスも潜んでいる。

一方で地方においてシャッター通り商店街が、地方都市の再開発の障壁となっている。空き家等対策特別措置法などの現行法の効果や各種取り組みを検証し、まちづくりの弊害となっている不動産の利活用を促進させる新たなビジネスモデルや法改正の提言をも視野に入れた解決策の構築が急務である。

２０１５年９月国連サミットにて採択されたＳＤＧｓを受けて、同年１１月、世界会議金沢大会開催期間中にＪＣＩと全ての国家青年会議所は、ＳＤＧｓにコミットする「金沢宣言」を採択した。２０１９年１月には、外務省とＳＤＧｓ推進におけるタイアップ宣言に署名し、全国の会員会議所とＳＤＧｓ推進宣言を総会にて審議した。２０３０年までに「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するために、次世代への推進、達成に向けたプロジェクトなど協働で進めることを宣言したものである。

ＳＤＧｓの推進をより加速させるために、全国各地のネットワークと組織力、行動力を発揮しなければならない。日本で一番ＳＤＧｓを推進する組織として実績を積み、世の中から認知されれば、社会に与えるインパクトは絶大なものである。２０１９年に引き続き全ての事業と運動にＳＤＧｓを紐付けして力強く推進する。

すでに世界中の企業がＳＤＧｓを経営戦略の中に取り込むことで、財務情報だけでなく環境・社会・ガバナンスに関する取り組みも考慮したＥＳＧ投資を呼び込もうと力を入れている。ＳＤＧｓを企業の経営戦略に入れることが、必然となる日も近いだろう。全国のつながりと会員企業の経済活動を通して、社会に存在するあらゆる課題を解決しながら、持続可能な社会の創造に貢献していこう。

日本青年会議所は、２０１８年より国の「知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会」に参画してきた。従来の「知的財産立国」を基盤に、世界から共感を得られる新たな「価値デザイン社会」の構築に取り組む。日本の社会的価値を世界に向けて高めていくためには、「脱平均」の発想で尖った才能を持つ個人や挑戦する企業への支援を強化し、チャレンジを促していく環境整備が必要である。多様性や多面性を重視しながら、分散した多様な個性を融合し、消費者側のリアルタイムな評価をもとに「新しい価値」を構想しオープンイノベーションを加速させていくことで、世界からの共感を集め、日本への信頼を獲得することができる。地域に「新しい価値」をデザインし、地方創生への道を切り拓こう。

またあらゆるモノが、データ化される時代への備えも必要である。ＩＴを活用し情報を

集めた企業が競争優位に立った時代から、「リアルデータ」の活用がビジネスの主役になる時代へと突入している。我々の周りには、デジタル化されていない膨大な物的資産と経験や勘といったアナログ情報が存在する。人の経験や勘といったアナログ情報のデジタル化とデータ分析によって「新しい価値」を産み出すデジタル変革が、これからの企業経営に必要である。単なる業務の効率化ではなく、企業経営者の意思決定の高度化が可能になるだろう。デジタル変革によって、企業・産業・社会に変革を起こそう。

国や地域を愛する想いから、社会のあらゆる分野において活躍する傑出した若者を発掘して栄誉を讃えるとともに、世に向けて広く発信することによって活動の域を拡大させ、社会により良い影響をもたらす、ＴＯＹＰへと進化させる。

国際的に最も盛んなスポーツとされるサッカーを通して、地域の未来を担う子供たちに「グッドルーザーの精神」を伝えるＪＣカップは、地域間の交流人口増加やコミュニティの活性化など、魅力ある地域への発展のために開催してきた。日本国内の大会から日韓戦の実現、そしてアジア大会の開催も視野に大会規模の拡大を目指す。また、東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会が行われる特別な年でもある。特にパラリンピックの成功は、日本が世界に誇るレガシーとして未来へ紡がれていくものである。ロンドン五輪の成功例に学び、日本の社会的包摂の実現に向けて、オリンピック・パラリンピック競技大会への支援策を模索していきたい。

【国家的な責任の自覚】

我々は出産・子育てに携わる当事者世代の切なる声を集約し、少子化対策をテーマにした国民討議会を通して、厚生労働省へ提言を行ってきた。日本の出生率は３年連続で低下し、２０１８年の出生数は過去最低を更新し出生数から死亡数を引いた人口の自然減は、４４万４０８５人で、過去最大の減少幅となった。ベビーブーム世代を境に、出産可能な年齢にある女性がさらに減少することからも出生数の増加は急務である。しかし２０１９年度の国の一般会計歳出１０１兆４５７１億円のうち、少子化対策の費用は、わずか２兆３４４０億円であり、国の少子化対策が劇的な効果を上げる可能性は低い。出会い・結婚・妊娠・出産・育児・保育・教育に関わる適切な支援策や他国において既に効果が出ている政策を参考に、子供を産み育てることが幸せと感じられる社会を創ることが必要である。子供は成長すれば、社会の構成員として税金や社会保険料を支払うようになる。一方で、この課題は一朝一夕で解決できるものではない。国に頼るだけでなく、高齢者や子供などを支えていく責任世代であることを自覚した上で、子育てに対する支援は、国家の繁栄につながる投資であり、成長戦略としての姿勢を崩さず、引き続き提言する。

国民の政治参画において、衆議院・参議院の国政選挙や地方選挙の投票率は年々低下の一途を辿っており、特に若年層の低投票率は大きな課題である。選挙における投票棄権とは、地域や国の未来への無関心であり、有権者が果たすべき責任の放棄である。２０１６

年の参議院選挙では、はじめて１８歳以上に選挙権が認められたことで、与野党各党は、これまでにない若年層を意識した政策を掲げた。若年層の投票率が向上すれば高齢者偏重の政治が変わる可能性は充分にある。投票行動が自身の未来につながるという事実を認識し当事者意識を育む若年層への主権者教育を確立しなければならない。

海外に住む日本人を対象にインターネット投票の実証実験がはじまり、２０２０年には公職選挙法改正に向けた動きもある。投票率向上のための一つの有効な手段としてネット投票は推進していかなければならないが、投票率という数字の上昇だけでなく、政治参画への意識も高めていかなければならない。近い将来には、憲法改正の国民投票が行われる可能性もある。その際に国民が主権者としての責任を自覚した一票を投じることができるよう、より一層の啓発活動に力を入れる。

我が国の安全保障について、周辺諸国による軍事活動の活発化といった国際情勢の緊迫化への対応、サイバー攻撃の規模や影響の拡大といったテクノロジーの進化による新たな脅威への対策も練らなければならない。さらには、生活面において、国土・食料自給率・エネルギーやインターネット犯罪などの対策も含めた議論が必要である。日米同盟を基軸とする安全保障の重要性は変わらないが、米中の経済戦争が激化している中、世界最大の経済大国へと成長する中国との関係は今後ますます重要になってくる。戦略的互恵関係のさらなる深化はもちろん、果たすべき役割を考えなければならない時期に来ている。

内閣府が２０１８年に行った世論調査では、自衛隊に「良い印象を持っている」と回答した人が全体の約９割を占めた。東日本大震災や熊本地震における自衛隊の救援活動は、国民のみならず世界中から称賛されている。そのような自衛隊の重要性と任務が拡大する中、現行憲法における自衛隊の位置づけや集団的自衛権についても、イデオロギーに依らない冷静な国民的議論を巻き起こしていくことが、我が国の防衛力の確立へとつながる。

１９７１年長崎で開催された全国理事長会議において「北方領土返還促進決議」が採択された。それ以降、時代の担い手である青年として、国民への北方領土問題解決に向けた啓発運動に努めてきた。我々は、四島返還と日ロ平和条約の締結に向けた運動を展開する最後の砦であると言っても過言ではない。また文部科学省の新学習指導要領に基づき２０２０年４月から小学校で使われる全ての社会科の教科書には、北方領土は「日本固有の領土」と明記される。これを好機と捉え、啓発運動により一層の力を入れていく。

また我が国は誰でも自由に不動産を所有することができるが、人口減少が進行する中、外国人が容易に不動産を取得できる現状に、国が行う重要な社会インフラ整備と国防の観点から強い危機感を持っている。海外の事例を学び、国内における外国人の不動産所有と利用に関する規制を設けることは、国土と国民生活を護るという視点から重要である。

我が国の国土面積は全世界のたった０．２８％であるが、全世界の活火山の７％は日本に存在し、Ｍ６以上の地震の２０．５％は、日本で発生している。内閣府が想定する大規模

地震には、首都直下地震となる相模トラフ沿いの海溝型地震と中部圏・近畿圏直下地震となる南海トラフ地震があり、３０年以内にどちらも７０％の確率で発生すると予測されている。我が国の中枢機能や重要文化財、太平洋ベルトに位置する国を支える産業が、この危険予測地帯に位置している。これらの地域以外でも大規模な災害が起こる可能性は充分にあり､近年では火山の噴火や豪雨など人びとの生命と財産を脅かす災害は多発している。自然の力の前で人間の力は無力であり、誰にも食い止めることはできない。しかし被害を最小限に食い止める「減災」という考え方も存在する。災害発生時のメカニズムを知り、備え方と発災時の対処を学ぶ「防災と減災」を義務教育化に向けた運動として確立する。国民の生命と財産を護るために、経済的価値と防災と減災に関する備えといった両方向の視点を持って、この国のかたちをより良いものへと変えていこう。

また、これまで発生した災害に対し、全国の会員が一丸となり被災地への支援を行ってきた実績がある。ＮＰＯ団体・民間企業・災害医療機関や防災と減災のエキスパートなどパートナーを拡充して、コレクティブ・インパクトを意識したプラットフォームとなり、有事の際に迅速かつ効果的な被災地支援が可能となる組織体制を構築する。

これからの世代の平均寿命は１００歳を超えると予測されており、超高齢化社会の先にある長寿化社会は目前に迫っている。社会的包摂の視点から、育児をしながら働くことを望む女性、退職後の知識や経験を活かして働きたい高齢者、障碍のある方や難病を患っている方々が、生きがいを持って働ける環境や職場の創出が必要である。企業が発想を転換することで、我が国に眠る労働力が開花する可能性がある。また、一度社会において失敗しても再チャレンジできる環境を整えるために、現行法の課題を見つけ、法整備に向けた提言をまとめる。一般的な教育やモノ・サービスを手に入れにくく、社会から疎外される恐れがある相対的貧困の解消やいつでも学び直しができるリカレント教育の確立も同時に進めていかなければならない。さらには全国には２０歳～３４歳の若年無業者が約４８万人、４０歳～６４歳でひきこもりの状態にある人が約６１万人とも言われ、地域の実態に即した自立就労支援の充実も急務である。全ての人びとが活躍できる社会環境を整備し、地方の労働力人口の確保から、東京一極集中の是正につなげていこう。

人は必ず死を迎える。その時まで生きがいを持ち続け働ける社会、何度でも挑戦できる社会を目指し、世界に先駆け超高齢化・長寿化社会の先進事例を創っていこう。

【国際的な責任の自覚】

スイスの国際経営開発研究所（ＩＭＤ）が発表している「世界競争力ランキング」によれば、日本の総合順位は６４カ国中３０位と低迷している。なかでも評価が低かったのが「起業家精神」と「国際経験」であった。しかし我々は、国際的なつながりをもつ組織であり、希望すれば誰でも国際の機会に触れることができる。そのつながりを活かし、世界に向けて人や企業の進出を後押しすることも可能である。世界には、日本の企業の進出を心待ちにしている国や地域が存在している。日本の文化や精神性といった魅力を人と企業

の進出により、民間外交と国際協力を通して、日本と世界との距離を近づける。
　また、我が国の悲願である旧敵国条項の削除に伴う国連憲章の改正手続きや常任理事国入りを実現するために、政府の途上国への開発援助とＳＤＧｓ達成に向けた我々の運動の実績からも外務省と連携し、国際連合へ働きかけていくことも我々の責務である。

　大東亜戦争敗戦後、日本人は食糧難と貧困に喘ぎ、混乱の中で苦しい生活をしていた。アメリカをはじめ先進諸国から生きるために必要な援助物資や「ガリオア・エロア資金」などの援助を受けた。１９５３年には、世界銀行から低金利の融資を受け、黒部第４ダムや東海道新幹線、東名・名神高速など経済発展に必要な社会基盤を整備した。我々は世界の国々に支えられ経済大国まで成長できたことを忘れてはならない。当時支援してくれた国々は、自国の利益のために手を差し伸べたのだろうか。同じ地球で苦しむ人びとがいるのであれば、見返りを求めず手を差し伸べることも必要である。そして未来を担う子供たちには、世界の現状を理解し、経済大国としての責任を自覚した、世界に貢献する日本人として、成長できる実体験の機会を創出する。
　２０１５年からＳＤＧｓゴール６の達成に向けて「ＳＭＩＬＥ ｂｙ ＷＡＴＥＲ」事業を推進し、アジア・太平洋地域の「水と衛生」に関する問題への解決に取り組んできた。国内での啓発運動により活動資金を集め、支援を必要とする国のリサーチを行い、持続性を担保しながら民間開発支援をしている。「ＳＭＩＬＥ ｂｙ ＷＡＴＥＲ」のブランド化を図り、支援を必要とする国ごとにパートナーを選定し、アジア・太平洋地域の「水と衛生」に関する課題解決を加速させていかなければならない。

　国際通貨基金（ＩＭＦ）は、２０１４年衝撃的な事実を発表していた。世界のＧＤＰを購買力平価で測った場合、中国が世界最大の経済国へ成長を遂げ、世界４大経済国のうち、３カ国がアジアの国であった。さらに２０２５年には、世界の人口の３分の２がアジアで暮らしていると予測している。人口で勝るアジアで急激な経済発展が実現した結果、世界のパワーバランスはアジアへとシフトしている。
　我々は中華全国青年聯合会と未来志向な関係を構築するため、訪中・訪日事業を行ってきた。日中両国の次世代を担う青年の相互の理解は、これまで以上に必要になる。両国の経済的発展とアジア及び世界の平和に向けて、関係を深化させていかなくてはならない。また東南アジアで活動する国家青年会議所は、ＪＣＩ ＡＷＡＲＤＳの受賞や女性の会員の比率など、我々が見習うところがある。アジアにおける国際的課題を共有するとともに、ビジネス交流を通して、明るい豊かなアジアの未来を共に描く機会を創出する。
　またロシアに対しては、２０１６年の日露首脳会談において、我が国は８項目の「協力プラン」を掲示し、高い評価と賛意が表明された。その後は、ＪＢＩＣ・ＲＤＩＦによる１０億ドルの共同投資枠組みの設立、デジタル経済の実現に向けた協力関係など、互恵的な日露経済関係を進展させている。そして２０１９年９月よりロシア企業や研究所の常勤者への最長５年のマルチビザの発給や学生のビザ申請の簡素化の措置がなされる。

政府の打ち出したロシアへの「協力プラン」を加速させ、両国の発展のために、日本とロシアの起業家との経済交流や学生同士の文化･教育交流にも力を入れなければならない。極東地域の平和を実現するために、積極的な民間外交を推し進めよう。

国際の機会を各地の会員会議所へ提供するためには、ＪＣＩとの連絡調整が重要である。我々が位置するアジア・太平洋地域以外にもアフリカ・中東、アメリカ、ヨーロッパ地域会議に登録さえすれば、会員なら誰でも自由に参加することができる。海外の青年会議所の実施する素晴らしい事業や運動に触れることができるという、学びの機会も存在する。そして先人たちの弛まぬ努力によって、世界中からの信頼を集め、日本のパスポートは、１９０カ国と単独世界一となった。これを活かさない手はない。世界を旅すれば、人生における価値観が変わる瞬間が必ず訪れる。

国際会議における他国の会員との交流の機会を掛け替えのない時間とするために、言葉の壁を超えて通じあえる交流が必要である。ＪＣＩという組織が描く世界の恒久的平和に向けて、一体感を抱くことができる機会を創出する。

【原理原則を意識した効率的な組織運営】

マスコミの使命は、不偏不党の立場から国民に正しく情報を伝え、社会をより良い方向へ導くというものである。しかし、既存のマスコミは相次ぐ不祥事により、信頼性を低下させ、一方でインターネットやＳＮＳの普及により、フェイクニュースが蔓延している。誤情報の拡散は人の命を奪う可能性すらあるにも関わらず、法規制はまだ整っていない。利益追求のために事実を捻じ曲げて報道し、デマを流しておきながら、言論の自由を盾にすることは決して許されない。我々は真実を報道する機関であることを第一義とし、一般報道のファクトチェックはもちろん、欧米諸国に比べて遅れているメディア・リテラシー教育について、教育機関や家庭における学習の必要性からも教科化を見据えた運動を確立する。そして人びとに有益なコンテンツを充実させ、報道機関としての存在価値を高めていかなくてはならない。またクラウドファンディングとの連携により、公益事業に対しての寄付については、税制控除を受けられ、資金調達と運動発信が同時に可能となる「ふるさと」納税に変わる画期的な報道機関へと進化させ、社会の発展に貢献していきたい。

そして組織の認知度や存在価値を高めるために、組織のブランディングに取り組む。

認知度やイメージといったものは受け手が判断するものであり、受け手が必要とする、或いは心の琴線に触れる情報を届ける広報戦略が必要である。我々は、２０１９年に報道機関として大きな一歩を踏み出している。ブランディングの視点で練り上げた新しい広報戦略と報道機関が連携することで、組織の認知度と存在価値を高めることができる。各地の会員会議所の活動は素晴らしく、発信する素材と土壌は整っている。我々は、総合調整機関として、地域を世界へ発信し、社会にインパクトを与え、組織のブランドを確立する。

日本青年会議所の予算の約９割が会員からの収入である。持続可能な組織として維持し

ていくためには、会員数の拡大と並行して、外部からの収入の獲得が必要不可欠である。これは全国の会員会議所でも同様のことが言える。我々の運動に対して、外部からいかに共感を得るかを企画から練り上げ、クラウドファンディングを活用することでこの課題の解決に挑戦する。内外からの収入を予算執行するにあたっては、厳正な審査を行い、会計の透明化と財務体質の健全化を図らなければならない。

一人の無責任な行動や言動により、組織全体の信用が失墜する時代である。昨今の企業不祥事からも明らかなように、単なる法令遵守ではなく、倫理的責任を追求される事例もある。その倫理的責任を果たすためにも、組織のコンプライアンスへの意識を高め、徹底していくとともに、ガバナンスの強化も図っていく。

青年会議所はその名の通り、物事を会議で決定するという特徴を持つ。我々の会議には合議制による民主的な意思決定という良いイメージもあれば、長時間にわたる会議、効率が悪いといった負のイメージも残念ながら耳にする。厳正な議論を積み重ねて物事を決定するというプロセスを通して、信頼関係が築かれていく。会員企業や家庭生活に悪影響を及ぼさぬよう、効率的な会議運営のあり方を検証し改善しなくてはならない。そして活発な議論を巻き起こし、より良い運動をつくる貴重な時間となるように心がけていこう。

【組織連携による運動の最大化】

日本青年会議所は、本会と１０の地区に編成された地区協議会、各都道府県に存在するブロック協議会から構成され、全国各地の６９４青年会議所を会員として成立している。世界を見渡せば１１３の国と地域に国家青年会議所が存在し、世界中には約１５万５千人の仲間がいる。卒業された先輩諸兄姉も含めれば、世界の恒久的平和を希求する人びとが想像もつかない数で存在している。これこそが組織の最大の強みである。地区・ブロック協議会は、本会の運動を推進することだけに留まらず、会員会議所から一番近い存在として、心を寄せてほしい。そして我々は、密なる連携によって運動を最大化していこう。

意識変革運動とは､人びとの意識や行動を変えること｡一人の発想に共感する者が集い、やがて大きな声となる。これが運動のはじまりである。その運動の拡大と継続が人びとの心を動かし、社会を変える起点となる。我々は自己の利益を省みず、勇気を持って社会のあるべき方向性を示し、責任ある発言ができる唯一無二の組織であることに誇りを持ち、運動を続けていこう。

【おわりに】

２０１１年の東日本大震災は、これまで漠然と描いていた未来が崩壊した瞬間だった。

広範囲に渡る激震と巨大な津波により、多くの生命や財産が失われた。さらには原子力発電所の放射性物質の飛散により、故郷は消滅の危機に瀕している。

多くの方々が、地震や津波で犠牲になった。

その中には、志半ばで帰らぬ人となった仲間もいる。

「生きる」ということは、当たり前のことではなく、奇跡の連続である。そして故郷は、唯一無二の心の拠り所である。どのような状況においても故郷を護ることができるのは、そこに住み暮らす人びとしかいないのだ。これが、震災で得た私の教訓である。
２０２０年には、あの震災から１０年目を迎える。未だ復興は道半ばであるが、復興へ一歩一歩と前に進んでいくことが私の生きがいであり、原動力でもある。

震災後、只々呆然と立ち尽くし、将来に対する希望を失い、絶望感に浸る日々を送っていた。そのような私に、現実を受け止め、未来を切り拓く勇気を与えてくれたのが、この組織で出会った人びとである。青年会議所どころではないと感じたこともあった。しかし、青年会議所がなくなったら、故郷の未来はどうなるのだろうかと自問自答を繰り返した。
そこで導き出された答えは、夢を語り、希望に満ちた、世界に誇れる故郷の未来を描くこと。そう決意したら、再び前を向いて歩き出すことができた。

気付いたら、一緒に活動する仲間が集まってくれた。

挑戦する前から無理だと決めつける、そのような先入観は捨て、大きな夢を語り、仲間を集めて、未来を創ろう。我々は、必ず変化を起こすことができると信じている。
己の信じた道を突き進む、真実一路が世の中を変えるのだと私は思う。

先入観を捨て
夢を描き、仲間を信じて、新しい時代を創りだそう
軌跡を紡ぎ、奇跡を起こそう

公益社団法人　日本青年会議所　東北地区協議会

2020年度　基本計画

【基本理念】

全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる東北の実現

【スローガン】

～軌跡を紡ぎ、奇跡を起こそう～

【基本方針】

1. 東北ゼミナール委員会
   東北を牽引する「結」の精神溢れる人財の育成
2. 広域連携支援委員会
   県域を越えた広域連携が生み出す「持続可能な発展を遂げる東北」の実現
3. 東北青年フォーラム運営委員会
   会員及び市民意識の変革に向けた機会の創出
4. 財政規則審査委員会
   法令を遵守した運営と健全な財政基盤からなる盤石な組織体制確立
5. 総務広報委員会
   組織の社会的認知度と存在価値の向上に向けたブランド確立

【事業計画】

1. 時代に即した組織改革の実施
2. 東北を牽引する「結」の精神溢れる人財の育成
3. 地域社会でSDGsを達成していくための事業の実施
4. 地域経済ビジョンを策定・推進する事業の実施
5. 地区・ブロック協議会・LOMの災害支援ネットワークの構築
6. 未来を切り開く褒賞事業の実施
7. JCカップ　U－11　少年少女サッカー全国大会予選大会の実施
8. 広報の充実によるJCブランドの確立

公益社団法人　日本青年会議所
東北地区協議会
会長意見書

公益社団法人　日本青年会議所　東北地区協議会
２０２０年度　会長　武山　祐樹

全ての人々が笑顔で生きがいを持てる東北の実現

日本のＪＣ運動は、１９４９年に戦後の荒廃から「新日本の再建は我々青年の仕事である」という高い志のもと、戦後の荒廃からの国家再建を目指し、東京の若手経済人が集り東京青年会議所が誕生したのがはじまりであり、今日まで「ひとづくり」「まちづくり」「教育」「国際社会」「環境」などの地域における課題の解決に向けて、青年としての英知と勇気と情熱を胸に、運動を展開してまいりました。いつの時代も社会を変革してきたのは青年であり、今の時代を生きる責任世代である私たちだからこそ、先輩諸氏が紡いできた創始の想いや理念を胸に、次代を生きる子どもたちのために、全ての人々が笑顔で生きがいを持てる東北の実現に向けて、運動を展開していなかなければなりません。

【はじめに】

私たちが所属する国際青年会議所（以下、ＪＣＩ）は、１９１５年に自由な社会と経済発展を実現し、新しい社会をリードするにふさわしい人材育成を目的として、小さな青年団体から始まり、現在では世界１３４の国と地域に約１６万人のメンバーを擁し、先輩諸氏も含めると約２５０万人以上にものぼる世界で最も大きな青年団体です。国際組織であるＪＣＩは、国際連合（Ｕｎｉｔｅｄ　Ｎａｔｉｏｎｓ）と国連ミレニアム開発目標（ＵＮＭＤＧｓ）をきっかけに連携を深め、恒久的な世界平和の実現を目的に運動を展開してまいりました。私たちは、日本、ひいては世界を変革していく青年団体たらんとすれば、組織の有するスケールメリットを有効に活かし、社会を変革していく運動へと発展していくことが必要不可欠です。

私たちの住み暮らす東北は、２０１１年に発災した東日本大震災から９年が経過しようとしている今もなお、未だ原発事故における風評被害、東京一極集中に伴う人口減少、少子高齢化による生産年齢人口の減少、インバウンドの低迷等の多くの問題を抱えております。２０１４年に開催された「日本創成会議」において、２０４０年には、全国で８９６の市区町村が人口減少による、消滅の可能性がある「消滅可能性都市」になると発表され、世間に衝撃を与えたのは記憶に新しいのではないでしょうか。２０１９年は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、第１期「総合戦略」の最終年にあたりますが、地方創生の大枠でもある、地方経済の強化、地方への新たなひとの流れの創出、子育て環境や出生率に関して、

未だ課題は山積しているのが現実です。私たちは、この国難ともいえる激動の時代を打開していくために、今こそ、先人たちが大切にしてきた「結」の精神に基づき東北地区７７ＬＯＭの同志が共に、全ての人々が住み暮らす地域に誇りを持ち、希望溢れる未来を思い描ける東北の実現に向けて、歩みを進めていくことが必要です。

【地域を牽引するリーダーの育成】

近年、失われた２０年と言われる経済成長率が低迷する中、全国的にも人口減少や少子高齢化にともなう生産年齢人口の減少により、経済・産業活動の縮小が危惧されております。日本青年会議所は、１９５１年の発足以降、明るい豊かな社会の実現を目的として、先輩諸氏の弛まぬ努力とリーダーシップのもと今日まで、地域を牽引する多くの人財を世に輩出してきております。リーダーの定義は、指導力、統率力、個人の資質や人格等、様々な定義や形があり、地域や社会の抱える課題やニーズが多様化している昨今、地域の課題解決に向けて、地域を牽引する人財の育成が必要不可欠です。本年度、東北地区協議会は、持続可能な発展を遂げる東北を実現するために、会員一人ひとりが東北地方に連綿と根差す「結」の精神に基づき、青年としての矜持を持ち、地域を牽引するリーダーを育成します。ＪＣは、「青年の学び舎」として、ＪＣ運動を通じた人財の育成を目的としており、会社の大小、個人の能力、利害関係なく、住み暮らす地域の課題を解決するために会員一人ひとりが、お互いに切磋琢磨し本気で向き合う組織であり、活動を通じて自身を変革し、多くの学びを享受できる素晴らしい出会いがあります。人は、人との関わりによって磨かれ、出会いには、人の未来を変える力があります。本年度は、会員一人ひとりが地域を牽引する責任世代として、先輩諸氏が紡いできた歴史や理念を慮り、青年としての矜持をもち、未来を見据え歩みを進めて行くことを期待しております。

【持続可能な発展を遂げる東北の実現に向けて】

　私たちの住み暮らす東北は、広大な土地と豊かな自然環境に恵まれ、美しい海岸線や山並みを持ち合わせており、多くの美しい景観や文化芸術に認められた魅力溢れる地域です。東北地区協議会では、先輩諸氏から連綿と受け継がれてきた「東北は一つ」の理念のもと、子どもたちの夢と希望溢れる「輝く東北」の実現を目指し、東北地区７７ＬＯＭが同じ方向性に向かって運動を展開していく運動指針として「２０１０年代東北ＪＣ運動指針」を策定しました。そして、アクションプランとして①地域社会に貢献できる人財の育成、②地域コミュニティーの再生、③地域の枠を超えた運動の推進、④地域の力を活かしたまちづくりを掲げてまいりました。私たちは、持続可能な発展を遂げる東北を実現するために、豊かな自然や文化といった地域の特異性を有効に活かし、超スマート社会やリアルデータなどの技術革新の活用等も踏まえた地域における新たな価値を見出し、今後の東北経済ビジョンを確立し、県域を越えた広域連携のもと、組織のスケールメリットを活かした運動へと発展することが必要です。また、東北地区７７ＬＯＭにおける組織のスケールメリットを活かした力

強い運動を展開していくために、「２０１０年代東北ＪＣ運動指針」の効果を調査・検証し、今後の方向性を見出すことで、未来に向けた東北地区協議会のあるべき姿を確立します。私たちが、常日頃から唱和している、東北ＪＣ宣言の理念には、東北地方に連綿と根差した「結借り」「結貸し」という労働力や食物を貸し借りし、互いに支え合いながら生き抜いてきた、先人たちが大切にしてきた精神性が認められており、今日まで、東北に住み暮らす人々のアイデンティティとして確立されております。地域を牽引する市民意識の変革団体である私たちＪＣが、「結」の精神に基づき、主体的に行動する市民や県民と共に、東北地区７７ＬＯＭの会員一人ひとりが、「東北は一つ」の志のもと、県域を越えた広域的な連携による、全ての人々が住み暮らす地域に誇りを持ち、希望溢れる未来を思い描ける東北の実現に向けて歩みを進めることが必要です。

【災害に強い都市基盤の構築】

私たちは、未曽有の被害を齎した東日本大震災により多くの尊い人命を失い、大切なものを無くし、普段あたり前と感じていた生活が、常に様々な災害の脅威にさらされていることを認識しました。東日本大震災から９年目を経過しようとしている今、目に見えるものの復旧・復興は着実に進んでいる反面、時間の経過とともに震災の記憶の風化や災害への意識の低下が危惧されております。日本青年会議所は、これまで災害における有事の際に、全国の会員が一丸となり、被災地への支援や災害復旧活動を実施してまいりました。近年、日本国内においても気候変動にともなう、自然災害の増加が危惧される中、またいつ来るかわからない自然災害に対し、行政をはじめとした関係各所と連携し、県域を越えた広域的な連携のもと、災害に強い都市基盤を構築することが必要不可欠です。本年度、東北地区協議会では、有事の際に迅速かつ効果的な被災地支援が可能となる都市基盤を確立するために、ＮＰＯ団体・民間企業・災害医療機関や防災と減災のエキスパート等のパートナーとの連携体制を構築することで、コレクティブ・インパクトを意識した防災・減災プラットフォームを創出します。また、有事の際に助け合い支援することを目的とした包括的な災害連携協定を締結し、広域連携による防災基盤を構築することで、東北地区７７ＬＯＭ一丸となる、組織のスケールメリットを活かした災害対応基盤の構築を実現します。

【東北青年フォーラムの開催】

２０２０年度の第６８回　東北青年フォーラムは、一般社団法人　南陽青年会議所を主管ＬＯＭとして開催します。南陽は、日本三熊野と称された熊野大社が控える門前町として栄え、開湯９００余年という歴史ある温泉地として有名な赤湯地域は、湯治としてだけでなく米沢街道の宿場町としても人や物資の往来が大変栄えた地域であり、四季折々の彩りが美しい、悠久の歴史が息づくまちです。開催当初は、東北地区内の会員交流という趣旨から始まりましたが、今では会員や参加者が地方創生に向けて当事者意識の高揚を図り、地域活力の醸成につなげていただくと同時に、開催により齎される社会的波及効果により、開催地域

の活性化を通じた市民意識の変革を目的とした発展を遂げております。本年は、全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる東北の実現に向けて、東北地区７７ＬＯＭの同志が一堂に集い、東北地方に根差す「結」の精神に基づき、地方創生に向けた意識変革の契機とするとともに、市民意識の変革となりえる大会を創出します。また、主管する南陽青年会議所が、開催を通じて齎される個人、組織に対する組織益、行政や企業をはじめとした関係各所との連携により齎される社会益を存分に享受することを祈念するとともに、市民と共に「東北は一つ」の理念のもと、一人ひとりが住み暮らす地域に誇りを持ち、希望溢れる東北の未来を想い描ける契機となる機会を創出します。

【組織のブランド確立に向けて】

社会から必要とされ続ける組織へと発展していくためには、地域の課題解決に向けて、運動を展開していることを効果的に発信し、社会的認知度と存在価値の向上を通じて、受け手の共感を得ることで、組織のブランドを確立しなければなりません。本年度は、組織のブランドを確立するために、ブランディングの視点に特化した広報マニュアルの確立により、効果的な広報戦略を実施し、報道機関をはじめとする関係各所との情報共有を通じた協働基盤を構築します。また、広報媒体やＳＮＳ等の情報発信ツールを用いて、受け手の心の琴線に触れる効果的な発信を実現するとともに、地域の魅力を世界に広く発信することで、運動の推進力の根幹となる組織のブランドの向上を図ります。

【持続可能な発展を遂げるＬＯＭの確立】

地方創生を実現するうえでは、各地域に住み暮らす人財の育成、ＬＯＭの発展が必要不可欠です。日本青年会議所、地区協議会、ブロック協議会は、ＬＯＭの抱える課題の解決や組織の発展、運動の推進力向上に向けた各地域で活動するＬＯＭとの連携、総合調整機関として運動を展開してまいります。東北地区協議会は、公益法人格を有する組織として、社会情勢の変化で移り変わる関係法令や基準の遵守と効果の高い事業を実施できる体制を構築するとともに、公益性の高い運動を継続できる環境を整えるために、公益法人認定法に定められた各種手続を法令に従って確実に実施することで、運動の質を担保します。また、全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる東北の実現のために、東北地区内における各ＬＯＭが相互扶助のもとに東北地区全域が同じ志のもと運動を展開できるよう、東北地区７７ＬＯＭの模範となる組織を構築します。

【おわりに】

人は、この世に生を受けて、この世を去るまでの間、その時代に応じた役目がある。
子どもは、親へ喜びと活力を与え、学生は、自らを律し、自己を確立し、青年は、国や世界の平和を願い、後世へと残す責務がある。

平成という激動の時代が終わりを告げ、新しい令和の時代を迎えた今、私たちは改めて今の時代を生きる責任世代として、積極果敢に行動していこうではないか。

「生きる」ということは、当たり前のことではなく、かけがえのないものなのです。

２０１１年の東日本大震災において、自らが物資困窮した過酷な状況の中でも他者を思いやり支え合う姿は、労働者や食物を貸し借りし、互いに協力し合いながら暮らし生きる、東北地方に連綿と根差す「結」の精神であり、東北人のアイデンティティなのです。私たちは、この時代に生きる意義をそれぞれがしっかりと認識し、今をどう生き抜かなければならないかを真剣に考え、責任世代としての役割を果たすことで、全ての人びとが笑顔で生きがいを持てる東北を実現しなければなりません。

激動の時代の中、青年の英知と勇気を結集させた運動を実践に移すこと、情熱溢れる行動を力強く展開することこそが、全人類の光明たる私たち青年の仕事なのです。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区協議会

2020年度　委員会職務分掌

【東北ゼミナール委員会】

東北を牽引する「結」の精神溢れる人財の育成

１．　時代に即した組織改革の実施

２．　東北を牽引するリーダーとしての矜持を持った人財の育成

３．　地域社会でSDGsを達成していくための事業の実施

４．　組織や地域を牽引できるリーダーの提言

【広域連携推進委員会】

県域を越えた広域連携が生み出す「持続可能な発展を遂げる東北」の実現

１．　地域経済ビジョンを策定・推進する事業の実施

２．　地区・ブロック協議会・LOMの災害支援ネットワークの構築

３．　JCカップ　U－11　少年少女サッカー全国大会予選大会の実施

４．　会員会議所への様々な支援

【東北青年フォーラム運営委員会】

会員及び市民意識の変革に向けた機会の創出

１．　東北青年フォーラムの企画・運営・実施

２．　地区大会開催地域をはじめ地区内の地域の発展

①　主管青年会議所との連絡調整

②　一人ひとりにできることの実践につながる市民意識の喚起

３．　次代の地区大会の開催に向けた研究と検証

①　2021年度主管青年会議所に関する調査・調整

②　2022年以降の主管青年会議所立候補の調査・報告

４．　2010年代運動指針の調査・検証及び2020年代運動指針の研究・立案

【財政規則審査委員会】

法令を遵守した運営と健全な財政基盤からなる盤石な組織体制確立

１．　本協議会会計、委員会会計の予算・決算における指導・助言

２．　コンプライアンス及び公益審査の実施

３．　各ブロック協議会、各LOM会計における指導・助言

【総務広報委員会】

組織の社会的認知度と存在価値の向上に向けたブランド確立

１．　本会及び各ブロック協議会との連携によるガバナンスの強化

２．　広報の充実によるJCブランドの確立

３．　世界における東北のファンづくりによる交流人口の拡大

４．　褒賞事業の実施

５．　本協議会ウェブサイトの運営及び各種情報の受発信

６．　各種会議の設営及び庶務全般と議事録の作成及び管理

７．　提出議案のとりまとめ

【事務局】

１．　本協議会の事務運営

2.　運営専務の補佐

3.　諸会議の案内通知

4.　正副会長の渉外業務の補佐

公益社団法人日本青年会議所　東北地区　青森ブロック協議会
２０２０年度　基本計画（案）

【基本理念】

全ての人びとが
笑顔で生きがいを持てる地域
青森の創造

【スローガン】

挑む青森　楽しむ青森

【基本方針】

・ＬＯＭ支援委員会
　柔軟かつ開放的な組織改革と持続可能な会員拡大の支援
・青森を護り青森を創る委員会
　ＳＤＧｓを基軸として青森の安全を護り青森の社会経済に新しい価値をもたらす事業の実施
・アカデミー大学
　ポジティブリーダーとして地域や組織にインパクトを与える人財の育成
・アツい青森実現委員会
　魅力溢れる青森に愛と誇りと活力をもたらす大会の開催
・総務広報委員会
　会員に寄り添う組織運営やブロック協議会の広報の実施

【事業計画】

１．柔軟かつ開放的な組織改革を行うための事業の実施
２．会員拡大の支援
３．地域社会でＳＤＧｓを達成していくための事業の実施
４．選挙における各種討論会の実施
５．多面的な安全保障に関する国民的議論を巻き起こす事業の実施
６．アカデミー大学の設置・運営と各講座の実施
７．（仮称）第５０回青森ブロック大会ｉｎ青森の企画・運営・実施
８．ＪＣカップ　Ｕ－１１　少年少女サッカー大会青森県予選会の企画・実施
９．効率的な組織運営と積極的な広報によるＪＣブランディングの発信

公益社団法人日本青年会議所　東北地区　青森ブロック協議会
２０２０年度　会長意見書

公益社団法人日本青年会議所
東北地区青森ブロック協議会
２０２０年度会長　国分　聡

明日を信じる青森、今日を変える青森
～　笑顔を増やす挑戦者であり続けよう　～

【未来をつくる使命】

出会いと機会が人を成長させる大きな要素であるならば、私はそれらに大きく影響されてこれまでの人生を送ってきたように思える。何かをやりたい、行動を起こさなければという気持ちが湧き起こるとき、そのきっかけは必ず人との出会いや人から与えられる機会によって生み出された誰かに喜んでもらいたいという思いが原動力となってきた。しかし、そのことに気づけずに自分の力だけで人生を切り拓いてきたと勘違いし、その一方で些細な挫折で目標を立てることを恐れ、結果的に２０代という社会人として大きく成長しなければいけない時期を漫然と過ごし３０代を迎えた頃、自分は何のために生きているんだろうと深く考えるようになった。まずは両親への恩返しをするべく東京から青森へ戻り、現在の社業に打ち込む覚悟を持てるようになった頃、私はＪＣと出会った。そこでは青年経済人として必要な知識や振る舞いを知ることが出来ただけでなく、仲間や地域と共に考え、共に行動することこそが自分自身を大きく成長させてくれることだと気づかせてくれた。そして、未来をつくる使命感こそ明るい豊かな社会を築き上げるのに必要な気概であることも学ぶことができた。しかし、その使命感は多くの出会いや多くの機会の中でしか磨かれないものであり、また、多くの期待に応えるたびにより大きな使命感へと変わっていくものである。多様化と個別化が進む現在の社会においても、明日を信じ、今日を変え地域を成長させるのは我々青年世代の最大の使命であり、最大の価値である。

【求められる青森ブロック協議会】

青森ブロック協議会は、１９７１年に日本青年会議所と県内各ＬＯＭとの連携をより強化する目的で発足した。そして、現在まで県内各地域の発展に寄与してきた。ブロックが果たす役割とは、県内各ＬＯＭが地域の課題について持続可能な解決策を生み出すために必要な知識や経験を提供すること、そして会員相互の交流を通して友情を育みながら切磋琢磨し、各地域により良い変化をもたらす運動の展開や人財の育成を図ることである。そして何より、ブロックは県内の会員にとって最も身近な存在であり、連携を深めやすい場所である。我々がそれぞれのＬＯＭに寄り添い共にアイデアを出し、地域にインパクトを与えるリーダーとして成長することで、各地での運動がより効果的なものへとなり、魅力

ある組織として次代を担う人財が集まりやすい組織へと進化していく。そのような好循環を多くのメンバーに共有してもらうためにも、我々は求められる青森ブロック協議会として会員だけでなく多くの県民に影響を与える存在でなければならない。

【変わる青森が導く希望溢れる社会】

私たちが住み暮らす青森は、農水産業を軸とした第一次産業が経済基盤となっている中、近年ではインバウンド対策に力を入れ、観光産業に官民一体となって取り組んでおり、外国人宿泊数の伸び率全国１位など、一定の成果をもたらしている。しかし、一方では、依然として経済面では全国平均を下回るＧＤＰや健康面では短命県と呼ばれる食生活や生活習慣における課題や防災意識の低さや生活基盤を護る意識の低さなど多くの課題が残っており、県民が実生活において住みよいまちで生きがいを強く実感する状況にはまだ程遠い現実もある。しかし、青森には各地に息づく個性溢れる祭りなどをはじめ、歴史と風土に根ざした特色ある魅力が数多く顕在し、県民一人ひとりが今よりもっとまちを愛し、今よりもっとまちを誇れる可能性に満ちた地域であることは大きなアドバンテージである。我々は青森の特色を最大限に応用して、変化を恐れず積極的に新たな挑戦に取り組み、多様化、個別化していく２０２０年代の社会に向けて、そして青森ブロック協議会発足から５０年という節目を迎えるにあたり、青森ならではの価値を県民と共に生み出し、郷土に愛と誇りと活力が溢れる運動を展開していく。

【結びに】

誰がどんな日々を過ごそうとも必ず未来はやって来る。しかし、幸せな未来か、そうでない未来かは「今」の積み重ねによってその形が決まるであろう。起こした行動はもちろん、行動を起こせなかったことをも含むすべての「今」が未来をつくっているとするのであれば、かつて先人たちが未来の我々を想い、現在まで受け継がれたかけがえのない社会を創り上げてきたように、我々青年世代は明日を信じ今日を変えることで家族、友人、会社、地域に笑顔を増やし、持続可能な社会を創り上げていかなければならない。一滴の雫が水面に波紋を広げるように、今こそ一人ひとりが地域のより良い未来を願い行動を積み重ね、新しい価値と新しい笑顔が広がる希望に満ちた青森へと変わる時だ。

公益社団法人日本青年会議所　東北地区　青森ブロック協議会

2020 年度　職務分掌（案）

◇ＬＯＭ支援委員会

柔軟かつ開放的な組織改革と持続可能な会員拡大の支援

Ⅰ　会員拡大や組織改革に関する事業の実施

１．　各ＬＯＭの会員拡大や組織改革に関するミーティングの実施

２．　青森ブロック内の会員拡大や組織改革に関する情報の発信と共有

３．　各ＬＯＭの状況に応じた会員拡大や組織改革へ向けた具体的支援

４．　青森ブロック版拡大・組織改革褒賞の実施

Ⅱ　リーダーとしての資質向上への支援

１．　日本アカデミーへの参加促進ならびに支援

◇青森を護り青森を創る委員会

ＳＤＧｓを基軸として青森の安全を護り青森の社会経済に新しい価値をもたらす事業の実施

Ⅰ　地域社会でＳＤＧｓを達成していくための事業の実施

１．　各種団体・企業・官学とのＳＤＧｓ推進パートナーシップの構築

２．　ＳＤＧｓを基軸とした新たな社会的・経済的価値を地域にもたらす事業

Ⅱ　多面的な安全保障に関する国民的議論を巻き起こす事業の実施

１．　県民の人命と生活基盤を護るための軍事・外交・インターネット・食糧・エネルギー・インフラ・防災等の様々な面から考える安全保障意識醸成事業の実施

Ⅲ　選挙における各種討論会の実施

１．　政治に参画する当事者意識をもった責任ある投票ができる青森の実現に向けた公開討論会の実施

◇アカデミー大学

ポジティブリーダーとして地域や組織にインパクトを与える人財の育成

Ⅰ　アカデミー大学の設置・運営と各講座の実施

１．　開校式・閉校式の実施

２．　全４回のアカデミー大学講座の実施

３．　ＪＣカップ　Ｕ－１１　少年少女サッカー大会青森県予選会の企画・実施

◇アツい青森実現委員会

魅力溢れる青森に愛と誇りと活力をもたらす大会の開催

Ⅰ　（仮称）第５０回青森ブロック大会 in 青森の企画・運営・実施

1．　大会の企画・運営・ＰＲ・実施

2．　メインフォーラムの実施

3．　大会主管ＬＯＭとの連携・協力

◇総務広報委員会

会員に寄り添う組織運営やブロック協議会の広報の実施

1．　諸会議の設営及び議事録の作成

2．　諸事業議案等のコンプライアンスチェック並びに庶務全般

3．　新春名刺交歓会・卒業式の企画・実施

4．　ＳＮＳやウェブサイト等の運営・管理によるＪＣブランディングの発信

◇財政局

財政の健全化へ向けた会計業務の指導・管理および法人格維持や変更に関する補助

1．　本協議会会計、会議体・委員会会計の予算・決算における指導・助言

2．　ブロック内監査の実施

3．　各 LOM 法人格維持や変更に関する補助

◇事務局

青森ブロック協議会の円滑な運営ならびに本会・地区・ＬＯＭとの情報共有ならびに連絡調整

1．　本協議会の事務運営

2．　運営専務の補佐

3．　総務・財政局との連携

4．　諸会議の案内通知、及び提出議案の取りまとめ

5．　各種大会へ対する運営協力・支援

（サマコン、ASPAC【アンコール】、東北青年フォーラム【南陽】、全国大会【札幌】、世界会議【横浜】等）

6．　アジェンダシステムの管理と指導

7．　ｗｅｂ会議の運営方法立案および検証

8．　その他必要事項

以上

年間事業フレーム

東北地区

青森ブロック協議会

会長　国分　聡

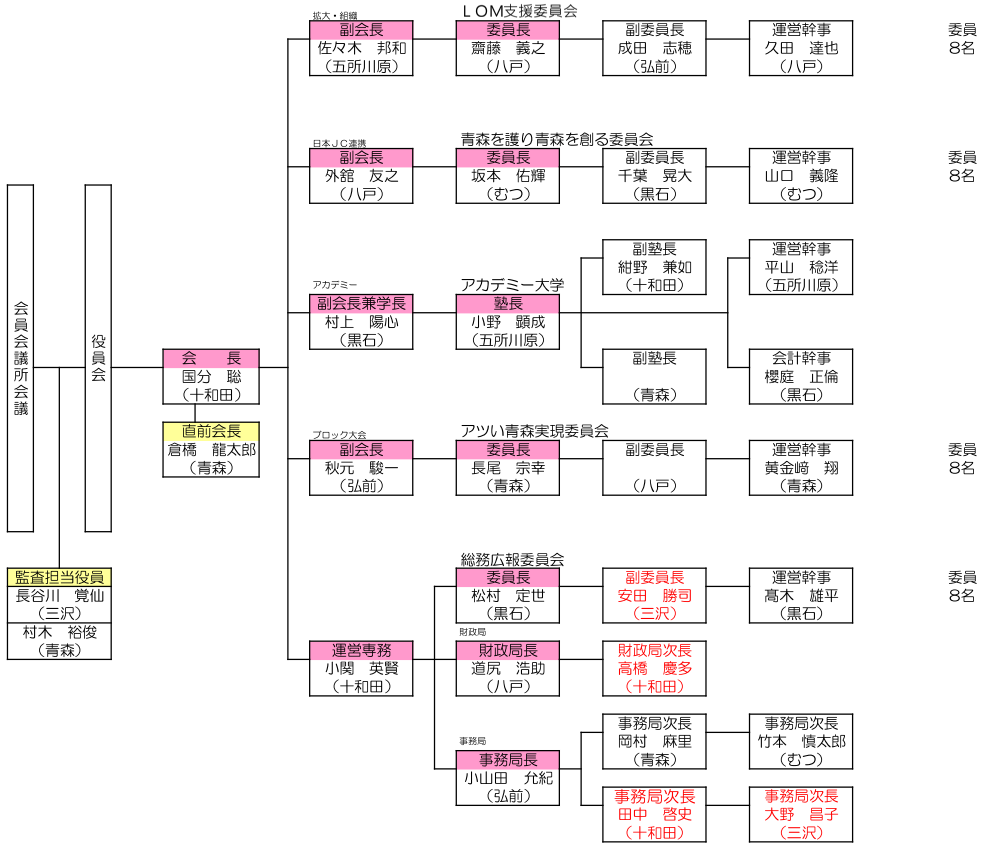
全国大会（富山）	世界会議（タリン）	京都会議（京都）	ASPAC（アンコール）	サマコン	全国大会（北海道札幌）	世界会議（横浜）

運動・事業名	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W	1W 2W 3W 4W
柔軟かつ開放的な組織改革を行うための の事業の実施	本会・地区協議会との調整		企画・立案	準備	実施		情報集約	中間検証	各LOMへの展開 各LOMの状況調査			検証	報告	引継	
会員拡大の支援	引継・調査	企画・立案	準備・PR		実施	情報集約	中間検証	各LOMへの展開 各LOMの状況調査				検証	報告	引継	
地域社会でSDGsを達成していくための事業の実施	引継・調査	本会・地区協議会との調整		企画・立案	地域社会でSDGsを達成していくための事業推進				中間検証	実施	検証		報告	引継	
選挙における各種討論会の実施	本会・地区協議会との調整		企画・立案		公開討論会の準備・PR・実施・検証・報告									引継	
多面的な安全保障に関する国民議論を巻き起こす事業の実施	引継・調査		企画・立案				実施			成果発信	推進		検証	報告	引継
アカデミー大学の設置運営	引継	企画・立案		準備・PR	開校式	第一講座：1月　第二講座：3月　第三講座：5月　第四講座：9月						閉校式	検証	報告	引継
（仮称）第50回青森ブロック大会in青森の企画・運営・実施	引継・調査				企画・立案		準備・PR			実施	検証	報告	引継		
JCカップ　U－11　少年少女サッカー大会青森県予選会の企画・実施	引継・調査				企画・立案			準備・PR	実施	検証		報告	引継		

公益社団法人日本青年会議所　東北地区　青森ブロック協議会
２０２０年度　組織図 ver11

認証番号	会員会議所名	理事長名	会員数
15	(公社)青森	岡崎　勇介	53
109	(公社)十和田	力石　優	15
127	(公社)弘前	比内　理佑	48
161	(公社)黒石	浅原　宏之	33
163	(公社)八戸	大山　慎司	106
219	(一社)むつ	高屋　龍一	21
254	(公社)五所川原	田中　宏明	39
262	(公社)三沢	加澤　和樹	20
計			335

（2020年度期首予定人数）



青森ブロック協議会役員

	役員	スタッフ出向	特別職	計
(青森)	1	3	2	6
(十和田)	2	3		5
(弘前)	2	1		3
(黒石)	2	3		5
(八戸)	3	2		5
(むつ)	1	2		3
(五所川原)	2	1		3
(三沢)	0	2	1	3
計	13	17	3	33

※各委員会・各ＬＯＭ委員出向1名

東北地区協議会出向

役　員	氏　名
直前会長	庭　勝也　（八戸）
会務担当副会長	金入　健雄　（八戸）
青森ブロック担当副会長	国分　聡　（十和田）
事務局次長	谷地　慶介　（八戸）
事務局次長	中居　翔三　（八戸）
東北ゼミナール委員会　副委員長	（むつ）
東北ゼミナール委員会　幹事	（むつ）
広域連携推進委員会　副委員長	白石　将一　（弘前）
広域連携推進委員会　幹事	大場　一巧　（弘前）
東北青年フォーラム運営委員会　副委員長	坂本　俊也　（八戸）
東北青年フォーラム運営委員会　幹事	小笠　原豪　（八戸）
東北ゼミナール委員会　委員	（青森）
東北ゼミナール委員会　委員	下川原　勝義　（十和田）
東北ゼミナール委員会　委員	工藤　正貴　（弘前）
東北ゼミナール委員会　委員	齋藤　洋輔　（黒石）
東北ゼミナール委員会　委員	（八戸）
東北ゼミナール委員会　委員	成田　圭秀　（むつ）
東北ゼミナール委員会　委員	工藤　智哉　（五所川原）
東北ゼミナール委員会　委員	築井　生　（三沢）
広域連携推進委員会　委員	（青森）
広域連携推進委員会　委員	石岡　伸　（弘前）
東北青年フォーラム委員会　委員	齋下　了介　（十和田）
東北青年フォーラム委員会　委員	河原木　健治　（八戸）
東北青年フォーラム委員会　委員	平田　浩介　（五所川原）
東北青年フォーラム委員会　委員	（三沢）
総務広報委員会　委員	木村　圭吾　（黒石）
総務広報委員会　委員	田中　泰郎　（十和田）
財政規則審査委員会　委員	道尻　浩助　（八戸）

日本青年会議所出向者（ＢＬ推薦）

役職・委員会名	氏　名
組織拡大戦略会議	佐々木　邦和　（五所川原）

※この他、依頼有り（流動的）

日本青年会議所出向者

役職・委員会名	氏　名
顧問	庭　勝也　（八戸）
組織改革会議　議長	倉橋　龍太郎　（青森）

※この他、依頼有り（流動的）

2019年度

公益社団法人弘前青年会議所

事業・決算報告資料

２０１９年度を振り返って

理事長　　秋元　駿一

基本理念「利他のココロ　輝く人が集まるまちへ」を掲げ１年間 JC 運動を展開させていただき、まずはご協力頂いた皆様とメンバーの皆様に深く感謝を申し上げます。私自身、68 年間先輩方に刻々と紡がれてきた青年会議所理事長としての重責を全うできるか、不安でしたが、多くの同志に支えられ、無事次年度へとバトンを渡すことができ安堵しております。
2019 年度は令和の新しい年号を迎え、平成の時代をこのまちと共に運動を展開してきた弘前青年会議所の自らを見つめ直す年と位置づけ、継続事業の精査や人財の育成、そして私たちは今後どう活動していくべきなのか。気付きを与え機会を創出することに力を入れて活動をしました。
事業精査においては、まんじ札事業も平成の終わりと共に一度幕を下ろすことになりました。2012 年の復活から７年間に渡り多くの子供たちの笑顔の創出と、このまちを歩き、知ることの重要性を気付かされた事業でありました。また、ちびっ子ねぷたのお通りだい、わんぱく相撲事業等すべての事業においても、本来の事業が持っていた“意義“を再確認し、私たち弘前青年会議所として継続するべきなのか議論を交わしました。ただ前年からの引き継ぎで行われていた事業、私たち弘前青年会議所はその閉じ方が良くないと言われてきました。今一度、このまちに本当に必要なことはなんなのか。自分たちが存在している意義はなんなのか。見つめ直し未来へ向けて種をまいていかなければなりません。

今年は青森県議会議員選挙・弘前市議会議員選挙が行われその中でも特に投票率については過去最低を記録しました。その一連の事業においてはやはり私たちと同年代が選挙へ行っていない現実がありました。このまちを変える運動を展開していくためには、一人でも多くの共感する仲間を作っていかなければなりません。そしてそれは JC という枠組みに限ってはなりません。私たちはこの青年会議所という学び舎で様々なことを学び、その様々な考え方・手法を用いて活動し、意識を変える運動をしていかなければなりません。
JC、JC、JC してることを JC 以外でいかに活かすか？学んだことは一生の宝です。今は必要じゃなくても必ず必要になる時が来ます。

弘前は狭い、狭いからいいとこもあります！しかしもっとまちを良くするために、出会いを求めましょう。私たちは誰かを幸せにしなければならない使命を背負っているリーダーです。誰かを幸せにするために、自分の可能性を広げるために、必要なことは多くの人と出会い、そしていろいろな考え方を学んでいくことであると考えています。

青年会議所は今の貴方にとって必要なのか。また、自分自身は必要として行動しているのか。常に自問自答した一年でした。本当にありがとうございました。

昨日を送りて今日を迎え、今日を送りて明日を迎う。人生百年此くの如きに過ぎず。
故に宜しく一日を慎むべし。一日慎まずんば、醜を身後に遺さん。恨む可し。
羅山先生謂う、「募年よろしく一日の事を謀るべし」と。
余謂う、「此の言浅きに似て浅きに非ず」と。
（言志四録より）

２０１９年度を振り返って

直前理事長　　須藤　立也

本年も、当会の運動活動において様々な皆様に世話になりました。
心より感謝申し上げます。
また、ＬＯＭ内メンバーの皆様においても自身の至らぬ点を、お支えいただきました。
重ねて感謝申し上げます。
「秋元駿一」と言う信頼の置ける男の名のもとに、ＬＯＭメンバーの皆さんは全力で一年間を突っ走っていただきました。お疲れ様でした。
　自身においては青森ブロック協議会の副会長と言う役を預かりながらの、直前理事長を務めさせていただいた事もあり、ＬＯＭの活動状況に疎くなってしまう時期もありましたが、専務や各副理事長からの細かな報告もあり、安心して地域の活動報告を受けておりました。

　自身が理事長職を務めた時と本年度の活度を見ても、いかに時代の移り変わりがはやく、昨年の運動活動がもはや時代遅れに感じております。
このスピードはまだまだ加速して行くとは言うまでもありません。
今後も続いて行く我々の活動は、このスピードに必死に食らいついて行くのではなく、その一歩を先んじ、常に新たな活動を展開して行く事を心がけて参ります。
これからも当会の運動活動への御協力よろしくお願い申し上げます。

一年間ありがとうございました。

２０１９年度を振り返って

副理事長　　大湯　幸世

2019 年度は自身初めての役職であり責任ある役割、機会をいただきました。担当委員会も預かり主に研修系の委員会という事もあり青年会議所という組織と会員に向き合う１年となりました。

会員研修では主に例会の中で 3 回「地域社会に貢献する歴史ある団体の一員としての意志と英知をもち利他のココロを身につけ、率先して行動できるようになること」を目的とし行い、新人研修では「新人が会員交流の中で JC の魅力に気づき、積極的参加の意欲をもち、LOM の一員として能動的に活動を展開すること」を目的とし 3 回開催する事が出来ました。難しいテーマであり何をどのように会員の皆さんへ伝えるか委員会の中でも毎回開催毎に苦労しました。JC の運動、活動は明確な正解や答えという物が無い中で常に行われ、関わる事で個人の成長に繋がっているのだと委員会、会員の皆様をみて改めて感じました。特に委員長は担当事業も多くその他の事業へも積極参加し正に寝る間も惜しんで JC へ向き合っていた姿は会員誰もが認める所であったと思います。大変お疲れ様でした。そんな中で自分は副理事長として力不足であったと反省することも多くありますが、2020 年ラストイヤーの少ない JC ライフで成長できるよう残りの期間を大事にしたいと思います。

２０１９年度を振り返って

副理事長　　小山田　允紀

2014 年に入会してから六年目、これまで 2015 年委員長、2016 年事務局長、2017 年副理事長、2018 年専務理事と毎年異なる役職の機会を頂いてきましたが、この度は二度目の副理事長を務めさせて頂きました。17 年に初めて副理事長を務めた際は常任理事の枠がない委員会組織となっており、副理事長というよりは常任理事的な立ち位置でしたが、今回は副理事長、常任理事、委員長が設けられており、二度目ということもありましたのでしっかりと副理事長の役職に徹することを念頭において臨んだつもりでした。しかし、今 2019 年度を振り返ると、担当委員会においては委員会をまっすぐ導くことが出来ず、特に委員長と常任理事のお二人には過度の負担をかけたり、役職に応じた適切な役割を提供できなかったりと、一度しか巡ってこない貴重な機会に最大限の成長を与えることができず、申し訳なく思っています。また LOM の三役として、三役初就任の方が多いなかで私は三度目の三役就任となるので、その意味でも役割を果たさなければならないと考えていました。しかしながら人生経験豊富な三役の皆様には、いつも挫けそうな弱い私を支えてもらってばかりでした。理事長には委員会統括の面でも、理事長補佐の面でも満足に職務を全うすることが出来ず、最後の最後までご心配をお掛けしてしまいました。

地域のため、LOM のため、社業のため、家族のため、自分のため、もっと成長しなければならないと考えさせられた 2019 年度でした。

２０１９年度を振り返って

専務理事　　櫛引　英揮

2019 年度「専務理事」候補者期間より今まで、とても濃厚で忘れがたい１年という時間を過ごすことが出来ました。私は「燃え尽きたい」との想いを持って就任を受諾したあの日の夜から、専務理事の役割を理解する為に全力で JC と向き合って参りました。そして無事に、「卒業」という節目を迎えます。

さて、思い返せば良いことも悪い事もすべてが学びとなりました。秋元理事長をはじめとする理事・役員、メンバーの皆様、赤平事務局員の助けが無ければ、今こうして振り返りの文章を書くことは叶わなかったと思います。何かに躓き、気持ちが萎えた時にふと仲間たちのことを思い出します。最後まで私を突き動かしてくれたのは、その仲間たちのお陰と言っても過言ではありません。この生まれた場所や育った環境が違いながらも、同じ目的を共有する仲間たちに対し、困ったときは出し惜しみなどせず、その時その時の全力で助太刀したいと思います。

最後に、公益社団法人弘前青年会議所に関わる全ての活動を通じて、明るい豊かな社会の構築を目指す上で起こる度重なる困難と理不尽を皆様と共に乗り越え、自身にとって大変貴重な成長の機会を与えて頂けましたこと、心から感謝申し上げます。

We are “ONE TEAM”. Thank you.

２０１９年度を振り返って

地域の絆連携委員会担当常任理事　比内　理佑

2019年度を振り返ると、機に富んだ年であったと感じています。

例年では一つの委員会におけるメイン事業である剛情張大太鼓運行、Cross.Sの二つを一委員会で行うという挑戦の機会に恵まれ、候補者段階から春までは出向先での活動を行いながら委員会での役割を果たそうとしておりましたが、どうにも心構えが不足していたのか、大場委員長からもっとLOMの委員会に寄り添ってほしいと苦言を呈され、これではいけないと初夏から夏にかけて剛情張大太鼓や運行に係わる方々と共に全力で夏を過ごさせていただきました。

おっかなびっくり太鼓にのぼり、慣れないロープワークを習得し、皆さまの通信量を練習動画で圧迫しながら、まつり本番に太鼓の上から眺めたまちの風景は、その全てが忘れがたい思い出であります。

秋のCross.Sに向けて、昨年台風による事業縮小を余儀なくされたリベンジに燃える大場委員長を中心とし、委員会一丸となり準備を進める中、父が他界しました。

前年の暮れに受けた手術は成功したもののその後の容態は思わしくなく、春には会社の代表を交代し、心積もりもしておりましたが、やはりそう簡単なものでもなく。

家族と向き合う時間を大切にできたのは、私の不在で迷惑をかけた委員会メンバーを始めとした、みんなのおかげでありました。

次年度の会員の代表である理事長を預かると覚悟を決めながら、かけた多くの迷惑については、役割を果たすことで返していきます。

どうぞ今後とも、よろしくお願い致します。

２０１９年度を振り返って

ＪＡＹＣＥＥ育成委員会担当常任理事　　太田　脩皓

二度目の常任理事として一年間活動して参りましたが、今年は特に一年があっという間に過ぎたように感じます。近年の弘前ＪＣとしての取り組みには無かった会員研修、新人研修をそれぞれ担当しましたが、改めて自身の力不足を痛感した一年でもありました。本年はＬＯＭでの役割と並行して、東北地区協議会の東北ゼミナール委員会へ副委員長として出向させて頂きましたが、この出向で得た気づきと学びは非常に大きいものがありました。もっと早くにこの学びを得ていれば、三上委員長によりよいアドバイスが出来ていたのではないかと悔やまれる部分もありました。しかし、奇しくも出向先が同じ会員を育成するための委員会でありましたので、ゼミナールの各講座や会議が開催されるたびに、そこで得た学びを委員会にできる限りフィードバックしながら議案を構築することで、得た学びを少しでも多くＬＯＭのメンバーにお伝えすることができたのではないかとも感じております。この貴重な機会を提供して頂いた秋元理事長には本当に感謝しております。

そして、議案数が多く本当に忙しい一年間でしたが、最後まで熱い想いをもって手を抜くことなくやり切ってくれた三上委員長、本当にお疲れ様でした。お互いに非常に得るものが多かった一年だったと思います。次年度もまた力を合わせて頑張りましょう！

２０１９年度を振り返って

会員拡大委員会担当常任理事　　大藪　貴雄

２０１９年度を振り返り一番に思うのは「もっと成果を上げる事が出来たのではないか」この一点に尽きます。拡大事業をＬＯＭの全体運動にしようと大口を叩いたにも関わらず、結果的には全体運動にするには遠く及びませんでした。拡大セミナーや紹介カードといった本年から始めた取り組みもありましたが、回を重ねるごとに効果は薄れているように感じました。初めて会員拡大という事業を経験させて頂き率直に思うのは弘前ＪＣは会員拡大に理解があるＬＯＭでは無いのかもしれないという点です。理由としましては例年会員拡大を担当する委員会だけで活動をし、活動内容が明かされないまま次年度に引き継がれていくような事が続いているように感じたからです。本年も何とか全体事業にと思考錯誤してみましたが、力及ばずほとんどが委員会単位での活動となってしましました。やはり委員会の力以外に理事長、三役の後押しも絶対的に必要になってくると思います。５月以降になると続々と始まるＬＯＭの事業が忙しくなり会員拡大は手がつかなくなっていきます。その時に理事長や三役の方々が挨拶や委員会内で会員拡大についての議題話題を出し、拡大委員会の後押しをしてあげて下さい。小さな活動から会員拡大を全体事業にする一歩は始まると思います。会員拡大無くしてＬＯＭの繁栄はありえません。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

２０１９年度を振り返って

子どもたちの夢創造委員会担当常任理事　　山形　昌弘

2019年子どもたちの夢創造委員会の常任理事をやらせていただき、わんぱく相撲、ちびっ子ねぷたのお通りだい、夢創造事業と1年を通して携わり今思えば力不足の常任理事でした。わんぱく相撲津軽地区大会、全国大会ともに当日仕事の為参加ができませんでした。夢創造事業では当初の予定していたホンダジェットの藤野さん講演をメインにした事業が実施できず、その後のユメトークまで結果として期間が空き、年度ギリギリの事業実施となりました。ただユメトークでは人数は3名でしたが参加していただいた会員の率先した行動で3名の参加者に夢に向かう第1歩を楽しく真剣に描いていただいたと思います。ちびっ子ねぷたのお通りだいでは例年参加していただいているこども園もちろんのこと、ちびっ子ねぷたに参加してないこども園への参加促進を目的とした実行委員会ねぷたの実施しました。これに関しては例年参加していただいているこども園さんに説明をしてきたつもりですが不満等がアンケートででたのは力不足と感じました。ですが初参加の大谷幼稚園の子どもたちにはねぷたの絵に色を付けたり、絵を骨組みに張り付けるなど貴重な体験をしていただいたことは成功だと思います。協力していただいた必殺ねぷた人には感謝しております。力不足、不甲斐ない1年でしたがよい経験ができました。

２０１９年度を振り返って

公益財政局長　　吉川　裕之

２０１９年度、私はどの役職でも大丈夫と申し述べたところ、当該年度の理事長は公益財政局長という見慣れない役職を付けて頂いた。何をすれば良いのか戸惑いながら始まり、県庁への公益申請関係、会の２０１９年度の予算書の作成から幕が明けた。理事は何度も経験しているが、毎年予算書については見方が分からなくスルーしていた部分が多い。今回、櫛引専務宅にて１８時～２時まで居座り、ようやく内容を理解し予算を組み上げたことは昨日のように思い出す。

また、総務委員会に属してはいたが、２０１９年度の総務議案は、常任理事である工藤事務局長に一任し、一歩さがり口を出さないようにしていました。その代わり、各会議の上程された議案に対しては、出来るだけ目を通し総務チェックを行いました。それにより、幾分会議時間の短縮に貢献できたのではないかと思っています。

最後に、卒業年度に専務理事という大役を最後まで務めた櫛引君、１年色々あったと思いますが墓場まで持って行って下さい。事務局長の工藤君、貴殿は出来る子です。日中仕事で体を動かしながらも、睡眠を削って会議資料の作成などをやっていたはずです。事業系も経験しつつ、次は専務理事、そして理事長のポストがあなたを待っています。総務委員長の三浦君、この１年間きついことは多々あったと思いますが、打たれ強さを学んだことと思います。ＪＣで委員長をやり遂げたあなたは経験値が飛躍的にあがってますよ。

２０１９年度も無事に１年間をやり遂げられたことに感謝！ありがとうございました。

２０１９年度を振り返って

事務局長　　工藤　正貴

早いもので、2019 年度が終わろうかという時期になってきました。今年度は事務局長として、2 期目の理事、2 度目の総務担当でしたので総務委員長時代と似たような流れをなぞる 1 年になるかなと思っていましたが、候補者期間から年度末に至るまで、委員長時代とは全く異なる視点から職務に打ち込める 1 年となりました。特に、新年祝賀会の準備・運営に関しては、外部への依頼やお願い、会場との打ち合わせ、当日運営に関する各種調整など今までに経験したことのないことばかりで、今振り返ってみても参考になることが多く、担当させてもらえて本当に良かったと思います。また、委員長に対して議案に関しての指導をしたり、様々なアドバイスをしたりということも、受け身で終わってしまった委員長時代とは違い、いろいろ考えたり、考えさせられたり、時には刺激を受け学ばせてもらえた、非常に貴重な経験でした。

何かと声をかけてくれ、「いつもありがとう！」と言ってくれた秋元理事長、ラストイヤー専務で一番大変なはずなのにいつも暖かく接してくれた櫛引専務、安定感抜群で大事なところでいつも支えてくれた吉川公益財政局長、深夜まで及んだ新祝の準備にも毎日付き合ってくれ、最後まで一緒に走ってくれた聖吾委員長。いろいろな方に胸を貸してもらい、勉強させてもらえた 1 年間となりました。なかなか普段はお礼を言えませんが、この場をお借りしてお伝えできればと思います。1 年間本当にありがとうございました。

２０１９年度を振り返って

地域の絆連携委員会委員長　　大場　一巧

2019 年度は 2 度目の委員長をやらせていただきました。2 度目の委員長という事もあり剛情張大太鼓事業と Cross.S と言う 2 つのメイン事業を任せていただけた秋元理事長には本当に感謝しております。事業の成果としては思ったほど上手く出来なかった点は多々ありましたが、自分としてはとても楽しく充実した一年間でした。また、前田副理事長や比内常任理事には大変お世話になりました本当にありがとうございます。そして支えていただいた委員会メンバーの皆様にも感謝いたします。皆様に支えられて無事に一年間委員長としての職務が出来たと思っております。2020 年度はラストイヤーとなりますがこの経験を活かし新しい委員長そして委員の方々に JC の魅力を伝え、弘前 JC が楽しいと思えるように想いを全て伝えたいと思います。

２０１９年度を振り返って

JAYCEE 育成委員会委員長　　三上　優香

理事職を経験するとしないとでは、成長に大きな差が生まれると感じます。一年間の理事経験を通して、個人的に人生観に変化がありました。一つ一つの文言、物事の一貫性、自分の言動全てに責任をもつことの重要性を改めて感じ、理事会の度に自分自身を見つめ直す機会をいただきました。自分の主張を優先したり感情的になったりせず、一歩引いて客観的に自分を見ることを覚え、様々な会員から意見をいただくことで自分の世界が広がったように思います。素直さが大切であり、成長の鍵であると感じています。

研修を担当する上で JAYCEE としての基本を学ぼうと、NEW JAYCEE を精読しました。世界中に同志をもつ、熱い想いをもった青年団体であることに改めて誇りを感じ、JC 活動に意欲的に取り組むことができましたが、本業との両立が難しく悩む時期も多くありました。その度に支えてくれた方々に、心から感謝しています。限られた時間で本業と向き合うことで、改めて自身の仕事の意義・良さを感じ、これまで以上に自信をもつこともできました。

「私一人では何もできないが、反対に私にしかできない役割が必ずある」と常に感じています。地域のためそして自分自身のために、今後も意義・目的からぶれることなく、一人の JAYCEE として私にしかできない役割を果たして参ります。一年間本当に有難うございました。

２０１９年度を振り返って

会員拡大委員会委員長　木村歩

今年初めて委員長をやらせていただきました。当拡大委員会は「会員拡大事業」、「まんじ札事業」、「卒業式」、「太田市新田商工会議所青年部来弘・訪問」「例会の企画。運営」と 5 つの事業を担当させていただきました。

メインの会員拡大事業では今年来年と 16 名卒業するという背景から、30 名拡大という目標を掲げてスタートしました。会全体で拡大をおこなうという手法や、拡大を数値的に分析していくこと、こういったことが決まったのが年度の半ばであり、結果としては正会員 9 名賛助会員 2 名の入会となりました。しかしながら拡大にどう取り組んでいくか、向き合っていくかという意識は次年度へ引継ぎできたと思います。

まんじ札事業では、段取りが悪く参加店舗様にご迷惑をかけてしまったこともありましたが、参加者には大変喜んでいただき成功したといえる事業であったと思います。

卒業式ではたくさんの現役会員、特別会員にお越しいただき卒業生の新しい門出を祝い新たな舞台へ送り出すことができました。しかし、細かいところでミスが多く後悔の残る内容となってしましました。

太田市新田商工会青年部様との交流では、弘前に来ていただいた際にはねぷたの合同運行にて剛情張大太鼓、そしてその後の懇親会で懇親を深めました。また、当会で太田市に出向いた際にはたくさんのもてなしを受け太田市のねぷたに参加することによりたくさんの学び、気づきがありました。

今年委員長をやり、事業を通して貴重な体験をさせていただくことにより、自身の成長を感じることができ非常に有意義な時間を過ごすことができました。

２０１９年度を振り返って

子どもたちの夢創造委員会委員長　　下山　千嘉

思い起こせば 2018 年 9 月に秋元理事長から青少年事業の委員長への打診をいただいてから、15 か月を経過しようとしています。私は賛助会員として 2015 年に入会し、2018 年に正会員として入会させていただいたこともあり、多くの委員長が成長していく姿を傍で見てきました。私も理事になって皆の背中を追いかけたいと思い、秋元理事長から委員長への打診をいただいた際は大変嬉しかったことを記憶しております。2019 年度がスタートすると事業構築、議案の作成、関係者との打ち合わせが重なり、JC と本業を両立させる難しさを経験しました。結果、どちらも中途半端となってしまい、双方からお叱りを受けることもありました。このままでは JC を続けられないのではないかと思う時期もありましたが、秋元理事長をはじめ多くの仲間に支えられて全ての事業を実施することができました。わんぱく相撲での子どもたちの真剣な眼差し、ちびっ子ねぷたでの子どもたちの笑顔、ユメトークで聞いた子どもたちのユメに対する想い、全てが私の宝物です。私たちの委員会は、こぞう委員会という略称をつけています。これは、私たちも子どもたちと一緒にまるでこぞうのように 1 年間走り抜ける委員会でありたいという願いを込めたものですが、正に委員全員が 1 年間走り抜けた委員会だったと思います。結びとなりますが、このような機会を与えてくださった秋元理事長、私が委員長として最後までやり遂げられるように支えてくださった小山田副理事長をはじめとした全会員にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

２０１９年度を振り返って

総務委員会委員長　三浦　聖吾

2019年を思い返してみると非常に刺激的な１年でございました。初めての理事者経験、委員長とはフロアメンバーと全く違い、責任と書類作成に四苦八苦の毎日でした。議案の作成ではフォント・漢字平仮名の細かいルールや背景、意義目的の文章の構成に悩み、書いては修正の繰り返しでチェックや自分の文章作成能力の無さに不安が大きかったです。自信も無く理事会での声が小さく理事者の方々には聞きづらい司会だったと思います。委員会での総務チェックでは各委員会から頂きました議案チェックに毎回深夜まで及びました。最も印象に残った時期が８月・９月。当委員会担当の９月例会・防災減災事業・第三回臨時総会とひと月に３つの事業を行うにあたり、８月の実施計画書の審議、９月の事業運営です。この時期は本当に逃げ出したかった。心配して声をかけて頂いたにもかかわらず恐怖で携帯電話から目を背ける毎日でした。櫛引専務、吉川財政局長、工藤正貴事務局長には本当に、本当にご迷惑をお掛けしました。しかしこんな私を最後まで見捨てず、熱い叱咤激励を頂き、無事開催できた事は感謝の言葉以外見つかりません。委員会メンバーの皆様や同じ委員長達からも励ましや多大なご協力を頂き仲間に恵まれ過ぎた１年でございました。この１年、委員長をさせて頂き本当に多くの気づきと経験をさせて頂きました。最後に委員長の役割を与えて頂きました秋元理事長をはじめメンバーの方々に感謝申し上げます。本当に！ありがとうございました！

２０１９年度を振り返って

監事　　工藤　順敬

2019 年度は年間を通して色々なことがあったことから JC 活動・運動にあまり参加できず、監事としての職務もできなかった、できていなかったことから通信簿だと 1、テストだと 0 点だったのではないかと思っております。反省しております。

監事の任期は 2 年ですので、来年はリベンジの年とし、JC 活動・運動及び監事としての職務を全うしたいと考えております。

それと、長年理事をしている、監事という立場で言うと、現在の常任理事会・理事会に些かではありますが、『おかしいな、違うな』という部分があります。（今年もありました）悪い癖になる前に是正が必要だと思いますので、解決に向けてお役に立てればなと思います。最後の方が来年へ向けての抱負的な文章となってしまいましたが、1 年間ありがとうございました。

２０１９年度を振り返って

公益社団法人日本青年会議所
東北地区青森ブロック協議会
青森強靭化委員会兼青森デザイン委員会
担当副会長　須藤立也

本年、青森ブロック協議の担当副会長として、出向させていただき様々な出会いと学びの機会をいただきました。そして自分の住むこの青森県各地を青森ブロック役員と言う立場を利用させていただいたことで、県知事・市長・各地地域経済人の皆様とお話をさせていただけました。とても学びのある時間となった事は、言うまでもありません。

この出向の機会のお陰で、自分の地域の素晴らしさ、自分の地域の足りない物、「青森県」の尊さを感じる事の出来る一年でありました。また、8ＬＯＭからくるブロック役員の皆様との友情は勿論、担当させていただいた委員会の委員長をはじめとする、委員会メンバーの皆さんとは本当に長い時間を共にさせていただきました。この一年が終了してしまう事に少し寂しさも感じております。

ブロック委員会メンバーの皆様ありがとうございました。

次年度も弘前青年会議所より青森ブロック協議会担当副会長が輩出されます。

自身の経験を生かしたアドバイスと応援をして参ります。

皆様も青森ブロックの更なる活躍と御協力をこの場をかりてお願いいたします。

一年間本当にありがとうございました。青森ブロック最高！！

２０１９年度を振り返って

公益社団法人日本青年会議所
東北地区青森ブロック協議会
監査担当役員　三國　典央

昨年度は東北地区協議会に会務担当副会長として出向をさせていただきましたが、今年度はブロック協議会に監査担当役員として出向をさせていただきました。「ブロック協議会は一番身近な出向先」ということで、個人的にはブロックには通算３回目（役員として２回目）の出向となりました。

初めましてのメンバーももちろんいましたが、すでによく知っている他 LOM のメンバーも役員、委員で出向してきていたこともあり、個人的には大分気楽に出向させていただいた気がしています。

より大きな自己成長のためにはその場に留まっているだけではなく、自らが外に出て知識、見識を高め、より多くの人と出会い、話し、聞き、そのすべてを自分あるいは自分の住み暮らす地域のことを考える材料として持ち帰り、それらをもって考え抜いて出した自分なりの答えをもって覚悟をもって行動することが一番大事なことであります。

今年度も出向を通してたくさんの気づきをいただくことができました。貴重な機会をいただいた秋元理事長に感謝いたします。

２０１９年度を振り返って

公益社団法人日本青年会議所
東北地区青森ブロック協議会
アカデミー大学　塾長　比内　理佑

実はこの役職、LOM の同委員会の上役である前田完治副理事長が担われる予定でした。

ところが第四子のご誕生予定により辞退に至り、同委員会の常任理事である私に代打のお声掛けをされた秋元理事長のお誘いにより、前田完治副理事長の家庭の円満、ひいてはこの弘前の明るい豊かな未来のために挑戦させていただいた結果、得られた経験とご縁は今の私を構成する大事な一部となっていることと存じております。

さて、そんなひょんなことから始まった塾長ですが、出向先では JC 特定外来種、八戸のワクワクさんこと田島学長、人間味あふれ出向元のむつ JC 道川理事長の毎回の謝罪の挨拶の枕詞にされる祐川塾長、飲めない私の代わりにお酒を飲んでくれてもれなくつぶれる熱い気持ちをもった平山副塾長と、塾生から副塾長へ昇進を果たしたいつも前向きに笑顔で頑張りお酒でつぶれる附田副塾長、議案確認から塾運営まで幅広く活躍する縁の下のサラリーマン杉澤総括幹事、塾長経験者にして 2019 アカデミーの被害担当安田会計幹事というスタッフ陣、そして愉快な塾生達というご縁に恵まれ、県内各地で楽しく修練に励ませていただきました。

思えば青森ブロック協議会に初めて役員、委員長として出向した時も適任者不在による多重兼務であり、そもそも LOM で初めて理事、委員長を受けた時も代打であったことを考えると、案外人生にはそんなご縁がたくさんあるのかもしれません。

この文章を読まれているあなた、そんなご縁が回ってきたら、是非前向きに受けてみて下さい。そのご縁は、きっとあなたの人生を豊かにしてくれます。

より良くなりたいと願うなら、前に踏み出しましょう。

素敵な一期一会があなたを待っていますよ！

2019年度　事業・組織体系図

本部 所在地：青森県弘前市大字東長町47番地-2	公1	地域社会の健全な発展に寄与する事業	地域の絆連携委員会	地域連携事業の企画・運営
			地域の絆連携委員会	剛情張大太鼓事業の企画・運営
			会員拡大委員会	まんじ札事業の企画・運営
	公2	青少年の健全な育成に寄与する事業	子どもたちの夢創造委員会	青少年事業の企画・運営
			子どもたちの夢創造委員会	わんぱく相撲事業の企画・運営
			子どもたちの夢創造委員会	ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会の運営
	公3	防災・減災に寄与する事業	総務委員会	防災・減災に関する事業の企画・運営
	他1	会員の資質・親睦向上事業	全体事業	例会の企画・運営
			JAYCEE育成委員会	新人研修
			JAYCEE育成委員会	会員研修
	他2	会員の拡大及び会員相互の情報の共有等に関する事業	会員拡大委員会	会員拡大窓口

Ｃｒｏｓｓ．Ｓ

● 委員会名 ： 地域の絆連携 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 前田　完治 / 比内　理佑 / 大場　一巧

事業番号・区分 ： 公１　地域社会の健全な発展に寄与する事業
事　業　名 ： Cross.S　～音×食　フェスティバル～
職　務　分　掌 ： 地域連携事業の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景	：	地方創生が叫ばれる中、若い世代を中心に人口が首都圏へ集中する流れがあり、地方の少子高齢化が進み地域が衰退してきている。
意義・目的(対外)	：	地域の人達と共に自分たちの地域の魅力を知り、事業を通して関わる人の人材育成を目的とする。
意義・目的(対内)		事業を通して関わる人の人材育成をすることにより地域のリーダーとしての自覚と覚悟をもち、地域の未来を切り拓き、明るい豊かな社会への実現の一歩を踏み出すことを目的とする。
実施日時	：	2019 年 9 月 16 日(月)　8:00～22:00
実施場所・会場	：	弘前市民会館及び弘前公園市民広場
事業の対象者		
対外	：	一般市民
対内	：	会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明

① 次世代を担う若者と共に事業を構築する
　大学のボランティアセンターなどを活用して当日の運営の手伝いを行った
② 地域の魅力を知り発信を行った
③ 他の地域の魅力を知り地域の根付く風土の発信を行った
④ イベントブースの設置
　上記②～④を合わせたフードブースの出店、青森ブロックの各地青年会議所に協力を頂き、当事業に参加して頂けるお店等を紹介して頂いた
　また弘前青年会議所として各 LOM に出店をお願いするわけではなく、出店頂けるお店等の情報や取次をして頂く(各 LOM が有志にて出店する場合はこの限りではない)
　出店頂けるお店にはご当地の名産・郷土料理・推し料理等、各地域の特色を出した商品を出展して頂いた
これらを総じて「Cross.S～青森グルっとはらぺこフェス～」の名称で広報をする
食のブースを上記以外に 5～10 店舗地元のお店を募集した
障がい者就労支援アンテナショップ「hag work(ハグワーク)」のブース出展を行った
　弘前青年会議所ブースとして津軽の味ショウガみそこんにゃくを提供した。また地ビール・シードルの販売も行った

⑤音楽イベントの設営

弘前市民会館大ホールをAステージ(屋内)、弘前公園市民広場をBステージ(屋外)として音楽イベントを開催した

Aステージ(メインアーティスト)有料

・時間:16;30開場　17:00開演　18:30終了

・DEEP　SQUAD(ディープ　スクワット)　1：30時間単独ライブ

・チケット前売りS席7,000円　一般5,500円　　当日両方500円UP

・チケット販売ファンクラブ先行8月2日(金)～
一般販売8月10日～前日まで

・プレイガイド、ローソンチケット(Lコード:21500)
まるっとあおもり検索サイト「ポみっと！」

・チケット販売所、当会事務局　当時まで販売

・チケット販売スケジュール(プレイガイド)

Bステージ(地元アーティスト)無料

・りんご娘

・竹内　晃(creeps)

・小林　康平(waruagaki)

・ツシマケンタ

・LOCO　STUDIO

・時符詩

・奥平房英

地元で活躍するアーティストによる音楽・ダンス等のステージを行った

【正会員】　56名中…出席者34名　欠席者22名

【賛助会員】　4名中…出席者1名　欠席者3名

参　加　人　員　　オブザーバー　松本青年会議所　2名

ボランティア　1名(弘前大学学生)

一般参加者　3,000人

外部協力者　：　未来の担い手・地域づくり推進委員会

ＳＤＧｓ番号　：　8.9　12.ｂ　17.17

事業実施までのスケジュール

2019年　1月	：	事業内容の検討・メインアーティストの選定
2月	：	事業内容の検討・メインアーティストの選定
3月	：	事業内容の検討・メインアーティストの選定
4月	：	事業内容の検討・メインアーティストの選定
5月	：	事業内容の検討・メインアーティストの選定
6月	：	事業内容の検討・メインアーティストの選定・広報準備
7月	：	事業内容の検討・メインアーティストの決定・広報準備
8月	：	事業内容決定・広報開始(ポスター配布・SNS投稿等)
8月2日	：	ファンクラブ先行チケット販売開始
8月10日		一般販売チケット販売開始

8 月 16 日	：	事務局チケット販売開始
9 月	：	事前準備
9 月 1 ～10	：	TVCM 放映
9 月 14 日	：	会場準備
9 月 15 日	：	会場準備
9 月 16 日	：	事業実施
9 月 17 日	：	会場撤収作業

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
7：00	会場下準備	地域の絆連携委員会
8：00	会員集合	
8：05	全体ミーティング	
8：10	ラジオ体操	
8：15	準備開始	
10：00	オープニング	市民広場エリア
10：01	オープニング宣言	前田副理事長
10：04	理事長挨拶	秋元理事長
	野外ステージスタート	
	フードエリア販売開始	
16：30	市民会館開場	
17：00	理事長挨拶	秋元理事長
	メインステージ開演	
17：30	野外ステージ終演	
18：30	メインステージ終演	
19：45	撤収作業開始	
22：00	撤収作業終了	解散

事　業　概　要

事業目的の実現と成果	：	各地域のフードブース出店を行い地域の魅力を知り、青森の魅力を発信できたと思いますが、人材の育成としての部分は思ったような成果が上げられなかったと感じております。その理由はボランティアや地域の方々のご協力があまり得られなかったことです。事業構築に時間がかかり動き出しが遅れたことにより広く周知出来なかった事に原因がありました。また会員が積極的に事業に参加出来ていなかったことから事業を準備段階から進捗状況を常に会員に発信し、参加及び協力を呼び掛けることで事業全体の参加人数を増やせると考えます。
次回への引継事項	：	<u>音楽</u> ・開催して間もなく B ステージを中心にお客様が集まり良いスタートをきることができたが、日差しが強く木陰を選んで中央の席には座らないお客様も見られたので、会場のつくり方を工夫したほうがよい。 ・メインアーティストの選定が 7 月下旬になり開催日まで 1 か月をきった時点で決定し広報する時間が少なかった。ポスターとテレビ CM、SNS でも情報を流すだけでな

くチケット販売につなぐためにも広報する時間が必要であった。
・ターゲットの客層が 20 代前半でチケット価格が高額だった可能性があるので金額の設定は最重要事項であると考えます。前年度の売り上げを参考にしても 3,000 円～3,500 位が適当と考えます。ただし主演アーティスト次第ではこの限りでは無ないと考えます。(例えば誰もが知っている一流アーティストの場合は上限 10,000 円でも妥当と考えます)東京で 1,000 人集められるアーティスが地方で同じ人数を集めるのは極めて難しいと考えます。
・市民会館でメインアーティストが始まったころ、B ステージの演出もなかったためお客様がなく飲食店の営業も下がった。野外のステージ広場にもっと賑わいつくるために工夫が必要だった。
・チケット発売日から販売ピークがなく、目標まで届かなかった。また協賛チケットを多数出したことによりチケット販売に対して当日空席も多くみられた。

フード
・出店者の車が公園内から撤去されてなかったため、緑地課から指摘があった。出店者に対する説明が不足していたことが原因と考えられるため、もっと詳しい説明する必要がある。
・ガスボンベの設置について消防から指摘があった、転倒しないような処置を講じる必要がある。

その他
・準備段階から事業に携わる会員が少ないので、当日だけ参加したスタッフは指示をもらわないと動けない状態でした。役割をもらって活動するだけではなく、事業に思い入れがないと会場に訪れたお客様には伝わらないと思うので、準備・片付けも重要だという認識を持つことが必要だと感じた。
・弘大の学生ボランティアを募ったがあまり集まらなかった、弘大だけではなく広くボランティアを募集する方が良い。
・参加人員を計測する際にカウンターを使用したが、実数を計測出来たかと言うと不確かな部分があるので、参加人数を計測するために専用ゲート等を設けて計測したほうが参加人数を確実に計測できると考えます。
・同一の会社に複数科目の工事及び依頼を発注する場合は、領収書も各科目ごとに分けて提出してもらうようにする。

委員長所見：一人では決して達成できないことでもみんなで協力すればできるということが経験できる事業で、挑戦してみて初めて分かる事がたくさんあり、地域のリーダーとしてまた JAYCEE して大きく成長できる良い機会であると思います。

決算	決算書
決算額	¥8,529,597 円
（事業費）	¥8,529,597 円
（管理費）	
予算総額	¥9,450,000 円

剛情張大太鼓事業

● 委員会名 ： 地域の絆連携 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 前田　完治 / 比内　理佑 / 大場　一巧

事業番号・区分 ： 公１　地域社会の健全な発展に寄与する事業
事　業　名 ： 剛情張大太鼓事業
職　務　分　掌 ： 剛情張りねぷた事業の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ： 2018 年度に弘前青年会議所では剛情張大太鼓を復活させましたが、後継者の育成・運行に伴う知識が未だ乏しい現状があり継続した運行を行うには難しい状況である。

意義・目的（対内） 市内外の人たちに伝統文化である弘前ねぷたまつりの剛情張大太鼓の魅力を知ってもらい、市民が一体となって存続の可能性を見出し継承する事を目的とする。

意義・目的（対内） 一人ひとりが弘前ねぷたまつりの魅力を理解し、地域のリーダーとして郷土愛を人に伝えられる人財となることを目的とする。

実　施　日　時 ： 2019 年 8 月 1 日（木）16:00～22：50・8 月 5 日（月）17：30～22：36
実施場所・会場 ： 弘前ねぷたまつり合同運行　土手町コース・駅前コース
事業の対象者
対　外 ： 一般市民
対　内 ： 会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：

・弘前ねぷたまつりでの剛情張大太鼓の運行を行った
　8 月 1 日（木）土手町コースと 8 月 5 日（月）駅前コースの 2 回の運行を行った
・県内外への情報発信
　CF を利用した情報発信
　プレスリリースで地域に情報発信
・太鼓の叩き手の育成を行った、若い JC メンバーへ運行にかかわる経験を積んで頂き次年度へ繋げる取り組みを行った
　昨年叩き手になって頂いた方に今年も参加頂けるように声掛けを行った
　叩き手・運行責任者を HP を利用して一般公募を行った。
　ねぷた小屋を練習会場として実際に剛情張大太鼓の叩き方の指導・練習及び運行責任者の役割とやり方の指導を 20 回行った。
　ねぷた小屋へ大太鼓を移動を 7 月 2 日に移動
　ねぷた小屋で 7 月 3 日から、18:00～20:00 大太鼓実践練習を行った
　7 月 21 日、公開練習を行った、一般の人へ練習風景を見学して頂き剛情張大太鼓への意識を高めて頂いた。
・はんてんのデザイン公募「剛情張大太鼓デザインコンテスト」
　弘前市内の小中学校にデザイン公募の案内を春休み中に配布し新学期になったら

生徒に配布して頂いた
HP 上に専用フォームを開設し一般市民からの応募を受け付けました
募集期間 4 月 1 日(月)～4 月 22 日(月)
理事長と当委員会にて審査・選考　最優秀賞(1 名)優秀賞(2 名)、審査員特別賞(3 名)を決定した。また最優秀賞、優秀賞の 3 名には作成したはんてんをプレゼントしました
最優秀賞のイラストを基に 6 月中旬にはんてんを発注・製作
応募頂いたイラストは HP 上に掲載を行った。
・CF 東奥日報「HANASAKA」による CF の実施及び広報活動
CF ロードマップ
・一般市民・観光客への剛情張大太鼓への参加(引手)を HP・FB を活用して呼びかけを行った。
参加して頂く方に CF で作成したはんてんを着用して頂き祭りを盛りあげました

参　加　人　員　：

8 月 1 日(木)
【正会員】　52 名中…出席者 31 名　欠席者 21 名
【賛助会員】　4 名中…出席者 1 名　欠席者 3 名
【叩き手】　13 名
【引手(当日)】　7 名
オブザーバー　倉橋ブロック会長
太田市新田商工会青年部　17 名

8 月 5 日(月)
【正会員】　52 名中…出席者 28 名　欠席者 24 名
【賛助会員】　4 名中…出席者 0 名　欠席者 4 名
【叩き手】　14 名
【引手(当日)】　12 名
松本青年会議所ＯＢ　安藤　将志

外　部　協　力　者　：

ＳＤＧｓ番号　：　4.7　8.9　12.b　17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年　1 月	：	事業内容の検討
2 月	：	事業内容の検討
3 月	：	事業内容の検討・CF 打ち合わせ
4 月	：	事業内容の検討・はんてんのデザイン公募
4 月 1 日	：	はんてんデザイン公募開始
4 月 22 日	：	応募締め切り
4 月 24 日	：	デザインコンテストの最優秀賞・優秀賞決定
5 月中旬	：	はんてん発注・応募イラストの公開(HP)
5 月	：	事業内容の検討・叩き手運行管理者の公募
6 月 17 日	：	CF 開始

7月2日	：	剛情張大太鼓を待機小屋へ移動
7月3日～31日	：	叩き手の育成・運行管理に伴う練習
7月21日	：	公開練習
7月22日	：	CF終了
7月22日	：	はんてん納品
8月1日・5日	：	剛情張大太鼓運行

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
8月1日		
15：30	委員メンバー集合	地域の絆連携委員会、叩き手
16：00	メンバー集合	
16：20	ねぷた小屋出発	待機場所へ大太鼓を移動
16：59	観光館バスプール到着	
17：00	全体ミーティング	運行準備・各種打ち合わせ
17：10	一時解散	各自着替え及び準備
19：40	剛情張大太鼓全体最終練習	
20：30	出陣	
22：30	ねぷた小屋へ到着	剛情張大太鼓をねぷた小屋へ
22：50	事業終了	解散
8月5日		
17：00	委員メンバー集合	地域の絆連携委員会、叩き手
17：30	メンバー集合	
18：25	ねぷた小屋出発	待機場所へ大太鼓を移動
18：57	北大通待機場所到着	
19：00	全体ミーティング	運行準備・各種打ち合わせ
19：10	一時解散	各自着替え及び準備
20：20	剛情張大太鼓全体最終	
21：10	出陣	
22：20	ねぷた小屋へ到着	剛情張大太鼓をねぷた小屋へ
22：36	事業終了	解散

事　業　概　要

事業目的の実現と成果	：	叩き手の方々は真剣に練習に取り組み剛情張大太鼓の叩き方を研究しみんなで教え合い一丸となって叩き手として成長しました。また、運行当時は多くのメンバーに参加して頂き弘前ねぷたまつりの魅力を観光客や市民の方々に伝えることが出来ました。そして来年も是非参加したいという熱い想いの声も頂きました。このことから事業の目的は達成できたと考えます。
次回への引継事項	：	・叩き手の募集を一般公募したがなかなか集まらなかった、また昨年参加して頂いた方々にも声掛けをしたが必ず参加してくれる訳ではなかったので、前年度から次年度の参加を促し、また参加してくれた方々の周りから参加してみたいという人を募集し

て輪を広げていくことが重要だと感じた。
・クラウドファンディング(CF)を活用してはんてんを作成したが目標金額を集めるのに苦労した、CF を行っているという広報をもっと広く広報をした方が良かったと思う、また CF を広報の部分に使用したことはプロジェクト分析からサイトを閲覧した人数が 1,173 人、タブロイド紙「HANASAKA」で青森県内に広く広報できたことから一定の効果はあったと感じた。
・今回 CF を資金調達の手段としてではなく広報の部分に重きを置いて行ったが、資金調達の部分だけを考えるなら協賛金(OB・企業)を募った方が効率が良いと思います。広報をする場合は別の方法手段を検討すれば良いと思いますが SNS の広報は非常に弱いと感じました。次回はアンケート等でこの事業をどのようにして知ったかというような調査(参加者及び一般観覧者の一部)をした方が今後の広報活動に役立つと思います。
・出陣時大太鼓を待機場所まで運搬するのが大変であった、時間的な都合もあるが参加人数を 40 人程度集めた方が安全に運搬できると思う。若しくは大太鼓を牽引できるようにすることが今後の課題だと思います。
・1 日は今後も太田市新田商会青年部の参加が毎年のように行われると思います。今年度はアテンドの部分で至らない点が見受けられた(待機場所の暗がりで太田市の方々だけで弁当を食べていたこと等)ため、事前に打ち合わせの上おもてなしの心でしっかりとアテンドしなければならないと思います。
・本事業では運行に際して飲酒を禁止していたが、当日飲酒をしていた方が複数人見受けられた、弘前ねぷたまつりの運行全体でも禁止されている事項で、地域のリーダーとしての見本にならなければならない団体が率先して破ることは恥ずかしい事だと思いますので、今後は徹底した管理が必要だと思います。
・太鼓を引く先頭の方々の指示への反応が、1 日目と 2 日目で異なった。折角 1 日目で覚えたものを 2 日目また最初からスタート、というのも非効率なので、できるなら先頭のリーダーを固定し、注意点等を継続して引き継げる方が良いと思う。そのためにも事業への参加を積極的に促し多くの参加を募ることが必要である。
・2018 年に続き、2019 年も同じ LINE グループで連絡を取り合ったが結果として都度新たな LINE グループを作成した方が良いと思う。最初誰が誰かわからない状態があったため積極的な発言がなかった、また今年度参加しないにもかかわらず大量の LINE メールがあったことを不快に感じた可能性も考えられるため。しかし次年度以降参加するにあたり最初の連絡を取る事には活用した方が良いと思います。新規の LINE グループを作る際に参加を促しつつ新規 LINE グループに移動させていくやり方が理想ではないかと考えます。旧 LINE グループには 1 週間に 1 回程度参加のみを促すメールをすることも参加者拡大には重要と考えます。
・今後の参加・運営の展開について、弘前ねぷたまつり＝剛情張大太鼓となるくらいに盛り上げ、弘前青年会議所で運行しているということを広く広報し、積極的にアピールすることが必要だと思います。そうすることで当会としての発信力・求心力が増し呼びかけに多くの人が興味・関心を持ち参加する人数が増える事により剛情張大太鼓を後世に残していけると思います。

委員長所見：昨年復活した剛情張大太鼓事業を行って、この事業は地域との絆を育め、伝統文化の継承・発信、人財育成など多くの事に挑戦できる素晴らしい事業だと感じました。

特に感じたことは叩きの育成を通じて地域の方々との繋がりの輪が広がり、青年会議所の一員として、地域のリーダーとして率先して行動して行かなければならない想いを行動に移さなければならないということです。JAYCEE として成長できる良い継続事業になると確信いたしました。

決　　算	決算書
決　　算　　額　：	¥1,108,851 円
（事業費）　：	¥1,108,851 円
（管理費）　：	
予　算　総　額　：	¥1,130,000 円

子どもたちの夢創造事業
「ユメへの第一歩プロジェクト　～あなたの勇気、応援します！～」

● 委員会名 ： 子どもたちの夢創造 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 小山田　允紀 / 山形　昌弘 / 下山　千嘉

事業番号・区分 ： 公 2　青少年の健全な育成に寄与する事業
事業名 ： 子どもたちの夢創造事業
職務分掌 ： 青少年事業の企画・運営

事業要項

事業実施に至る背景	：	子どもの笑顔や活気は地域の元気の源であり、必要とされている。また、夢は追いかけ実現させることで心をより豊かにすることができる。地域の宝である子どもたちが、子どもの頃から明確な夢を持ち、その夢を実現できるように考え行動することは、地域の未来を変える可能性を秘めている。
意義・目的（対外）	：	人生の進路を決める子どもたちに対し、夢を妄想や願いで終わらせず、夢は実現できるものであると自覚し実現に向けて一歩踏み出す勇気と気付きを与えることを目的とする。
意義・目的（対内）	：	事業への参加を通し、会員自身の夢を見つめ直し、夢と目標の違いを再認識した上で目標に向かって一歩踏み出すことを目的とする。
実施日時	：	2019 年 11 月 10 日（日）10:00～15:44
実施場所・会場	：	さくら野百貨店弘前店 4 階　文化ホール
事業の対象者		
対外	：	市内中学生
対内	：	会員

事業概要

事業内容および手法説明 ：

どうしても叶えたい夢がある中学生、夢はあっても叶え方がわからない中学生を募集。夢の叶え方を子どもたちと一緒に考え、夢への挑戦をサポートするユメトーク（夢の検討会）を開催した。子どもたちはユメのロードマップと高校三年生になった自分への手紙を作成し、その子どもを担当した会員はその子どもに向けて応援のメッセージを作成、タイムカプセル郵便を利用してその子どもが高校三年生になる 7 月 7 日に手元に届くようにタイムカプセル郵便を利用して届ける。

(1) 夢の募集

市内中学校に依頼し全校生徒に募集要項兼応募用紙を配布した。

〇募集内容

・募集期間：9 月 26 日～10 月 31 日

※当初 10 月 10 日 10 月、31 日まで応募期間を延長した。

・募集人数： 20 名

・応募者：3 名（事前申込 2 名、当日申込 1 名）
・参加料：無料
・応募方法：紙媒体の配布及びホームページ

(2) ユメトーク

① 事前リハーサル

当日のユメトークを充実させるため、事前リハーサルを実施した。
11 月 8 日（金）19：00～20：30
参加者数：12 名

② ユメトーク実施

子どもたちのユメに対し、会員が子どもたちと一緒に実現方法を考え、マンダラチャート、ユメのロードマップ、将来の自分への手紙を作成した。

・実施日：11 月 10 日（日）13:00～15:30
・会場：さくら野百貨店弘前店 4 階　文化ホール A
・参加者：子ども 3 名、会員 26 名
・ユメトークの流れ

A から E グループを編成、A から C までは子ども 1 名＋会員 5 名、D から E までは会員 6 名の編成とし、グループ毎に以下のプログラムを実施した。
※D グループは A グループ、E グループは B グループと同じユメを検討した。

・自己紹介
積み木自己紹介の手法により、グループ内で自己紹介を行った。
・マンダラチャート作成
・子どもたちからユメを説明してもらい、会員と意見交換をした。
・会場の壁に模造紙を貼付し、ユメの実現方法をふせんに記入し、リレー形式で模造紙に貼付した。
・ふせんを基にマンダラチャートを作成した。
・ユメのロードマップ作成
・作成したマンダラチャートを基にロードマップを作成した。
・将来の自分への手紙作成
・子どもたち：高校 3 年生になった自分に対して激励の手紙を作成した。
・会員：参加した子どもたちに対して激励の手紙を作成した。

(3) タイムカプセル郵便

・ユメトークで作成したマンダラチャート、ユメのロードマップ、将来の自分への手紙をタ高校三年生になった七夕の日に届くよう発送した。

参　加　人　員　：　子ども 3 名、会員 26 名
外 部 協 力 者　：　なし
ＳＤＧｓ番号　：　4.7　17.17

事業実施までのスケジュール			
2019 年	8 月	：	27 日　募集要項兼応募用紙デザイン案について打合せ
	9 月	：	20 日　会場使用申請書提出

		26 日　募集開始
		〃　　プレスリリース、ホームページ掲載
	：	10 日　募集締め切り　※31 日へ期間延長
10 月		11 日～17 日　各中学校へ再度のお願い　※併せて友人知人への声掛け
		31 日　募集締め切り
	：	4 日　会場最終打合せ
11 月		5 日　委員会事前リハーサル
		8 日　事前リハーサル
		10 日　ユメトーク実施
12 月	：	3 日　タイムカプセル郵便発送（参加者が高校三年生の 7 月 7 日に届く予定）

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
10:00	委員会集合・会場準備	さくら野百貨店弘前店 4 階　文化ホール A
10:50	会員集合	
11:05	リハーサル	
11:26	昼食休憩（各自）	
11:35	当日参加者呼び込み	
12:30	参加者受付開始	
13:00	開会	司会　　子どもたちの夢創造委員会　成田　志穂　君
13:01	理事長挨拶	理事長　秋元　駿一　君
13:04	趣旨説明	子どもたちの夢創造委員会　委員長　下山　千嘉　君
13:09	ユメトークの流れ説明	子どもたちの夢創造委員会　委員長　下山　千嘉　君
13:12	ユメトーク	
14:12	①自己紹介	
14:31	②マンダラチャート作成	
14:16	振り返り	子どもたちの夢創造委員会　委員長　下山　千嘉　君
14:21	③ユメのロードマップ作成	
14:41	④将来の自分への手紙作成	
15:04	最後のメッセージ	子どもたちの夢創造委員会　委員長　下山　千嘉　君
15:08	閉会	
15:09	後片付け	
15:44	終了	

事　業　概　要

事業目的の実現と成果	：	当日参加した子どもたちが自分の夢を大人である我々会員に語り、会員と子どもたちが共にマンダラチャートの作成したことにより夢の実現方法に気づき夢は実現できるものであると自覚しました。また、ユメのロードマップを作成したことで何歳までにどのようなことを達成すればよいのか道標を提供することができました。また、会員に対しても子どもたちと一緒に夢の実現方法を考えることで自身の夢を見つめ直す機会を提供することができました。一方、事業構築までに時間を要したことで弘前市教育委員会への協力要請や校長会で依頼することができず、中学校への周知が足り

ませんでした。

（むつ小川原地域・産業振興助事業助成金）

・ 助成金の申込期限は 10 月末日であることから、早めに事業案の検討に着手し理事会で意見をいただきながら申請書を作成したほうがよい。

・ むつ小川原財団との事前相談の際、「助成金の使用用途が明確ではないものについては採択しづらい」とのコメントがあったことから、使用用途は明確にしたほうほうがよい。

・ 助成金の採択はむつ小川原財団の理事会で決定するとのことで、担当者が採択しやすいノウハウを持っているので、担当者と綿密に連絡をとったほうがよい。

・ 今回、不採択になった場合の事業修正案の検討が甘く事業実施が 11 月になってしまったので、事業申請と同時に不採択になった場合に備えて対応策を検討したほうがよい。

・ むつ小川原財団では事前相談をすることができ、たたき台の事業案を提出すればアドバイスをもらえることから、積極的に出席したほうがよい。

（当初事業案・夢の講演会、夢支援事業等）

・ 子どもたちが青少年事業に参加するきっかけとして、先生からの声掛けや推薦が考えられるので、弘前市教育委員会に協力を得るように依頼したほうがよい。

・ 講演者の間に協力者がいる場合は、協力者の意向も考慮しなければならない可能性があるため、講演者と協力者双方と連絡を取り合いながら進めたほうがよい。

・ 財源を確保しなければ事業を実施できない可能性があるので、事業構築と同時に予算を確保した上で各所へ調整したほうがよい。

次回への引継事項　：　（ユメトーク）

・ 事業を周知する際は弘前市教育委員会の協力を得たほうが各中学校からの協力を得られやすいので依頼をしてから周知したほうがよい。

・ 募集要項を配布する際は、中学校の判断で子どもたちに配布しない可能性があるため、可能な限り各小学校に直接持参し想いを伝えたほうがよい。

・ 事業構築の際は各中学校からの信用を得るため可能な限り弘前市教育委員会に協力を依頼し、共催もしくは後援依頼をしたほうがよい。

・ 今回は子どもたちの募集期間が短かったことから、参加者を確保するためには可能な限り早めに周知したほうがよい。

・ 参加者が想定より集まらない場合は、先生から子どもたちに直接声掛けしてもらえるように、各中学校に直接お願いをして募集の促進を図ったほうがよい。

・ 参加者が多くの学びを得るためには、事業当日の会員の積極的な行動が必要となることから、参加する会員に対して事前リハーサルを実施してイメージしてから臨むようにしたほうがよい。

・ 会場によっては申請書がなければ会場貸し出しを検討していただけない場合もあるので、会場選定をする際は会場使用が確実であることを最初の時点で確認したほうがよい。

・ 会場によっては、担当者の都合により許可申請までに時間を要する場合があるので、そのような場合は何度も連絡して使用許可を早急にいただくようにお願いしたほうがよい。

・ 当日、会場担当者が不在であるという理由から会場が開かず準備開始時間が遅れ

た。会場担当者には前日にも連絡して念を押したほうがよい。

・事業実施中、司会が説明している最中に会員間同士での私語が目立ち、参加した子どもたちが聞こえづらいと思われる場面があった。リハーサルに際に私語は慎むように周知したほうがよい。

・マンダラチャートを作成する過程のゲームの流れについて、一番多く実現方法を記載したチームを発表する予定にしていたが、比較しづらく勝利者を決めることができなかったため、リハーサルを重ね細かい点も確認したほうがよい。

・参加者がシートまたは手紙を作成する時間を計算する際は、参加者が長考する可能性もあるので、それを踏まえた当日スケジュールを作成したほうがよい。

委員長所見：今回の青年少年事業は、当初検討していた事業手法から大きく変更して実施致しました。これは、外部の助成金が不採択となったということがきっかけではありますが、一番の原因は助成金が不採択になった場合の検討が不足していたこと、事業実施にあたり外部協力者へ働きかけが不足していたことが原因だと考えております。当初の事業案を変更し、その次の事業案も変更、最終的に事業実施が 11 月になってしまったことで外部協力者への働きかけや参加者募集の周知が不足したと考えておりますが、ユメトークの事業案検討から実施までの間、委員会全員が主体的に事業を考え行動してくれました。また、ユメトークの事前リハーサル及び当日の会話の中で「夢は達成して終わりではなく、夢を達成した後何をするのか、死ぬまで何をしていくか考えなければならない」という発言が聞かれ、人生の一つの到達点である夢と、夢を達成したその先にある目標との違いに気づくことができました。課題も多く決して多くの子どもたちが参加した事業ではありませんでしたが、私個人としましては仲間に支えられ委員会全員の想いが込められたこの上ない素晴らしい事業だったと確信しております。

決算	決算書
決算額：	¥62,028
（事業費）：	¥62,028
（管理費）：	
予算総額：	¥90,000

第 35 回わんぱく相撲津軽地区大会

● 委員会名 ： 子どもたちの夢創造 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 小山田　允紀 ／ 山形　昌弘 ／ 下山　千嘉

事業番号・区分 ： 公 2　青少年の健全な育成に寄与する事業
事　業　名 ： わんぱく相撲事業
職務分掌 ： わんぱく相撲の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ： わんぱく相撲は 1977 年に公益社団法人東京青年会議所が青少年健全育成事業として展開し、現在では全国 211LOM、4 万人もの子どもたちが参加する、最大規模の相撲大会になっており、当 LOM においても第 1 回全国大会開催当初より LOM 大会を開催してきた。長年にわたって多くの子どもたちに夢と感動を与え続けてきた実績があり、今後も継続する必要がある。

意義・目的（対外） ： 子どもたちが心身の鍛錬を通して、礼節を学び、努力や思いやりの精神を養い、心豊かに成長することを目的とする。

意義・目的（対内） ： JC の主要事業として定着化に向かっているわんぱく相撲事業の一端を担い、子どもたちの夢と感動に想いを重ね、力の限り事業を構築できる JAYCEE へ成長することを目的とする。

実施日時 2019 年 6 月 9 日（日）12:10～16:30
実施場所・会場 青森県武道館相撲場
事業の対象者
対外 ： 小学 1～6 年生、一般観覧者
対内 ： 会員並びにオブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：

〇男子の部
対象：津軽地域に在住または在学する小学校 4 年生から 6 年生の男子
① 4 年生の部
・9 名により、2 つに分かれトーナメント戦を行った。
・各トーナメント戦で負けた選手は、2 つに分かれトーナメント戦を行った。
・各々のトーナメント戦で 1 位となった選手によるリーグ戦で優勝者を決めた。
② 5 年生の部
・11 名により、3 つに分かれトーナメント戦を行った。
・各トーナメント戦で負けた選手は、2 つに分かれトーナメント戦を行った。
・各々のトーナメント戦で 1 位となった選手によるリーグ戦で優勝者を決めた。
③ 6 年生の部
・11 名（うち 1 名欠場）により、3 つに分かれトーナメント戦を行った。
・各トーナメント戦で負けた選手は、2 つに分かれトーナメント戦を行った。

・各々のトーナメント戦で１位となった選手によるリーグ戦で優勝者を決めた。

□試合結果（全国大会出場者）

男子４年生の部優勝者　三浦　惺侑（みうら　せいゆう）君

男子５年生の部優勝者　田附　昂（たつき　こう）君

男子６年生の部優勝者　マロー 高尚（まろー　こうしょう）君

〇女子の部

対象：津軽地域に在住または在学する小学校４年生から６年生の女子

① ４年生の部

・出場者なし

② ５年生の部

・２名により、３番勝負で優勝者を決めた。

③ ６年生の部

・３名により、リーグ戦で優勝者を決めた。

□試合結果（全国大会出場者）

女子５年生の部優勝者　川浪　鈴菜（かわむら　りんな）さん

女子６年生の部優勝者　長谷川　心響（はせがわ　ここな）さん

〇オープン大会

対象：津軽地域に在住または在学する小学校１年生から６年生

① １年生の部

・３名により、リーグ戦で優勝者を決めた。

② ２年生の部

・５名（うち１名欠場）により、リーグ戦で優勝者を決めた。

③ ３年生の部

・４名により、リーグ戦で優勝者を決めた。

④ ４、６年生の部

・５名により、リーグ戦で優勝者を決めた。

□試合結果

１年生の部優勝者　　葛西　海琉愛（かさい　かるあ）　君

２年生の部優勝者　　髙木　楓芽（たかぎ　ふうが）　君

３年生の部優勝者　　赤石　璃愛（あかいし　りあ）　さん

４、６年生の部優勝者　石田　翔太（いした　しょうた）　君

参　加　人　員　：　競技参加者 51 名、弘前・五所川原青年会議所・相撲協会約 45 名、観覧者約 150 名

外　部　協　力　者　：　（公社）五所川原青年会議所、青森県相撲連盟中弘支部、弘実相撲部継武会

ＳＤＧｓ番号　：　4.7　5.1　17.17

事業実施までのスケジュール		
2019 年　１月	：	10 日　全国大会　オリエンテーション（於：京都会議）
２月	：	６日　県相撲連盟中弘支部長金田氏と打合せ 20 日　（公社）五所川原青年会議所との打合せ

		20 日	青森県武道館仮予約
	:	7 日	（公社）五所川原青年会議所との打合せ
3 月		12 日	県相撲連盟中弘支部長金田氏と打合せ
		12 日	（公社）五所川原青年会議所との打合せ
4 月	:	1 日	出場選手募集開始
		30 日	出場選手募集締切
	:	3 日	（公社）五所川原青年会議所との打合せ
		7 日	五所川原青年会議所側で選手募集開始
5 月		17 日	五所川原青年会議所側で選手募集締切
		20 日	五所川原青年会議所側の選手リスト提出
		18 日	選手の組み合わせ検討
		23 日	当日パンフレット印刷発注
	:	8 日	ちゃんこ鍋振る舞い下準備
6 月		9 日	わんぱく相撲津軽地区大会開催
		12 日	地区大会実施報告提出期限
		14 日	保護者同意登録承諾書提出期限

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
9:00	委員会メンバー集合	
10:00	メンバー集合、ミーティング、会場設営	
11:00	相撲関係スタッフ集合	
11:30	受付開始	
11:50	監督会議	
12:10	開会式	司会：子どもたちの夢創造委員会 委員長　下山　千嘉　君
12:14	・開会宣言	副理事長　小山田　允紀　君
12:16	・大会委員長挨拶	理事長　秋元　駿一　君
12:19	・選手宣誓	選手代表　岡崎　良太郎　君
12:20	・協議説明	青森県相撲連盟中弘支部
12:22	・選手解散	
12:28	・全体写真撮影	
12:30	・会場使用ルール説明	子どもたちの夢創造委員会委員長　下山　千嘉　君
12:32	オープン大会	
	女子の部	
	男子の部	
14:47	閉会式	司会：子どもたちの夢創造委員会 委員長　下山　千嘉　君
14:48	・成績発表	
14:51	・表彰	
14:58	・閉会宣言	副理事長　小山田　允紀　君
14:59	ちゃんこ鍋の振る舞い	
15:01	全国大会出場者写真撮影	

15:08　　全国大会出場選手保護者説明会
15:30　　選手解散
16:30　　片付け終了

事　業　概　要	
事業目的の実現と成果	今回の津軽地区大会は、オープン大会、女子の部を開催したこともあり、出場選手が多かった。相撲道場に通っている子どもたちは日頃の練習の成果を発揮する場として勝つたびに笑顔が溢れる子ども、負けた悔しさから泣き出す子ども、また、女子の部では相撲道場に通っていない子どもが出場し勝つことはできなかったものの、試合後は笑顔であった。子どもたちの表情からもこのわんぱく相撲は、子どもたちが心豊かに成長するという目的を達成したと言える。また、会員においても役割に徹し、人手が足りない場合は積極的に支援にまわっていたことから、力の限り事業を構築できるJAYCEEに成長したと言える。
次回への引継事項	・今回は、初の女子の部開催ということもあり、市内小学校に申込書を配布する時期でも東京JCから女子大会の実施要項が示されなかった。これが基で道場の先生から簡易廻しで相撲をとることについて指摘を受けた。次回は実施要項が確実に公表されてから市内小学校に申込書を送付したほうがよい。 ・今回の大会開催日は、事前に相撲協会の方に確認後決定したものだが、同日姫路にて他の女子全国大会が開催されることを相撲道場の先生から指摘され、開催日の変更を求められた。また、大会開催日の決定は、女子相撲に詳しい相撲協会役員と確認するように求められた。他県で開催される女子大会を把握することは非常に困難ではあるが、複数の相撲協会の方に確認するか、県相撲協会の相当の方に聞くかの方法により、可能な限り大会が重複しないよう確認したほうがよい。 ・大会開催日は、中体連時期であり運動公園内及び武道館においても中体連会場となっており混雑していた。駐車場確保の観点からも、次回は他の行事と重複していないか確認したほうがよい。 ・今回、五所川原JCと弘前JCとで選手の募集期間が合わなかった。そのため、その後の選手の組み合わせや当日パンフレットを短期間で制作することになった。次回はお互いに連絡を取り合い、募集期間を合わせるようにしたほうがよい。 ・今回、弘前JCのみが女子の部を募集したことにより、五所川原地区の女子相撲経験者が弘前JC側で応募を引き受け対応せざるを得なかった。次回は当初の時点で女子が応募した場合の役割分担を話し合い、明確にしたほうがよい。 ・武道館の開館時間は9時となっており、9時過ぎに会場に行ったところ、既に保護者が会場に入り場所取りをしていた。注意したものの、開場されていれば場所取りをされてしまう可能性があるため、次回は武道館職員に会員が来るまで開場しないよう要請したほうがよい。 ・開会式10分前、相撲道場の先生から選手の取り組みの組み合わせに対する不満と、女子の部で3番勝負、リーグ戦2回という取り組みに不満であるとした抗議を受けた。そのため、関係する監督、道場の先生、保護者を呼び出し、全員納得の上組み合わせを変更、もしくは変更せず了承いただいた。次回からは実施要項に細かい部分も明記し、会場にも掲示する等、ルールを明確化したほうがよい。加えて、取り

組みの組み合わせは同じ学校だから組み合わせを離すといった配慮は一切できないという文言を明記したほうがよい。
・事業前日に例会がある場合は、JC 旗が収納されているか確認したほうがよい。
・オープン大会の実施要項上では簡易廻しを着用すると明記してあるが、大会当日、廻しをつけたいと言う子どもがいた。実施要項では明記しているが大会当日もアナウンスすることで不具合が生じないように対策した方がよい。
・ちゃんこ鍋は 10 時から調理を開始し、12 時には完成したため、煮込みすぎてしまった。次回は 2 時間程度あれば完成することを踏まえ逆算して調理を開始したほうがよい。
・今回オープン大会の出場者が多かったこともあり、簡易廻しが不足ぎみであった。次回は予算が確保できるようであれば購入を検討したほうがよい。
・組み合わせ表には氏名のほか、小学校名も明記したほうがよい。
・メンバー全員に実施要項が渡っていなかったので、次回からは全員に配布されたことを確認したほうがよい。
・当日のスタッフ数が足りず、昼食をとることができなかったメンバーが一部いた。次回はスタッフが不足しないよう参加してもらう声掛けをし、昼食をとれる体制を構築したほうがよい。
・全てを把握している人間が限られていたため、トラブル対応が回りきれなかった。委員会メンバーと情報共有を徹底し、誰でも対応できるようにしたほうがよい。
・当日弘前 JC21 名、五所川原 JC4 名の計 25 名で JC 担当の仕事を分担しましたが、
・記録係（当日 4 名）の交代要員で追加 4 名、土俵整備・紐づけ係（当日 8 名）の交代要員で追加 4 名、呼び出し点呼係（当日土俵整備係が兼任）で追加 4 名、合計 37 名体制であれば各パートで適時交代休憩を取りながら運営が出来たのではないかと考えます。
・優勝メダルについて、男子の分については例年通り東京 JC から郵送されてきたが、女子の分は送られてこなかった（事前オリエンテーション等の説明資料では女子の分も配布予定となっていた）ので東京 JC に問い合わせたところ、今回東京 JC では用意しないとの回答であった。地区大会表彰時に男子にはメダルがあって、女子にはメダルがないというのはジェンダーフリーの精神に反するのでこちらで用意をしたが、地区大会終了後、女子全国大会直前になって、東京 JC から女子全国大会当日受付時にメダルを配布するとの連絡が入り、結果として女子にはメダルが 2 つ渡ることとなった。初の女子大会開催で、説明の遅延や不足、変更が多く、軌道に乗るまで今後数年はこのような状態が続くと思われるので、来年度以降も動向や情報をこまめに確認する必要がある。

委員長所見：

JC に入会しなければ恐らく経験することはできなかったであろう、相撲大会の主催者の担いをいただきました。このわんぱく相撲津軽地区大会という事業を通して私が成長できたところは、どのような大会になれば子どもたちは心豊かに成長できるのだろうかと考えながら事業を構築したことです。相撲道場に通う子どもたちにとって、わんぱく相撲で優勝することは誉れであり、目指すべき大会だと思いますので、その思いに相応しい大会にしたいと考えました。その一方で相撲道場に通っている子どもたちだけを対象にするのであれば、わんぱく相撲は単なる相撲大会に成り下がってしまうということも感じておりましたので、相撲経験の有無を問わず、相撲を通じて心豊

かに成長できる大会にしたいと思い構築しました。今回、相撲道場の先生からわんぱく相撲のルールについて様々なご意見を頂戴しました。私は、わんぱく相撲の意義である勝ち負けだけではない相撲大会にしたいという思いがありますが、相撲関係者にとっては相撲大会として決められたルールで行うべきであるといった意見をいただきました。このようにわんぱく相撲の意義目的と本来の相撲大会との間にはギャップがあり、どうすればよいのか考えさせられました。我々の意向が反映されない単なる全国大会の予選会としての大会開催であれば継続の意義はないと考えます。

決　　算	決算書
決　　算　　額	¥92,878
（事業費）	¥92,878
（管理費）	
予算総額	¥152,900

第 35 回わんぱく相撲全国大会

● 委員会名 ： 子どもたちの夢創造 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 小山田　允紀 ／ 山形　昌弘 ／ 下山　千嘉

事業番号・区分	：	公 2　青少年の健全な育成に寄与する事業
事業名	：	わんぱく相撲事業
職務分掌	：	わんぱく相撲の企画・運営

事業要項

事業実施に至る背景	：	わんぱく相撲は 1977 年に公益社団法人東京青年会議所が青少年健全育成事業として展開し、現在では全国 211LOM、4 万人もの子どもたちが参加する、最大規模の相撲大会になっており、当 LOM においても第 1 回全国大会開催当初より LOM 大会を開催してきた。長年にわたって多くの子どもたちに夢と感動を与え続けてきた実績があり、今後も継続する必要がある。
意義・目的（対外）	：	第 35 回わんぱく相撲全国大会への参加により心身の鍛錬を通して、礼節を学び、努力や思いやりの精神を養い、心豊かに成長することを目的とする。
意義・目的（対内）	：	第 35 回わんぱく相撲全国大会への引率を通して、わんぱく相撲に対する見識を深めることを目的とする。
実施日時		2019 年 8 月 3 日（土） 6:30 新青森駅集合 2019 年 8 月 4 日（日）18:00 現地解散
実施場所・会場		大会会場：東京都墨田区総合体育館（東京都墨田区錦糸 4-15-1） 宿泊場所：境川部屋（東京都足立区舎人 4-3-16）
事業の対象者		
対外	：	第 35 回わんぱく相撲津軽地区大会 男子 4 年生の部優勝者　1 名 男子 5 年生の部優勝者　1 名 男子 6 年生の部優勝者　1 名
対内	：	会員

事業概要

事業内容および手法説明 ：

〇8 月 3 日（土）

・新青森駅集合に集合し、会場（東京都墨田区総合体育館）へ引率（新幹線）
・墨田駅前飲食店で昼食
・会場で 6 年生選手及び保護者と合流。
・会場受付後、リハーサル及び研修事業「わんぱく子ども教室」に参加（選手のみ）
・宿泊相撲部屋（境川部屋）へ引率（電車）
・相撲部屋にて夕食及び宿泊（選手＋引率者）

〇8 月 4 日（日）

・相撲部屋で朝食後、会場へ引率（電車）
・全国大会出場
4 年生選手：三浦　惺侑（みうら　せいゆう）君　ベスト 16
5 年生選手：田附　昂（たつき　こう）君　2 回戦敗退
6 年生選手：マロー　高尚（まろー　こうしょう）君　ベスト 8 入賞
・閉会式終了後現地解散

参　加　人　員　：
4 年生選手：三浦　惺侑（みうら　せいゆう）君
5 年生選手：田附　昂（たつき　こう）君
6 年生選手：マロー　高尚（まろー　こうしょう）君
引率：（公社）五所川原青年会議所　木村　健太郎　君
（公社）弘前青年会議所　菊池　勲　君

外　部　協　力　者　：
わんぱく相撲全国大会実行委員会（公益社団法人東京青年会議所）
公益社団法人五所川原青年会議所

ＳＤＧｓ番号　：　4.7　5.1　17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年 6 月	：	9 日　第 35 回わんぱく相撲津軽地区大会開催　全国大会出場者決定
		12 日　地区大会終了報告入力期限
		14 日　保護者同意登録入力期限
7 月	：	17 日　宿泊部屋割、取組表発表
8 月	：	3 日　移動、リハーサル、相撲部屋宿泊
		4 日　全国大会、終了後現地解散

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
○8 月 3 日		
6:30	新青森駅に集合	集合場所　新幹線改札口
6:49	新青森駅出発	ＪＲ新幹線はやぶさ 8 号・東京行
10:32	東京駅到着	
10:55	東京駅出発	ＪＲ総武線快速・君津行
11:03	錦糸町駅到着	4 番線着
	飲食店にて昼食	
11:50	墨田区総合体育館到着	6 年生選手と合流
12:00	受付	
13:00	リハーサル	メンバーは会場外へ移動
15:00	研修事業「わんぱく子ども教室」	選手へのお土産（わんぱくグッズ）を購入
17:00	解散	メンバーは会場へ戻り、選手と合流
17:10	相撲部屋へ移動	東京 JC メンバーと共に引率
	夕食及び宿泊	
○8 月 4 日		
6:00	相撲部屋出発	

7:00	受付
8:10	開会式、選手入場、弓取り式
9:10	競技開始
	1・2 回戦
	横綱土俵入り
	3・4・5 回戦
	成績発表
	表彰式
17:55	閉会の辞
18:00	解散

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

選手たちは地区大会終了後から全国大会に向けてさらに稽古を重ね、心身を鍛錬し、その努力の結果、3 選手とも全国大会の舞台で 1 勝以上をあげることが出来た。また、年長の選手が年下の選手の身の回りの世話をしたり、先に負けてしまった選手が勝ち残っている選手を応援するなど、思いやりの精神が育まれ心豊かに成長している姿を見ることが出来た。

今までわんぱく相撲全国大会の引率に参加したことがないメンバーが引率を経験し、わんぱく相撲全国大会特有の勝手を知り、見識を深めたメンバーを増やすことが出来た。

次回への引継事項：

・6 年生選手の妹が 8 月 2 日に東京で陸上大会に参加することになり、家族で応援に行くので 8 月 3 日に新青森駅ではなく大会会場現地で合流したいとの要望があり、応じた。選手保護者と携帯電話で連絡を取りながら、問題なく現地で合流することが出来た。負担金 1 万円（新幹線代＋初日昼食代）は使用しないので頂かないこととした。

・今回は初めて両国国技館ではない会場での開催となり、大会運営のわんぱく相撲全国大会実行委員会（東京 JC）にも不慣れな点がみられ、表彰式後に手渡されるはずのメダルと賞状が運営の混乱の為その場で受け取ることが出来ず、後日（8/17）に選手の自宅へ郵送された。また、お土産購入の領収書もその場で受け取ることが出来ず、女子全国大会（8/25）に受け取ることとなった。

・来年度開催場所は東京オリンピック開催の影響で、再び今回の会場や、他の会場となる可能性がある。

・今回は全国大会の引率経験が豊富な五所川原 JC 木村健太郎君が同行してくれたが、わんぱく相撲全国大会には特有の勝手や、相撲独自のしきたりがあり、現地で経験しないと把握しづらく、未経験者一人だけで引率するのは難しいので、経験者が同行するか、未経験者だけならば複数人で引率した方が安心である。

委員長所見：

大会当日はユーチューブでの中継で観戦し、全国大会への出場を目指して日々鍛錬を重ねた子どもたちが日ごろの成果を発揮することができたと感じました。また、それぞれ出身が違う子どもがチームとなり、団体行動やともにご飯を食べることで連帯感が生まれ、応援し合う等わんぱく相撲ならではの精神が育まれたことは、この事業が目的を達した証であると確信しました。加えて、2018 年度の引継ぎ事項にもあるとお

り、円滑な引率をするためには全国大会特有のノウハウをもつ会員が必要であり、今回はこれまで経験がない会員が引率したことがあり、2020 年度以降の本事業が円滑に進められる人材を育成することができた意義は大きいと考えます。

決　　算	決算書
決　算　額	¥31,192
（事業費）	¥31,192
（管理費）	
予算総額	¥152,900

第 1 回わんぱく相撲女子全国大会

● 委員会名 ： 子どもたちの夢創造 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 小山田　允紀 ／ 山形　昌弘 ／ 下山　千嘉

事業番号・区分 ： 公 2　青少年の健全な育成に寄与する事業
事　業　名 ： わんぱく相撲事業
職務分掌 ： わんぱく相撲の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ：
わんぱく相撲は 1977 年に公益社団法人東京青年会議所が青少年健全育成事業として展開し、現在では全国 211LOM、4 万人もの子どもたちが参加する、最大規模の相撲大会になっており、当 LOM においても第 1 回全国大会開催当初より LOM 大会を開催してきた。これまでわんぱく相撲全国大会は男子であることが条件であったが、今年は新たに女子全国大会が開催され、女子も全国大会に出場することが可能となった。今後は女子も含めてわんぱく相撲を継続する必要がある。

意義・目的（対外） ：
第 1 回わんぱく相撲女子全国大会への参加により心身の鍛錬を通して、礼節を学び、努力や思いやりの精神を養い、心豊かに成長することを目的とする。

意義・目的（対内） ：
第 1 回わんぱく相撲女子全国大会への引率を通して、わんぱく相撲に対する見識を深めることを目的とする。

実施日時
2019 年 8 月 25 日（日）　6：50～12：00

実施場所・会場
開会式　柴又帝釈天(経栄山題経寺)
〒125-0052　東京都葛飾区柴又 7-10-3　境内 MAP
試合会場　葛飾区奥戸総合スポーツセンター　エイトホール　屋内相撲場
〒124-0022　東京都葛飾区奥戸 7-17-1　アクセス MAP

事業の対象者

対外 ：
第 35 回わんぱく相撲津軽地区大会
女子 5 年生の部優勝者　1 名
女子 6 年生の部優勝者　1 名
（女子 4 年生の部は出場者なし）

対内 ：
会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：
〇8 月 24 日（土）
・翌朝 7 時受付開始の為、当日入りの交通手段がないので、各自前日入り。
〇8 月 25 日（日）
①開会式会場（柴又帝釈天）にて集合合流
②選手受付を行い、感謝の色紙（東京 JC が自宅に郵送済み）と体調申告書（当日受取り）を提出し、大会 T シャツ（6 年生赤、5 年生紫、4 年生黄）、全国大会出場メダル 3 個、昼食食事券（500 円×3 枚）、入場許可リストバンド（25 枚、保護者・引率者・

関係者)、シャトルバス優先乗車券（学年別各4枚、保護者・関係者用)、選手パスを受け取る。
③受付終了後鳳翔館控室にてレオタードの上にTシャツ、スパッツ姿（まわしは締めない）に着替え、メダルと選手パスを下げて開会式に参加。
④開会式参加（帝釈天舞台前）
⑤開会式終了後、トーナメントブロック（弘前チームはAブロック）ごとにシャトルバスで大会会場（エイトホール）に移動。
1便（Aブロック4年生、Aブロック5年生）
2便（Aブロック6年生、Aブロック引率者）
3便（Aブロック4年生保護者、Aブロック5年生保護者）
4便（Aブロック5年生保護者、Aブロック6年生保護者）
※優先乗車券を持っている人は上記に従って優先乗車できる。それ以外の人はバスに空席があれば乗車できる。
⑥会場到着後、選手は選手パスと引き換えにゼッケンを受け取り、支度部屋でまわしを付ける
⑦学年ごと定められた時間に練習部屋を使用して調整する。
⑧呼び出しに連れられて入場口に移動。
⑨試合はトーナメントにてベスト4までを決する。
※試合会場には該当ブロックの入場許可リストバンドを付けている人しか入場できない。
※他ブロック試合中はサテライト会場（柴又帝釈天内及びエイトホール内）に移動となる。
※チーム全員ベスト4までに敗退してしまった場合はこの時点で解散とする。
→今回は選手二人ともベスト4に進出がかなわなかったため、この時点で現地解散した。
※昼食は柴又帝釈天参道内の店舗、エイトホール屋外ブースで食事券を利用する。
⑦全ブロックの予選終了後、ベスト4決定、3位決定、決勝試合を行う。
⑧閉会式にて成績発表、表彰。
⑨閉会式終了後、現地解散。

その他
・大会会場内食事厳禁。食事はサテライト会場又は屋外にて行う。
・横断幕、応援ボード、鳴り物等禁止。
・選手の呼び出し放送はなし。
・スタンプラリー実施、集めると参加賞がもらえる。
・柴又帝釈天にて10：30よりモンチッチイベント、14：00よりキティちゃんの夏まつりイベント開催。

第35回わんぱく相撲津軽地区大会
女子5年生の部優勝者　川浪　鈴菜（かわなみ　りんな）さん　ベスト8

参　加　人　員　：　及びコーチ1名、保護者1名

女子6年生の部優勝者　長谷川　心響（はせがわ　ここな）さん　ベスト8
及び保護者ご家族5名

		引率
		公益社団法人弘前青年会議所　小山田　允紀　君
外部協力者	：	わんぱく相撲全国大会実行委員会
ＳＤＧｓ番号	：	4.7　5.1　17.17

事業実施までのスケジュール

		9 日　第 35 回わんぱく相撲津軽地区大会開催　全国大会出場者決定
2019 年 6 月	：	12 日　地区大会終了報告入力期限
		14 日　保護者同意登録入力期限
	：	2 日　トーナメント表 WEB 発表（東京 JC）
		7 日　しおり郵送及びメール配信、引率説明資料配信（いずれも東京 JC）
8 月		17 日　事前現地調査
		24 日　移動日
		25 日　全国大会

当日スケジュール

6：50	開会式会場集合	柴又帝釈天
7：00	選手受付、着替え	
7：50	帝釈堂前集合	
8：00	開会式	A ブロック 4 年生選手から順次
8：40	開会式終了、バス移動	A4 年生選手、A5 年生選手
	1 便乗車開始	
8：50	1 便出発	A6 年生選手、A 引率者
	2 便乗車開始	A4 年生保護者、A5 年生保護者
	3 便乗車開始	
9：00	2 便出発	
	3 便出発	
9：20	1 便到着	
9；30	2 便到着	
	3 便到着	A5 年生保護者、A6 年生保護者
	4 便乗車開始	
9：40	4 便出発	
9：50	4 便到着	
※	各選手会場到着後競技開始まで	選手再受付、まわし着用、練習時間
10：30	競技開始	4 年生 A ブロック
10：55		5 年生 A ブロック
11：20		6 年生 A ブロック　※敗退したためここで現地解散
11：55		4 年生 B ブロック
12：20		5 年生 B ブロック
12：45		6 年生 B ブロック
13：15		4 年生 C ブロック

13：40		5年生Cブロック
14：05		6年生Cブロック
14：35		4年生Dブロック
15：00		5年生Dブロック
15：25		6年生Dブロック
16：10		4・5・6年生　ベスト4
16：15		4・5・6年生　3位決定
16：20		4・5・6年生　決勝
16：50	閉会式	成績発表、表彰
17：20	閉会	

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

選手たちは地区大会終了後から全国大会に向けてさらに稽古を重ね、心身を鍛錬し、その努力の結果、2選手とも全国大会の舞台でベスト８まで勝ち上がることが出来た。しかし、他大会の実績から2選手とも上位入賞が期待されていたため、両名とも敗退後には悔し涙を流していたが、お互いがお互いを励まし合い、次の大会での健闘を誓い合っており、思いやりの精神が育まれ心豊かに成長している姿を見ることができた。

初めて開催された女子全国大会の引率を通し、女子大会特有の設えと、開会式と試合会場でバス移動が生じるという稀な経験を経て見識を深めることができた。

次回への引継事項：

・わんぱく女子全国大会について、日時と会場の情報程度しかない状態で、地区大会を開催（6月9日）し代表を選抜した。その後8月7日に詳細情報が発表されるまで選手保護者に具体的な説明をすることができなかった。遠方かつ早朝開催であったので、宿泊や移動手段の確保も必要であり、次回大会が今回と同様に開催されるのかはわからないが、今回大会を参考にできるだけ早く選手保護者に情報を発信する。

・開会式と競技は別会場となる、両会場は徒歩40分以上離れている、最寄り駅も離れている、競技会場は全員納まる大きさではないため自分の試合が終わったら競技場の外に移動しなければならない、など土地勘のない者にとって不安な設えになっていた。初開催で前年度経験者もいないので、不安を少しでも解消するために、事前に両会場に足を運び現地調査をした。次回大会が今大会とはまた別会場となる可能性もあるので、その際は事前調査をしたほうが引率に余裕がでる。

・開会式会場周辺には宿泊施設が少なく、都内で比較的近郊の街（上野）に前日宿泊しても移動に40分程度かかる。

・6年生選手家族が自家用車で開会式会場に来たが、最寄りの有料駐車場はどこも満車で、選手を降ろして遠くの有料駐車場に停めに行った。

・受付開始から開会式まで1時間近く屋外で待たされる。受付から着替えるまでには時間もかからないので、もう少し遅く集合しても問題なかった。

・集合を10分～20分遅くすることで前日に乗り込んで宿泊しなくとも、前日夜発の夜行バスで開会式に間に合う。

・開会式は40分間程度で、選手、保護者、引率者とも開会式までの待ち時間1時間と合わせて、長時間夏の屋外で立ちっぱなしとなった。やはり集合をもう少し遅く

して、少しでも屋外待機時間を減らした方がよい。

・シャトルバスでの移動は選手、引率、保護者それぞれ別のバスとなったが、わんぱく相撲全国大会実行委員会が誘導してくれたので、特に問題なく移動できた。ただし、今回は最初のブロックであるＡブロックであったため誘導が付いたが、以後のブロックは誘導が付かなかったようなので、会場とバス停の位置を把握し、バスの運行スケジュールと試合の進捗状況を常に確認する必要がある。

・廻しは一人では付けられないが、わんぱく相撲全国大会実行委員会が支度部屋に女性スタッフを介添えに配置してくれていたので、男性の引率でも、廻しの付け方を知らなくても、問題なかった。

・廻しを付ける際、Ｔシャツの裾の処理について統一がなされておらず、付直しを余儀なくされる選手が多数いた。スパッツの選手は裾をスパッツに入れ、レオタード等上下つなぎの選手は裾をまくって廻しの中に収めることとなった。

・男子大会では選手以外に「引率」のネームタグを持った１名のみしか練習場に入場できなかったが、練習場はリストバンドさえつけていれば誰でも入場可能だったので、選手の練習相手ごとにネームタグを頻繁にやり取りする必要がなかった。

・練習場がビニールシート敷きだったので、選手の足が引っ掛かりやすく、けがをする恐れがあったので、すり足の練習は避けた。

・練習場にわんぱく相撲全国大会実行委員会が女性の練習相手を配置してくれていた。ただし、当チームは選手が所属する相撲クラブのコーチや、普段練習相手をしている保護者が帯同してくれたため、選手の練習相手には困らなかった。

・のぼりや横断幕は禁止との案内だったが、男子全国大会のようにのぼりを持参するチームが数チームあり、結局のぼりの設置を認めていた。

・試合会場に昼食用のブースを設けるとの案内だったが、実際にはフランクフルトやかき氷などの軽食しかなく、十分とは言えなかった。今回は昼食前に敗退してしまったため、移動して昼食をとったが、仮に勝ち進んで試合会場で昼食をとらなくてはいけなくなった場合は、試合会場の徒歩圏内に飲食店やコンビニがないので、移動するか、誰かが買い出しに出るなどの対策が必要。

・昼食用にお食事券が選手に 500 円ずつ配られたが、開会式会場まわりの飲食店は、鰻や天ぷらなど 500 円では納まらない飲食店ばかりである。

・ブロック入れ替えのタイミングには多くの選手・保護者・関係者が殺到して、はぐれやすい。その他移動をする機会が多いので、移動先や集合場所をその都度チーム内で周知してから移動し始めるべき。また、携帯電話でやり取りできるように連絡先を交換する。

・試合会場で購入したわんぱくグッズの領収書をその場でもらうことが出来なかった。領収書を持ったわんぱく相撲全国大会実行委員会スタッフが開会式会場の帝釈天に居たためだった。後日の郵送対応となった。

・アンケート用紙の記入提出と引き換えに選手に参加記念品を配ると当日案内されたが、筆記用具の用意はなされていなかった。引率は念のため筆記用具を持参しておく。

・今回はＡブロックだったためすぐにシャトルバスで移動ができたが、後半のブロックだった場合、炎天下の帝釈天で長時間待機することとなる。来年も仮に同会場の場合は、周辺で待機できる場所を確保しておく必要がある。

委員長所見：

・女子大会のわんぱくグッズはサンリオキャラクターとのコラボ商品しかなく、趣味趣向によるかもしれないが、5・6年生ともなると抵抗があったようだ。
・男子大会とは異なり、ブロックごとに競技が進むので、しっかり把握ができていれば、一人での引率も十分可能である。

今回が第1回目ということもあり、年当初から大会情報が少なく、第35回わんぱく相撲津軽地区大会女子の部を開催する際は今回の女子全国大会の詳細な情報が公表されない状況で開催せざるを得ませんでした。中でも優勝メダルが事前に提供されなかったことについては、第1回目という点を考慮しても、子どもたちへの配慮を欠いていたと思いますし、残念でなりません。

また、大会開催日が近づくにつれスケジュール等が公開されると、開会式から試合会場への移動、屋外で待機する際の熱中症の危険性、試合会場のキャパシティなど、大会当日の引率は相当困難なものになると推測されましたが、わんぱく相撲に精通した会員が引率することで円滑な引率をすることができました。

引率することで得られる経験もありますが、今回のように第1回大会が構築されていく過程を体験し、その対策を検討することで大きな学びを得たと考えております。

今回の女子全国大会を経験し、改めて先般実施した津軽地区大会を考えてみますと、女子全国大会は、勝ち負けだけではなくお互いを励まし合う等、子どもたちが心豊かに成長していると感じる事業でした。先般実施した津軽地区大会も五所川原JCと弘前JCの想いが全て反映された事業であれば、わんぱく相撲の目的である心豊かな成長がさらに図られたのではないかと感じました。

決算	決算書
決算額：	¥10,540
（事業費）：	¥10,540
（管理費）：	
予算総額：	¥152,900

ちびっ子ねぷたのお通りだい運営事業

- 委員会名　：　子どもたちの夢創造　委員会
- 副理事長/常任理事/委員長　：　小山田　允紀　／　山形　昌弘　／　下山　千嘉

事業番号・区分　：　公 2　青少年の健全な育成に寄与する事業
事業名　：　ちびっ子ねぷたのお通りだい事業
職務分掌　：　ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会の運営

事業要項

事業実施に至る背景　：　ねぷたは、世代を超えて共に楽しむことができる郷土の文化である。昨今の人口減少、少子高齢化及び地域コミュニティの希薄化により、ねぷたに参加する子どもたちが減少し続ける中、郷土の文化であるねぷたを次世代である子供達に引き継いでいく必要がある。

義・目的（対外）：　多くの子どもたちにねぷたに対する愛着をもたせ、郷土愛を育むことを目的とする。
意義・目的（対内）：　郷土の文化であるねぷたを次世代に引き継ぐことを目的とする。
実施日時　2019 年 7 月 28 日(日)6:30～12：27
実施場所・会場　弘前市役所土手町倉庫(旧第一大成小学校)　→　土手町　→　一番町　→　桜大通り
事業の対象者
対外　：　弘前市内の保育園・幼稚園・認定こども園
対内　：　会員

事業概要

事業内容および手法説明　：

ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会事務局の運営及び当日の運行をする。
また、郷土の文化に触れる機会を提供するため、希望する保育園等には、必殺ねぷた人と連携してねぷた絵の制作及び運行の機会を提供した。

① 実行委員会の運営
② ちびっ子ねぷた当日の運行
③ 希望する保育園等にねぷた絵の制作及び当日運行の機会の提供をした。

≪2018 年度との変更点≫

① 運営を効率化し、実行委員会の開催回数を 4 回から 3 回へ削減
② 事業実施時間を午前に変更
③ 市内全保育園等にアンケートを実施し、ねぷたを所有していないもののちびっ子ねぷたへの参加を希望する保育園等には、実行委員会にて次のようにねぷた絵の制作及び当日運行する機会を提供した。
（ア）必殺ねぷた人の協力の下、前ねぷたを実行委員会のねぷたとして、　今年度に限り提供をした。
（イ）ねぷた絵師清藤慎一郎氏が下書きした。
（ウ）必殺ねぷた人と協力し、園児による色付けをした。
（エ）園児達と絵貼りをした。

（オ）事業実施当日、囃子は必殺ねぷた人に依頼し、ねぷたを運行した。

参加人員：	○参加団体　計 1,083 名 めぐみ保育園 200 名、大開保育園 120 名、すみれ保育園 280 名、ふじこども園 162 名 よつば保育園 148 名、藤代保育園 120 名、大谷幼稚園　53 名 ○来賓、運行協力者、委託業者等　計 37 名 弘前市長 1 名、必殺ねぷた人 20 名、グリーンカメラ 1 名、すみれ保育園救護者及び運転手 2 名、工藤花火店 1 名、弘前綜合警備 12 名、 ○実行委員会スタッフ　計 44 名 弘前市 7 名、弘前商工会議所 4 名、弘前観光コンベンション協会 5 名、弘前市物産協会 2 名、弘前青年会議所 26 名 ●合計　1,164 名
外部協力者：	ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会 ○構成団体 弘前市役所 （公社）弘前観光コンベンション協会 （公社）弘前市物産協会 弘前商工会議所 ○オブザーバー 有限会社グリーンカメラ和田氏 ○協力 必殺ねぷた人 ○ねぷた絵師　清藤慎一郎氏
ＳＤＧｓ番号：	4.2　4.7　13.1　17.17

事業実施までのスケジュール

2018 年 11 月	：	21 日　和徳町会への打診
12 月	：	19 日　弘前ねぷた参加団体協議会への打診
2019 年　1 月	：	25 日　外部協力者への挨拶
2 月	：	4 日　保育園等へ意向アンケート実施 20 日　アンケート締め切り(集計作業)
3 月	：	3 日　和徳町会への協力依頼
4 月	：	2 日　第 1 回実行委員会資料を実行委員会構成団体へ事前配信 4 日　第 1 回実行委員会開催
6 月	：	22 日　大谷幼稚園との打合せ 4 日　駐車場看板依頼、発注 4 日　警備見積依頼、発注 4 日　救護用水見積依頼、発注
7 月	：	5 日　打ち上げ花火見積依頼 8 日　かさい家具への駐車場使用許可の挨拶 8 日　弘南バスを訪問し運行日のコース変更依頼 9 日　大谷幼稚園にてねぷた絵色付け

16 日　第 2 回実行委員会　開催
28 日　事業実施
8 月　：　27 日　大谷幼稚園にねぷた絵を贈呈
10 月　：　1 日第 3 回実行委員会　開催

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
6：00	会場警備員配置	迷惑駐車対応
6：30	事務局スタッフ集合	開催協議
7：00	会場スタッフ到着	避暑用テント設営
8：00	運営スタッフ集合	全体ミーティング
8：50	ねぷた入込み時間	搬入手伝い
9：20	園児入込み時間	警備強化
9：45	園児整列誘導	
9：55	開会式	激励のことば　弘前市長
9：56	出発の掛け声	秋元実行委員長
	出発合図打上花火	工藤花火店
	交差点警備配置	交通規制開始
10：03	開会式会場順次片付け	
10：53	最後尾観光館到着	アイス配布
12：27	撤収	解散

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

午前中運行で例年より暑さの負担も少なく園児たちに日ごろの成果を発揮し元気に運行したことにより、ねぷたに対する思いを育むことができた。
また今回初の試み、実行委員会ねぷたに参加していただいた大谷幼稚園さんには制作と運行を通じて、ちびっ子ねぷたの楽しさを伝えることができた。
実行委員会としては、ねぷた作りに関わりそして運行したことにより地域のねぷた文化をより深く理解ができ今後につながる学びをえることができた。

次回への引継事項：

①解散場所について裁判所となりの道路でしたが片側にねぷた、太鼓、反対側には園児のお迎えの保護者の車両等が駐車していた為、結果園児たちの待機解散場所が狭くなり安全面で対応を考えていかなければならない。
②実行委員会開催の際、グリーンカメラさんに開催案内を忘れてしまったので関係団体等確認の上、開催案内を流したほうが良い。
③暑さ対策に関して今回のように午前中に運行する方法や運行コース中間等に給水場設置など検討していったほうが良い。
④今後また今年のようにねぷた制作を行う機会があるとすればねぷた参加団体に協力を仰ぐことになりますが、弘前ねぷた製作期間で自らも忙しい時期に協力していただくことになり、負担をかけてしまうことを理解したうえで協力を仰ぐかを検討してほしい。
⑤当日沿道にお客様が少ないという意見もありましたので、宣伝や発信について、今回

制作しなかったポスターやチラシその他口コミ等の検討が必要。予算や人員の問題はありますが今後も交差点の信号を止めるか、従来どおり止めずに行くか検討してもらいたい。

⑥ねぷた文化の継承をねらい、ねぷた運行を行っていない団体へのきっかけづくりとして、実行委員会ねぷたを企画したが、例年参加頂いている団体はそういったことに予算や人員を割くことを望んではいない。

⑦実行委員会で新聞等に記事等を載せないこと決めていたにもかかわらず、直前に押し切られてしまいました。早い段階で各園等にどうするのか検討していく必要がある。

⑧実行委員会の回数を減らしたことにより、各団体やこども園の負担を減すことができた。

⑨開会式の写真を全こども園の様子も撮影した方が良い。

⑩参加団体を招いての全体会議の際は、実行委員会メンバーの自己紹介を次第に加える。

⑪当日運搬車両の都合上、タイムスケジュールよりも早い時刻の搬入を希望された団体があった。早い時刻に受け入れても支障はなかったので、次回はあらかじめ全団体に早い時刻での搬入も認める旨を伝える。

⑫開会式の次第は市長の激励の言葉と実行委員長の出陣の掛け声だけだが、それでも開会式が長いとのご意見を頂いたので失礼ながら市長と実行委員長に短めのご挨拶を依頼する若しくは削除を検討する。

⑬出発して土手町通りに出る際に、担当の指示がなくて困ったとの意見があり、誘導が必要。

⑭観客を増やす為、広報ひろさき、弘前ねぷたポスター、弘前ねぷた速報ガイド、弘前ねぷた交通規制看板など既存の媒体も利用して充実させる必要がある。

⑮市民病院前で荷物や子供を降ろすために路駐する車が多く、渋滞が発生していたので、事前に園を通して注意をするとともに、その箇所に誘導スタッフを配置する。

⑯参加団体への支援金は運行前に渡せるように準備する。

⑰弘南バスだけではなく、トラック協会やハイヤー協会にも事前に交通規制の案内をする。

⑱実行委員会として新聞広告掲載は行っていない。例年掲載されているのはオブザーバーの和田氏が独自に協賛を集め行っているものである。和田氏は協賛金を含め実行委員会が新聞広告をを取りまとめてほしいと要望しており、参加団体も新聞広告は続けてほしいと希望している。実行委員会として新聞広告掲載を行う必要があるかどうか協議が必要。

⑲JC 会員は本業の傍ら JC 活動を行っている。就業時間中、本業に支障をきたすことは出来ないことを再確認し、それでも運営が可能な方法を模索する必要がある。

⑳監査の実施を失念しないように、あらかじめ事業実施までのスケジュールで管理する。

㉑実行委員会構成他団体は実行委員会事務局改選について、人員難、安全意識の高まりに対する対応難を理由に受けることができないと言っている。運行自体の是非も含め大幅な見直しを図る時期になっている。

委　員　長　所　見：2019 年度は大きく 2 つ挑戦しました。一つめはちびっ子ねぷたのお通りだいの実施時間を午後から午前に変更すること、二つ目はねぷたという郷土文化を多くの子供達に継承

するため実行委委員会ねぷたを運行することです。一つ目は子供達の熱中症対策として参加団体からも概ね好評をいただきました。二つ目につきましては、これまで参加したことがない団体が参加したことにより今後の新たな挑戦となり、ねぷた団体との協力により、園児にねぷた制作と運行の機会を提供することができました。その一方で実行委員会ねぷたの運行は剰余金を原資としていること、他の予算も同時に圧縮したことにより従来参加している団体からは、実行委員会ねぷたを運行したことでポスターによる周知がされない、新聞広告の中止が提案されたのではないかと誤解を受ける場面もありました。しかしながら、今回の挑戦は参加団体に丁寧に説明するなど調整が機能していれば有効な手段であると考えております。今回のちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会での運営をとおして、関係団体と参加団体による協力のもと、多くの子供達に郷土愛を育むことができました。

決　　算	決算書
決　　算　　額：	¥50,000
（事業費）：	¥50,000
（管理費）：	
予算総額：	¥50,000

2 月例会「JAYCEE のきほん」

会員たちが明かす新事実～実は若干クリード言えないんだよね～

- 委員会名　：　JAYCEE 育成　委員会
- 副理事長/常任理事/委員長　：　大湯　幸世　/　太田　脩皓　/　三上　優香

事業番号・区分　：　他 1　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名　：　会員研修
職　務　分　掌　：　会員研修の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景	：	JC は方向性を同じく運動を展開する団体であるが、その会員一人ひとりの JC 活動に対する取り組み方や考え方は十人十色である。会員一人ひとりの成長が明るい豊かな社会の実現につながることから、指針となる基本理念を基に個々の資質向上を目指す必要がある。
意義・目的（対内）	：	地域社会に貢献する歴史ある団体の一員としての意志と英知をもち利他のココロを身につけ、率先して行動できるようになることを目的とする。
意義・目的（例会）		JC 活動の基礎基本や 2019 年度理事長の想いを理解、再確認する機会となり、会員の JC 活動に対する意欲の向上を目的とする。
実施日時		2019 年 2 月 7 日（木）19:00～20:57
実施場所・会場		弘前パークホテル　4F　ラ・メェラ
事業の対象者		
対内	：	会員、並びにオブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明	：	・JC 紹介の動画（オブザーバー用） ・JC が理想とする「明るい豊かな社会の実現」と会員研修のつながりを確認 ・セレモニーに対する事前調査のアンケート結果を発表 ・自分たちのセレモニーを客観的に聞く ・JCICREED、MISSION、VISION の意味の確認 ・JCICREED、MISSION、VISION の意味を手記、メンバーズリストに使えるしおり作成 ・JCICREED 唱和（区切る箇所、スピード統一） ・JCICREED 年間目標の発表 ・チーム毎にセレモニー＆理事長所信リレー（時間制限付） ・事後アンケートの実施
参加人員	：	【正会員】　49 名中…出席者 30 名　欠席者 19 名 【賛助会員】　4 名中…出席者 3 名　欠席者 1 名 オブザーバー　外川　琴乃　氏、三上　祐介　氏

外 部 協 力 者 ： なし
ＳＤＧｓ番号 ： 4.7 10.2 17.17

事業実施までのスケジュール

2018年11月 ： 委員会での企画
12月 ： 委員会での企画 各種見積取得
2019年 1月 ： 出欠確認 事前アンケート実施・まとめ
2月 ： 7日開催運営

当 日 スケジュール

時 間	項 目	備 考
17：30	会場集合、会場設営開始	
18：00	リハーサル	
18：30	開場、受付開始	
19：00	開会宣言	副理事長 大湯 幸世 君
19：01	国歌斉唱	
19：03	JCソング斉唱	
19：04	JCI CREED唱和	委員長 三浦 聖吾 君
19：05	JCI MISSION並びにJCI VISION唱和	委員長 下山 千嘉 君
19：06	JC宣言文朗読並びに綱領唱和	委員長 三上 優香 君
19：07	東北JC宣言唱和	委員長 大場 一巧 君
19：08	理事長挨拶	理事長 秋元 駿一 君
19：13	オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式 （2019会員拡大委員会）	新入会員4名（正会員2名、賛助会員2名） オブザーバー2名
19：35	報告依頼事項	
19：40	ビジネスPRタイム	秋元 駿一 君 櫛引 英揮 君
19：46	専務理事報告	櫛引 英揮 君
19：52	メインタイム開始	「JAYCEEのきほん」会員たちが明かす新事実
19：55	・趣旨説明	～実はクリード若干言えないんだよね～
20：00	・JC紹介の動画（オブザーバー用）	
20：07	・JCの理想と会員研修のつながりを確認 ・自分たちのセレモニーを確認 ・CREED、MISSION、VISIONの意味を確認 ・CREEDの意味を手記、しおり作成	
20：15	・CREED唱和（区切る箇所、スピード統一） ・CREED年間目標の発表	
20：25	・チーム毎にセレモニーリレー（時間制限） ・事前アンケート結果を発表 ・事後アンケート実施	
20：48	メインタイム終了	

20：51	監事講評	監事　三國　典央　君
20：57	閉会宣言	副理事長　小山田　允紀　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

本例会は会員研修として、JC の基本を学び・組織の理念を理解・現状の自らの理解と実践の度合いを知ることをテーマに企画運営をした。新加入会員や入会歴が短い会員は JC を学ぶ良い時間であり、入会歴が長い会員は基本を再確認する事が出来る機会を提供する事が出来た。

例会前後で会員へアンケートを行い会員の現状の把握と変化について調査した。

事前 15 件、例会後 28 件※アンケート結果

JCI CREED、MISSION、VISION、そして理事長所信についての理解は深まったが、セレモニー唱和の実践については今後も継続して行う必要がある。

本例会を通じて、例会後アンケートからも会員の一人ひとりの意識向上に繋がり、意欲がポジティブに変化した事が読み取れた。

会員の例会に対するイメージや、取り組み方の変化によって、現状を知る事が出来たのは今後の活動に対して目標を定める良い材料になった。

次回への引継事項：

① 【受付名簿について】例会当日の受付名簿に会員の出欠返信状況を反映させていなかった。データ返信の場合でも、遅参する会員や急遽欠席の会員が出てくるので最新の受付名簿を用意する必要があった。
当日受付にて使用する出欠名簿は事務局員に準備してもらうようにしました。

② 【会場選定について】例会当日、当委員会の委員でありパークホテルの会場担当でもある会員が急遽例会に出席できなくなったことに加え、内容の引継ぎがされておらず困惑した。また当日会場の下の階で工事が行われており騒音がひどく、隣の会場では賑やかな催しが開催されており、参加した会員からは例会中、音声が聞こえづらかったという声が多く聞かれた。会場を設定する場合には周囲の状況も確認が必要であった。

③ 【会場設営の備品について】パークホテルからお借りしたスクリーンが低く、後方の席に座った会員は見えづらかったのでテーブルに乗せるなどの配慮が必要だった。また開会当初、スタンドマイクのスイッチが入っていないトラブルがあった。備品については事前に入念な確認が必要であった。

④ 【紙看板について】（公益社団法人弘前青年会議所）名が記載されていなかった。会場担当者が会員であったとしても確認し依頼をするべきであった。

⑤ 【例会時セレモニーについて】予め各委員長にセレモニーの担当を伝え、壇上近くに座ってもらい JC ソング後すぐ整列してもらうようにした。その結果、セレモニーの時間を約 5 分短縮することができた。

⑥ 【新入会員認証式の時間配分について】新入会員 4 名分の認証式にかかる時間を考慮しメインタイムの時間を削る等の対策を考えていたが、会員拡大委員会の入念なリハーサルにより予定通りの 20 分間で終了した。写真撮影の際はスタンドマイクを寄せる係を設けた方がより時間短縮につながる。

⑦ 【セレモニー担当について】今後は例会セレモニーを各委員会のフロアメンバーに任せる等、積極的に巻き込み当事者意識を持たせていくことが重要だと考え

る。不安にならないよう、また責任を持って担当してもらえるよう1か月前頃から指名しておくと良い。又、役割を与えることにより参加率向上にも直結する。

⑧ 【欠席者について】急遽欠席（仕事都合2名、病欠1名）した会員があり段取り通り出来ない場面があった。急な欠員にも対処できるよう想定しておく事も必要である。

⑨ 【事前アンケートについて】今回はLOMの現状を把握するために、あえて事前アンケート回答の催促はしなかった。結果、前日までの回答数49名中15名のみであった。現状、配信だけでは回答が上がってこないので積極的に案内していく必要がある。

⑩ 【事後アンケートについて】事後アンケートは会場にて実施したが、担当委員会6名を除く29名中28名から回答があった。事後アンケートにて否定的な回答をした人に対して、その理由を問う欄を設けても良かった。

⑪ 【データ出欠返信について】正式な返信期限日までに出欠回答をした人は49名中29名だった。ショートメールしか受け取ることができない会員、事務局からのメールを全く見ていないと予想される会員には、データ返信を推奨しているため電話がけとLINEでの個別対応を行い、例会前日までには100%の返答をいただいた。データでの出欠返信は初めての試みであったが、メールやファックスを改めて送信する手間がなく、誤送信や集計の人為的ミスも起こらず、いつでもどこでも出欠状況を確認ができ大変利便性が良かった。また、発送物も減らすことができ経費削減につながった。少数へのフォローは必要となるがメリットが多く今後も活用を続けていくべきと感じた。

委員長所見：

会員研修開催を通じ、一人ひとりが弘前 JC への敬意と自らの行動に自信と誇りを持ち活動をすることこそが地域貢献だけでなく組織の成長、個人の成長へと繋がることを私自身強く意識出来ました。

会員へ対しても、自身の言動に責任を持ってもらえるよう意識を変えていかなければならないと感じており、例会の出欠返信等の期日を守る意識を年間通して伝え続けようと思います。

当たり前のことが当たり前に出来る習慣は一社会人としての素晴らしさでありブランドと言えると思います。

そして弘前 JC ブランドと言える価値ある組織を目指し、委員会として今後も会員の意識変革、意欲向上、そして行動へと繋がるよう研修を開催していきます。

決　　算	決算書
決　算　額	¥15,540
（事業費）	¥15,540
（管理費）	
予算総額	¥75,000

5 月例会　「ONLY　ONE　JAYCEE！」自分を認めよう！

● 委員会名 ： JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 ： 他 1　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 ： 会員研修
職　務　分　掌 ： 会員研修の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ： JC は方向性を同じく運動を展開する団体であるが、その会員一人ひとりの JC 活動に対する取り組み方や考え方は十人十色である。会員一人ひとりの成長が明るい豊かな社会の実現につながることから、指針となる基本理念を基に個々の資質向上を目指す必要がある。

意義・目的（対内） ： 地域社会に貢献する歴史ある団体の一員としての意志と英知をもち利他のココロを身につけ、率先して行動できるようになることを目的とする。

意義・目的（例会） 会員一人ひとりが自分の強みを客観的に見極め、当事者意識をもち自己成長につなげることを目的とする。

実　施　日　時 2019 年 5 月 7 日（火）19:00～20:52
実施場所・会場 ホテルニューキャッスル
事業の対象者
対　内 ： 会員、並びにオブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：

【今回の研修テーマについて】

第 2 回目の会員研修は勇気をテーマにしています。

※NEW JAYCEE より抜粋…勇気「変えるべきものを変える、チャレンジする勇気を我に与えたまえ」

　自身から目をそむけることなく、まず自分を知ることがチャレンジ・自己成長の第一歩です。今回の会員研修では、新しいことに率先してチャレンジしていく意志を喚起できるよう、自己の長所や強みに意識を向ける例会にしたいと思っています。

・ 受付にてアイマスクを事前に配布しておきます。
・ 椅子を会場の隅に寄せ広い空間を作り、趣旨説明の後、2 人 1 組になってもらいワークショップを開始します。最初に 1 人にアイマスクを着用してもらい、視覚に頼れない状況を作った上で、もう 1 人が指示を出し会場内各所に置いたチーム分け用の 4 つ折り用紙を探してもらいます。役割を交代し、同じように用紙を探してもらいます。（時間配分 10 分）

【得られる効果】
「相手に対しての言葉がけや行動を振り返り、普段のコミュニケーションの取り方や相手の立場に立った伝え方ができているか」を認識することができます。

・ 全員が用紙を持った状態で、司会の合図で用紙を開票してもらい、2 チームに分かれます。（1 チーム 10 名～15 名の予定）
司会の合図で全員がアイマスクを着用し、再度視覚が奪われた状態で課題にチャレンジします。（時間配分 15 分）
（委員会メンバーは安全に十分に配慮し周囲をフォローします）
【得られる効果】
物事に対する考え方や問題解決能力、自分の役割、長所や短所を確認することができます。

・ 椅子を戻し会場をセレモニーの状態に戻します。
・ 行ったワークショップで感じた自身の強みや長所を振り返り、自分らしいリーダーシップの種類や、自分にしかできない「役割」について考える時間を設けます。
（時間配分 10 分）
【得られる効果】
自己承認により、チャレンジする意欲を喚起することができます。

今後会員がそれぞれ当事者意識をもち、自分の強みを活かした事業を展開していけるよう、まとめにつなげていきたいと思います。

参　加　人　員　：　合計 27 名
【正会員】　…52 名中 25 名
【賛助会員】… 4 名中 2 名
オブザーバー　田中　正太　氏、千葉　翔太　氏、猪股　裕一氏、竹内　博之氏

外　部　協　力　者　：　なし

ＳＤＧｓ番号　：　4.7　5.5　10.2

事業実施までのスケジュール

2019 年 3 月	：	委員会での企画、各種見積取得、会場予約
2019 年 4 月	：	出欠確認
5 月	：	開催運営、Facebook、HP へ投稿

当　日　スケジュール

時　間	項　目	備　考
17：30	例会準備、会場設営開始	
18：00	受付	開会までの間、コミュニケーションタイムとする
19：01	開会宣言	副理事長　大湯　幸世　君
19：00	国歌斉唱	
19：01	JC ソング斉唱	
19：03	JCI CREED 唱和	委員長　　大場　一巧　君

19：04	JCI MISSION 並びに JCI VISION 唱和	委員	石岡　和仁　君
19：05	JC 宣言文朗読並びに綱領唱和	副委員長	伊藤　英里　君
19：06	東北 JC 宣言唱和	委員	三上　祐介　君
19：08	理事長挨拶		
19：15	オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式	新入会員 2 名、オブザーバー4 名	
19：27	報告依頼事項、ビジネス PR タイム	ビジネス PR タイム　比内　理佑　君	
19：40	専務理事報告		
19：48	メインタイム開始	5 月例会「ONLY ONE JAYCEE!」自分を認めよう!	
19：50	・ 趣旨説明、ワークショップの説明 ・ ワークショップ開始 ・ ワークショップの解説、自分の行動の振り返り ・ 自分の強みを活かした役割について自己診断、共有		
20：43	メインタイム終了、事後アンケート実施		
20：45	監事講評	監事	三國　典央　君
20：52	閉会宣言	副理事長	工藤　靖史　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

ワークショップを行う中で、会員一人ひとりが客観的に自分のコミュニケーション上の課題や、自身の問題解決能力、強みを見極めることができた。

※アンケート結果

事後アンケート結果より。ワークショップを経験し様々なリーダーシップタイプを知ったことで会員が当事者意識をもち、自己成長について明確に意識することができた。

次回への引継事項：

① 【QR コードを使用した式次第の配布について】

経費削減、当日の参加人数に左右されず式次第を渡すことができる利点があり、今回は QR コードを使用して配布を行った。

コミュニケーションタイム時からスクリーンに QR コードを表示していたが、「紙資料での式次第は無いのか」と何名かの会員から質問があった。また、遅参してきた会員は QR コードを読み取ることが出来ないため、何枚か式次第を紙で受付に用意しておく必要も感じられた。

② 【クールビズについて】

時期を確認して服装についても配慮をした方が良い。

③ 【会場との連携について】

ホテルニューキャッスルの担当者の方が変わり始めての例会だった為、事前に密に連絡を取り、準備物や会場レイアウト、当日の確定人数などの報告をしていた。国歌斉唱、JC ソングを流すタイミングについては司会台本を 1 部渡して指示。水やコップの準備がされておらず当日お願いをして出してもらった。

④ 【受付について】

会場内に受付台を設置した。会場内に受付があると、遅参した会員への対応がしやすかった。（尚、懇親会費の集金は懇親会場にて行った。）

しかし受付が会場外に無いことにより、遅参した会員から「入っても良いか分からなかった」という声が聞かれ、また受付員がいなかったことで理事長挨拶やセレモニー中に会場へ入ってきてしまう会員がいる等、課題が残った。

⑤ 【事後アンケートについて】
回答の選択肢にミスがあり、その場で訂正ができずご迷惑をおかけしてしまった。事前に入念に確認する必要がある。

⑥ 【消耗品について】
使用したアイマスクは、希望する会員にはそのままお持ち帰りいただいた。回収した分についてはクリーニング等した後、委員長が個別に保管している。

⑦ 【予備費の使用について】
例会内容の精査を重ね、基本的に予備費は使用しない。

委員長所見：

体験型の会員研修を企画し、楽しさを加え実施するように配慮しました。座学の会員研修よりも会員同士の関わりが深まり、自身を客観的に振り返るきっかけになったのではと考えます。事後アンケートからも、例会の狙いであった自分の強み・長所を理解することの重要性が会員それぞれに伝わったようでした。

JC としての今後の目標設定では、副委員長を選択した会員が圧倒的に多かったようです。今回の例会での気づきを各々のペースで今後の JC 活動や実生活に活かしてほしいと考えています。

決算	決算書
決算額：	¥19,212
（事業費）：	¥19,212
（管理費）：	
予算総額：	¥22,000

10 月例会　伝達力のスキルアップ！

● 委員会名 ： JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 ： 他 1　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 ： 会員研修
職　務　分　掌 ： 会員研修の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景	：	JC は方向性を同じく運動を展開する団体であるが、その会員一人ひとりの JC 活動に対する取り組み方や考え方は十人十色である。会員一人ひとりの成長が明るい豊かな社会の実現につながることから、指針となる基本理念を基に個々の資質向上を目指す必要がある。
意義・目的（対内）	：	地域社会に貢献する歴史ある団体の一員としての意志と英知をもち、利他のココロを身につけ率先して行動できるようになることを目的とする。
意義・目的（例会）		自分の意志を伝える力、人を巻き込む力を身につけ、JAYCEE として積極的に活動する意欲の向上を目的とする。
実施日時		2019 年 10 月 5 日（土）18:30～21:04
実施場所・会場		市民会館　大会議室
事業の対象者		
対内	：	会員、並びにオブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明	：	【概要】 公益社団法人日本青年会議所の公認トレーナーによる JC プログラムは、会員に知識や気づきを与え、資質向上が期待される上質な学びの場です。しかし JC プログラムの受講経験がある会員は限られており、受講の機会の提供を行う必要があります。 第 3 回目となる会員研修では日本 JC 公認プログラムの「スピーチ」を受講し、JC 運動に不可欠な明確かつ的確に思考を伝える能力の向上、発信力・伝達力を身につけていただきました。 【事業内容】 ・様々な手法を用い、説得力を向上させるスピーチの手法を学びました。 ・身につけた伝達力を JC 活動のみならず、実生活へ活かす意欲をもってもらえるよう促しました。
参加人員	：	合計 31 名 【正会員】 …56 名中 29 名 【賛助会員】… 4 名中 2 名

		新加入会員　　…葛西　紘一　君
		オブザーバー　　…佐藤　亘　氏
外部協力者	：	なし
ＳＤＧｓ番号	：	4.7　5.5　10.2

事業実施までのスケジュール

2019年 5～6月	：	委員会での企画 JCプログラム推進委員会へWeb申込 JCプログラム推進委員会の副委員長を仲介してヘッドトレーナーとの日程調整 ヘッドトレーナー交通費・宿泊費の確認
7月	：	例会日変更の部分審議 各種見積取得、会場仮予約
8月	：	8月2日（金）大阿久ヘッドトレーナーへ電話でご挨拶 8月5日（月）葛西豊喜先輩・大阿久ヘッドトレーナーと弘前にてお会いし、打合せ 専務へ予算変更依頼 8月21日（水）理事会審議 出欠確認
9月	：	9月5日（木）～6日（金）新幹線チケット購入 大阿久ヘッドトレーナーへ新幹線チケットを郵送（※一般書留で郵送） 10月例会事業実施計画書を大阿久ヘッドトレーナーへデータ送信 実施
10月	：	10月6日（日）JCプログラム報告書の回答 10月8日（火）LOMアンケート回答依頼をグループLINEへ投稿、11日（金）締切 大阿久ヘッドトレーナー、葛西豊喜先輩へお礼状発送

当　日　スケジュール

時　間	項　目	備　考
12：39	大阿久ヘッドトレーナー弘前駅着	14:30～別途お仕事あり
15：00	ホテルにチェックイン	
17：00	大阿久ヘッドトレーナー送迎＆アテンド	太田常任が対応
17：30	大阿久ヘッドトレーナーとの最終打合せ	ディスカッションテーマの最終決定や時間配分等
17：45	例会準備、会場設営開始	ヘッドトレーナー：会場設営の最終チェック
	受付開始	ヘッドトレーナーは後方席でセレモニーオブ
18：30	開会宣言	副理事長　大湯　幸世　君
18：31	国歌斉唱	
18：32	JCソング斉唱	
18：33	JCI CREED唱和	事務局長　工藤　正貴　君
18：34	JCI MISSION並びにJCI VISION唱和	常任理事　大藪　貴雄　君
18：34	JC宣言文朗読並びに綱領唱和	常任理事　比内　理佑　君
18：35	東北JC宣言唱和	常任理事　太田　脩皓　君
18：36	理事長挨拶	理事長　秋元　駿一　君

18：45	オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式	新入会員１名、オブザーバー1 名
18: 51	ビジネス PR タイム１名	今井　和之　君 ※報告依頼事項は割愛、後日全体メール配信
18: 54	専務理事報告	専務理事　櫛引　英揮　君
19: 08	-メインタイム開始- ・JC プログラム「スピーチ」受講(90 分間)	10 月例会　「伝達力のスキルアップ！」 ヘッドトレーナー　大阿久　友伸　君
20: 49	-メインタイム終了-	
20: 50	・質疑応答	
20: 54	・謝辞	理事長　秋元　駿一　君
21: 57	・公式アンケート回答	※回答必須
21: 01	・記念撮影	
21: 03	大阿久ヘッドトレーナー退場、懇親会場へ 監事講評	太田常任、前田副理がアテンド ※監事不在の為割愛
21：04	閉会宣言	副理事長　小山田　允紀　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

アンケート結果より、一人ひとりが自身の課題（伝え方）を改善し、今回の学びを積極的に実生活へ活用するイメージをもっていることがわかる。また、JC プログラムへの受講意欲も高まっていると言える。　※日本 JC 公式アンケート結果

2019 年度は、2 月例会（第 1 回会員研修）から年間を通してセレモニーに対する意識向上、スキルアップに着目して来た。10 月例会に参加した会員の 90%以上が、年度当初よりもセレモニーに対して前向きに取り組んだ姿勢が見られ、地域社会に貢献する歴史ある団体の一員としての自覚をもっていることがわかる。

また、2 月例会ではセレモニーに着目し、JAYCEE としての基本や運動の目的・基本理念に立ち返ることを通して、理事長所信にもある利他について会員が学ぶ機会を設けることができた。5 月例会は自身の強みや役割の認識等、自分の内面にフォーカスした内容のため利他のココロについて触れることはできなかったが、自己肯定感をもち、自身の長所を理解して率先して行動する意識を向上させることができた。集大成となる 10 月例会では、自身の強み・長所を活かしながら、「どうすれば相手に伝わるか」を相手の立場になって考え、伝えることの重要性や、積極的に魅力発信するスキルを習得することができた。利他のココロにふれながら実施した 3 回の会員研修を通して、会員の意識変革や JC 活動に対する積極的な行動を促すことができたと考える。

※LOM アンケート結果

次回への引継事項：

- 会場予約時間と例会準備の時間について。
  例会の準備時間が短い場合は委員会メンバーだけでなく各所に手伝いの依頼をしておくと良い。
- 会場使用の注意事項・ルールについて。
  市民会館大会議室の壁には原則、画びょうやセロハンテープの使用は厳禁。
- 会場への確認事項について。
  同日開催のイベント（楽器コンサート）の為、駐車場が混雑し会員へ迷惑をかけてしまった。会場への事前確認が必須であった。
- 司会台本について。

司会台本を最新のものと差し替えていなかった為、開会・閉会時の「JC ゴング点鐘」を失念してしまった。前月の例会を参考に常に最新のデータに更新しておくと良い。

- 報告依頼事項について。
  メインタイムの所要時間 90 分間を確保する為、例会中の報告依頼事項を割愛して懇親会の場で実施する予定であったが、懇親会の状況を見て実施を断念した。報告依頼事項は全会員へ伝達されるものでなければならない為、今回のようにやむなく割愛する場合は確実に伝わるような方法を考えなければならない。（10 月例会分については後日全体メール配信にて対応をした。）
- 欠席した会員への配慮【JAYCEE 育成 NEWS】について。
  2019 年度は会員研修（例会）後に、欠席した会員にも例会の内容を知ってもらいたいという趣旨から「JAYCEE 育成 NEWS」と題して例会内容の説明や例会中の写真を PDF データで添付し、全体メール配信を行ってきた。今回で最後となるが、参加した会員にとっては例会の振り返りの場となり、欠席した会員にとっての情報の共有と次回例会への参加意欲促進に少しでも役に立てばと考えている。　※2019 年度 JAYCEE 育成 NEWS 内容一覧
- JC プログラム受講時の会場展開について。
  受講するプログラムによっては、会場配置やホワイトボードの使用有無が変わるので、事前に講師と入念な打ち合わせが必要である。
- JC プログラム受講に遅参した会員への対応について。
  30 分程遅参した会員が 2 名おり、内容が把握できない様子が見られたが同じチームの会員からフォロー対応をしてもらった。やむを得ないことではあるが、基本的に JC プログラムを受講する際は遅参すると内容の把握が難しい。会員の学びの為にも、できる限り最初からの参加を促した方が良い。
- JC プログラムの受講にあたって。
  プログラムの種類によってはヘッドトレーナーの資格保持者が少ないものもあるので、企画をする際にはトレーナーの都合も考慮し 5 ヶ月前には日程を打診したほうがよい。（6～7 月は国際アカデミーやサマーコンファレンスなど公式行事が多く日程調整が難しいので注意）。

委員長所見：

新年祝賀会で発行した委員会新聞に「個人の成長が魅力ある組織を造る」と書かせていただきましたが、一人ひとりの JAYCEE が魅力発信のスキルを身につけ、地域・人を巻き込み共に成長していくことが重要だと改めて感じることができた例会でした。

JC だけに限らず、自分の思いを相手に伝えなければならない場面は必ずあります。今回の例会での気づきを各々の実生活に活かしてほしいと考えています。

決　　算	決算書
決　算　額	¥63,026
（事業費）	¥63,026
（管理費）	
予算総額	¥100,000

第 1 回新人研修　　先輩から学ぶ奉仕のココロ～LOM の歴史と魅力～

● 委員会名 ： JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 ： 他１　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 ： 新人研修
職務分掌 ： 新人研修の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ：	当 LOM の理念に賛同して入会した会員を、地域社会の発展に貢献してきた歴史と魅力ある組織の一員として育成していく必要がある。
意義・目的（対内） ：	新人が会員交流の中で JC の魅力に気づき、積極的参加の意欲をもち、LOM の一員として能動的に活動を展開することを目的とする。
意義・目的（研修）	LOM の歴史を学び、その魅力に気づき、新人が今後の JC 活動に能動的に参加する居場所づくりを行うことを目的とする。
実施日時	2019 年 4 月 24 日（水）19：00～21：12
実施場所・会場	弘前市民会館　中会議室　弘前市下白銀町 1-6
事業の対象者	
対内 ：	2017 年度、2018 年度、2019 年度入会の会員並びに現役会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：	・ メンバーズリスト、2 月例会で作成したしおりを使ってセレモニーの練習 ・ 当 LOM の成り立ちや歴史、友好団体との交流の歴史について新人会員同士で学ぶ ・ 事業を実施するまでの流れ（常任理事会、理事会、委員会の開催など）を知る ・ 特別会員である先輩から当 LOM の魅力や現役会員時代の JC 活動で得た体験、学びの実生活への活かし方について講話をいただく
参加人員 ：	合計 22 名 （内訳）新人会員　22 名中 12 名 現役会員　32 名中 10 名
外部協力者 ：	特別会員　久保　良太　先輩(2017 年度卒業)
ＳＤＧｓ番号 ：	4.7　10.2　17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年 2 月 ：	委員会での企画 講師選定、依頼 会場仮予約 各種見積取得

新人会員の連絡ツール作成（LINE グループ）
会場予約
3 月　：　講師との打合せ、講師承諾書の取得
案内文のデータ配信、出欠確認
Facebook、HP へ投稿
4 月　：　お礼状郵送
連絡ツール（LINE グループ）を使用しデータにて研修内容の振り返り

当　日　スケジュール

時　間	項　目	備　考
17：45	会場集合、会場設営開始	式次第は QR コードを使用（紙印刷なし）
18：00	セレモニーリハーサル	事前に指名した新人 4 名と太田常任がリハーサル
18：30	開場、受付開始	メモ用の A4 用紙とボールペンを配布
19：00	開会宣言	副理事長　大湯　幸世　君
19：01	国歌斉唱	“体の向き、国歌斉唱後の一礼”を一緒に確認
19：03	JC ソング斉唱	“体の向き”を一緒に確認
19：05	JCI CREED 唱和	委員長　鎌田　祥吾　君　“登壇して一礼”を確認
	JCI MISSION 並びに JCI VISION 唱和	委員長　下山　裕之　君
	JC 宣言文朗読並びに綱領唱和	委員長　鈴木　由乃　君
	東北 JC 宣言唱和	委員長　成田　陽光　君　“壇上で一礼、降壇”を確認
19：09	理事長挨拶	理事長　秋元　駿一　君
19：11	・セレモニー練習	メンバーズリスト、2 月例会で作成したしおりを使用
19：19	・趣旨説明	
19：23	メインタイム	【第 1 部】いっしょに学ぼう
	・担当　成田智崇副委員長、八木橋直子君	～会員と学ぶ LOM の歴史～
19：52	休憩	
20：00	メインタイム	【第 2 部】聴いてみよう
	・講師　久保良太先輩	～先輩から学ぶ LOM と JC 活動の魅力～
20：45	・質疑応答	
21：09	・久保良太先輩　退出	
21：10	・事後アンケート実施	QR コード使用
21：12	閉会宣言	JAYCEE 育成委員会担当常任理事　太田　脩皓　君
	後片付け	

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

新人会員が LOM の歴史を学び魅力を発見できたことで、LOM が安心できる居場所（活動拠点）となり、今後の活動意欲の向上につなげることができた。

※アンケート結果（参加者 22 名中、委員会メンバー4 名を除く 18 名から回答を得た）

事後アンケートを考察すると、JC 活動での学びを仕事や家庭、人財教育や地域貢献に活かしている久保良太先輩の姿が新人会員にとって大変良い刺激となり、今後の JC 活動に能動的に参加する意欲を喚起する結果となった。

① 【会場設営について】事務局のCDプレイヤーが故障しており、国歌斉唱・JCソングは急遽パソコンから流し、マイクを当てて音量をあげる対応をした。参加した新人会員の中から暖房をつけてほしいという要望があり、会場が冷えることを予想して始めから配慮できていれば良かった。会場自体は新しく、備品も整っており研修に集中しやすい環境であった。

② 【駐車場の確保について】桜祭期間中で混雑が予想される為、講師送迎用の駐車場は事前に確保していたが、参加する会員には近隣の有料駐車場を利用してもらうようお願いしていた。しかし当日は雨で市民会館の駐車場が多く空いており、その都度グループLINEにて駐車場状況を報告するように配慮したところ遅参する会員はいなかった。今後は、弘前市のイベントや祭状況を考えて会場選定、駐車場確保をする配慮が必要だと感じた。

③ 【新人会員のセレモニーについて】2019年～2018年度入会会員を中心に事前に4名を指名し、18時30分前からセレモニーの練習を行った。当日の会場に壇や演台が無かった為少し困惑したようだったが、今後も不安が無くなるように一つ一つ配慮をしながら、新人会員がセレモニーに慣れる機会を増やしていきたい。

④ 【事後アンケートのエラーについて】事後アンケートを作成した段階で一度、QRコードを読み込んで試しに実施してみた方が今後の再発防止になる。後日、うまく回答できなかった1名については個別に対応をし、参加した全会員から100%の回答率を得た。

⑤ 【時間配分について】質疑応答では新人会員12名中5名が久保良太先輩へ質問をし、新人会員にとって大変有意義な時間となった。成長する為の絶好の機会である為、気持ちを尊重したつもりであったが予想より多く時間をオーバーしてしまった。懇親会に参加出来ない新人会員を中心に質問を受けつけていたが、後半に集中してしまい中断が難しかった。今後はやむを得なくても懇親会場への移動を考えて司会の進行をするように全体を見ていきたい。

次回への引継事項　：

⑥ 【出欠返信率について】4月15日締め切り時点で54名中33名の回答を得たが、全体配信や全体グループLINE、新人会員専用のグループLINEにも返信を呼び掛けた上でこの結果であった。2月例会からデータ出欠返信のシステムを取り入れているが、慣れてきている反面、締め切りを意識する会員が減少している傾向がある。全体案内文を工夫する、今後も声かけを続ける等して出欠返信の習慣をつけていく必要がある。

⑦ 【新人によるメインタイムについて】親近感をもって研修に臨んでもらうことを狙いとして、今回は新人が新人に講話するという形式にこだわった。当日に使用するスライドの作成に時間を要してしまった為リハーサルが思うように行えず、台本内容の確認が不十分であった。しかし役割をもって参加してもらうことは成長の良い機会になる為、今後も積極的に新人会員を巻き込んでいきたい。

⑧ 【参加人数について】対象の新人会員22名中12名の出席をいただいた。予定の都合をつけていただきたく事務局の開催案内と同時にグループLINEへ詳細を知らせたが、思ったよりも結果が振るわなかった。JCという団体をまだよく理解できていない、馴染めない、参加することに不安がある等の新人会員の立場に立って、今後も参加してみたくなる内容を考案していきたい。

委員長所見：

※5月例会で正会員認証される今井さん、中村さんにも第1回新人研修の連絡をしたが、ご予定があり不参加との回答をいただいた。

第1回新人研修の開催を通して、人財育成が組織の為に非常に重要であることを改めて認識しました。当LOMへの理解があり、(歴史等の)知識があり、良き共感者である人財は、組織にとって何にも代えられない財産であり貴重な未来の担い手です。

40歳までという期限があるJCでは、当時のことを知る会員がどんどん卒業していく為に情報や思いを伝承していくことが課題でもあります。入会して終わりではなく、また新人の育成は誰かがやる、と思うのではなく全員で新人を育てるイメージを共有していくことが必要だと感じました。会員一人ひとりの関わり方が重要である為、機会をみて、会員が自身の経験や当LOMの魅力を新人会員へ伝えていただくようお願いしていきたいと思います。

新人同士の横のつながりが深まりJC活動に参加する意欲が向上するように、参加しやすい雰囲気を作るよう配慮をしながら、楽しく参加できる新人研修を開催していきます。

決算	決算書
決算額：	¥9,530
（事業費）：	¥9,530
（管理費）：	
予算総額：	¥45,000

第 2 回新人研修　「友情を育む社会見学！」

● 委員会名 ： JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 ： 他１　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 ： 新人研修
職　務　分　掌 ： 新人研修の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景	：	当 LOM の理念に賛同して入会した会員を、地域社会の発展に貢献してきた歴史と魅力ある組織の一員として育成していく必要がある。
意義・目的（対内）	：	新人が会員交流の中で JC の魅力に気づき、積極的参加の意欲をもち、LOM の一員として能動的に活動を展開することを目的とする。
意義・目的（第 2 回新人研修）	：	特別会員との交流を通じ、弘前 JC と地域の魅力に触れ今後の活動意欲向上と新人会員同士が信頼を深めることを目的とする。
実施日時	：	2019 年 8 月 24（土）12：32～17：50
実施場所・会場	：	開会、閉会…事務局、特別会員の企業 6 社
事業の対象者	：	
対外	：	特別会員
対内	：	2017 年度、2018 年度、2019 年度入会の会員並びに現役会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：

- 特別会員が経営する企業、飲食店に伺った（※懇親会場は特別会員の飲食店）。
- 新人会員に「行ってみたい先輩の会社アンケート」を実施（一人 5 票まで投票）。上位 6 位までの特別会員の企業に、実際に新人たちが訪問した。
- 研修中、移動中の車内ミッション等を通じて新人会員同士の懇親を深めた。
- 事前にチーム、コース、運転手を決めておくこととした。その他の班長・書記・連絡＆手土産・発表＆まとめ係については当日に決定をした。
- チーム毎に 3 企業を訪問し、特別会員の先輩と名刺交換、JC での学びや経営方針などのビジネスに活かせる話を聴かせていただいた。
- 特別会員の先輩と企業の前で写真撮影。
- 課題の振り返り、学びを共有した。
- 先輩への質問（しおりより）
- 先輩からいただいたお話

振り返りまとめ/事後アンケートまとめ/資料/学びの内容（新人会員のメモより）

参加人員 ： 合計 16 名
（内訳）新人会員　27 名中 11 名
現役会員　32 名中 5 名

外部協力者 ： ～訪問した特別会員一覧～　（上位から順に）

1. 写真館ハセガワ　…長谷川　正之　先輩
2. 弘果弘前中央青果㈱…大中　実　先輩
3. ㈱佐藤長　…佐藤　譲　先輩
4. 宝積院　…太田　厚仁　先輩
5. ㈲銘茶の玉雲堂　…渋谷　拓弥　先輩
6. ㈱長谷川鉄工　…長谷川　睦　先輩

ＳＤＧｓ番号　：　4.7　17.17

事業実施までのスケジュール

2019年6月	：	委員会での企画、閉会会場仮予約、特別会員（外部協力者）選定 6日（木）常任理事会 20日（木）理事会にて特別会員協力依頼文の部分審議 25日（火）新人会員へ訪問希望アンケート実施、6月30日（日）〆切
7月	：	7月2日（火）委員会にて新人会員の訪問希望アンケート結果を集計 7月3日（水）～12日（金）上位9名の特別会員へ協力依頼 協力していただく6名の特別会員の先輩方と打合せ、タイムスケジュール組み 案内文配信、出欠確認
8月	：	実施、Facebook、HP投稿 お礼状・記念写真を郵送

当　日　スケジュール

時　間	項　目	備　考
11：30	委員会メンバー集合	
12：00	事務局にて受付開始	ドレスコード、持ち物等を確認
12：32	開会宣言	副理事長　大湯　幸世　君
12：36	理事長挨拶	※場所の都合上、セレモニー割愛
12：51	新人研修の趣旨説明、全体の流れ、役割決め	※万が一の事故対応などを想定し、委員長・常任・副理事長の連絡先を共有した。また事務局の駐車整備も行った。
13：00	メインタイム ・　チーム毎に分かれて企業訪問 ・　先輩と名刺交換、体験談や経営理念等を聴く、写真撮影	
	【岩木山チームタイムスケジュール】 13:20　長谷川　睦　先輩 14:55　大中　実　先輩 16:05　長谷川　正之　先輩 17:05　事務局到着	※特別会員の先輩一人につき、委員会メンバーが一人必ずアテンドでつく。委員会メンバーはサポートのみ行い、当日はあくまでも新人が主体で動くように促す。 ※先輩への質問（しおりより）
	【さくらチームタイムスケジュール】 13:10　佐藤　譲　先輩 14:40　太田　厚仁　先輩	

16:10　渋谷　拓弥　先輩
17:24　事務局到着
メインタイム終了
17：28　課題まとめ
17: 45　課題発表
17: 50　閉会宣言　　JAYCEE 育成委員会担当常任理事　太田　脩皓　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

特別会員の先輩方からお話を聴き、弘前 JC の魅力に触れることで、新人会員一人ひとりが弘前を青年会議所という視点から意識することができた。また、移動中ミッションや研修自体を通して新人会員同士が親睦を深め、第 3 回新人研修（11 月例会）への意欲・関心を喚起することができた。※事後アンケートまとめ

① 出席率について
土曜日の昼間の開催につき都合がつかない会員が多くおり、出席率は 50%を切った。出張の為、弘前から離れてしまい参加が叶わない新人会員が確実に 3 名おり、直近の 8 月～9 月例会にて入会した新人会員にも呼びかけをしたが欠席であった。開催日程は選択肢をいくつか持っておいた方が良い。
参加できなかった新人会員へは、グループ LINE にて写真や資料を共有する対応を取った。

② 万が一の際の保障について
研修の移動中に事故があった場合については JC 保険の対象にならない為、運転手の役割をしていただいた新人会員の任意自動車保険に頼る形になってしまった。出発前に安全運転に努めてほしい旨、注意事項、緊急連絡先などを確認し、注意を呼びかけたが今後は配慮をした方が良い。予算があるのであればバス移動やレンタカー移動などの方法も検討した方が良い。

次回への引継事項　：

③ 訪問企業の選定について。
事前に新人会員へ行った訪問希望企業アンケートで上位だった先輩から優先的に打診するも、残念ながら日程の都合上、4 名の先輩（株式会社ジュエリーかまた・株式会社クロベ・株式会社小林紙工、株式会社八木橋薬局）からお断りを受けた。新人会員の希望として多数票が入っていた為残念であったが、今後、機会を見て特別会員との交流の際に新人会員が関われるように配慮をすると良い。

④ 新人会員の休憩時間の確保について。
特別会員の先輩に到着時間・出発時間をお知らせしていたが、予定していたタイムスケジュールから時間が押し、移動中に新人会員が休憩（トイレ休憩を含む）をする時間が確保できなかった。

⑤ 振り返りについて。
長時間にわたる研修であった為、17 時からの学びの振り返りの際に退席しなければならない新人会員が多かった。少人数でのまとめ・学びの共有となってしまった。

⑥ ドレスコードについて
案内文にて上着を持参と明記していたが、季節的なことを考え、当日は上着・JC バッジは不要、クールビズ・ネームプレートのみに変更した。

⑦ 事務局を使用する際の駐車場整備について。
開会・閉会を事務局にて行ったが、11名の参加では特段問題はなく、駐車場の整備も対応できる範囲であった。反対に多数の参加になった場合は、事前に打合せしていた通り委員会メンバーが率先して近隣の有料駐車場を使用する対応を取る必要がある。

⑧ 特別会員の先輩方への事業協力依頼について。
急遽ではあるが9月に開催予定のCross.Sチラシとポスターを手土産と一緒に持参し、特別会員の先輩へご協力をお願いした。また、会員拡大についても話をし、長谷川鉄工から従業員1名、弘果弘前中央青果から息子さんのご紹介をいただいた。しかし、長谷川鉄工の従業員からは保留の回答をいただき、大中実先輩のご子息は弘前へ戻ってきてから入会の検討をするということで、今後も拡大対象として継続して依頼をしていくと良い。

⑨ 会社見学について。
佐藤譲先輩、長谷川睦先輩の企業に、店舗のバックヤードや作業場を見学させていただくよう打合せにて依頼をしていたが、先方の都合上見学は省略となった。

⑩ 各役割の概要について。
班長…挨拶、名刺交換、先輩への質問をリード。
書記…先輩のお話を細かにメモする。
連絡・手土産…初めのご挨拶の時に先輩へ手土産を渡す、現在地等を随時連絡。
まとめ・発表…事務局での振り返りの際、発表。
運転手…安全第一でチーム員と移動、万が一事故が起こった際は任意加入している自動車保険で対応していただくことになる旨を事前に説明、了解を得た。

⑪ 懇親会に特別会員の先輩もお誘いして、より懇親を深める機会を作ると良かった。
（今回は当日に様々予定が重なった為、お誘いしない旨決定をした。次回もし開催する場合は是非お誘いすると良い。）

⑫ 移動中ミッションについて。
新人会員同士の親睦を深める目的で移動中ミッションを設けた。新人会員同士、車中で会話を楽しむきっかけとなったが、今回は移動時間が短かった為、実施が難しかった一面もある。

⑬ 本事業の継続について。
新人会員に特別会員の先輩の企業へお伺いできる貴重な機会が確保できること、創立 70 周年式典に向けて特別会員の先輩との関わりも深めていく必要があること、数年間で卒業予定の会員が多くいること等の理由から、何名かの会員や理事からは来年以降も本事業を継続して実施しても良いのではないか、というお言葉をいただきました。次年度への引継ぎ事項とさせていただきます。

研修当日、お一人お一人の特別会員の先輩が打合せをした以上のご準備をしてくださり、訪問した新人会員を温かく迎えてくださいました。

委員長所見：特別会員の先輩それぞれの企業の特色があり、オリジナルの取り組みがあり、異業種を体験しながら新人会員それぞれにビジネス面での学びを得ていました。

また各先輩のJCへの思いや価値観、立ち上げた事業の詳細を知ったことで、地域に根差した事業をするために今自分たちに何ができるのか、観点を変え、身近なところからヒントを得ようとする姿勢が見られました。同時に、特別会員の先輩と同じ団体

に所属している自覚も深まったのではと考えています。

第 3 回目の新人研修は 11 月新人例会となります。今回の研修で得た信頼関係を軸に、新人同士が協力し合い、新人にしかできない例会を企画・運営できるよう委員会としてサポートして参ります。

決　　算	決算書
決　　算　　額	¥6,644
（事業費）	¥6,644
（管理費）	
予算総額	¥45,000

11 月例会「JC ウルトラ運動会」

● 委員会名 ： JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 ： 他１　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 ： 新人研修
職務分掌 ： 新人研修の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景	：	当 LOM の理念に賛同して入会した会員を、地域社会の発展に貢献してきた歴史と魅力ある組織の一員として育成していく必要がある。
意義・目的（対内）	：	新人が会員交流の中で JC の魅力に気づき、積極的参加の意欲をもち、LOM の一員として能動的に活動を展開することを目的とする。
意義・目的（第 3 回新人研修）	：	入会 3 年未満の新人会員が例会を企画運営する基礎を学び、今後の JC 運動において積極的に活動できるようになる事を目的とする。またメンバー同士の懇親を深める。
実施日時	：	2019 年 11 月 7（木）18：35～20：45
実施場所・会場	：	宮川交流センター
事業の対象者	：	
対内	：	2017 年度、2018 年度、2019 年度入会の会員並びに現役会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：

- 紅組、白組に分かれて点数を競った。
- 二人三脚、障害物競争、リレーの 3 種目をパネルクイズと組み合わせて行った。（各種目に参加する人は、チームリーダーが各チームから指名・選出。）
- クイズは新人ならではの視点から、現役会員や弘前 JC についての知識について出題を行った。
- 各種目の内容は担当する新人会員が考案した。

全体統括： 成田　智崇　副委員長
障害物競争： 鎌田　祥吾　君
二人三脚： 三上　祐介　君、三浦　聖吾　委員長
パネルクイズ： 成田　智崇　副委員長
リレー： 小田桐　正和　君、成田　陽光　君

参加人員 ： 合計 34 名
（内訳）新人会員　28 名中 15 名
現役会員　32 名中 19 名

外部協力者 ： （株）南建設　代表取締役　南　直之進先輩
ＳＤＧｓ番号 ： 4.7　17.17

事業実施までのスケジュール

2019年6月	：	6月24日（月）新人会員での企画①
7月	：	7月26日（金）新人会員での企画②
8月	：	8月17日（土）新人会員での企画③ 会場仮予約
9月	：	9月11日（水）新人会員での企画④（宮川交流センター研修室にて、会場下見） 9月19日（木）～20日（金）新人会員が笹森記念体育館を下見、抽選申込 9月19日（木）第9回理事会へ新人会員オブザーブ　2名 9月26日（木）新人会員での企画⑤（宮川交流センター研修室にて） 9月27日（金）笹森記念体育館の抽選結果発表：落選
10月	：	10月8日（火）常任理事会 10月17日（木）新人会員での企画⑥（宮川交流センター軽体育室にてリハーサル） 10月21日（月）理事会審議へ新人会員オブザーブ　4名 案内文配信、出欠確認
11月	：	11月2日（土）新人会員での企画⑦（宮川交流センター軽体育室にてリハーサル） 実施、Facebook、HP投稿

当　日　スケジュール

時　間	項　目	備　考
17：00	例会準備、会場設営開始	※（株）南建設資材置き場にて駐車場誘導係2名
18：00	受付、当日次第をQRコードにて読み取り 男女、卒業生配分に配慮してくじ引き・チーム決め	開会までの間、コミュニケーションタイムとする ※当日次第の印刷は行わずデジタルで配布
18：27	YEG池田守之先輩・川嶋貴裕先輩の事業PR	
18：33	開会宣言	副理事長　大湯　幸世　君
18：31	国歌斉唱	司会　今井　和之　君
18：32	JCソング斉唱	
18：34	JCI CREED唱和	成田　陽光　君
18：35	JCI MISSION並びにJCI VISION唱和	猪股　裕一　君
18：36	JC宣言文朗読並びに綱領唱和	成田　智崇　君
18：37	東北JC宣言唱和	伊藤　英里　君
18：38	理事長挨拶	理事長　秋元　駿一　君
18：42	オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式	※対象者不在の為割愛
18：46	報告依頼事項	
18：55	ビジネスPRタイム	成田　陽光　君
18：57	専務理事報告	
19：00	メインタイム開始	11月例会「JCウルトラ運動会」
19：05	・準備体操	
19：12	・趣旨説明、全体ルール説明	各チームリーダーを卒業生に指定
19：15	①障害物競争	1チーム選抜9名×2チーム＝18名参加
19：45	②二人三脚	1チーム選抜10名×2チーム＝20名参加

20：04	パネルクイズ	障害物と二人三脚に参加していない会員が参加
20：28	③リレー	全員参加
20：35	表彰式	賞状とメダルを各チームへ、お菓子詰め合わせを勝利チームへ授与
20：42	記念撮影	
	メインタイム終了	
20：43	監事講評	監事　三國　典央　君
20：45	閉会宣言	副理事長　前田　完治　君
20：47		すぐに片付けを開始
21：00		完全撤収　　※後日、事後アンケートを実施

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

入会 3 年未満の新人会員が例会を企画・運営する基礎を学び、LOM の一員として今後の JC 活動に積極的に参加しようとする意識の向上が見られた。また例会の企画・運営を通して新人会員同士の懇親を深めることができた。

※事後アンケートまとめ【新人会員】

話合いへの参加の度合い等により、新人会員の当日までの役割や経験に差が出てしまった。新人会員全員に成長の機会を提供できるよう、委員会として個別に声かけや電話がけ等を行っていたが不十分であった。　※事後アンケートまとめ【現役会員】

次回への引継事項：

・ 新人例会の構築方法について。

今回は、議案作成からメインタイムの内容まで、全てを新人会員と共に行ってきた。反対に、メインタイムの内容や会場選定等の大枠を委員会が決定してしまい、新人に役割をふるという方法もある。

初めから新人会員と共に事業構築をした結果、良かった点は、新人会員らしいオリジナリティあふれるメインタイム内容になったことである。新人会員それぞれが自分の役割に想いと責任をもって取り組む姿勢が見られた。また会場選定等においては中々希望の会場が取れず、大変苦労した経験も学びとなった。議案作成については途中から委員長に一任されたが、見積依頼や例会案内文、各競技の資料作成などは新人会員を巻き込んで行っている。理事会等で出た指摘事項を修正する作業等も新人会員にとって、実生活で活かせる経験となった。

しかしながら役割を新人に与えることで収拾がつかなくなるデメリットもある。細部まで打合せが行き届かないこともあったことも踏まえて、新人に任せる部分とある程度委員会として、例会としての質を保てるよう修正・制御する部分があった方が良かった。

・ セレモニーについて。

セレモニーの役割が急遽、新人会員の都合で変更になってしまった。誰に任せても良いように、日頃から新人会員一人ひとりのセレモニーに対する質を高めていく指導が必要であった。

・ SDGs クイズについて。

新人会員からメインタイムに SDGs を取り入れたいという希望があり、クイズ内容も新人会員が考案したものを採用している。競技とクイズを同時に行うというメインタイムの構成上、短時間でしかクイズ内容を取り上げることができなかった。今後機会をみて再度活用していきたい。

・　新人への事後アンケート内容について。
　年間ロードマップを通して１年間かけて学んだ部分についてのアンケートも必要であった。
・　パネルクイズについて。
　委員会としては打合せを行っていたが、当日、予想外の変更があった。責任感をもって取り組む新人会員が多いが実際には個人差があるため、予想外の事態を踏まえてもう一歩踏み込んだリハーサルや新人指導が必要であった。
・　例会としての在り方について。
　第３回新人研修としての目的は達成しているが、一例会としての質や会員の資質向上について課題が残った。　※事後アンケートまとめ【現役会員】

様々な課題が残ったが、まずは新人会員が事業構築の基礎にふれ、達成感をもって今後の JC 活動に前向きに取り組む姿勢を重視したい。

委員長所見：　既に理事経験がある新人会員もいるが、2020 年度新たに新任委員長を務める新人会員もいる。入会してからどのような新人研修を受けるか、どのような経験を得られるかでその後の JC 活動に大きな差が出る。心に響く、また実用性ある質の高い新人研修を実施していく必要がある。

決　　算	決算書
決　算　額	¥21,773
（事業費）	¥21,773
（管理費）	
予算総額	¥45,000

あおいりんご　No.379

● 委員会名 : JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 : 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 : なし
事　業　名 : あおいりんご
職務分掌 : あおいりんごの作成・発行

事　業　要　項

事業実施に至る背景 : JC は市民運動の先頭に立ち、明るい豊かな社会を目指してまちづくりを行う団体であるが、その運動は市民や地域企業に知られていないのが実状である。当 LOM の広報誌であるあおいりんごの対外的な活用が必要である。

意義・目的（対外） : JC 運動を広く周知し共感を得、地域に JC のファンを増やすことを目的とする。

意義・目的（対内） JC 活動に参加できない会員が例会や事業の情報、会員情報などを知る機会となり、活動意欲向上へつながることを目的とする。

実施日時 2019 年 3 月 26 日（火）
実施場所・会場 適宜
事業の対象者
対外 : 特別会員、外部団体、一般市民
対内 : 会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 :

あおいりんご№379 の作成、発行
総発行数　280 部

【各種団体、姉妹都市、特別会員、卒業生】
モノクロ 4 ページ構成（A3 両面 2 つ折り）
紙媒体で配信　郵送 256 部（市役所の 3 か所は下山千嘉委員長より手渡し）

【会員、一般市民】
カラー4 ページ構成（データ 2 ページ）
データ配信

掲載内容
1 ページ目
・理事長挨拶、基本理念、スローガン、基本方針
・新年祝賀会開催
・各地新年祝賀会（日付も）
・アカデミー大学開校式・新春名刺交歓会

2ページ目
・委員長対談・委員長紹介
・年間スケジュール2019
・理事長、専務、副理事長、公益財政局長、常任理事紹介

3ページ目
・雪燈籠作り＆雪明かり
・通常総会
・2月例会
・3月例会
・京都会議
・東北ゼミナール開校式

4ページ目
・SDGsについて
・2019年・会員紹介
・新入会員紹介

外部協力者	：	なし
参加員数計画	：	適宜
参加推進方法	：	適宜
ＳＤＧｓ番号	：	17.17

事業実施までのスケジュール

2019年 2月	：	紙面コマ割りレイアウト作成	
		記事依頼・作成、写真収集、発送先リスト整理、見積依頼	
		記事編集・校正	
		2月21日（水） デザイン（案）、原稿、写真一部入稿	【JC→やまと印刷】
		2月28日（木） 追加入稿	【JC→やまと印刷】
3月	：	3月 5日（火） 校正出し、常任理事会	【やまと印刷→JC】
		3月9日（土） 委員長対談実施	
		3月11日（月） 追加入稿	【JC→やまと印刷】
		3月13日（水） 追加入稿	【JC→やまと印刷】
		3月14日（金） 再校正出し	【やまと印刷→JC】
		3月15日（土） 修正依頼	【JC→やまと印刷】
		再校正出し	【やまと印刷→JC】
		3月19日（火） 理事会・議案審議	
		3月20日（水） 修正依頼、事務局員へラベルシール作成依頼	【JC→やまと印刷】
		3月22日（金） 修正・校了・印刷、事後配信	

3 月 25 日（月）　納品、発送作業、HP 掲載依頼
3 月 26 日（火）　発行・発送、データ配信
3 月 27 日（水）　FB 更新
3 月 29 日（金）　HP 更新完了

当　日　スケジュール

時　間	項　目	備　考

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

① 現役会員へデータ配信をしたことによって、54 名分の印刷費と郵送費の経費が削減された。

② Facebook 統計データページより抜粋（2019 年度 4 月 19 日現在）

・リーチ 521 名
・写真閲覧数 84 件
・その他のクリック（弘前 JC の HP リンクを利用）44 件
・「いいね！」数 36 件
・シェア 0 件

あおいりんごは JC 運動を広く周知し共感を得、地域に JC のファンを増やすことを目的として発行しているが、現状では閲覧数や「いいね！」の数がまだ少数であるように思う。手法など今後検討していく必要がある。

③ 発行後アンケート考察（※参考資料に添付していますのでご確認下さい）

① 【発行までのスケジュールについて】
初回入稿が 1 週間遅れたことで、その後のスケジュールに大きく影響した。審議の場でも誤字の指摘があり、事後配信となった。記事やレイアウトの作成に時間を要する為、次回からは余裕を持って発行までのスケジュールを組み、審議月の常任理事会議には紙面を上程できるようにしたい。

② 【発送先リストの精査について】
ご逝去された先輩や発送先等に変更がある特別会員が何名かいた。リスト精査は新年祝賀会のリストと照らし合わせ、また近年お世話になっている団体の追加をした。しかし今後、最近あまりお付き合いが無さそうな団体、現役会員が誰も関係性を知らない団体等についても詳細を明確化していく必要がある。

次回への引継事項　：

③ 【紙面について】
2～3 ページに渡って年間のスケジュールを掲載したことによりページの分割が出来ず、Facebook へのアップやデータをズームして閲覧する際に不便があった。今後はこれまで同様 1 ページ毎に記事を分けて掲載した方が良い。

④ 【Facebook への投稿について】
PDF での投稿ができなかった。（PDF で投稿する方法が分からずやむなくこの形を取った。）JPG に変換したデータをアップしたが画像が荒く記事が閲覧できなかった為、HP の URL をリンクさせて対応した。
また、会員へ協力を呼びかけ Facebook であおいりんごをシェアしてもらうようにすると尚良かった。

⑤ 【委員会での誤字脱字、修正箇所の精査について】

委員会での誤字脱字チェックはデータで行わず、実際に紙に印刷して一文字ずつチェックした方が間違いを見つけやすく、重ねて修正依頼をする回数を減らせる。

⑥ 【データ配信について】
例年「あおいりんごは見たらすぐ捨ててしまう」という声が聞かれていた為、2019 年度は現役会員へはデータ配信、特別会員や各団体へはこれまで通り紙媒体での発送を行った。印刷費・郵送費の削減につながり、現役会員に記事をカラーで見てもらうことができたので良かった。

⑦ 【データ名称について】
PDF データの「紙面_校正 6」を削除して「2019 あおいりんご№379」というデータで回覧した方が良い。不必要な文言は入れないようにする。

委員長所見：

あおいりんごの発行は特別会員の先輩方へ今の弘前 JC の活動をご報告し、関係先の団体へ弘前 JC への理解を促し、市民が弘前 JC を知るきっかけを作る重要な機会の提供の場です。不慣れな点が多く課題は残りましたが、紙面から活き活きと活動する会員の皆さんの様子が伝わるようレイアウトや記事を考案しました。

今年になって、周囲で自然に Cross.S を知っている人が増えてきました。弘前 JC の事業が地域に浸透していることを嬉しく思うと同時に、主催の弘前 JC については全く知られていない現状を目の当たりにします。地域にとって無くてはならない組織だと認識してもらえるよう、あおいりんごを通してより多くの市民や団体へ弘前 JC の事業を広め、共感を得ていかなければいけないと思っています。

歴史あるあおいりんごを地域と当 LOM をつなぐツールとして有効に活用する為に、より有効な広報の方法等を含め、今後も試行錯誤をしながら取組んで参りたいと思います。

決　　算	決算書
決　算　額	¥25,704
（事業費）	¥25,704
（管理費）	
予算総額	¥120,000

あおいりんご　No.380

● 委員会名 : JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 : 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 : なし
事　業　名 : あおいりんご
職務分掌 : あおいりんごの作成・発行

事　業　要　項

事業実施に至る背景 : JC は市民運動の先頭に立ち、明るい豊かな社会を目指してまちづくりを行う団体であるが、その運動は市民や地域企業に知られていないのが実状である。当 LOM の広報誌であるあおいりんごの対外的な活用が必要である。

意義・目的（対外） : JC 運動を広く周知し共感を得、地域に JC のファンを増やすことを目的とする。

意義・目的（対内） JC 活動に参加できない会員が例会や事業の情報、会員情報などを知る機会となり、活動意欲向上へつながることを目的とする。

実施日時 2019 年 8 月 26 日（月）
実施場所・会場 適宜
事業の対象者
対外 : 特別会員、外部団体、一般市民
対内 : 会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 :

あおいりんご№380 の作成、発行
総発行数 270 部

【各種団体、姉妹都市、特別会員、卒業生】
モノクロ 4 ページ構成（A3 両面 2 つ折り）
紙媒体で配信　郵送 255 部（内、市役所の 3 か所は下山千嘉委員長より手渡し）

【会員、一般市民】
カラー4 ページ構成（データ 4 ページ）
データ配信

掲載内容
1 ページ目…「夏まつり」特集
・ちびっ子ねぷたのお通りだい
・津軽藩氏殉難慰霊祭　しれとこ斜里ねぷた
・尾島ねぷたまつり
・剛情張大太鼓、はんてんデザインコンテストの紹介

2ページ目…LOM事業の活動報告
・弘前まんじ札事業、コンプリート第1号市民インタビュー、受取時写真
・第35回わんぱく相撲津軽地区大会
・Cross.S予告

3ページ目…活動報告
・4月例会
・5月例会
・6月例会
・7月例会
・第102回通常総会（8月）
・第38回全国城下町シンポジウムin豊橋
・第49回青森ブロック大会in黒石
・現役・OB交流ゴルフコンペ（春の部）

4ページ目…会員紹介
・JAYCEEインタビュー「突撃！働く青年たち」
フロアメンバーをピックアップ
仕事内容、仕事している様子もしくは会社の雰囲気を写真で1枚撮影、今後の抱負
① 福士　蔵　君
② 小山内　健将　君
③ 木村　真悦　君
④ 鎌田　祥吾　君
・新入会員紹介
・総発行数　270部
・現役会員59名にデータ配信を実施
≪以下Facebookの統計より抜粋≫2019年10月10日時点
リーチした人数…516

参　加　人　員　：　リアクション…37
コメント、シェア…0
写真ビュー…72
その他のクリック（弘前JCのHP　URLを掲載済）…34

外部協力者　：　なし
ＳＤＧｓ番号　：　17.17

事業実施までのスケジュール

2019年　5～7月　：
見積依頼、紙面コマ割りレイアウト作成
記事編集、写真収集、発送先リスト精査
5月23日（木）　デザイン（案）・ラフイメージ（案）・原稿一部入稿

8月 ：	---随時　追加入稿--- 7月9日（火）　常任理事会・委員会で精査 7月22日（月）　理事会 --随時　追加入稿--- 8月22日（木）　修正・校了・印刷、HP掲載依頼、事務局員へラベルシール作成依頼 8月23日（金）　納品・発送作業 8月26日（月）　発行・発送、データ配信、FB更新

当　日　スケジュール

時　間	項　目	備　考

事　業　概　要

事業目的の実現と成果 ：	当LOMの運動内容や事業にかける思いを記事にし、郵送、FacebookやHPに投稿することで広く周知することができた。また、例会や事業にやむを得ず参加が叶わなかった会員にも、あおいりんごを通じて情報を共有することができた。 あおいりんごの発行により会員の参加意欲が向上することが期待される。
次回への引継事項 ：	① 随時入稿のスケジュール組みについて。 余裕をもたせて行った結果、前回の№379のように慌てることなく発行日を迎えることができた。しかし文章の組み立てや細かな修正点など、委員会で見逃す部分も多かった為、定期的に理事に見てもらい意見をいただいた方が良い。 ② Facebook、弘前JCのHP等、SNSへの掲載方法について。 A4サイズデータ×4枚の方が見やすい為、やまと印刷さんにお願いしてWeb掲載用のデータを別途作成していただいた。今後もこの形で継続した方が良い。 ③ 市役所の名称について。【変更前】弘前市商工振興部　【変更後】弘前市商工部 ④ あおいりんご№380発行の旨を特別会員へ一斉メール配信。 メールアドレスを登録している特別会員の先輩へあおいりんご№380が発行された旨のメールを一斉送信する試みを実施した。こちらに至った経緯としては、あおいりんご№380発行の直近に行われた第2回新人研修にて、長谷川正之先輩から「OB会のメールがあまり活用されていない」というご意見をいただいたこと、委員会としてあおいりんご№380の閲覧数を増やしたい狙いと合致し、今回の実施となった。特別会員へは紙面での発送を行っているもの、事前にOB会へ許可を得た後実施をした。 ⑤ 市民へのインタビューについて。 弘前まんじ札の記事作成の為、ご協力いただける市民にインタビューを実施した。弘前JCのHPに掲載される旨の掲載許可を得た後、4組の市民をピックアップすることができた。わずかだが市民を巻き込み、弘前JCの周知につながったと考えている。その際、毎年まんじ札に参加されているお子さんのお父様から、様々なご意見をいただいたので記録を行った。 ※弘前まんじ札に関する市民からの意見まとめ
委員長所見 ：	今回はあおいりんご№379 の発行後アンケートにていただいた意見を反映し会員紹介コーナーを設け、会員を巻き込み、良さを発信するよう心掛けました。またデータ

閲覧をする方の為に掲載方法に配慮をしております。

2019 年度、広報誌あおいりんごはデータ閲覧が定着しつつあり、変化が見られますが、一方閲覧数が伸び悩む、広く周知する方法が少ない等変わらず課題が多く残っていることも事実です。会員の意見を吸い上げながら、あおいりんごを通して当 LOM の運動をより多くの市民や団体へ広く発信できるよう、次号も努めて参ります。

決　　算	決算書
決　算　額 :	¥24,786
（事業費）:	
（管理費）:	¥24,786
予算総額 :	¥120,000

あおいりんご　No.381

● 委員会名 : JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 : 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 : なし
事　業　名 : あおいりんご
職務分掌 : あおいりんごの作成・発行

事　業　要　項

事業実施に至る背景 : JC は市民運動の先頭に立ち、明るい豊かな社会を目指してまちづくりを行う団体であるが、その運動は市民や地域企業に知られていないのが実状である。当 LOM の広報誌であるあおいりんごの対外的な活用が必要である。

意義・目的（対外） : JC 運動を広く周知し共感を得、地域に JC のファンを増やすことを目的とする。

意義・目的（対内） JC 活動に参加できない会員が例会や事業の情報、会員情報などを知る機会となり、活動意欲向上へつながることを目的とする。

実施日時 2019 年 11 月 28 日（木）
実施場所・会場 適宜
事業の対象者
対外 : 特別会員、外部団体、一般市民
対内 : 会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 :

あおいりんご№.381 の作成、発行
総発行数 270 部

【各種団体、姉妹都市、特別会員、卒業生】
モノクロ 6 ページ構成（A3 両面 2 つ折り＋A4 両面）
紙媒体で配信　郵送　254 部（内、市役所の 3 か所は手渡し）

【会員、一般市民】
カラー6 ページ構成（データ 6 ページ）
データ配信

掲載内容
1 ページ目…
・次年度理事長紹介、基本理念、スローガン、基本方針、プロフィール
・OB 現役交流会
・全国大会 in 富山

参　加　人　員　：	2ページ目…活動報告 ・夢創造事業 ・Cross.S ・防災減災事業 ・わんぱく相撲全国大会、わんぱく相撲女子全国大会の結果報告 3ページ目…活動報告 ・東北青年フォーラム in 能代 ・9月例会 ・10月例会 ・11月新人例会、新人インタビュー 4ページ目…会員紹介 ・卒業生紹介、一言 ・現役・OB交流ゴルフコンペ（秋の部） ・新入会員紹介 5～6ページ目…理事長対談 ・総発行数　270部 ・現役会員60名にデータ配信を実施 ・以下Facebookの統計より抜粋、2019年12月12日時点 （※投稿日…2019年12月2日（月）） リーチした人数…585 リアクション…54 コメント…0 シェア…1 写真ビュー…87 その他のクリック（弘前JCのHP　URLを掲載済）…45
外　部　協　力　者　：	なし
ＳＤＧｓ番号　：	17.17

事業実施までのスケジュール	
2019年　8～10月　：	見積依頼、紙面コマ割りレイアウト作成 記事編集、写真収集、発送先リスト精査 8月26日（月）　デザイン（案）・ラフイメージ（案）・原稿一部入稿 ---随時　追加入稿---
11月　：	---随時　追加入稿--- 11月6日（火）　常任理事会・委員会で精査 11月13日（水）　最終入稿 11月20日（月）　理事会にて最終確認 11月25日（月）　追加修正、HP掲載依頼、事務員へラベルシール作成依頼

11 月 27 日（水）　最終修正・校了・印刷、納品・発送作業
11 月 28 日（木）　発行・発送、データ配信、FB 更新

当　日　スケジュール

時　間	項　目	備　考

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

郵送、Facebook や HP への投稿により、当 LOM の運動内容や事業にかける思いを地域や各関係団体へ周知することができた。また LOM としては、例会や事業にやむを得ず参加が叶わなかった会員にも情報を共有することができた。今後もあおいりんごが会員の参加意欲を促すことが期待される。また現役会員と特別会員をつなぐ貴重なツールとしても、今後も重要な役割を担っていくことが予想される。

2019 年度は新しくあおいりんごの読者（市民）を増やそうと、まんじ札事業の記事や市民参加型の事業で市民インタビューを実施し、巻き込む工夫を行った。微力ではあるものの新規であおいりんごを閲覧してくれた市民がいたため、継続的に新しい試みをしていくことは重要である。

しかしながら Facebook にてあおいりんごを周知できた件数は毎号ほぼ横ばいのため、今後は広報の仕方を工夫し、より対外へ発信していく必要がある。

次回への引継事項：

① 理事者からいただいた指摘事項について。

・漢数字と数字はどちらかに統一。
・氏名を記載する際は必ずふりがなをつける。名字と名前の間にスペースを入れる
・文章の形は「〇月〇日（〇）に、△△にて××事業を行いました。」が基本。
・現役会員は「会員」に統一。「メンバー」は不可。
・数字やアルファベットの全角、半角をどちらかに統一。
・会社名は「(株)」「株式会社」どちらでも構わないが統一をする。
・記事の内容に応じてデザインレイアウトに配慮する。（№381 で例を挙げると、台風で多くのファンクションが中止になった全国大会の記事に対して、「イイネ！」マークをつけない等）
・同じ意味であっても、表現方法に配慮をする（№381 で例を挙げると、わんぱく相撲の結果発表の記事内、「2 回戦敗退」でなく「2 回戦進出」にする等）
・写真掲載などの際はコンプライアンスに注意する（№380 の初音ミクが印字されたまんじ札の掲載は不可等）
・文章内に不要な「！」等は入れない。基本的には「。」で終わるようにする。

② 2019 年度、一つのチャレンジとしてあおいりんごが発信誌としての役割を果たすよう、こだわりをもって記事の内容やデザインレイアウト等を考案した。だが実際は各号でご報告しなければならない記事が多く、どうしても報告誌になりがちであるという課題が残った。

③ 当初、発行日を 11 月 26 日（火）に設定していたが、OB 会からの発送物があるということで申し出を受け、経費削減のためにも同封筒での発送を行うこととした。事務局との連携が必要である。

④ メールアドレスを事務局に登録してある特別会員全員にあおいりんご発行のご案内メールを一斉配信したが、確認不足により、委員長名で出してしまった。次年

度もOB会向けに一斉送信をする場合は、委員会・専務確認だけでなく理事会で一度確認してもらった方が良い。（一斉配信した経緯についてはあおいりんごNo.380の引継ぎ事項を参照）　※特別会員向け案内文

⑤ 2019年度のあおいりんごは、主観が入りどうしてもデザインレイアウトがポップ（幼稚）なものに偏ってしまった。次年度は他LOMの広報誌を参考にする等して弘前JCをよりアピールできるものにすると良い。

⑥ 歴史ある広報誌あおいりんごがもっと多くの市民の目にふれるようになるためには、例として、市長や特別会員と理事長との対談記事、市内の有名企業の社長との対談記事等、LOMを飛び出して地域や市民を巻き込むことが重要であると強く感じた。必ず掲載しなければならない活動報告等が多いのも事実だが、今後は記事構成に工夫をし、広報についても検討していく必要がある。

⑦ 2019年度の広報誌あおいりんごは、現役会員についてはデータ配信を実施し、定着をさせ、予算軽減も達成できた（どうしても紙面で欲しい会員のために、事務局に予備を保管しているが、持ちだした経緯なし）。Facebookの閲覧数は毎号ほぼ横ばいであることから、一部予算を使って広報活動を重点的に行う方法もあったが実施まで至らなかった。

⑧ 全号、積極的にインタビュー記事を取り入れる等、会員PRに効果的な内容を心がけた。

⑨ ○弘前市観光部　×弘前市観光振興部

⑩ 現状、SNSと言えばFacebookのイメージだが、他の手法としてインスタグラムとFacebookを連動させるなどのやり方もある。様々な方法を試しながら、広く広報していくことが重要である。

今回は理事長対談が掲載されており、理事長と理事長候補者の想いを伝えることができたと考えています。

委員長所見：　あおいりんごNo.379の反省点を活かして、基本的には3クール上程をしていますが、それでも今回はギリギリまで修正をお願いすることになりました。大変ご迷惑をおかけしてしまいましたが、この反省を次年度へ引き継いで参ります。

決　　算	決算書
決算額	¥29,700
（事業費）	
（管理費）	¥29,700
予算総額	¥120,000

会員拡大事業

● 委員会名 ： 会員拡大 委員会
● 副理事長／常任理事／委員長 ： 工藤　靖史 ／ 大藪　貴雄 ／ 木村　歩

事業番号・区分 ： 他 2　会員の拡大及び会員相互の情報の共有等に関する事業
事　業　名 ： 会員拡大事業
職　務　分　掌 ： 会員拡大窓口

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ： 後継者不足、少子化など社会情勢の中、当 LOM の会員は減少傾向にある。当 LOM の運動・活動を継続していくには会員拡大は必須である。

意義・目的（対外） ： 地域の未来に真剣に取り組む我々の姿勢や想いを伝え仲間を増やしていく事を目的とする。

意義・目的（対内） ： 会員の減少という問題に、より一層危機感を持ち会員拡大することを目的とする。

実　施　日　時 ： 2019 年 1 月～12 月
実施場所・会場 ： 例会、各委員会、弘前市総合学習センター
事業の対象者 ：
対　外 ： 定款諸規定に定める入会可能なすべての人
対　内 ： 会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：

① 委員会による会員拡大活動。
1. 委員会で入会予定者を選定し入会へ促す活動をした。
2. 拡大リストに記載された企業へ赴き勧誘した。
3. OB から紹介をいただいた。
4. 弘前 JC の新パンフレットを使い今までの事業や入会の流れを説明した。
5. 毎週各委員会開催日を確認しオブザーブの場を提供してもらった。

② 会員による会員拡大活動補助。
1. 入会予定者により近い関係をもった会員に補助を依頼した。
2. 会員に入会対象者を紹介してもらった。
3. アポイント取り、企業訪問同行してもらった。

③ 会員拡大情報共有会の開催。
1. 会員拡大リストに上がっている入会予定者のより深い情報収集。
2. 会員拡大リストに上がっていない入会予定者の情報収集。

（弘前市総合学習センターで開催した。第 1 回 2 月 15 日金曜日 19 時～、第 2 回 6 月 13 日木曜日 19 時～、全 2 回）

④ 会員拡大 LINE

1. 入会予定者の情報を収集した。
2. オブザーブ、理事長面接、入会予定がある場合は投稿した。
3. 毎週金曜日に進捗状況を投稿。（進捗がない場合は投稿しない。）
4. リストにない入会予定者の情報をもらった。

⑤ 会員紹介ポイントの設立。

1. 紹介ポイント　1 点
2. 勧誘打ち合わせ同行　2 点
3. オブザーブポイント　3 点
4. 入会ポイント　5 点

10 月 20 日締めで 10 月末にポイントを集計し、1～3 位までを設け、11 月例会にて表彰・記念品の贈呈を行った。

参　加　人　員　：　現役会員　60 名
外 部 協 力 者　：　OB、津軽地域在住の方
ＳＤＧｓ番号　：　4.7、5.5、10.2、17.17

年間スケジュール

2018 年 11 月	：	前年度からの引継ぎ、調査・検討
12 月	：	前年度からの引継ぎ、調査・検討
2019 年　1 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
		31 日　第 1 回会員拡大情報共有会案内文メール配信
2 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
		15 日 19 時～　第 1 回会員拡大情報共有会開催
3 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
4 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
5 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
6 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
		8 日　第 2 回会員拡大情報共有会案内文メール配信
		13 日 19 時～　第 2 回会員拡大情報共有会開催
7 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
8 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
9 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
10 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有
11 月	：	会員拡大運動、情報精査・共有、次年度へ引き継ぎ
		5 日　新旧合同委員会開催
		7 日　11 月例会にて拡大報奨表彰

12 月　：　会員拡大運動、情報精査・共有、次年度へ引き継ぎ

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
特になし	特になし	特になし

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

【実現と成果・対外】

72 名に対し勧誘をおこない 9 名の入会となり、入会率は 12.5%であった。日本 JC が掲げる目標拡大率 36%（正会員数に対して）に満たなかった。また、目標の 30 名にも遠く及ばなかった。

弘前市内・近域の企業へ赴きそこの人と話すこと、オブザーブ対象者の裾を広げること（企業後継者に限定しない）によって、地域の未来に真剣に取り組む我々の姿勢や想いを伝え、それを理解してもらった。そして賛同していただいた企業様に入会していただいた。

また、外部の異業種交流会にて会員拡大活動をおこなった際には、新しく起業した人、我々の情報網外の対象者を見つけることができリストの拡充につなげ、新たな可能性を感じた。

しかしながら対象年齢者がいないこと、財務的、人手不足など様々な理由により、入会につなぐことのできた人数は少なかった。

以上のことにより、当事業の対外目的である、地域の未来に真剣に取り組む我々の姿勢や想いを伝え仲間を増やしていく、という目的は概ね達成できたと考える。

【実現と成果・対内】

情報共有会、例会において、拡大運動、拡大リストの重要性や危機感を持ってもらうことを周知し、会員への意識付けをできた。

以上のことにより、当事業の対内目的である、会員の減少という問題に、より一層危機感を持ち会員拡大すること、という目的は達成できたと考える。

次回への引継事項　：

・会員拡大は全体で動いていく、という意識付けを今後も継続していくことが必要である。

・拡大リストを目標人数の 6 倍の人数にするための取り組みを考える必要がある。（情報共有会の早期実施、紹介カード記載など）

・現役だけではリストの拡充は難しい。（大体同じ名前が出る）OB 訪問、異業種交流会、オブザーバーからの紹介など、情報量を増やすことが必要である。

・他の事業などで会員拡大が疎かになる時期があった。少しでも動ける人間に仕事をふるなどして、1 年間通して動き続けることが必要である。

・第 2 回情報共有会にて行った拡大セミナーの資料を添付しているので内容を熟読すること。

・拡大セミナーは引き続き継続し、会員への意識付けを根気よくおこなっていく必要がある。

・初めて紹介カードの取り組みをおこなったが、紹介してもらった人にどうアプロー

チしたか等の報告をしていなかった。報告する場を設けたり、メール配信等の取り組みをおこなうべきだった。
・紹介カードについて、ある程度のマニュアルを作成する必要がある。
・拡大ラインの発信を途中からストップしてしまった。1年通して継続していく必要がある。
・他の事業と並行して活動していくには限界がある。委員会という位置付けではなく、会員拡大室等の組織作りを考えてもいいかもしれない。
・拡大ポイントを試みたが、効果は特段得られなかった。来年は必要性を精査し、新たな取り組みを考案してみるといいと思う。
・拡大パンフレットは、事業内容や入会している起業をわかりやすく伝えることができる。今後も継続していったほうがいい。
・拡大は全体事業であると認識してはいたが、その手法をもっと精査すべきであった。理事者を巻き込み、そしてフロアメンバーにつなげていくことが必要であった。
・様々な人と話ができる、親交を深められるといった、拡大の面白さを伝えられるような場を、例会などで発信していくといいと思う。
・JCの面白さ、有用性をどう伝えるか、どう拡大に活かしていくかといった勉強会をおこなったほうがいい。

委員長所見：

会員拡大をするにあたって、まずは青年会議所ってなに？を説明するために、青年会議所というものに初めてしっかりと向き合いました。明るい豊かな社会の実現、奉仕、修練、友情。それらの意味を考え、理解することにより、青年会議所の活動を理解し、会員拡大へ役立てることができました。
我々の活動に共感を得てもらうのは難しいですが、地道に会員拡大を続けること、そして拡大の必要性を深く理解でき、気付き学びが多い1年でした。

決算	決算書
決算額：	¥32,349
（事業費）：	
（管理費）	¥32,349
予算総額	¥50,000

弘前まんじ札事業

● 委員会名 ： 会員拡大 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 工藤　靖史 ／ 大藪　貴雄 ／ 木村　歩

事業番号・区分 ： 公１　地域社会の健全な発展に寄与する事業
事　業　名 ： 弘前まんじ札事業
職　務　分　掌 ： まんじ札事業の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ： 当 LOM が復刻させ 8 年目を迎える本事業は、将来を担う子ども達や地域住民、訪れた観光客など幅広い層へ弘前の魅力を知ってもらう絶好のツールである。そのため今後とも継続していく必要がある。

意義・目的（対外） ： まんじ札を通じ、店舗・施設を訪れた人と交流を図るとともに街歩きをしながら、まんじ札を収集することで弘前の魅力を発見することを目的とする。

意義・目的（対内） ： まんじ札を通じ、店舗・施設、弘前の魅力を新たに発見し、郷土愛を育むことを目的とする。

実　施　日　時　2019 年 7 月 22 日（月）～8 月 23 日（金）
実施場所・会場　市内各所に設けた弘前まんじ札配布場所
事業の対象者
対　外 ： 一般市民
対　内 ： 会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：

〈事業内容〉
・弘前の様々な店舗・施設に弘前まんじ札を配布。
・参加店舗・施設マップを公共の場、施設に設置。
・参加店舗・施設マップを見ながら弘前まんじ札を探し、収集。
・すべて集めると先着 100 名に収集キットプレゼント。

〈札のデザイン〉
【表面】札表面は従来通りの弘前まんじ札とした。
【裏面】札裏面は弘前の歴史カルタとした。（弘前市立博物館の年表参考、学芸員　三上幸子様より使用許可確認済）
【寸法】横 50×縦 150（mm）
【デザイン】参加店舗・施設に作成してもらった。

〈達成キットのデザイン〉
まんじ札の裏面カルタ部分に対応した読み札セットを配布した。

（100 セットを超えた場合は読み札部分を印刷して渡す）

〈配布方法〉
弘前駅前～土手町～市役所周辺エリアとし、計 40 箇所の店舗・施設へ弘前まんじ札を配布。
まんじ札を 2 回に分けて配布した。（実施中の店舗や参加者の様子の調査）
実施前に一次配布、8 月 5～9 日に二次配布。

〈参加店舗・施設の選定〉
エリアが広すぎると参加児童に危険が及ぶため、今回は弘前駅前～土手町～市役所周辺エリアとした。
上記エリアの過去参加店舗へ募集をかけた。

〈参加料金〉
各店舗 10,000 円、施設は無料。

〈PR 方法〉
ポスター、チラシ、当会 HP、各種メディア、プレスリリース

〈ポスター、チラシの PR 内容〉
弘前まんじ札のもらい方を記載した。（こんにちは！まんじ札ください！）

〈ポスター掲示、チラシ配布場所〉
・弘前市内の公的施設（役所、学校）
・弘前商工会議所
・弘前観光コンベンション協会
・宿泊施設

〈事後アンケートの店舗への配布〉
参加者向けの事後アンケートを事業終了後に各店舗へ配布した。

参加人員	：	弘前市民及び観光客
外部協力者	：	弘前市内各店舗、弘前市内各施設、各種メディア
ＳＤＧｓ番号	：	4.7　8.9　17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年	3 月	：	企画・準備
	4 月	：	店舗・施設調査、部分審議（参加店舗募集案内・募集要項）
	5 月	：	店舗・施設調査、札裏面の作成、参加店舗募集（5 月 10 日までに配布）、追加募集（5 月 17 日までに配布）
	6 月	：	参加店舗選定、札表面の作成・広報活動
	7 月	：	3 日～8 日　各店舗・施設へ札校正確認作業

10 日　チラシ、ポスター完成、各小学校、店舗、施設への振り分け作業
11 日　プレスリリース
11 日　教育委員会へ各小学校へのポスター、チラシ配布
12 日　附属小学校へポスター、チラシ配布
12 日～16 日　チラシ、ポスター配布
17 日　記者会見
18 日　まんじ札、達成キット完成
19 日～20 日　まんじ札納品＆集金
22 日　弘前まんじ札事業実施
8 月　：　5 日～6 日　まんじ札第二次納品 200 枚
23 日　弘前まんじ札事業終了
9 月　：　2 日～6 日　お礼状お届け（手渡し）
10 月　：　1 日～7 日　参加店舗、収集者アンケートをお届け（手渡し、FAX、メール送付）

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
特になし　特になし	特になし	

事　業　概　要

事業目的の実現と成果　：

【実現と成果・対外】
収集者アンケートから抜粋すると、新しいお店を発見できた、街並みが変わっていることに気づいた、などの意見をいただいた。設問 6【配布先店舗で買い物、食事をしましたか？】の部分では 7 割以上が買い物、食事をしていた。設問 3【どうやって集めましたか？】の部分では徒歩、自転車は 3 割、車での移動（一部徒歩自転車含む）が 7 割である。

店舗側からは、宣伝・販促になる、弘前の周知ツールとなる、子どものためになる、コミュニケーションツールとなるといった好意的な意見から、内容に変化がない、来年以降参加したくないといった厳しい意見もいただいた。しかしながら 8 割以上は来年以降も参加したいとの声をいただいている。
また、エリアによっても感じ方が違い、駅前エリアではねぷた運行期間はやらないでほしいといった意見があったが、土手町エリアでは同期間にやりたいという意見があった。設問 5【収集にこられた方のマナーはいかがでしたか？】の部分では、良いが 8 割、普通が 1 割、悪い 0.3 割と、昨年一昨年に比べマナー向上が見受けられた。今回のマナー啓発文の掲示が功を奏したと思われる。

以上のことから、まんじ札を通じ、店舗・施設を訪れた人と交流を図るとともに街歩きをしながら、まんじ札を収集することで弘前の魅力を発見すること、という目的は概ね達成できた。
しかしながら現在の子どもに対する防犯的問題、事故防止の点から車での移動が多く、街歩きという部分の目的は名状しがたい結果となった。

【実現と成果・対内】
企画・打ち合わせ・事業実施中に店舗・施設・収集者と触れ合い、まんじ札への想いやこだわりを見聞きすることにより見聞を広げられた。また、まんじ札の裏面と達成キットの企画段階で弘前の歴史を調査した際には、知っているようで知らないことが多々あり、郷土弘前の歴史の深さ、また魅力を多数発見した。

以上のことから、まんじ札を通じ、店舗・施設、弘前の魅力を新たに発見し、郷土愛を育むこと、という目的は達成したと考える。

【事業継続の検証】
例年参加している一部の店舗からは、事業内容に変化がないことに不満を持っている店舗がある。もちろん好意的な店舗もあるが、継続するとしたらこれでまでの引き継ぎ事項をもう一度精査し、事業内容をゼロベースから見直す必要があると思われる。
また昨今の物価の上昇から、現在の予算額では継続が難しいと思われる。参加店舗を増やす、エリアの拡大、市からの補助、協賛金など様々な方法で予算額を拡充させることが必要である。
収集者にとっては概ね好評であるが、マンパワー、予算など必要な事業であるので厳しいようであれば、他団体・企業などに事業の受け皿となってもらうことも考えていくことが必要である。

・上記【事業継続の検証】でも述べているが、事業内容、実施店舗数、エリア、予算、担当メンバーなどしっかりと精査したほうがいい。
・まんじ札事業のタイムスケジュールをしっかりと委員会で共有し、参加店舗様や印刷までの段取りを明確にした方が良い。
・ポスター・チラシに記載する店舗側の配布時間の部分を営業時間で記載するのではなく、希望配布時間をリサーチし記載したほうが良い。
・例年 8 月 7 日は事務局員が法事のため、事務局休業となる。その旨を収集者に告知するか、または委員会メンバーでフォローするような体制が必要である。
・達成記念品の内容は収集者のアンケートを精査する。特に子どもの視点は気づきがある。

次回への引継事項　：　・達成記念品は 150 セットほどに増やし、達成意欲を促すことも大事かと思われる。
・達成記念品を子どものみとし、大人には粗品程度のものを渡すような取り組みでもいいと思う。
・店舗側からのアンケートを全店からもらえなかった。全店からもらえるような取り組みを考える必要がある。
・今回、早期札切れを防ぐため 2 回に分けて札を納品したが店舗、収集者ともに二度手間となるような感じ方をしていた。別の手法を考えるべきであった。
・大人へのマナー啓発の取り組みを継続していったほうが良い。
・車での移動が多いため、積極的に、自然に街歩きができる取り組みを考えていく必要がある。

委　員　長　所　見　：　収集者へのまんじ札コンプリート特典の受け渡しをおこない、生の声を聞いてみたと

ころ、あのお店が良かった、挨拶できたなど、今回の事業に大変喜んでくれていた。また配布店舗に所用で訪問していた際に収集者が居合わせ、お店側とのコミュニケーション・お店での購入を見る機会があった。地域と人との交流、活性化の一助となっていると感じた。
今回、昨年以前の引き継ぎ事項を参照し、事業内容に変化をつけるため委員会内でいろいろな案を考案した。（マナー啓発、札の分割納品、達成キット）それぞれ結果の良し悪しはあったが、改めて事業をコントロールすることの難しさを学んだ。来年以降は大規模なリニューアルなどを考えてもいいのかもしれない。
私自身は昭和のまんじ札を集めたことはないが、事業に関わり、そして収集者、参加店舗と関わり、学びや気づきを多く感じることができ事業への愛が深まった。

決　　算	決算書
決　算　額	¥378,864
（事業費）	¥378,864
（管理費）	
予算総額	¥380,000

卒業式

● 委員会名 ： 会員拡大 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 工藤　靖史 / 大藪　貴雄 / 木村　歩

事業番号・区分	：	なし
事業名	：	卒業式
職務分掌	：	卒業式の企画・運営

事業要項

事業実施に至る背景	：	地域の発展へご尽力されてきた卒業生の今後のさらなるご活躍を願い、祝う場をもうける必要がある。
意義・目的（対外）	：	特別会員や OB の方々など皆様に卒業生の新たな門出を共に祝って頂くことを目的とする。
意義・目的（対内）	：	卒業生には心に残る卒業式を過ごしてもらうことを目的とする。また現役会員には卒業生を気持ちよく送り出す場とすることを目的とする。
実施日時	：	2018 年 12 月 2 日(月)19：00～21：21（18：30～受付）
実施場所・会場	：	RAGLEY（ラグリー）青森県弘前市野田 1-4-1
事業の対象者		
対外	：	特別会員、OB 会員
対内	：	会員

事業概要

事業内容および手法説明	：	【概要】 櫛引　英揮君、福井　啓之君、福島　英一君、前田　完治君、八木橋　直子君、山内　尚美君 上記の卒業を迎える 6 名の会員の為に、2019 年度（公社）弘前青年会議所卒業式を企画・運営した。 会費：10,000 円 【事業内容】 ・卒業生の門出を祝い、今後の新しい舞台へ送り出した。 ・現役と特別会員、OB 会員との交流の場とした。
参加人員	：	卒業生 6 名　特別会員 19 名　現役会員 43 名　計　68 名
外部協力者	：	なし
ＳＤＧｓ番号	：	17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年　6 月	：	企画・準備・会場予約・開催日決定
7 月	：	企画・準備

8 月	：	企画・準備
9 月	：	企画・準備・（動画・現役余興・卒業生食事・卒業生余興打ち合わせ・卒業証書準備・案内文発送先精査・記念品）
10 月	：	企画・準備・案内文発送（22 日以降）、色紙事前記入準備（22 日以降）
11 月	：	企画・準備（色紙の準備・花束発注・記念品発注・OB 会長乾杯挨拶依頼） 14 日　出欠確認
12 月 2 日	：	実施

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
16：00	委員会メンバー集合	会場設営開始
	卒業生集合	入場リハーサル、余興リハーサル
17：00	卒業生会食	
18：30	受付開始	受付担当（総務委員会三浦　聖吾君、吉川　裕之君、事務局員
18：50	卒業生　入場準備	赤平　智子）
		映像担当（木村　歩君、石戸谷　春菜君）入場指示・タイムキ
19：00	開会	ーパー担当準備（葛西　晋君、齋藤　雄太君、工藤　靖史君）
19：02	卒業生入場	司会担当（猪股　裕一君）
19：08	理事長挨拶	弘前青年会議所理事長　秋元　駿一君
19：13	乾杯挨拶	弘前青年会議所ＯＢ　須藤　浩一先輩
19：16	歓談	
19：40	卒業生余興準備	
19：48	卒業生余興	
20：00	歓談	
20：15	報告依頼事項	専務理事　櫛引　英揮君
20：20	卒業証書授与	卒業証書
20：53	送辞	次年度理事候補者　比内　理佑君
21：02	答辞	卒業生からの記念品贈呈
21：08	記念撮影	
21：10	若い我ら　合唱	
21：15	中締め	直前理事長　須藤　立也君
21：19	卒業生退場	
21：21	閉会	

事　業　概　要	
事業目的の実現と成果	【実現と成果・対外】 昨年よりたくさんの特別会員の方に出席いただく事ができました。歓談中も現役会員との交流がしっかりでき、二次会にも数名参加していただいた。 以上のことから今回の意義・目的である「特別会員や OB の方々など皆様に卒業生の新たな門出を共に祝って頂くこと」は達成できたと言えます。 【実現と成果・対内】 卒業式を通して同じ時間を過ごし、卒業生と現役会員が様々な想いを伝え合うことができました。 以上のことから今回の意義・目的である「卒業生には心に残る卒業式を過ごしてもらうことを目的とし、また現役会員には卒業生を気持ちよく送り出す場とすること」は達成できたと言えます。
次回への引継事項	・会場予約を甘く考えており、当初の希望予定日に会場を押さえられなかった。6 月に予約依頼をしたが、さらに早く予約をするべきであった。 ・9 月から内容の精査をおこなったが、11 月初旬付近には現地でリハーサルに取り掛かれるよう、前倒しで準備していく必要があった。 ・卒業生と連絡を密に取り、卒業生余興、入場演出、卒業生の食事、現役への記念品などの内容は 11 月上旬にすべて決定しておくと余裕をもって準備できる。 ・卒業生から現役への記念品について、目録の依頼を失念しており当日アドリブで対応していただいた。確認を密に取るべきであった。 ・実施前週に海外へ行っていたため、最終チェックが疎かになった。余裕をもったスケジュール管理、または前週は動けるように調整するべきだった。 ・当日スケジュールに報告依頼事項があるが、これは今年のみの特例である。 ・当日リハーサルにて、スポットライトや音響、席次など、現場スタッフと確認することが多く段取りを早めに確認することが必要であった。 ・来年は 10 名の卒業生を予定している。余興や食事、現役からの記念品、卒業生からの記念品など、人数が増えるほど決まりづらいと思われる。今年よりもさらに前倒しで企画をし、担当委員会から卒業生へ確認の連絡を密にしたほうが良いと思われる。 ・特別会員のテーブルへ二次会の案内、卒業生紹介の紙を置いた。 ・当日の内容を SNS に掲載した先輩がいました。内容によっては掲載しないほうがいい場合がある。その場合は司会から一言アナウンスをするなど、対応が必要である。 ・卒業生の集合時間が早すぎた。その年の余興内容によって集合時間を調整する必要がある。 ・会食中～式終了後まで卒業生のアテンド不足であった。委員会の人手が足りないのであれば、前もって他の委員会メンバーに声がけをし対応をお願いするべきであった。主役は卒業生というのをしっかりと自覚し、気を配る必要があった。 ・現役メンバーの集合時間を早め、リハーサル終了後に全体ミーティングをおこなうべきであった。 ・受付で OB の席次案内がもたつくことがあった。OB の席次は卓単位ではなく席単位まで決定し、当日に望むべきであった。

委員長所見：

・色紙の記載で、書けなかったメンバーが多くいた。事前に声がけ、ライン、メール等の方法でアナウンスをおこない準備するべきであった。
・卒業証書の内容によっては、順番を考えるべきであった。内容をしっかりと精査しより盛り上がるような式にすべきであった。
・全体的に準備不足であった。委員会内、他メンバーにもしっかりと周知、アナウンスをおこなう取り組みをするべきであった。
・OB から頂く花などの贈り物については、当日に必ず卒業生へ伝えるような取り組みが必要であった。

スケジュール管理が甘く、卒業生余興の決定が実施前日という結果であったが、卒業生とともに打ち合わせをし色々な話をすることによって、卒業生と懇親を深めることができた。当日卒業生の余興を見たときに感動を覚え、これもひとつの思い出となった。しかしながら、全体的に準備不足であり、特に卒業生への配慮、気配りが足りていない内容であった。申し訳ございません。

今後卒業式の運営にかかわることがあれば、今回の経験を活かしさらに素晴らしい卒業式ができるという自信が生まれました。自身の成長を感じることができるとても良い卒業式でした。

決　　算	決算書
決　算　額	¥51,510
（事業費）	
（管理費）	¥51,510
予算総額	¥50,000

太田市新田商工会青年部　来弘事業

● 委員会名 ： 会員拡大 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 工藤　靖史 ／ 大藪　貴雄 ／ 木村　歩

事　業　概　要

事　　業　　名　　太田市新田商工会青年部　来弘事業
参　加　人　員　：　11 名
外 部 協 力 者　：　太田市新田商工会青年部

事業実施までのスケジュール

2019 年　4 月　：　太田市新田商工会青年部の交流担当者と打ち合わせ
5 月　　太田市新田商工会青年部の交流担当者と打ち合わせ
6 月　：　太田市新田商工会青年部の交流担当者と打ち合わせ
7 月　　メンバー案内文送信　取り纏め
8 月　　1 日（木）太田市新田商工会青年部来弘、弘前観光、ねぷた祭り参加
2 日（金）お見送り

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
	8 月 1 日(木)	
10:45	黒石 IC　お出迎え準備	
11:00	黒石 IC　お出迎え	記念撮影、出迎え幕
11:40	長勝寺参拝	参拝、住職による解説、歴史話
12:40	昼食　東家	

弘前市市長表敬訪問組
副理事長　工藤　靖史
常任理事　大藪　貴雄
直前理事長　須藤　立也

13:10　出発
13:30　弘前市市長表敬訪問
14:30　弘前商工会議所会頭訪問
15:00　塩谷太鼓店
15:30　下新町ねぷた小屋訪問
15:50　茂森新町ねぷた小屋訪問

他メンバー

13:50　出発
14:00　スマイルホテル弘前到着、荷物預け
14:20　ねぷた村観光（希望者のみ、他自由行動）
15:50　スマイルホテル着

19:00　ホテルロビー集合

19:20	出陣場所合流	飲食（弁当、ジュース、ノンアルコール）
21:00	強情張大太鼓出陣	出陣前記念撮影
22:20	太田市メンバー　ホテル帰還	着替え
22:40	懇親会　トパーズ	
23:50	二次会　with、蘭々、ふぁ～すと	3 組に分散

8 月 2 日（金）

8:45	ホテルロビー集合	
9:00	ホテル出発	
9:20	サンフェスタいしかわ	お土産購入
10:00	大鰐弘前 IC　お見送り	記念撮影

事　業　概　要

次回への引継事項　：

・直前まで役割分担（どこまで委員会が担当するのかなど）が不明瞭であった

・案内文作成、スケジュール精査、予算組み、ホテルの土産、昼食、懇親会会場、待機場所での食事手配を 7 月上旬から着手し準備が遅かった。

・直前にお土産の準備、待機場所での飲食物の変更があった。準備不足であった。

・当日黒石 IC ではなく、大鰐・弘前 IC へ出迎えに行くメンバーがいた。出迎え場所の周知を促す必要がある。

・ねぷた小屋訪問（下新町、茂森新町）の件、事前に場所を確認しておくべきだった。

・強情張大太鼓待機場所にて、ブルーシートを広げてのもてなしができなかった。（市の担当から拒否された）そのため太田市メンバーの扱いが雑（暗い場所で地べたに座ってのの飲食、もてなし不足、弘前メンバーとの交流不足）になったように見受けられる。桟敷席の確保、またはねぷたを見ながら飲食できるスペースや店舗の確保は必須と思われた。

・来年は、渉外委員会、または渉外のポジションを作り、審議案件とて取り扱うべきである。

委　員　長　所　見　：

太田市新田商工会のメンバーと一日を通して行動することにより、交流を深めることができ、太田市メンバーのねぷたへの愛情・熱が深く感じられ、弘前市の誇りを感じることができた。

全体的に楽しく、そして気づきもある事業であったと思う。おもてなしの難しさ、重要性、必要性を学ぶことができた。

太田市新田商工会青年部　訪問事業

● 委員会名 ： 会員拡大 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 工藤　靖史 ／ 大藪　貴雄 ／ 木村　歩

事　業　概　要

事　　業　　名　　太田市新田商工会青年部　訪問事業
参　加　人　員　：　11 名
外 部 協 力 者　：　太田市新田商工会青年部

事業実施までのスケジュール

2019 年　5 月　：　太田市新田商工会青年部の交流担当者と打ち合わせ
6 月　：　太田市新田商工会青年部の交流担当者と打ち合わせ
7 月　　メンバー案内文送信　取り纏め
8 月　　14 日(水)太田市訪問　尾島ねぷた参加
15 日(木)東楊寺お墓参り
26 日(月)お礼状送付

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
	8 月 14 日(水)	
6:30	事務局集合、出発	乗り合い
7:30	新青森駅到着	
7:43	新青森発	
10:38	大宮着　乗り換え	
10:51	大宮発	
11:12	久喜着　乗り換え	
11:33	久喜発	
12:10	太田着	太田市新田商工会青年部様と合流
12:25	昼食	そば処「斜里」太田店

太田市市長表敬訪問組
理事長　秋元　駿一
副理事長　大湯　幸世
副理事長　工藤　靖史
13:30　出発
14:30　太田市市長表敬訪問
15:20　ホテル到着

他メンバー
13:30　出発
14:00　やぶづか温泉ホテルふせじま
15:30　ホテル到着

16:00	ホテル出発	
16:30	尾島ねぷたまつり会場到着	
17:00	尾島ねぷたまつり出陣式参加	
18:00	尾島ねぷたまつり運行参加	
22:10	ねぷた会場より移動	
22:30	懇親会　東陽軒	
0:20	2 次会　鬼りゅう	
2:00	解散　自由行動	

8 月 15 日（木）

9:00	ホテル出発	
9:30	東楊寺お墓参り	
10:15	喜多方ラーメン	大盛チャーハン＋ラーメン
11:20	道の駅おおた	お土産購入
12:10	熊谷駅着	
13:05	熊谷発	
13:42	大宮着	お土産購入
14:46	大宮発	
17:29	新青森着	
18:40	事務局着　解散	

事　業　概　要

・直前まで役割分担について確認不足であった。事前に確認しておけばさらにスムーズに進行できた。

・案内文作成、スケジュール精査、交通手段の確保を 7 月上旬から着手し準備が遅かった。

・直前に交通機関の変更、会費、お祝い金、お土産、出陣祝の話が出て混乱した。昨年資料の確認、専務との打ち合わせ不足であった。

・出発日、事務局に 6 時半集合でアナウンスをしたが、新青森着が新幹線出発ぎりぎりであったため、もう 15 分は早く集合すべきであった。

次回への引継事項　：

・昨年までは太田駅ではなく、熊谷駅着で送迎をしてもらう流れであった。来年以降も電車を使うのであれば熊谷駅着にしたほうが良い。

・ねぷたから懇親会への移動で、着替えの準備ができなかったメンバーがいた。尾島ねぷたの流れを把握し、現地への荷物準備を告知できるようにすべきであった。（ねぷた出陣から懇親会・二次会まで、着替え・シャワーの時間はなし）

・会場～ホテルまで距離があるので、来年以降はホテルの変更や、会場近辺の温泉などで懇親会への準備をできるような取り組みを考えるべきである。

・来年以降は持参するお土産やお祝い金などを今回の報告書を参考に三役で精査していただければと思います。

委　員　長　所　見　：

尾島ねぷたを体験し、弘前とは違ったまつりの勇猛さ、一体感、自由な開放感といった、新たな発見や気付き、学びを得ることができた。また、太田市新田商工会青年部の方から見る弘前ねぷたへの憧れ、想いを聞くことにより、郷土弘前のねぷたへの愛

が深まった。来年以降は太田市の魅力をアピールし、未参加のメンバーに参加を促したい。

公益社団法人弘前青年会議所　第 101 回通常総会

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分　:　なし
事　業　名　:　公益社団法人弘前青年会議所　第 101 回通常総会
職務分掌　:　理事会の運営・各種会議運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景（各種会議運営）	:	LOM の運営には理事会及び臨時理事会による業務執行の決定と、通常総会及び臨時総会における決議が必要不可欠であり、法令及び定款や諸規定に則り各種会議を運営する必要があります。
事業実施に至る背景（第 101 回通常総会）	:	事業年度終了後の総会において事業報告と決算の承認決議が必要とされ、また、1 月通常総会終了をもって役員候補者が正式に本 LOM の役員となり、その後最初に開催される理事会において理事長、副理事長、専務理事が決定するため、開催する必要がある。
意義・目的（対内）（各種会議運営）	:	各種会議の開催目的を明確にし、法令及び定款や諸規定に則り運営し、会議内容が正確に共有されることを目的とする。
意義・目的（対内）（第 101 回通常総会）	:	2018 年度の事業報告及び決算を決議し、2019 年度の事業計画及び予算案を会員に報告周知すると共に、役員候補者が正式に役員に就任し、新年度が本格的にスタートする節目の総会として、確実な運営を行うことを目的とする。
実施日時	:	平成 31 年 1 月 11 日（金）　19:00 ～ 20:10
実施場所・会場	:	ホテルニューキャッスル　松の間
事業の対象者		
対内	:	会員、オブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明	:	①　下記の 2 議案他について決議を諮る ・公益社団法人弘前青年会議所 2018 年度事業報告書（案） →満場一致可決 ・公益社団法人弘前青年会議所 2018 年度正味財産増減計算書（案） →満場一致可決 ②　下記の 2 件他について報告を行う ・公益社団法人弘前青年会議所 2019 年度事業計画（案）について ・公益社団法人弘前青年会議所 2019 年度正味財産増減計算書（予算書）について
参加人数	:	正会員全 47 名中　出席者 27 名　欠席者 9 名　有効委任状 11 通 賛助会員 2 名中　出席者 0 名 オブザーバー　山形　香名子　氏
外部協力者	:	なし

ＳＤＧｓ番号　：　5.5　17.17

事業実施までのスケジュール

2018年12月	：	17日　案内文送付
		23日　監事監査
		25日　第1回臨時理事候補者会議 出欠及び委任状の確認
2019年 1月		4日　総会資料事前通知
		11日　第101回通常総会の開催運営

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
17:30	会場集合・会場設営・打合せ	
18:00	リハーサル	
18:30	開場　受付開始	
19:00	開会	三浦　聖吾　君（司会）
19:00	1. 開会宣言	工藤　靖史　君
19:01	2. 国歌斉唱	
19:02	3. JCソング斉唱	
19:03	4. JCIクリード唱和	三上　優香　君
19:04	5. JCI MISSON並びにJCI VISION唱和	木村　　歩　君
19:05	6. JC宣言文朗読並びに綱領唱和	下山　千嘉　君
19:06	7. 東北JC宣言唱和	大場　一巧　君
19:07	8. 2018年度理事長挨拶	須藤　立也　君
19:12	9. 2018年度理事長への感謝状贈呈	秋元　駿一　君
19:14	10. プレジデンシャルリース伝達式	
19:17	11. 2019年度理事候補者挨拶	秋元　駿一　君
19:22	12. オブザーバー紹介及び新加入会員認証式 （2019年度会員拡大委員会）	
19:24	13. 2018年度アテンダンスポイント表彰 （2018年度一人称総務委員会）	
19:33	14. 議長選出	須藤　立也　君
19:34	15. 定足数の確認	村上　英里　君
19:34	16. 議事録作成人並びに議事録署名人の指名	
19:35	17. 配布資料の確認	
19:35	18. 2018年度 監査報告	大湯　幸世　君
19:36	19. 議事	
	【審議事項】	
19:36	第1号議案	〈説明〉
	公益社団法人弘前青年会議所　2018 年度事業報告書(案)承認に関する件	2018年度事務局長 成田　志穂　君

19:46		第 2 号議案 公益社団法人弘前青年会議所　2018 年度正味財産増減計算書、貸借対照表、財政目録（案）承認に関する件	
19:50	20.	報告依頼事項	〈説明〉
19:50		1. 公益社団法人　弘前青年会議所　2019 年度事業計画について	2019 年度理事候補者 櫛引　英揮　君
19:54		2. 公益社団法人　弘前青年会議所　2019 年度正味財産増減計算書（予算書）について 3. その他	
20:03	21.	監事講評	三國　典央　君
20:10	22.	閉会宣言	大湯　幸世　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果	:	2018 年度の事業報告および決算報告を行い、メンバーに承認を頂き、2018 年度を締めくくり、新たな 2019 年度のスタートが切れました。
次回への引継事項	:	・役割分担のお願いを当日に行ったため準備に時間を要し、セレモニーのリハーサルを行う時間を取れなかった。会場の設営を早めの 17 時頃から行い、理事者への役割分担や席移動の段取りを十分に把握し事前に伝え、リハーサルの時間を確保する。 ・事前に決めた各担当が当日急遽に欠席になった場合、委員会内で臨機応変に対応する。 ・遅参した会員がいたので、審議時の定足数が変更になっている可能性がある。人数が変更になった場合は審議時に再度定足数の確認をするよう議長とも打ち合わせをするか、司会台本に記載したほうが良い。 ・司会は台本通りだけではなく、臨機応変に対応する。また、写真撮影の場面も把握しておく。
委員長所見	:	準備に時間がかかり、理事者席の移動やセレモニーのリハーサルが出来ず焦ってしまいました。司会の進行も写真撮影する場面を把握しておくべきでした。余裕をもって臨めるよう早めの準備と進行の把握を徹底するよう心がけます。

決　　算　　決算書

決算額	:	¥10,000
（事業費）	:	
（管理費）	:	¥10,000
予算総額	:	¥80,000

公益社団法人弘前青年会議所　2019 年度　第 1 回臨時総会

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分	:	なし
事業名	:	公益社団法人弘前青年会議所　第 1 回臨時総会
職務分掌	:	理事会の運営・各種会議運営

事業要項

事業実施に至る背景（各種会議運営）	:	LOM の運営には理事会及び臨時理事会による業務執行の決定と、通常総会及び臨時総会における決議が必要不可欠であり、法令及び定款や諸規定に則り各種会議を運営する必要があります。
事業実施に至る背景（第 1 回臨時総会）	:	一般社団法人松本青年会議所と公益社団法人弘前青年会議所の協定について決議する必要がある。
意義・目的（対内）（各種会議運営）	:	各種会議の開催目的を明確にし、法令及び定款や諸規定に則り運営し、会議内容が正確に共有されることを目的とする。
意義・目的（対内）（第 1 回臨時総会）	:	一般社団法人松本青年会議所と今後も友好的に交流を続けていくために協定の決議を行うことを目的とする。
実施日時	:	2019 年 6 月 7 日（金）18：40～19:00
実施場所・会場	:	弘前パークホテル　4 階　ラ・メェラ
事業の対象者		
対内	:	会員

事業概要

事業内容および手法説明	:	下記の 1 議案他について決議を諮る ・松本 JC・弘前 JC けやぐ協定書（案）について 　→満場一致可決承認
参加人員	:	正会員全 53 名中　出席者 36 名　欠席者 17 名　有効委任状 14 通 賛助会員 4 名中　出席者 2 名 オブザーバー　なし
外部協力者	:	なし
ＳＤＧｓ番号	:	5.5　17.17

事業実施までのスケジュール

2019年5月　：　23日　案内文、委任状、総会資料送付
6月　：　7日　第1回臨時総会の開催運営

当日スケジュール

時間	項目	備考
17:00	会場集合・会場設営・打合せ	
17:30	リハーサル	
18:00	開場　受付開始	
18:33	一般社団法人むつ青年会議所　60周年PRタイム	
18:40	開会	司会　石岡和仁　君
18:40	1. 開会宣言	工藤靖史　君
18:41	2. 国歌斉唱	
18:42	3. JCソング斉唱	
18:43	4. JCIクリード唱和	太田脩晧　君
18:44	5. JCI MISSION並びにJCI VISION唱和	下山千嘉　君
18:45	6. JC宣言文朗読並びに綱領唱和	三浦聖吾　君
18:46	7. 東北JC宣言唱和	大場一巧　君
18:47	8. 理事長挨拶	秋元駿一　君
18:51	9. オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式	割愛（6月例会にて実施）
18:51	10. 専務理事報告	割愛（6月例会にて実施）
18:51	11. 議長選出	秋元駿一　君
18:52	12. 定足数の確認	石岡和仁　君
18:52	13. 議事録作成人並びに議事録署名人の指名	
18:53	14. 配布資料の確認	
18:53	15. 議事	
	【審議事項】	
18:55	第1号議案	〈説明〉
	松本JC・弘前JCけやぐ協定（案）に関する件	秋元駿一　君
19:00	16. 監事講評	不在のため割愛
19:00	17. 閉会宣言	前田完治　君

事業概要

事業目的の実現と成果　：　松本JC・弘前JCけやぐ協定をメンバーに承認頂き、一般社団法人松本青年会議所と当LOMとの交流を今後とも友好的に行う事ができる。

次回への引継事項　：
・総会次第のフォントや番号の記載に誤りがあったため、再度慎重に精査する。
・遅参の会員も居るので、定足数の確認を人数が変更になった場合は審議時に再度定足数の確認をするよう議長と司会者にも事前に打ち合わせをする。
・議長用のマイクが不足していたため、事前に追加するか司会者側のマイクを使用する等行った方が良い。

委員長所見：	・セレモニーのリハーサルが出来ず直前で慌ただしくなってしまった。前日までに役割を決めておく。 皆様のご協力のお陰で予定時間内に滞りなく終了出来ました事を感謝致します。前回の反省を踏まえ準備の時間を長く設けましたが、セレモニー担当者を開会直前に決定してしまいリハーサルが出来なかったことが反省点です。準備と開催のイメージを強く想像しつつ、今後の総会準備に努めて参ります。

決算	決算書
決算額：	¥0
（事業費）：	
（管理費）：	¥0
予算総額：	¥85,000

公益社団法人弘前青年会議所　2019 年度　第 2 回臨時総会

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分　:　なし
事　業　名　:　公益社団法人弘前青年会議所　第 2 回臨時総会
職　務　分　掌　:　理事会の運営・各種会議運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景（各種会議運営）	:	LOM の運営には理事会及び臨時理事会による業務執行の決定と、通常総会及び臨時総会における決議が必要不可欠であり、法令及び定款や諸規定に則り各種会議を運営する必要があります。
事業実施に至る背景（第 2 回臨時総会）	:	2020 年度の理事候補者の決議を諮り、8 月に行われる通常総会を前に理事候補者について決議する必要がある。
意義・目的（対内）（各種会議運営）	:	各種会議の開催目的を明確にし、法令及び定款や諸規定に則り運営し、会議内容が正確に共有されることを目的とする。
意義・目的（対内）（第 1 回臨時総会）	:	2020 年度理事候補者について決議を行うことを目的とする。
実施日時	:	2019 年 7 月 8 日（月）18：22～18:54
実施場所・会場	:	土手町コミュニティパーク
事業の対象者		
対内	:	会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明　:

下記の 10 議案他について決議を諮る

第 1 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
下山千嘉　君
→満場一致可決承認

第 2 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
成田陽光　君
→満場一致可決承認

第 3 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
工藤正貴　君
→満場一致可決承認

第 4 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
大場一巧　君
→満場一致可決承認

第 5 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
小山田允紀　君
→満場一致可決承認
第 6 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
菊池勲　君
→満場一致可決承認
第 7 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
白石将一　君
→満場一致可決承認
第 8 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
野村太郎　君
→満場一致可決承認
第 9 号議案　2020 年度理事候補者選任（案に関する件
比内理佑　君）
→満場一致可決承認
第 10 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
大湯幸世　君
→満場一致可決承認

参　加　人　員　：　正会員全 53 名中　出席者 36 名　欠席者 17 名　有効委任状 12 通
賛助会員 4 名中　出席者 2 名
オブザーバー　小田桐正和　様
外部協力者　：　なし
ＳＤＧｓ番号　：　5.5　17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年 6 月　：　21 日　案内文、委任状、総会資料送付
7 月　：　8 日　第 2 回臨時総会の開催運営

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
17:00	会場集合・会場設営・打合せ	
17:30	開場　受付開始	司会　三浦聖吾　君
18:22	開会	
18:22	1. 開会宣言	前田完治　君
18:23	2. 国歌斉唱	
18:24	3. JC ソング斉唱	
18:25	4. JCI クリード唱和	中村浩樹　君
18:26	5. JCI MISSION 並びに JCI VISION 唱和	竹内博之　君
18:27	6. JC 宣言文朗読並びに綱領唱和	石山瑠衣　君
18:28	7. 東北 JC 宣言唱和	今井和之　君

18:30	8. 理事長挨拶	秋元駿一　君
18:32	9. オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式	割愛（6 月例会にて実施）
	10. 専務理事報告	割愛（6 月例会にて実施）
18:34	11. 議長選出	秋元駿一　君
18:35	12. 定足数の確認	三浦聖吾　君
18:35	13. 議事録作成人並びに議事録署名人の指名	総務委員会
18:36	14. 配布資料の確認	
18:37	15. 議事	〈説明〉
	【審議事項】	秋元駿一　君
18:37	第 1 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 下山千嘉　君	
18:38	第 2 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 成田陽光　君	
18:39	第 3 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 工藤正貴　君	
18:40	第 4 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 大場一巧　君	
18:41	第 5 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 小山田允紀　君	
18:42	第 6 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 菊池勲　君	
18:43	第 7 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 白石将一　君	
18:44	第 8 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 野村太郎　君	
18:45	第 9 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 比内理佑　君	
18:46	第 10 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 大湯幸世　君	
	その他	
18:50	16. 監事講評	三國典央　君
18:54	17. 閉会宣言	小山田允紀　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果	:	2020 年度理事候補者の決議を諮る総会を運営し、会員の総意を得ることができた。
次回への引継事項	:	・開催時間が遅れている時はアナウンスをかける。 ・議長用のマイクが不足していたため、事前に追加するか司会者側のマイクを使用する等臨機応変に行った方が良い。
委員長所見	:	臨時理事会の終了時間の関係で開催時間が予定より遅れてしまいましたが、皆様のご協力の基、滞りなく開催できた事に感謝しております。2020 年度の理事候補者が承認され、弘前青年会議所次年度に向けて最初の歩みを進めることができました。

決　　算	決算書
決　　算　　額	¥3,000
（事業費）	
（管理費）	¥3,000
予算総額	¥85,000

公益社団法人弘前青年会議所　第 102 回通常総会

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分　:　なし
事　業　名　:　公益社団法人弘前青年会議所　第 102 回通常総会
職務分掌　:　理事会の運営・各種会議運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景（各種会議運営）	:	LOM の運営には理事会及び臨時理事会による業務執行の決定と、通常総会及び臨時総会における決議が必要不可欠であり、法令及び定款や諸規定に則り各種会議を運営する必要があります。
事業実施に至る背景（第 102 回通常総会）	:	公益社団法人弘前青年会議所定款第 4 章第 29 条 2 項により 8 月通常総会を行う必要があります。
意義・目的（対内）（各種会議運営）	:	各種会議の開催目的を明確にし、法令及び定款や諸規定に則り運営し、会議内容が正確に共有されることを目的とする。
意義・目的（対内）（第 102 回通常総会）	:	理事長候補者及び監事候補者選考委員会の選考経緯を踏まえ、2020 年度理事長候補者及び監事候補者を本総会において選出することを目的とする。
実施日時	:	2019 年 8 月 9 日（月）19：00～20:04
実施場所・会場	:	弘前プラザホテル
事業の対象者		
対内	:	会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明	:	下記の 2 議案について決議を諮る 第 1 号議案 公益社団法人弘前青年会議所　2020 年度理事長候補者選任（案）に関する件 比内理佑　君 →満場一致可決承認 第 2 号議案 公益社団法人弘前青年会議所　2020 年度監事候補者選任（案）に関する件 秋元駿一　君 →満場一致可決承認
参加人員	:	正会員全 56 名中　出席者 31 名　欠席者 25 名　有効委任状 18 通 賛助会員 4 名中　出席者 1 名 オブザーバー　なし

外部協力者　：　なし
ＳＤＧｓ番号　：　5.5　17.17

事業実施までのスケジュール

2019年7月　：　24日　案内文、委任状、総会資料送付
8月　：　9日　第2回臨時総会の開催運営

当日スケジュール

時間	項目	備考
17:30	会場集合・会場設営・打合せ	
18:00	リハーサル	
18:00	開場　受付開始	司会　三浦聖吾　君
19:00	開会	
19:00	1. 開会宣言	大湯幸世　君
19:01	2. 国歌斉唱	
19:03	3. JCソング斉唱	
19:04	4. JCIクリード唱和	三上祐介　君
19:05	5. JCI MISSION並びにJCI VISION唱和	白石将一　君
19:05	6. JC宣言文朗読並びに綱領唱和	鎌田祥吾　君
19:06	7. 東北JC宣言唱和	下山千嘉　君
19:07	8. 理事長挨拶	秋元駿一　君
19:19	9. オブザーバー紹介及び新加入会員認証式	新入会員1名
19:24	10. 議長選出	秋元駿一　君
19:25	11. 定足数の確認	三浦聖吾　君
19:25	12. 議事録作成人並びに議事録署名人の指名	吉川裕之　君 石岡　伸　君
19:26	13. 配布資料の確認	総務委員会
19:26	14. 理事長候補者選考委員会より報告	秋元駿一　君
19:29	15. 【審議事項】	〈説明〉
	第1号議案 公益社団法人弘前青年会議所　2020年度　理事長候補者選任(案)に関する件　比内理佑　君 →満場一致可決承認	秋元駿一　君
	第2号議案 公益社団法人弘前青年会議所　2020年度監事候補者選任(案)に関する件　秋元駿一　君 →満場一致可決承認	
19:42	16. 専務理事報告	
19:47	17. 報告依頼事項	
20:01	18. 監事講評	工藤順敬　君
20:04	19. 閉会宣言	小山田允紀　君

事　業　概　要		
事業目的の実現と成果	:	2020年度理事長候補者、監事候補者の決議を諮る総会を運営し、会員の総意を得ることができた。
次回への引継事項	:	・名前を呼び間違えてしまったので、間違いが無いように台本等にふりがなや記入を徹底する。 ・担当委員会の人数が少なかったため、懇親会会場へのアテンドが少し遅れてしまった。委員の参加促進や少人数でも各自役割の切り替えが早くできるようにする。
委員長所見	:	開催までに場所や時間の変更等があったが、皆様のご協力のお陰で滞りなく開催ができ、無事に2020年度理事長候補者、監事候補者を承認頂く事ができた。

決　　算		決算書
決算額	:	¥15,000
（事業費）	:	
（管理費）	:	¥15,000
予算総額	:	¥85,000

公益社団法人弘前青年会議所　2019 年度　第 3 回臨時総会

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分　:　なし
事　業　名　:　公益社団法人弘前青年会議所　第 3 回臨時総会
職　務　分　掌　:　理事会の運営・各種会議運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景（各種会議運営）	:	LOM の運営には理事会及び臨時理事会による業務執行の決定と、通常総会及び臨時総会における決議が必要不可欠であり、法令及び定款や諸規定に則り各種会議を運営する必要があります。
事業実施に至る背景（第 3 回臨時総会）	:	2020 年度理事候補者の決議を諮る必要がある。
意義・目的（対内）（各種会議運営）	:	各種会議の開催目的を明確にし、法令及び定款や諸規定に則り運営し、会議内容が正確に共有されることを目的とする。
意義・目的（対内）（第 3 回臨時総会）	:	2020 年度理事候補者について決議を行うことを目的とする。
実　施　日　時	:	2019 年 9 月 27 日（金曜）18：00～18:26
実施場所・会場	:	弘前プラザホテル　4 階　CRM
事業の対象者		
対　内	:	会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明　:

下記の 4 議案他について決議を諮る

第 1 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
吉川裕之　君
→満場一致可決承認

第 2 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
太田脩皓　君
→満場一致可決承認

第 3 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
中村浩樹　君
→満場一致可決承認

第 4 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
猪股裕一　君
→満場一致可決承認

		正会員全 55 名中　出席者 20 名　欠席者 35 名　有効委任状 23 通
参　加　人　員	：	賛助会員 4 名中　出席者 1 名
		オブザーバー　なし
外 部 協 力 者	：	なし
ＳＤＧｓ番号	：	5.5　17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年 9 月	：	19 日　案内文、委任状、総会資料送付
9 月	：	27 日　第 3 回臨時総会の開催運営

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
16:30	会場集合・会場設営・打合せ	
17:30	開場　受付開始	司会　三浦聖吾　君
18:00	開会	
18:00	1. 開会宣言	前田完治　君
18:01	2. 国歌斉唱	
18:02	3. JC ソング斉唱	
18:04	4. JCI クリード唱和	小田桐正和　君
18:05	5. JCI MISSION 並びに JCI VISION 唱和	新戸部大輝　君
18:05	6. JC 宣言文朗読並びに綱領唱和	野村太郎　君
18:06	7. 東北 JC 宣言唱和	今井和之　君
18:07	8. 理事長挨拶	秋元駿一　君
18:17	9. 議長選出	秋元駿一　君
18:18	10. 定足数の確認	三浦聖吾　君
18:18	11. 議事録作成人並びに議事録署名人の指名	総務委員会 新戸部大輝　君 三上優香　君
18:18	12. 配布資料の確認	〈説明〉
18:19	13. 議事	秋元駿一　君
	【審議事項】	
18:20	第 1 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 吉川裕之　君	
18:21	第 2 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 太田脩皓　君	
18:22	第 3 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 中村浩樹　君	
18:23	第 4 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 猪股裕一　君	
	14. 監事講評	不在のため割愛
18:26	15. 閉会宣言	大湯幸世　君

事　業　概　要		
事業目的の実現と成果	:	2020 年度理事候補者の決議を諮る総会を運営し、会員の承認を頂くことができた。
次回への引継事項	:	・マイクのハウリングが無いように確認する。 ・開催までのスケジュールが急で理事者向け、一般会員の方にも配慮した方がよい。 ・セレモニー担当車でネクタイを付けていない会員が居たため、登壇する会員の服装（ネクタイ・バッジ・ネームプレート）を確認する。
委員長所見	:	開催時刻が 18 時と通常より早く、また例会の日にちとは別日でスケジュールを調整して集まり頂いた会員に感謝いたしております。追加の 2020 年度理事候補者の承認を頂くことができました。次回の総会開催も滞りなく開催ができますよう努めて参ります。

決　　算		決算書
決算額	:	¥15,000
（事業費）	:	
（管理費）	:	¥15,000
予算総額	:	¥85,000

公益社団法人弘前青年会議所　2019 年度　第 4 回臨時総会

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分　:　なし
事　業　名　:　公益社団法人弘前青年会議所　第 4 回臨時総会
職　務　分　掌　:　理事会の運営・各種会議運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景（各種会議運営）	:	LOM の運営には理事会及び臨時理事会による業務執行の決定と、通常総会及び臨時総会における決議が必要不可欠であり、法令及び定款や諸規定に則り各種会議を運営する必要があります。
事業実施に至る背景（第 4 回臨時総会）	:	次年度組織の構築のため、選挙で選ばれた理事候補者の他に次年度理事候補者を選任する必要がある。
意義・目的（対内）（各種会議運営）	:	各種会議の開催目的を明確にし、法令及び定款や諸規定に則り運営し、会議内容が正確に共有されることを目的とする。
意義・目的（対内）（第 4 回臨時総会）	:	公益社団法人弘前青年会議所 2020 年度理事候補者について決議を行うことを目的とする。
実施日時	:	2019 年 11 月 18 日（月曜）19：00～19:39
実施場所・会場	:	ホテルニューキャッスル　サファイア
事業の対象者		
対内	:	会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明　:

下記の 4 議案他について決議を諮る

第 1 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
成田志穂　君
→満場一致可決承認

第 2 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
三上優香　君
→満場一致可決承認

第 3 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
三上恵美　君
→満場一致可決承認

第 4 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件
今井和之　君
→満場一致可決承認

		正会員全 56 名中　出席者 23 名　欠席者 33 名　有効委任状 23 通
参　加　人　員	：	賛助会員 4 名中　出席者 1 名
		オブザーバー　なし
外 部 協 力 者	：	なし
ＳＤＧｓ番号	：	5.5　17.17

事業実施までのスケジュール

10 月	：	23 日　案内文(会員向け)、委任状、総会資料送付
11 月	：	18 日　第 4 回臨時総会の開催運営

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
17:30	会場集合・会場設営・打合せ	
18:30	開場　受付開始	司会　工藤正貴　君
19:00	開会	
19:00	1. 開会宣言	大湯幸世　君
19:01	2. 国歌斉唱	
19:02	3. JC ソング斉唱	
19:04	4. JCI クリード唱和	下山千嘉　君
19:05	5. JCI MISSION 並びに JCI VISION 唱和	大場一巧　君
19:05	6. JC 宣言文朗読並びに綱領唱和	三浦聖吾　君
19:06	7. 東北 JC 宣言唱和	三上優香　君
19:07	8. 理事長挨拶	秋元駿一　君
19:17	9. 議長選出	秋元駿一　君
19:18	10. 定足数の確認	工藤正貴　君
19:18	11. 議事録作成人並びに議事録署名人の指名	総務委員会 鎌田祥吾　君 吉川裕之　君
19:18	12. 配布資料の確認	〈説明〉
19:19	13. 議事	秋元駿一　君
	【審議事項】	
19:20	第 1 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 成田志穂　君	
19:21	第 2 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 三上優香　君	
19:22	第 3 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 三上恵美　君	
19:23	第 4 号議案　2020 年度理事候補者選任（案）に関する件 今井和之　君	
19:31	14. 監事講評	三國典央　君
18:39	15. 閉会宣言	大湯幸世　君

事　業　概　要		
事業目的の実現と成果	：	2020年度理事候補者の承認を頂くことができ、これで次年度全理事候補者が承認となった。
次回への引継事項	：	・いつも使用している会場より狭いため設営の際、机の並べ変えに時間がかかった。またCD再生機器の場所も会場の奥にあるため再生するのを機器から近い司会者が行った。机の配置を事前にホテル側へ細かく伝えた方が良い、または過去の例会や総会で行っていた会場で手配した方がスムーズに設営ができる。 ・卒業式が控えているので報告依頼事項を入れた方が良かった。 ・国旗とJC旗の高さ、配置に注意する。 ・他LOMで12月にまとめて理事候補者を承認する場合もあるとの事。理事候補者承認だけであれば他LOMの行い方を参考にするのも良い。
委員長所見	：	参加人数の関係もあって総会で使用する会場がいつもより小スペースであったため引継事項記載の通り設営に若干の戸惑いがあったが、皆様のご協力の中総会進行も滞りなく行うことができ、開催できたことを心より感謝致します。これにて理事長候補者全員を承認頂き2020年度弘前青年会議所の形ができあがったものと思います。

決　　算		決算書
決　算　額	：	¥8,000
（事業費）	：	
（管理費）	：	¥8,000
予算総額	：	¥85,000

アテンダンスポイント

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分　:　なし
事　業　名　:　アテンダンスポイント
職務分掌　:　アテンダンスポイントの集計

事業要項

事業実施に至る背景	:	会員資格規程第 5 章第 13 条によりアテンダンスポイント制度が定められているので、引き続き有効に活用していく必要がある。
意義・目的（対内）	:	会員の JC 活動を数値化し活発にすることを目的とする。
実施日時	:	年間を通して行う。
実施場所・会場	:	適宜
事業の対象者		
対内	:	会員

事業概要

事業内容および手法説明　:

・2020 年第 103 回通常総会にて 2019 年度のアテンダンスポイント獲得結果を発表し、優秀者を表彰する。
・ポイントの少ない会員に対し、参加を呼び掛ける。

集計方法

・各委員会にてアテンダンスポイントを報告する担当者を決めて頂く。
アテンダンスポイント集計フォーマットを各委員会担当者へ毎月月末に送り、各委員会に所属する会員のポイントを入力のうえ、翌月の初旬に総務委員会へ提出していただく。
・出向者に出向分のアテンダンスポイントを毎月報告して頂く。

集計のルール

・全メンバーに開催案内が届く事業や行事等は、アテンダンスポイントの対象とする。
・委員会より集計の報告が無い場合は、集計対象外とする。
・出向者は、自己申告制とし、各自でのポイントを集計し報告して頂く。
・アテンダンスポイントが同点の場合は、参加した回数が多い方を上位とする。
・回数も同じ場合は、入会年数の浅い方を上位とする。

提示方法

・例会や総会の報告依頼事項で発表する。
・メール配信を行う。

参加促進方法

集計結果を活用し、各委員会と連携し、参加を促す。

表彰項目

・各賞 1 位に記念品を贈呈し、2 位、3 位は発表のみ。

① 無差別賞

・理事者を含め全会員対象とする。

② 個人賞

・理事者を除く全会員を対象とする。

・獲得ポイントの多い上位の人を表彰する。

③ 委員会賞

・委員会が対象。

・各委員会所属会員の獲得したポイントが多い上位の委員会を表彰する。

④ 新人賞

・入会 3 年以内の会員を対象とする。（②で該当した人は除く）

	氏名	賞品
無差別賞　1 位	秋元　駿一　君	投擲消火剤 SAT119（¥3,000）
個人賞　1 位	成田　志穂　君	お掃除セット（¥1,210）
委員会賞　1 位	子どもたちの夢創造委員会	調味料セット（¥4,000）
新人賞　1 位	成田　智崇　君	アマゾンギフトカード（¥1,500）

参加人員：会員

外部協力者：なし

ＳＤＧｓ番号：4.4 11.3 17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年 1 月～12 月	：	毎月ごとにアテンダンスポイントの集計と掲示 集計後に例会等にて集計した月のアテンダンスポイント獲得者が多い会員の発表
2020 年 1 月	：	2019 年度のアテンダンスポイント獲得結果を発表し、優秀者を表彰

当日スケジュール

時間	項目	備考
各例会・総会	報告依頼事項	アテンダンスポイント発表
2020 年 1 月	第 103 回通常総会	2019 年度アテンダンスポイントの発表及び表彰

事業概要

事業目的の実現と成果：アテンダンスポイントの集計により参加率が高い会員を例会で発表、またはメール配信によりお伝えする事で JC 活動に参加を促すことができ、特に新人（入会 3 年以内）の参加率が高く JC 活動の活発化の一助となった。

次回への引継事項	:	・ポイントが少ない会員に対しての声がけを積極的に行うよう各委員会へもっと声をかけるべきだった。 ・参加した日数に応じて集計にばらつきがあったため、集計ルールを一本化した方が良い。 ・例会のタイミングのみならず中間発表の数を多くした方がアテンダンスポイントの周知と参加率向上へ繋がる。
委員長所見	:	毎月の単純な集計だけでは参加率が少ない会員に対しあまり効果が得られなかったため、普段からの声がけ等コミュニケーションを取ることの大切さを痛感した。日頃からコミュニケーションを取り、JC 活動へ参加することの重要性を共有することが参加率向上の一助になるのではないかと思う。 現状のアテンダンスポイント制度では個人での活動量を計る事はできたが、組織として全会員が共同体となり、JC 運動を行うための大きな効果や成果を生み出すまでには至らなかった。そのため JC 運動を客観的に計るような制度が必要だと感じた。

決　　算	決算書
決　算　額	: ¥9,710
（事業費）	:
（管理費）	: ¥9,710
予算総額	: ¥10,000

新年祝賀会の企画・運営

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分　:　なし
事　　業　　名　:　新年祝賀会の企画・運営
職　務　分　掌　:　新年祝賀会の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景	:	日々行っている JC 運動は各地 LOM や特別会員、各種団体のご理解とご協力なくしては成り立たない。新年の開始とともにご協力いただいた方々や各種団体に対し、感謝の気持ちと当年度を迎えるにあたっての思いを伝える場が必要である。
意義・目的（対外）	:	これまでに頂いた多くのご理解、ご協力に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、2019 年度の方針を発信し、これからの弘前青年会議所の運動にさらなる力添えを頂けるような場とすることを目的とする。
意義・目的（対内）	:	前年度を振り返るとともに当年度の幕開けとしてふさわしい、2019 年度を一丸となって進める決意の場とすることを目的とする。
実　施　日　時	:	2019 年 1 月 15 日（火）　18：30～20：35
実施場所・会場	:	ホテルニューキャッスル　3F　麗峰の間
事業の対象者	:	
対　　外	:	2018 年度卒業生、特別会員、各 LOM、各種団体
対　　内	:	会員

事　業　概　要

事　業　内　容
お　よ　び　:
手　法　説　明

〇事前準備
- ・発送先リスト精査
- ・案内状の作成発送
- ・次第、席次表の作成
- ・会場打ち合わせ
- ・委員会新聞の作成

〇当日

<u>【全体統括】　担当：専務理事</u>

〇統括管理
- ・出席者、席次管理
- ・会場設営管理
- ・祝辞依頼調整

〇司会管理

・司会台本作成、打合せ

・司会： 長内遼太郎　君　石戸谷春奈　君

〇PV、パワーポイント管理

・PV 作成： 工藤正貴　君

・パワーポイント操作： 大高　俊　君

【受付対応】地域の絆連携委員会・JAYCEE 育成委員会

〇受付・会費・領収書管理

・来賓、各種団体、特別会員、各地青年会議所の外部 4 窓口を設ける

・来場者をチェックし、来賓紹介までに司会へ出欠リストを報告

・釣り用千円札を 5 万円分用意。

・領収書作成準備。弘前青年会議所名の領収書を作成。宛名空欄（金額は記載）の予備領収書も用意

・来場者から会費と引き換えに領収書と席札(受付配布用)と芳名名簿を渡す

〇来賓リボン

・来賓（首長、代議士、弘前商工会会頭、弘前コンベンション協会会長、弘前市物産協会会長、祝辞を頂く方）にリボンを取付け

〇祝酒、祝電、祝金管理

・祝酒、祝電、祝金をリストアップし司会へ報告

・祝酒はステージ脇にテーブルを用意の上、展示。司会から紹介

・祝電は外部来賓 1 名、JC 来賓 1 名分を全文読み上げ、他は名前のみ読み上げとする

・祝金は会費と別に管理

〇印刷物作成

・発送先リスト作成、案内状発送

・席次、芳名名簿、次第作成

・受付ふんどし作成

・御礼状作成発送

・看板校正

【場内対応】子どもたちの夢創造委員会・総務委員会

〇来場者座席案内

・会場入り口にて来場者を席に誘導

〇会員誘導

・セレモニー時の会員配置と誘導

・歓談時の会員誘導

【友好 JC　友好団体　対応】　会員拡大委員会

〇出迎え、見送り対応

・友好団体対応

〇二次会企画運営(担当：会員拡大委員会)

・二次会会場の設定およびアテンド

〇事後対応

・御礼状の作成発送

参　加　人　員　：　外部参加者　122 名　会員参加 40 名　計　162 名

外部協力者　：　なし
ＳＤＧｓ番号　：　17.17

事業実施までのスケジュール

2018年12月	：	5日　案内状発送
		9日　看板校正依頼
		18日　メンバー案内文発送
		25日　メンバー出欠確認締切
2019年　1月	：	9日　看板発注
		14日　出席者最終確定　次第・芳名名簿印刷
		15日　新年祝賀会開催
		23日　お礼状発送

当日スケジュール

時間	項目	備考
15:00	会場設営	司会・スタッフ集合
16:00	全員集合・最終打ち合わせ	
18:00	開場	
18:31	開会PV	
18:35	開会宣言	副理事長　大湯　幸世　君
	国歌斉唱	
	JCソング斉唱	
	JCIクリード唱和	副理事長　前田　完治　君
	JCIミッション並びにJCIビジョン唱和	常任理事　太田　脩皓　君
	JC宣言文朗読並びに綱領唱和	常任理事　比内　理佑　君
	東北JC宣言唱和	副理事長　工藤　靖史　君
18:41	理事長挨拶	理事長　　秋元　駿一　君
18:54	来賓紹介・祝辞	弘前市長 櫻田宏様 代理 副市長 鎌田雅人 様 衆議院議員　木村　次郎　様
19:07	来訪JC・友好団体紹介	
19:10	祝辞	東北地区協議会監査担当役員　工藤大地　君
19:14	卒業生紹介・乾杯	OB会長　高野　悟　先輩 卒業生　川嶋　貴裕　先輩 卒業生　島津　隆義　先輩 卒業生　清藤　洋介　先輩
19:30	祝電・祝酒・祝花披露 ～ご歓談～	
20:22	2019年度委員会・メンバー紹介	
20:29	若いわれら	
20:32	中締め	直前理事長　須藤　立也　君
20:35	閉会	

事　業　概　要	
事業目的の実現と成果	・ご来場頂いたご来賓、特別会員、各地LOM、各種団体の皆様へ2019年度の方針を発信し、ご挨拶やご協力への感謝をお伝えすることが出来た。 ・理事長挨拶や各委員長の抱負をご来場者へ伝え 2019 年度の熱意や運動に対する決意表明が出来た。
次回への引継事項	・メンバーの集合時間にばらつきがあり、全体リハーサルの時間が遅れてしまいましたので、集合時間の確認を徹底する必要がある。 ・特別会員と議員で重複して案内状をお出ししていたOBより「特別会員として出席するつもりだったがなぜか議員席にまとめられた」「歓談の時間に入ってすぐに挨拶回りが始まったせいか、食事の食べ残しが多くもったいないように思えた」と苦言を頂いた。席次に関しては、特別会員ではなく議員として返信が来ていたためその通り席次に組み込んだのだが、案内状を重複して出している場合はどの団体名で出席するか改めて確認をとったほうが良い。また、食事に関しては、3010運動のアナウンスを入れたほうが適切であった。 ・受付の際に領収証等をまとめるクリップを多めに用意しておく。 ・出席の返信をいただいていた方が当日会場にいらっしゃらなかった。後日会費を回収にお伺いしたが、そういった場合は早めに確認の上会費を回収したほうが良い。 ・来賓控室を準備し来賓の方をお通ししていたが、開場のアナウンスをしていなかった。開場の際は来賓控室へもしっかりとアナウンスする必要がある。 ・例年、弘前JCの新年祝賀会では市長と衆議院議員のみ挨拶をいただいていたが、ご本人がいらっしゃる場合は参議院議員の方にも挨拶をいただいたほうが自然である。他LOMの場合はご挨拶を頂いているところがほとんどとのこと。 ・案内状を市内外振りわけの上窓口に持ち込んだが割引がかからなかった。割引がかかるものに関してはきちんと利用し支払額を抑えたほうが良い。 ・例年、乾杯の際に卒業生紹介も行っていたが、今後も続ける必要があるかどうか次年度以降検討してもよい。
委員長所見	会員皆様のご協力があり、まずもって無事にやり終えた事に感謝しております。新年祝賀会までの段取り、準備、確認作業が非常に多く、当日まで変更が続くため準備段階では毎日確認や修正作業が必要でした。今年度は会員より会費を取らず、会員の皆様へは空腹の中での作業となりましたが、食事の時間が無い分ご参加頂きました方々へのおもてなし側に徹し、より多くのテーブルへご挨拶回り出来たと思います。

決　　算	決算書
決　算　額	¥83,349
（事業費）	
（管理費）	¥83,349
予算総額	¥85,544

防災減災事業

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分	:	公 3 防災・減災に寄与する事業
事業名	:	防災減災事業
職務分掌	:	防災・減災に関する事業の企画・運営

事業要項

事業実施に至る背景	:	昨今豪雨や地震などの災害が頻発している。災害が起きた際に一人ひとりが適切な行動や対応ができるよう、市民が防災減災の意識をもつ必要がある。
意義・目的（対外）	:	市民に防災減災備えの意識をもっていただくことを目的とする。
意義・目的（対内）	:	災害発生時は適切な知識を基に行動できるよう災害に対する関心を高めることを目的とする。
実施日時	:	2019 年 9 月 15 日（日）8:00～16:00
実施場所・会場	:	カルチュアロード（上土手町側）
事業の対象者		
対外	:	一般市民
対内	:	会員

事業概要

事業内容および手法説明 :

一般市民に対し防災減災意識をもっていただく啓蒙活動の場として企画し、運営する。

・防災クイズ（審議資料 5 番参照）

震度 6 の地震が起きた時、何を持って逃げる！？

→クイズとアンケート記入をした方へ商品（救急バッグ 5 点セット）を進呈。

・防災用品の展示（2017 年、2018 年度の防災事業で使用した防災グッズを展示）

・販売する防災グッズの展示、説明

・防災グッズの販売（業者委託）

防災グッズでの売上金は約 38,000 円、購入頂いた商品の中でも長期保存できる非常食が人気だった。（以下、販売個数上位の商品）

① カンパン　22 個

② ビスコ　19 個

③ アルミシード　19 個

④ 温めずに食べられる 3 年保存可能のカレー　15 個

⑤ アルファ米　15 個

商品リスト、商品画像（参考資料 4 番参照）

外部協力者	：	株式会社佐藤長
参加員数	：	約 400 人
ＳＤＧｓ番号	：	11.5 13.1 17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年 7 月	：	8 日～　ルネスアリー　1Ｆインフォメーションにて申込用紙配布
		4 日　申込
8 月	：	22 日　説明会
		30 日　(株)佐藤長へ防災グッズ販売のお願い
9 月	：	3 日　(株)佐藤長より販売グッズ販売の承諾
		15 日　カルチュアロード

当日スケジュール

時間	項目	備考
8:00	メンバー集合	
8:30	交通制限開始	
	準備・設営	テント設営・会場
9:30	カルチュアロード開始	
12:46	アンケート記入、進呈賞品配付終了	終了後は防災グッズ販売呼び込み
15:30	事業終了・撤去・清掃	
16:00	交通制限解除・片づけ	

事業概要

事業目的の実現と成果	：	参加した一般市民の方に防災グッズ展示品閲覧、防災クイズを通して災害時の意識をもって頂くことができ、進呈品（救急セット）や実際に防災グッズを購入して頂き実際に防災グッズを備える意識を始めることができた。参加会員には防災クイズ、防災グッズの説明をすることで災害に対する関心を高めることができた。 【アンケート内容からの考察】 10 代未満から 60 代以上の幅広い年代の方々にご参加頂き、参加者の 7 割が女性であったため男性よりも防災減災意識が高いと思われる。男性への防災減災意識をもって頂くものを今後検討した方が良いかもしれない。職業の割合で在職中の方（会社員、会社役員、パート、アルバイト、自営業）が過半数の 61 パーセントであったため職場での災害を想定した回答が多かった。設問 1「防災ブースを体験して防災に関する意識は向上しましたか。」より、向上したと 79 パーセントの回答を頂き意識向上の場となった。（5 段階評価のうち 4、5 の回答合算）。設問 2「防災クイズを通して『気づき』などはありましたか。」では気づきがあったと 83 パーセントの回答を頂き、有事の際に必要なものを準備する気づきが有ったと思われる。設問 3「非常時の持ち出し品・備蓄品チェックリストは役立ちますか」は役に立つと 91 パーセントの回答

を頂き参加者より見直すきっかけになるとお声を頂いた。設問 4「防災グッズで用意したい、また、興味があるもの又はご意見等記入お願いします。」では非常食や水を入れて使える電池の回答が多かった。他の意見では、ペットを飼っている時の防災減災について知りたいと意見もあったので今後の参考にしたい。

次回への引継事項 ： ・クイズ、アンケートに書いて頂いたものが販売ブースにて販売されていないものがあったので、販売商品と繋がりを持たせた方が良い。
・ 想定より多くの方々にご参加頂きアンケート、進呈品が早い時間に無くなった。想定の参加人数の見直した方が良い。
・地震を想定してのクイズであったが、火災や台風等の様々な災害に想定したものを行うと良い。

委員長所見 ： 今回の防災減災事業を通してまずは災害への備えを準備して頂くという思いから始まりました。ご参加頂いた方々より準備することの大切さ、気づきがあったと多くのお声を頂き、自分自身でも事業を通して非常に多くの気づきや防災への意識向上へと繋がりました。

決　　算	決算書
決　算　額 ：	¥48,600
（事業費）：	
（管理費）：	¥48,600
予算総額 ：	¥50,000

2019 年度弘前青会会議所 OB・現役交流会

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事　業　概　要

事　業　名	:	2019 年度弘前青年会議所 OB・現役交流会
実　施　日　時	:	2019 年 9 月 27 日（金）19：00～21:00
実施場所・会場	:	弘前プラザホテル 2 階　チェルシー
参　加　人　員	:	正会員全 55 名中　出席者 18 名 賛助会員 4 名中　出席者 1 名 OB 会員 17 名
外 部 協 力 者	:	なし

事業実施までのスケジュール

2019 年 9 月	:	5 日　OB 会員へ案内文送付
		19 日　現役会員へ案内送付
		27 日　2019 年度弘前青年会議所 OB・現役交流会開催運営

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
18:27	会場集合・設営（2019 年度第 3 回臨時総会終了後）	
18:30	開場　受付開始	
19:00	開会	司会　櫛引英揮　君
19:02	理事長挨拶	秋元駿一　君
19:07	2020 年度理事長候補者挨拶（挨拶前に理事長写真映像）	比内理佑　君
19:12	乾杯	石澤敏行　先輩
20:45	若い我ら	
20:50	中締め	須藤立也　君
21:00	閉会	

事　業　概　要

次回への引継事項　：

① 多くの現役会員に参加頂くよう早めの段取りや電話掛けをする。

② 先輩方の席次について気を配る必要がある。直前に席次の変更が必要となったため、あらかじめ各所に確認を取るべきであった。

③ 席次表を作成したが、受付の配置の関係で見にくいものとなった。受付と会場内席次の位置関係などを考慮し実際に受付に置いた場合を考えたものを作成する必

要がある。

④ 当日、OB に急遽欠席や遅参がみられ、空席が目立ち、見栄えの良くないテーブルができてしまった。出欠状況の推測は難しいが、何かしらの対応を考える必要がある。6 人で座るにはテーブルが大きかったため、テーブルのサイズや会場の広さを検討し 8 人掛けにする等検討するべきである。

⑤ 急遽参加した会員がいたため、席や料理が足りなくなった。予備の料理を注文しておく、もしくは急遽参加の会員には席だけ用意するなど、開催前に対応を検討しておくべきである。

⑥ 席の移動など場内管理をする役割を一人置いておいた方が良い。

⑦ 8 月総会の後に開催した方が現役も参加しやすく先輩達も例年新理事長を見に来るのでその方が良い。

委員長所見：先輩方から現役時代のお話や貴重なご意見を頂き、今後の JC 活動へのさらなる発展と意識向上に繋がる交流会となった。当初の予定より日程が変更となったためか現役会員の参加率が多くはなかった。先輩方と交流ができる貴重な場ということを現役会員に認識し今後の交流会参加向上へ取り組めるよう努める。

3 月例会「子どもたちの夢「相撲」を追い駆けろ！まるで小僧のように」

● 委員会名 ： 子どもたちの夢創造 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 小山田　允紀 / 山形　昌弘 / 下山　千嘉

事業番号・区分 ： 他 1　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 ： 例会の企画運営
職　務　分　掌 ： 例会の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ： 当 LOM では第 1 回わんぱく相撲全国大会開催当初より LOM 大会を開催しており、子どもたちがこの大会に対する気持ちは強い。わんぱく相撲事業を円滑に進行するためには、会員が相撲への造詣を更に深める必要がある。

意義・目的（対外） ： わんぱく相撲に対する造詣を深め、わんぱく相撲事業において円滑に進められるよう連携を深めることを目的とする

意義・目的（対内） ： 会員の相撲に対する造詣を深め、わんぱく相撲事業において能動的に行動できるよう意識づけることを目的とする。

実　施　日　時　2019 年 3 月 7 日（木）18:30～20:29
実施場所・会場　青森県武道館相撲場
事業の対象者
対　外 ： 五所川原 JC 会員
対　内 ： 会員、並びにオブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ： 講師を招き、最近の弘前地区の相撲事情について講演いただくほか、わんぱく相撲事業を円滑に進められるように、わんぱく相撲の地区大会当日の流れを講師に指導していただくとともに、相撲に対する知識を習得する。

・メインタイム概要
① 講話
② 実践シミュレーション・ルール指導
③ 土俵整備

参加人員 ：
【正会員】　50 名中…出席者 38 名　欠席者 12 名
【賛助会員】　4 名中…出席者　1 名　欠席者 3 名
オブザーバー　葛西　紘一　氏、
【五所川原 JC】　理事長　佐々木　邦和　君、副理事長　佐々木　篤史　君、
青少年委員会委員長　松谷　朋典　君、副委員長　大澤　慎司　君
委員　下川原　伸彦　君

外部協力者 ： 青森県相撲連盟理事　金田　勝　氏

事業実施までのスケジュール

2019年　1月　：　5日会場仮予約・事業内容検討
　　2月　：　2日会場本予約・6日打合せ・事業内容検討・26日リハーサル
　　3月　：　7日事業実施

当日スケジュール

時間	項目	備考
16：30	事務局集合・事務局備品準備・移動	受付後から開会までの間はコミュニケーションタイムとする
17：00	会場設営開始	
18：00	受付	
18：30	開会宣言	副理事長　小山田　允紀　君
18：31	国歌斉唱	
18：33	JCソング斉唱	
18：34	JCI CREED唱和	JAYCEE育成委員会　委員長　三上　優香　君
18：35	JCI MISSION並びにJCI VISION唱和	総務委員会　委員長　三浦　聖吾　君
18：36	JC宣言文朗読並びに綱領唱和	地域の絆連携委員会　委員長　大場　一巧　君
18：37	東北JC宣言唱和	会員拡大委員会　委員長　木村　歩　君
18：38	理事長挨拶	理事長　秋元　駿一　君
18：45	新加入会員認証式	会員拡大委員会
18：53	オブザーバー紹介	株式会社かさい　葛西　紘一　様 公益社団法人　五所川原青年会議所メンバー
18：54	五所川原青年会議所　理事長挨拶	五所川原青年会議所　理事長　佐々木　邦和　君
18：56	専務理事報告	専務理事　櫛引　英揮　君
19：01	報告依頼事項	
19：02	ビジネスPRタイム	地域の絆連携委員会　委員　三上　恵美　君 地域の絆連携委員会　委員　石山　瑠衣　君
19：19	メインタイム	
19：19	・趣旨説明	子どもたちの夢創造委員会　委員長　下山　千嘉
19：20	・講師入場～講師紹介	青森県相撲連盟理事、青森県相撲連盟中弘支部長
19：21	・講演	金田　勝　様
19：44	・実践シミュレーション・ルール指導	
20：03	・記念撮影	
20：10	・土俵整備	
20：15	・謝辞	理事長　秋元　駿一　君
	メインタイム終了	
20：19	監事講評	監事　工藤　順敬　君 監事　三國　典央　君
20：29	閉会宣言	副理事長　大湯　幸世　君
20：45	後片付け終了	

事　業　概　要	
事業目的の実現と成果	わんぱく相撲で長年お世話になっている金田氏を講師に招き、相撲に対する造詣を深めるため、決まり手、禁じ手、土俵整備等を学び、共催となる五所川原 JC とも連携を深めることができました。また、相撲に関する知識を習得することで、わんぱく相撲津軽地区大会当日の運営が円滑になるばかりではなく、事後アンケートの結果からも事業当日は能動的に行動することができると回答する会員が多いことから、事業目的は達成されたと考えております。
次回への引継事項	・これまで例会での多くの次回への引継事項があったにも関わらず、確認をしなかったために、当日スケジュールの時間配分が予定どおり行かなかったので、事前に過去の引継ぎ事項を把握し対策を講じて臨む必要がある。 ・リハーサルに人が集まらず十分にできなかった。事前に役割等がある人は早めに来ていただくようにお願いをした方が良い。 ・セレモニーの時間配分について想定が甘かったので、これまでの例会の実施報告書をよく確認し見積もった方がよい。 ・セレモニー時、登壇と礼のタイミングが合っていなかったので、登壇、礼といった一つ一つの確認を徹底した方が良い。 ・講師が講話する内容について、前もって確認したものと違う内容の話をされた。講演に不慣れな講師の場合は、話の構成段階から内容を確認し、例会当日にも確認する等、念入りに確認をする必要がある。 ・JC 旗が落ちてしまったので、バックパネルに貼付するか、壁に養生テープを貼り、その上から両面テープを貼付する等の対応をした方が良い。 ・講師とコミュニケーションをとる時間がなかったので、事前に来ていただくか、懇親会に来ていただく等工夫をした方が良い。 ・会員の役割分担で、土俵整備の係は全員できなかった方がいたので、講師と実演内容について確認し、時間配分や役割等について念入りに確認する必要がある。 ・簡易まわしの大人用サイズが無く、当日はまわし無しとなってしまったので、準備は念入りにした方が良い。 ・事後アンケートの回収率が低かったので、懇親会の場や全体 LINE で回答を呼びかける等の対策をした方が良い。
委員長所見	今回初めて委員長として例会を担当させていただきました。これまで例会への参加、担当委員会の委員として準備に協力することはありましたが、委員長として例会を企画し実施させていただくと、例会を開催する上で委員長の想い、実施までの準備が相当あり、改善すべき点が多々ありました。この経験を基に、次の事業では課題を改善できるよう精進致します。

決　　算	決算書
決　算　額	￥19,999
（事業費）	￥19,999
（管理費）	
予算総額	¥125,000　（¥25,000/1 例会）

4 月例会「弘前 JC 黒石 JC　4 月合同定例会」

● 委員会名 ： 地域の絆連携 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 前田　完治 / 比内　理佑 / 大場　一巧

事業番号・区分 ： 他 1　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 ： 例会の企画運営
職　務　分　掌 ： 例会の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景	：	例会は定款第 6 章第 45 条により原則として毎月 1 回開催され、JC 活動の基盤となる。
意義・目的（通年対内）		会員の資質向上や、組織の一体感を高める機会とすることを目的とする。
意義・目的（対内）		黒石 JC と弘前 JC との理解と親睦を深め、両地域の発展のためにより一層絆を結び共に活動し運動を発信していけるよう意識向上をすることを目的とする。
実施日時	：	2019 年 4 月 8 日(月)　19:04～21:17
実施場所・会場	：	弘南鉄道(弘南線)車両内
事業の対象者		
対内	：	黒石 JC 会員、弘前 JC 会員、並びにオブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明	：	・黒石 JC と弘前 JC で合同委員会を複数回開催して合同例会の内容を決定した。 ・スポンサーJC とは何か、また黒石 JC と弘前 JC がスポンサーJC を結ぶまでの経緯の説明を行った ・黒石と弘前の地域と地域の絆を結ぶ講演「われら鉄道マンなれ」を弘南鉄道中田様を講師に迎え行った ・黒石 JC と弘前 JC の親睦を深めるためにお互いを知ろう「委員会の事業紹介」を行った
参加人員	：	【正会員】　50 名中…出席者 33 名　欠席者 17 名 【賛助会員】　4 名中…出席者 1 名　欠席者 3 名 オブザーバー4 名　今井　和之氏、千葉　翔太氏、舘田　英憲氏　倉橋ブロック会長 黒石 JC 会員 20 名
外部協力者	：	なし
SDGs 番号	：	4.7　11.a　17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年　1 月	：	黒石 JC との事業内容の検討・打ち合わせ
1 月 21 日	：	弘前 JC 黒石 JC 合同委員会

2 月　：　黒石 JC との事業内容の検討・打ち合わせ
2 月 27 日　：　弘前 JC 黒石 JC 合同委員会
3 月　：　黒石 JC との事業内容の検討・打ち合わせ
3 月 13 日　：　弘前 JC 黒石 JC 合同委員会
3 月 27 日　：　弘前 JC 黒石 JC 合同委員会
4 月 5 日　：　弘前 JC 黒石 JC 合同例会準備
4 月 8 日　：　事業実施

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
17：00	例会準備、会場設営開始	
18：30	受付	受付後は開会までの間、名刺交換コミュニケーションタイム
【車両内】		【停車中】
18：50	八戸 JC　60 周年 PR	
18：57	青森ブロック大会 PR	
19：04	開会宣言	副理事長(弘前 JC)　前田　完治君
19：05	国歌斉唱	
19：07	JC ソング斉唱	
19：08	JCI クリード唱和	
19：09	JCI MISSION 並びに JCI VISION 唱和	
19：09	JC 宣言朗読並びに綱領唱和	
19：10	東北 JC 宣言唱和	
19：11	黒石 JC 行動宣言	
19：12	理事長挨拶(弘前 JC)	理事長　秋元　駿一君
19：16	理事長挨拶(黒石 JC)	理事長　村上　陽心君
19：21	青森ブロック会長挨拶	会長　倉橋　龍太郎君
19：22	オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式	会員拡大委員会(双方)
19：29	専務理事報告(弘前)	専務理事　櫛引　英揮君 【出発(運行開始)】
19：31	専務理事報告(黒石) メインタイム準備	専務理事　千葉　晃大君
19：35	メインタイム開始	１．スポンサーJC とは
19：40		２．「われら鉄道マンなれ」　中田　正志様
20：09	謝辞	理事長　秋元　駿一君
20：11	謝辞	理事長　村上　陽心君
20：12		【黒石駅着】
20：14	トイレ休憩	トイレ休憩兼黒石駅見学
20：30		３．「委員会の事業紹介」各約 2 分　13 委員会
20：37		【黒石駅出発】

	メインタイム終了	
20：52	監事講評	監事　弘前 JC　三國　典央君
21：00	閉会宣言	副理事長(黒石 JC)　松村副理事長 ビジネス PR タイム(弘前駅到着まで) 白石　将一君、齊藤　雄太君、石岡　伸君　他黒石 JC3 名 片付け(到着後速やかに降車するため)
21：13	弘前駅着	【到着】
【降車】		
21：17	集合写真撮影 懇親会会場へ移動	

事　業　概　要

事業目的の実現と成果	：	初の合同例会をいつもとは違う雰囲気の会場で行ったことで話しをするきっかけができ、普段他 LOM とあまり交流が無かった会員も早々に親睦を深めることが出来たと感じた。そして講話や委員会発表、ビジネス PR タイムによりお互いをより深く知る事ができ、またお互いの JC 活動・運動に対する想いを感じる事が出来たことにより共に JC 運動を発信していけるように意識の向上をすることが出来た。
次回への引継事項	：	・例会開始直前に当初予定になかったブロック大会の PR が入ったため急遽の対応が求められた。事前に来るかもしれない旨の連絡はあったので最終的な確認をしっかりとするべきであった。 ・今回は通常の会場とは異なり PR スペースも少なかったのでせっかく PR に来ていただいたのに存分に PR できなかった感じが見受けられた、PR の際には席を移動する等の対応をとれるように事前に準備しておくべきであった。 ・会場の都合上、座席が縦長になっていたが、後方に座っていた会員の中にメインタイム中の私語・携帯電話の操作等が見受けられたので例会が始まる前に注意喚起をするべきであった。 ・理事長挨拶時などドアクローズの徹底をした方が良い ・ビジネス PR は安易な宣伝とならないように注意をする必要がある、会員にルールを周知させる必要がある
委員長所見	：	初めての合同例会を経験させて頂きとても良い経験をさせていただきました。通常出向をしなければ他 LOM の方と事業をする機会は中々得られないと思います。今回黒石 JC さんと合同委員会を行ったり一緒に打ち合わせに行ったりと共に事業を構築したことにより弘前 JC だけでは出来なかった例会を構築することが出来ました。

決　　算　　決算書

決算額	：	¥30,568 円
（事業費）	：	¥30,568 円
（管理費）	：	
予算総額	：	¥32,000 円

6 月例会　次年度選挙

● 委員会名 ： 会員拡大 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 ： 工藤　靖史 ／ 大藪　貴雄 ／ 木村　歩

事業番号・区分 ： 他 1　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 ： 6 月例会　次年度選挙
職　務　分　掌 ： 例会の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景 ： 例会は定款第 6 章第 45 条により原則として毎月 1 回開催され、JC 活動の基盤となる。
意義・目的（対内） ： 会員の資質向上や組織の一体感を高める機会とすることを目的とする。
意義・目的（例会） 役員選任規定に基づき、理事候補者の選出選挙を通して、2020 年度に向けた体制整備へつなげることと共に、開票時間を利用し食事と健康に対しての意識向上を図ることを目的とする。
実　施　日　時 ： 2019 年 6 月 7 日（金）19:10～20:58
実施場所・会場 ： 弘前パークホテル　例会会場 4 階ラ・メェラ　開票場所控室
事業の対象者 ：
対　内 ： 会員、並びにオブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明 ：
選挙管理委員会と連携し、役員選任規定に基づき、次年度理事候補者の選出選挙を行う。

開票時間を利用し、食事と健康の意識を高める研修を行う。
・パワーポイントを使い上記内容を研修する。（参考資料添付）
・食事バランスガイドを上記パワーポイントで解説し、会員及び会員の家族、従業員の今後の生活に活用してもらう。

・研修資料監修　弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科　教授・医学博士　外崎敬和様
・出典　厚生労働省 e-ヘルスネット

参加人員 ：
【正会員】　52 名中…出席者 37 名　欠席者 15 名
【賛助会員】　4 名中…出席者 2 名　欠席者 2 名
新加入会員　竹内　博之　君
オブザーバー　なし

外部協力者 ： なし
ＳＤＧｓ番号 ： 4.7　17.17

事業実施までのスケジュール

2019年	2月	：	内容の検討
	3月	：	内容の精査、食事と健康研修資料作成
	4月	：	内容の精査、食事と健康研修資料作成
	5月	：	内容の精査、食事と健康研修資料作成、最終打合せ
	6月	：	7日（金）実施

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
17：00	例会準備、会場設営開始	
18：00	受付	開会までの間、コミュニケーションタイム
18：30	むつJC周年PR	
18：39	臨時総会開始	総務委員会
19：05	臨時総会終了	
19：10	開会宣言	副理事長　工藤　靖史　君
	国歌斉唱	割愛
	JCソング斉唱	割愛
	JCI CREED唱和	割愛
	JCI MISSION並びにJCI VISION唱和	割愛
	JC宣言文朗読並びに綱領唱和	割愛
	東北JC宣言唱和	割愛
19：11	理事長挨拶	
19：18	オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式	新入会員1名
19：26	報告依頼事項	
19：44	ビジネスPRタイム	会員拡大委員会　下山　裕之　君
19：49	専務理事報告	
19：50	メインタイム準備	
19：56	メインタイム開始	
	次年度理事候補者選出選挙	選挙管理委員会
	説明及び記入、投票	
20：08	投票終了、開票開始	
20：09	食事と健康研修	
20：43	開票結果報告	
20：49	メインタイム終了	
20：50	監事講評	監事　三國　典央　君
20：58	閉会宣言	副理事長　前田　完治　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果	：	【アンケート内容の集計】 会員のほとんど(約 93%)が食生活になにかしらの問題を自覚していた。今回の研修において食生活の改善をしようと思うという回答が約 82%であり、食事と健康の意識向

上の回答においては、向上したという回答が約 97%の割合をしめていた。

【アンケート内容の考察】
設問 1「食生活であなたが自覚している問題を選択してください」より、問題は自覚しているが様々な理由により食生活の改善を図ることができない会員が多く見受けられる。しかしながら設問 3「今回の研修で食事内容を改善しようと思いますか？」では、今回の研修内容から食事内容を改善しようと思う会員が多いため、意義はあったものと考察する。

上記をまとめると、今回の例会によって会員の意識向上を図るという目的は達成できていると考える。

次回への引継事項 ：
・臨時総会開始直前のむつ JC 周年 PR が入ったためタイムスケジュールの変更などの対応が求められた。事前にどの程度の時間が必要か確認をすべきであった。
・臨時総会担当の総務委員会とゴング点鐘や報告依頼事項変更の相互確認をしっかり行うべきであった。
・ビジネス PR をタイムの時間を明確に指示すべきであった。
・例会の登壇者や参加者の名前を間違うことがあったので読み仮名を付ける等、対処すべきだった。
・次年度は会員拡大委員会と連携して空き時間で会員拡大セミナーを行うのもいいと思う。
・アンケート内に来年以降の選挙開票時間の内容に様々な意見があったので、参考にしてほしい。
※以下アンケートより抜粋
・会員紹介、PR タイム（委員会、事業、ビジネス）
・理事の制度や仕組みを学びたい
・短時間の講習、ないしはレクリエーション的なゲームのいずれかが良いと思います。
・歴代理事長の座談会
・今回のような為になる例会が良いです！

委員長所見 ：
これまで例会の手伝い、準備など補助の面で関わることはありましたが、一から例会を企画・運営することにより、運営側として学ぶことや気づくことが多々ありました。次年度に向けた体制整備の基礎を構築することができ、また開票時間で食事と健康に対する研修の勉強、資料作成を通して、自分自身の意識向上もでき、それを会員にも伝えることができました。

決　　算	決算書
決　算　額 ：	¥14,000
（事業費）：	¥14,000
（管理費）：	
予算総額 ：	¥14,700

7 月例会　「これからの弘前 JC のビジョンを描こう！」

● 委員会名 : JAYCEE 育成 委員会
● 副理事長/常任理事/委員長 : 大湯　幸世 / 太田　脩皓 / 三上　優香

事業番号・区分 : 他 1　会員の資質・親睦向上事業
事　業　名 : 例会の企画・運営
職務分掌 : 例会の企画・運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景	:	例会は定款第 6 章第 45 条により原則として毎月 1 回開催され、JC 活動の基盤となる。
意義・目的（対内）	:	会員の資質向上や、組織の一体感を高める機会とすることを目的とする。
意義・目的（例会）		地域にとってなくてはならない団体として存続し続けていくために、会員自身が所属する組織の在り方についての認識を深めることを目的とする。
実施日時		2019 年 7 月 8 日（月）19:10～21:16
実施場所・会場		土手町コミュニティパーク
事業の対象者		
対内	:	会員、並びにオブザーバー

事　業　概　要

事業内容および手法説明 :

【概要】

2020 年に当 LOM は創立 70 年目を迎えます。この機会に、2012 年 1 月より公益社団法人格を選択した当時の思いや経緯を振り返ると共に、今後の当 LOM の在り方について様々な面から検証することで、会員が自身の所属する組織の未来を考えるきっかけづくりの場としました。

【事業内容】

（1）社団法人格に関するセミナー

比内理佑常任理事を講師として、公益法人格の取得に至った当時の経緯及び各法人格の特徴について、事業・監督・組織・税制の面等から説明して頂きました。

（2）グループディスカッション

各テーブル 5～7 人程度のグループに分かれ、以下のテーマに沿って各法人格（公益社団法人・一般社団法人）それぞれのメリット・デメリットについてディスカッションして頂きました。

テーマ①　事業の面から
テーマ②　組織や税制の面から
テーマ③　会員拡大の面から

※グループ分けは入会年数や理事経験などをベースに JAYCEE 育成委員会で決定し振り分けました。
※各テーブルにコーディネーター役として、卒業生又は専務理事経験者を配置し、議論をリードして頂きました。

(3) 発表
テーブル毎に議論した内容を整理し、各テーマにそれぞれの法人格に対してどのようなメリット・デメリットがあるのかを発表してもらいました。
（テーブル毎にどちらがよいかの結論を出さず、あくまで組織の在り方についての議論のきっかけの場としました）
(4) 事後アンケート実施

【欠席者への対応】
本例会は今後の組織の在り方について、会員自身が主体的に議論に参加し取り組んで頂く場として設えをしました。その為、当日本業の都合などで遠方におり、止む無く参加できない会員に限りモバイル端末を利用して議論に参加できる試みを予定しておりましたが、都合をつけられない等の理由で該当者がおらず未実施となりました。

参加人員：
合計 42 名
【正会員】 …54 名中 40 名
【賛助会員】… 4 名中 2 名
新加入会員 猪股 裕一君、オブザーバー 小田桐 正和氏

外部協力者：なし

ＳＤＧｓ番号：4.7

事業実施までのスケジュール

2019 年 5 月	：	委員会での企画、各種見積取得、会場予約
6 月	：	委員会での企画、出欠確認
7 月	：	実施

当日スケジュール

時間	項目	備考
18：57	例会準備、会場設営開始	※会場展開、式次第・メインタイム用物品配布、看板準備、チーム発表
19：10	開会宣言	副理事長 大湯 幸世 君
19：11	理事長挨拶	※臨時総会がある為セレモニー割愛
19：21	オブザーバー紹介並びに新加入会員認証式	新入会員 1 名、オブザーバー1 名
19：29	会員拡大セミナー	今回の例会より導入
19：52	報告依頼事項、ビジネス PR タイム	副委員長 成田 智崇 君
19：58	専務理事報告	
20：08	メインタイム開始	7 月例会「これからの弘前 JC のビジョンを描こ

	・ 公益社団法人になった経緯	う！」
	・ 社団法人格についてのセミナー	※欠席者のモバイル参加なし
20：26	・ アドバイザー紹介	秋元理事長、須藤直前、比内常任、三國監事の４名
20：27	・ アドバイザーへの質疑応答	質問なし
20：30	・ コーディネーターからのルール説明	
20：32	・ グループディスカッション	
20：50	・ 発表	※時間短縮の為、マイクを回して発表
20：55	メインタイム終了	
	事後アンケート実施	※時間短縮の為、後日対応してもらうよう依頼
20：58	監事講評	監事　三國　典央　君
21：14		監事　工藤　順敬　君
21：16	閉会宣言	副理事長　前田　完治　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

メインタイムでは多くの会員と共にグループディスカッションをしたことで活発な意見交換を行うことができた。

※アンケート結果

「公益社団法人格を選んだ理由」「一般社団法人格を選んだ理由」の記述式回答より、会員一人ひとりが当 LOM の現状・課題を知り、地域に必要とされる団体として存続していく為に自分なりの意見をもっていることが分かる。自身の所属する弘前 JC の今後の在り方について当事者意識をもち、考える機会を提供することができた。

次回への引継事項：

① 事前準備について

メインタイムで最も重要なパワーポイントのデータの準備などの最終確認ができておらず直前になって慌ててしまった。また講師の飲料水を準備する等の配慮も足りなかった。

臨時理事会、臨時総会が長引いたことで、理事メンバー以外の委員会メンバーへの指示が出せず準備がスムーズに行えなかった。予め役割分担などは行っていたものの、理想であれば理事メンバーがいなくても委員会メンバーだけで例会準備ができるようイメージを共有しておくと良かった。

② モバイル参加について

遠方に勤務しており、例会参加がどうしても叶わない正会員 2 名、賛助会員 1 名への打診を行ったが、都合がつかず実施できなかった。先方のデータ受信環境が整っていなければならないこと、予想されるマシントラブルなど課題はあるものの、今後機会があれば是非取り入れていきたい。

③ 時間配分について

同日に開催されていた臨時理事会、第 2 回臨時総会の時間が長引き、例会準備の時間が全く取れない状況であったが、委員会メンバーで協力し 10 分遅れで例会を開始することができた。今回から会員拡大委員会による会員拡大セミナーを取り入れる等の試みがあり、多少メインタイムの時間に変動があったが、委員会メンバーやアドバイザーの会員と随時判断をしながら、メインタイムを時間内に終わらせることができた。

また以前から継続して言われていることとして、報告依頼事項やそれ以外のことに時間を取られすぎており、例会の主軸となるメインタイムの時間が削られてしまっている現状については今後見直しをしていく必要があるように思う。

④ 参加率について

年度当初から100%例会を目指して例会への参加意欲向上や参加促進を進めてきたが、JC活動に対する考え方の違いや遠方勤務の会員がいる等様々要因があり難しい状況であった。まずは委員会として70%例会に目標を定め参加促進を行ったところ、当日42名（70%）の参加を達成することができた。

（※45名の出席回答であったが、例会当日4名から欠席の連絡があった）

⑤ メインタイム時、現役会員からアドバイザーへ寄せられた質問の一例

・公益社団法人と一般社団法人の具体的な運営面の違いは何か
・公益社団法人格を維持するメリットは何か
・公益社団法人に正会員として所属する為の条件
・一般社団法人だと次年度理事選挙は不要なのか

委員長所見：

メインタイムは大変センシティブな題材であった為、取り扱いや情報発信等に配慮が必要でしたが委員会メンバーをはじめとして会員の皆さんからたくさんのご助言をいただき、会員一人ひとりにこれからの弘前 JC の未来の姿を考える機会を投げかけることができたと考えています。

「どちらが良い」という結論はあえて出さないよう配慮をしましたが、事後アンケートでは会員の個人としての意見を聞くことができました。様々な意見や考え方が記載されており、それぞれ納得できる内容となっていました。創立70年を目前に、例会の狙いであった組織の在り方についての認識を深めることができたように考えます。これからも当事者意識を常にもち、今回の例会での気づきを今後の JC 活動に活かしてほしいと考えています。

決　　算	決算書
決　算　額	¥13,000
（事業費）	¥13,000
（管理費）	
予算総額	¥13,600

9 月例会『災害時、リーダーとしての判断と行動』

● 委員会名	:	総務　委員会
● 専務理事／公益財政局長／事務局長／委員長	:	櫛引英揮　／　吉川裕之　／　工藤正貴　／　三浦聖吾

事業番号・区分　:　なし
事　業　名　:　公益社団法人弘前青年会議所　第 102 回通常総会
職務分掌　:　理事会の運営・各種会議運営

事　業　要　項

事業実施に至る背景　:　例会は定款第 6 章第 45 条により原則として毎月 1 回開催され、JC 活動の基盤となる。
意義・目的（対内）　:　会員の資質向上や、組織の一体感を高める機会とすることを目的とする。
意義・目的（対内）（9 月例会）　:　被災した際、率先して行動できるよう、正しい知識を得ることを目的とする。
施日時　:　2019 年 9 月 9 日（月）18 時 30 分～20 時 56 分
実施場所・会場　:　弘前地区消防事務組合　弘前消防署
事業の対象者
対外　:　オブザーバー
対内　:　会員

事　業　概　要

事業内容および手法説明　:

9 月 1 日の防災の日に因んで 9 月例会は火災への対応と意識向上のきっかけをつくる場として行います。弘前消防署にて、有事の際は使用の可能性が高いやＡＥＤの体験をする事によって迅速に行動できるように又、消防署内を実際に見学する事によって消防署について知る事や地域の防災活動に積極的に参加する意識をもって頂きます。また、火事等の災害時に我々がどのように考え、どのように動かなくてはいけないのかを講話を通して学んで頂き災害時に率先して行動できる意識を高める研修を行います。

●はしご車の体験、消防庁舎の見学で消防署について身近に感じて知る事、地域の防災活動に積極的に参加する意識をもって頂く。
・はしご車体験と消防庁舎見学は二手に分かれて行う。
※雨天時、消防署出動となった際は水消火器使用、はしご車体験を中止し、庁舎見学に時間を長くとります。
●講話内容について（担当委員会にてコーディネーターを設定）
・火災が起きた際にまず何をすべきか。実際に起きた時の判断や動き、知識、ホテルやデパート等で火災が起きる主な原因等。
→火災を発見したら大声で「火事だ」と叫び周囲に知らせ避難をするのが鉄則。火元を

発見し天井まで火災が上昇していない場合は消火を試みる。消火器がある場合は消火器を使用する。無い場合は水での消火でも良いが油火災（天ぷら鍋など）、電気火災では逆効果。ホテルやデパートでは火災が発生すると消防用設備（自動火災報知器など）の信号によって従業員が対応するので指示に従って避難する。ホテルやデパートの主な火災原因はたばこ、放火、海外からの観光客による暖房器具、コンロの誤操作が原因であがっている。

・避難の際に煙の高さから子供を抱きかかえての避難が良いのか。歩ける、走れるような年齢の子供だとそのまま歩かせた方が良いのか。

→抱きかかえることしかできない場合は抱きかかえての避難となる。歩ける年齢であれば子供が迷子にならないよう必ず手をつないで避難する。ハンカチやタオル、服の袖で鼻や口を覆う。ゴミ袋で口や鼻を覆い空気を吸いながら避難する方法もある。煙から発生する有毒ガスを完全に防げないので早く避難に徹する（姿勢を低く）。また、離れ離れになる場合もあるので子供が自分の名前、住所、電話番号が言えるよう日頃から練習をしておくこと。

・はしご車での救助の場合、実際に救助が必要となった際の人数は何人までか。最大何階までまたは高さ何メートルまでの救助が可能なのか。

→はしご車のバスケットは消防隊員 2 名での救出に行き、救助者最大で 3 名まで。許容積載荷重は約 400 kg。高さは最大で約 14 階まで。

・はしご車で救助できない高さにいた場合どうすべきか。

→弘前市では最大で 15 階の建物があります。はしご車は 15 階に届かないため下へ向かって避難をしてください。

・正しい消火器の使い方について

・質問タイム

参　加　人　員	：	正会員 55 名中 23 名出席　賛助会員 4 名中 2 名出席　オブザーバー　なし
外　部　協　力　者	：	弘前消防署：消防士長　工藤司氏　消防司令補予防係長　鈴木雅人氏（当日講師）
ＳＤＧｓ番号	：	4.7 11.5 13.1 17.17

事業実施までのスケジュール

2019 年 7 月	：	委員会にて検討 10 日　会場予約 30 日　消防署へ打ち合わせ
8 月	：	7 日　消防署へ打ち合わせ 27 日　消防署へ打ち合わせ
9 月	：	4 日　消防署へ打ち合わせ 9 日　事業実施

当日スケジュール

時　間	項　目	備　考
17:00	会場集合・会場設営・打合せ	
17:30	リハーサル	
18:00	開場　受付開始	大会議室
18:43	・消防庁舎見学	
18:58	・はしご車体験	
19:28	公益社団法人五所川原青年会議所認承 55 周年 PR	大会議室
19:33	開会	司会　三浦聖吾　君
19:33	開会宣言	小山田允紀　君
19:34	国歌斉唱	
19:35	JC ソング斉唱	
19:37	JCI クリード唱和	馬場和平　君
19:38	JCI MISSION 並びに JCI VISION 唱和	下山千嘉　君
19:39	JC 宣言文朗読並びに綱領唱和	齊藤雄太　君
19:39	東北 JC 宣言唱和	石岡和仁　君
19:41	理事長挨拶	秋元駿一　君
	オブザーバー紹介及び新加入会員認証式	なし
19:52	専務理事報告	櫛引英揮　君
19:57	報告依頼事項	
20:14	ビジネス PR タイム	PR タイム　前田完治　君
	メインタイム準備	
	メインタイム実施	コーディネーター
	『災害時、リーダーとしての判断と行動』	三浦聖吾　君
	講話（災害時の避難、行動、消火器の使い方等について）	講師
		鈴木雅人　氏
20:52	メインタイム終了	
20:53	事後アンケート記入	
20:55	謝辞	秋元駿一　君
20:58	閉会宣言	前田完治　君

事　業　概　要

事業目的の実現と成果：

【アンケート内容からの考察】

設問 2「例会を受けて災害時の知識を深めることができましたでしょうか？深める事ができたと思いましたら理由をご記入ください」より、煙の危険性や消火器の使い方についてのご意見が多く見受けられ、正しい知識を再確認できた。設問 3「今回の例会のような講話や防災イベント等があれば積極的に参加し、 防災への知識を深めようと思いますか」では例会の場を消防署内にて行い地域の消防署について知ること、域の防災活動に積極的に参加する意識をもつことができた。9 月例会参加する前と比べ正しい知識と率先して行動できる意識を高める事ができた(100%)と回答頂き、今回の例会によって正しい知識、判断、行動する意識を高めることができたと考えている。

しかし、「リーダーとして」の回答が無かったため、もっと掘り下げて講話頂くところが少々不足していた。
（9 月例会事後アンケート）

・当日の講師が開催日時に非番の職員が担当となるため、事業受付の担当者との時間配分やはしご車の人数も打ち合わせ時と若干違い、当日の流れや開始時間が遅れてしまった。できれば当日担当の講師と開催日前に打ち合わせまたは電話等で流れをしっかり伝える。

次回への引継事項　：　・時間が遅れていても焦らずに余裕をもった進行を行う。
・講師が公務員の方なので謝礼品のお渡しに配慮が必要。当日には受け取って頂く事はできなかったが、後日御礼の挨拶に伺ったときにお渡しした。
・当日参加人数が 5 割切っており少なかった。会員へ直接電話掛けをし、参加の呼びかけをすべきであった。

委員長所見　：　9 月例会では会員の皆様に資質向上と何か体験をして頂きたく弘前消防署にて行いました。弘前消防署側の方でも今回のような設えは初めてとの事で、打ち合わせを何度も行いましたが当日の担当者様が開催日の直近になるまで分からない事や、はしご車体験の時間や人数なども行き違いがあり当日スケジュールの時間が押してしまいましたが、庁舎見学やはしご車体験もご参加頂いた会員に楽しんで頂き、体験したはしご車ものどのくらいの高さまで避難可能か、火災が起きた際の煙への危険性や消火器の使い方について改めて見直すことができたと感じております。

決　　算	決算書
決　算　額	¥5,000
（事業費）	
（管理費）	¥5,000
予算総額	¥25,000

2019年度

公益社団法人弘前青年会議所

決　算　書　類

財　　務　　諸　　表

（平成３０年１２月１６日～令和元年１２月１５日）

公益社団法人　弘前青年会議所

青森県弘前市東長町４７－２

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	当年度		前年度		増　　減	
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金	170,000	1.0	200,000	1.2	△30,000	△15.0
受取入会金	170,000	1.0	200,000	1.2	△30,000	△15.0
②受取会費	7,662,500	44.0	7,738,750	46.3	△76,250	△1.0
正会員会費	6,407,500	36.8	6,075,000	36.3	332,500	5.5
特別会員会費	405,000	2.3	742,500	4.4	△337,500	△45.5
賛助会員会費	40,000	0.2	50,000	0.3	△10,000	△20.0
新入会員会費	810,000	4.7	871,250	5.2	△61,250	△7.0
③事業収益	6,269,250	36.0	4,783,000	28.6	1,486,250	31.1
登録料収益	370,000	2.1	470,000	2.8	△100,000	△21.3
広告料収益	1,960,000	11.3	50,000	0.3	1,910,000	3820.0
販売収益	3,234,250	18.6	3,696,000	22.1	△461,750	△12.5
雑収益	705,000	4.1	567,000	3.4	138,000	24.3
④受取補助金等	110,000	0.6	3,648,687	21.8	△3,538,687	△97.0
受取地方公共団体補助金	110,000	0.6	3,648,687	21.8	△3,538,687	△97.0
⑤受取負担金	3,110,000	17.9	50,000	0.3	3,060,000	6120.0
受取負担金	3,110,000	17.9	50,000	0.3	3,060,000	6120.0
⑥受取寄付金			145,000	0.9	△145,000	***
受取寄付金			145,000	0.9	△145,000	***
⑦雑収益	82,182	0.5	147,781	0.9	△65,599	△44.4
受取利息	147	0.0	145	0.0	2	1.4
雑収益	82,035	0.5	147,636	0.9	△65,601	△44.4
経常収益	17,403,932	100.0	16,713,218	100.0	690,714	4.1
【経常費用】						
①事業費	13,785,550	79.2	12,469,077	74.6	1,316,473	10.6
給料手当	1,434,702	8.2	1,423,407	8.5	11,295	0.8
福利厚生費	237,486	1.4	236,468	1.4	1,018	0.4
会議費	110,400	0.6	140,152	0.8	△29,752	△21.2
旅費交通費	53,360	0.3			53,360	***
通信運搬費	278,892	1.6	321,062	1.9	△42,170	△13.1
消耗品費	755,944	4.3	553,847	3.3	202,097	36.5
修繕費	9,988	0.1			9,988	***
印刷製本費	875,832	5.0	689,475	4.1	186,357	27.0
広報費	667,200	3.8	696,060	4.2	△28,860	△4.1
燃料費	109,436	0.6	122,131	0.7	△12,695	△10.4
光熱水料費	161,241	0.9	149,438	0.9	11,803	7.9
賃借料	885,050	5.1	1,246,730	7.5	△361,680	△29.0
保険料	65,195	0.4	84,785	0.5	△19,590	△23.1

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	当年度		前年度		増　減	
諸謝金	30,323	0.2	54,548	0.3	△24,225	△44.4
租税公課	14,600	0.1	9,400	0.1	5,200	55.3
委託費	7,692,216	44.2	5,858,970	35.1	1,833,246	31.3
記念品費	21,987	0.1	247,431	1.5	△225,444	△91.1
衛生費	27,324	0.2	27,300	0.2	24	0.1
雑費	354,374	2.0	607,873	3.6	△253,499	△41.7
②管理費	**2,955,466**	**17.0**	**3,351,051**	**20.1**	**△395,585**	**△11.8**
給料手当	358,675	2.1	355,852	2.1	2,823	0.8
福利厚生費	59,372	0.3	59,117	0.4	255	0.4
会議費	22,600	0.1	24,338	0.1	△1,738	△7.1
通信運搬費	67,505	0.4	72,732	0.4	△5,227	△7.2
消耗品費	18,751	0.1	26,016	0.2	△7,265	△27.9
会員支給品費	37,700	0.2	39,200	0.2	△1,500	△3.8
修繕費	2,497	0.0			2,497	***
印刷製本費	75,911	0.4	56,836	0.3	19,075	33.6
燃料費	25,936	0.1	29,051	0.2	△3,115	△10.7
光熱水料費	36,060	0.2	36,441	0.2	△381	△1.0
賃借料	111,092	0.6	104,638	0.6	6,454	6.2
保険料	8,440	0.0	8,440	0.1	0	0.0
租税公課	2,150	0.0	10,100	0.1	△7,950	△78.7
渉外費	553,774	3.2	816,204	4.9	△262,430	△32.2
委託費	460,400	2.6	459,200	2.7	1,200	0.3
記念品費	35,450	0.2	103,817	0.6	△68,367	△65.9
衛生費	34,000	0.2	24,000	0.1	10,000	41.7
雑費	26,828	0.2	26,889	0.2	△61	△0.2
支払負担金	1,018,325	5.9	1,098,180	6.6	△79,855	△7.3
経常費用合計	**16,741,016**	**96.2**	**15,820,128**	**94.7**	**920,888**	**5.8**
経常増減の部	**662,916**	**3.8**	**893,090**	**5.3**	**△230,174**	**△25.8**
一般正味財産増減額	**662,916**	**3.8**	**893,090**	**5.3**	**△230,174**	**△25.8**
一般正味財産期首残高	4,066,900	23.4	3,173,810	19.0	893,090	28.1
一般正味財産期末残高	**4,729,816**	**27.2**	**4,066,900**	**24.3**	**662,916**	**16.3**
正味財産期末残高	**4,729,816**	**27.2**	**4,066,900**	**24.3**	**662,916**	**16.3**

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	法人全体			内部取引等消去	合計	
	公益事業会計	収益事業会計	法人会計			
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金	51,000	34,000	85,000	0	170,000	
受取入会金	51,000	34,000	85,000	0	170,000	
②受取会費	2,298,750	1,532,500	3,831,250	0	7,662,500	
正会員会費	1,922,250	1,281,500	3,203,750	0	6,407,500	
特別会員会費	121,500	81,000	202,500	0	405,000	
賛助会員会費	12,000	8,000	20,000	0	40,000	
新入会員会費	243,000	162,000	405,000	0	810,000	
③事業収益	6,259,250		10,000	0	6,269,250	
登録料収益	360,000		10,000	0	370,000	
広告料収益	1,960,000			0	1,960,000	
販売収益	3,234,250			0	3,234,250	
雑収益	705,000			0	705,000	
④受取補助金等	110,000			0	110,000	
受取地方公共団体補助金	110,000			0	110,000	
⑤受取負担金	3,060,000		50,000	0	3,110,000	
受取負担金	3,060,000		50,000	0	3,110,000	
⑦雑収益			82,182	0	82,182	
受取利息			147	0	147	
雑収益			82,035	0	82,035	
経常収益	11,779,000	1,566,500	4,058,432	0	17,403,932	
【経常費用】						
①事業費	12,327,068	1,458,482		0	13,785,550	
給料手当	896,689	538,013		0	1,434,702	
福利厚生費	148,429	89,057		0	237,486	
会議費	76,500	33,900		0	110,400	
旅費交通費	17,540	35,820		0	53,360	
通信運搬費	176,454	102,438		0	278,892	
消耗品費	701,378	54,566		0	755,944	
修繕費	6,242	3,746		0	9,988	
印刷製本費	750,931	124,901		0	875,832	
広報費	667,200			0	667,200	
燃料費	70,532	38,904		0	109,436	
光熱水料費	107,150	54,091		0	161,241	
賃借料	606,123	278,927		0	885,050	
保険料	58,835	6,360		0	65,195	
諸謝金	5,568	24,755		0	30,323	
租税公課	14,200	400		0	14,600	

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	法人全体			内部取引等消去	合計	
	公益事業会計	収益事業会計	法人会計			
委託費	7,682,216	10,000		0	7,692,216	
記念品費	10,323	11,664		0	21,987	
衛生費	27,324			0	27,324	
雑費	303,434	50,940		0	354,374	
②管理費			**2,955,466**	**0**	**2,955,466**	
給料手当			358,675	0	358,675	
福利厚生費			59,372	0	59,372	
会議費			22,600	0	22,600	
通信運搬費			67,505	0	67,505	
消耗品費			18,751	0	18,751	
会員支給品費			37,700	0	37,700	
修繕費			2,497	0	2,497	
印刷製本費			75,911	0	75,911	
燃料費			25,936	0	25,936	
光熱水料費			36,060	0	36,060	
賃借料			111,092	0	111,092	
保険料			8,440	0	8,440	
租税公課			2,150	0	2,150	
渉外費			553,774	0	553,774	
委託費			460,400	0	460,400	
記念品費			35,450	0	35,450	
衛生費			34,000	0	34,000	
雑費			26,828	0	26,828	
支払負担金			1,018,325	0	1,018,325	
経常費用合計	**12,327,068**	**1,458,482**	**2,955,466**	**0**	**16,741,016**	
経常増減の部	**△548,068**	**108,018**	**1,102,966**	**0**	**662,916**	
一般正味財産増減額	**△548,068**	**108,018**	**1,102,966**	**0**	**662,916**	
一般正味財産期首残高	△28,647,152	△3,652,485	36,366,537	0	4,066,900	
一般正味財産期末残高	**△29,195,220**	**△3,544,467**	**37,469,503**	**0**	**4,729,816**	
正味財産期末残高	**△29,195,220**	**△3,544,467**	**37,469,503**	**0**	**4,729,816**	

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	公益事業会計					収益事業会計
	公１地域発展	公２青少年育成	公３防災減災	公益事業共通	小計	他１会員資質
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金				**51,000**	**51,000**	
受取入会金				51,000	51,000	
②受取会費				**2,298,750**	**2,298,750**	
正会員会費				1,922,250	1,922,250	
特別会員会費				121,500	121,500	
賛助会員会費				12,000	12,000	
新入会員会費				243,000	243,000	
③事業収益	**6,259,250**				**6,259,250**	
登録料収益	360,000				360,000	
広告料収益	1,960,000				1,960,000	
販売収益	3,234,250				3,234,250	
雑収益	705,000				705,000	
④受取補助金等	**110,000**				**110,000**	
受取地方公共団体補助金	110,000				110,000	
⑤受取負担金	**3,000,000**	**60,000**			**3,060,000**	
受取負担金	3,000,000	60,000			3,060,000	
⑦雑収益					**0**	
受取利息					0	
雑収益					0	
経常収益	**9,369,250**	**60,000**		**2,349,750**	**11,779,000**	
【経常費用】						
①事業費	**10,019,312**	**246,088**	**48,600**	**2,013,068**	**12,327,068**	**218,292**
給料手当				896,689	896,689	
福利厚生費				148,429	148,429	
会議費		20,000		56,500	76,500	
旅費交通費		17,540			17,540	35,820
通信運搬費	3,720	3,970		168,764	176,454	1,180
消耗品費	598,702	7,848	47,952	46,876	701,378	26,440
修繕費				6,242	6,242	
印刷製本費	511,056	50,096		189,779	750,931	234
広報費	667,200				667,200	
燃料費	5,693			64,839	70,532	
光熱水料費	13,543	3,456		90,151	107,150	
賃借料	291,664	36,730		277,729	606,123	100,350
保険料	52,400	6,435			58,835	6,360
諸謝金		5,568			5,568	24,755
租税公課	14,200				14,200	400

公益社団法人　弘前青年会議所

正 味 財 産 増 減 計 算 書 内 訳 表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	公益事業会計					収益事業会計
	公１地域発展	公２青少年育成	公３防災減災	公益事業共通	小計	他１会員資質
委託費	7,632,216	50,000			7,682,216	10,000
記念品費		10,323			10,323	2,055
衛生費	27,324				27,324	
雑費	201,594	34,122	648	67,070	303,434	10,698
②管理費					**0**	
給料手当					0	
福利厚生費					0	
会議費					0	
通信運搬費					0	
消耗品費					0	
会員支給品費					0	
修繕費					0	
印刷製本費					0	
燃料費					0	
光熱水料費					0	
賃借料					0	
保険料					0	
租税公課					0	
渉外費					0	
委託費					0	
記念品費					0	
衛生費					0	
雑費					0	
支払負担金					0	
経常費用合計	**10,019,312**	**246,088**	**48,600**	**2,013,068**	**12,327,068**	**218,292**
経常増減の部	**△650,062**	**△186,088**	**△48,600**	**336,682**	**△548,068**	**△218,292**
一般正味財産増減額	**△650,062**	**△186,088**	**△48,600**	**336,682**	**△548,068**	**△218,292**
一般正味財産期首残高				△28,647,152	△28,647,152	
一般正味財産期末残高	**△650,062**	**△186,088**	**△48,600**	**△28,310,470**	**△29,195,220**	**△218,292**
正味財産期末残高	**△650,062**	**△186,088**	**△48,600**	**△28,310,470**	**△29,195,220**	**△218,292**

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	収益事業会計			法人会計	内部取引等消去	合計
	他２会員拡大	収益事業共通	小計			
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金		**34,000**	**34,000**	**85,000**	**0**	**170,000**
受取入会金		34,000	34,000	85,000	0	170,000
②受取会費		**1,532,500**	**1,532,500**	**3,831,250**	**0**	**7,662,500**
正会員会費		1,281,500	1,281,500	3,203,750	0	6,407,500
特別会員会費		81,000	81,000	202,500	0	405,000
賛助会員会費		8,000	8,000	20,000	0	40,000
新入会員会費		162,000	162,000	405,000	0	810,000
③事業収益			**0**	**10,000**	**0**	**6,269,250**
登録料収益			0	10,000	0	370,000
広告料収益			0		0	1,960,000
販売収益			0		0	3,234,250
雑収益			0		0	705,000
④受取補助金等			**0**		**0**	**110,000**
受取地方公共団体補助金			0		0	110,000
⑤受取負担金			**0**	**50,000**	**0**	**3,110,000**
受取負担金			0	50,000	0	3,110,000
⑦雑収益			**0**	**82,182**	**0**	**82,182**
受取利息			0	147	0	147
雑収益			0	82,035	0	82,035
経常収益		**1,566,500**	**1,566,500**	**4,058,432**	**0**	**17,403,932**
【経常費用】						
①事業費	**32,349**	**1,207,841**	**1,458,482**		**0**	**13,785,550**
給料手当		538,013	538,013		0	1,434,702
福利厚生費		89,057	89,057		0	237,486
会議費		33,900	33,900		0	110,400
旅費交通費			35,820		0	53,360
通信運搬費		101,258	102,438		0	278,892
消耗品費		28,126	54,566		0	755,944
修繕費		3,746	3,746		0	9,988
印刷製本費	10,800	113,867	124,901		0	875,832
広報費			0		0	667,200
燃料費		38,904	38,904		0	109,436
光熱水料費		54,091	54,091		0	161,241
賃借料	11,940	166,637	278,927		0	885,050
保険料			6,360		0	65,195
諸謝金			24,755		0	30,323
租税公課			400		0	14,600

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	収益事業会計			法人会計	内部取引等消去	合計
	他２会員拡大	収益事業共通	小計			
委託費			10,000		0	7,692,216
記念品費	9,609		11,664		0	21,987
衛生費			0		0	27,324
雑費		40,242	50,940		0	354,374
②管理費			**0**	**2,955,466**	**0**	**2,955,466**
給料手当			0	358,675	0	358,675
福利厚生費			0	59,372	0	59,372
会議費			0	22,600	0	22,600
通信運搬費			0	67,505	0	67,505
消耗品費			0	18,751	0	18,751
会員支給品費			0	37,700	0	37,700
修繕費			0	2,497	0	2,497
印刷製本費			0	75,911	0	75,911
燃料費			0	25,936	0	25,936
光熱水料費			0	36,060	0	36,060
賃借料			0	111,092	0	111,092
保険料			0	8,440	0	8,440
租税公課			0	2,150	0	2,150
渉外費			0	553,774	0	553,774
委託費			0	460,400	0	460,400
記念品費			0	35,450	0	35,450
衛生費			0	34,000	0	34,000
雑費			0	26,828	0	26,828
支払負担金			0	1,018,325	0	1,018,325
経常費用合計	**32,349**	**1,207,841**	**1,458,482**	**2,955,466**	**0**	**16,741,016**
経常増減の部	**△32,349**	**358,659**	**108,018**	**1,102,966**	**0**	**662,916**
一般正味財産増減額	**△32,349**	**358,659**	**108,018**	**1,102,966**	**0**	**662,916**
一般正味財産期首残高		△3,652,485	△3,652,485	36,366,537	0	4,066,900
一般正味財産期末残高	**△32,349**	**△3,293,826**	**△3,544,467**	**37,469,503**	**0**	**4,729,816**
正味財産期末残高	**△32,349**	**△3,293,826**	**△3,544,467**	**37,469,503**	**0**	**4,729,816**

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	公１地域発展				公２青少年育成	
	公１地域連携	公１ねぷた	公１まんじ札	小計	公２青少年	公２わんぱく
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金				**0**		
受取入会金				0		
②受取会費				**0**		
正会員会費				0		
特別会員会費				0		
賛助会員会費				0		
新入会員会費				0		
③事業収益	**4,918,250**	**981,000**	**360,000**	**6,259,250**		
登録料収益			360,000	360,000		
広告料収益	1,960,000			1,960,000		
販売収益	2,958,250	276,000		3,234,250		
雑収益		705,000		705,000		
④受取補助金等		**110,000**		**110,000**		
受取地方公共団体補助金		110,000		110,000		
⑤受取負担金	**3,000,000**			**3,000,000**		**60,000**
受取負担金	3,000,000			3,000,000		60,000
⑦雑収益				**0**		
受取利息				0		
雑収益				0		
経常収益	**7,918,250**	**1,091,000**	**360,000**	**9,369,250**		**60,000**
【経常費用】						
①事業費	**8,531,597**	**1,108,851**	**378,864**	**10,019,312**	**61,478**	**134,610**
給料手当				0		
福利厚生費				0		
会議費				0		20,000
旅費交通費				0		17,540
通信運搬費	2,460	1,260		3,720	3,970	
消耗品費	98,902	499,800		598,702	4,848	3,000
修繕費				0		
印刷製本費	106,920	25,272	378,864	511,056	24,300	25,796
広報費	343,200	324,000		667,200		
燃料費	5,693			5,693		
光熱水料費	4,212	9,331		13,543		3,456
賃借料	291,664			291,664	27,610	9,120
保険料	38,850	13,550		52,400		6,435
諸謝金				0		5,568
租税公課	12,000	2,200		14,200		

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	公１地域発展				公２青少年育成	
	公１地域連携	公１ねぷた	公１まんじ札	小計	公２青少年	公２わんぱく
委託費	7,610,616	21,600		7,632,216		
記念品費				0		10,323
衛生費	16,200	11,124		27,324		
雑費	880	200,714		201,594	750	33,372
②管理費				**0**		
給料手当				0		
福利厚生費				0		
会議費				0		
通信運搬費				0		
消耗品費				0		
会員支給品費				0		
修繕費				0		
印刷製本費				0		
燃料費				0		
光熱水料費				0		
賃借料				0		
保険料				0		
租税公課				0		
渉外費				0		
委託費				0		
記念品費				0		
衛生費				0		
雑費				0		
支払負担金				0		
経常費用合計	8,531,597	1,108,851	378,864	10,019,312	61,478	134,610
経常増減の部	△613,347	△17,851	△18,864	△650,062	△61,478	△74,610
一般正味財産増減額	△613,347	△17,851	△18,864	△650,062	△61,478	△74,610
一般正味財産期首残高				0		
一般正味財産期末残高	△613,347	△17,851	△18,864	△650,062	△61,478	△74,610
正味財産期末残高	△613,347	△17,851	△18,864	△650,062	△61,478	△74,610

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	公２青少年育成		公３防災減災		公益事業共通	
	公２ちびっこ	小計		小計		小計
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金		**0**		**0**	**51,000**	**51,000**
受取入会金		0		0	51,000	51,000
②受取会費		**0**		**0**	**2,298,750**	**2,298,750**
正会員会費		0		0	1,922,250	1,922,250
特別会員会費		0		0	121,500	121,500
賛助会員会費		0		0	12,000	12,000
新入会員会費		0		0	243,000	243,000
③事業収益		**0**		**0**		**0**
登録料収益		0		0		0
広告料収益		0		0		0
販売収益		0		0		0
雑収益		0		0		0
④受取補助金等		**0**		**0**		**0**
受取地方公共団体補助金		0		0		0
⑤受取負担金		**60,000**		**0**		**0**
受取負担金		60,000		0		0
⑦雑収益		**0**		**0**		**0**
受取利息		0		0		0
雑収益		0		0		0
経常収益		**60,000**		**0**	**2,349,750**	**2,349,750**
【経常費用】						
①事業費	**50,000**	**246,088**	**48,600**	**48,600**	**2,013,068**	**2,013,068**
給料手当		0		0	896,689	896,689
福利厚生費		0		0	148,429	148,429
会議費		20,000		0	56,500	56,500
旅費交通費		17,540		0		0
通信運搬費		3,970		0	168,764	168,764
消耗品費		7,848	47,952	47,952	46,876	46,876
修繕費		0		0	6,242	6,242
印刷製本費		50,096		0	189,779	189,779
広報費		0		0		0
燃料費		0		0	64,839	64,839
光熱水料費		3,456		0	90,151	90,151
賃借料		36,730		0	277,729	277,729
保険料		6,435		0		0
諸謝金		5,568		0		0
租税公課		0		0		0

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	公２青少年育成		公３防災減災		公益事業共通	
	公２ちびっこ	小計		小計		小計
委託費	50,000	50,000		0		0
記念品費		10,323		0		0
衛生費		0		0		0
雑費		34,122	648	648	67,070	67,070
②管理費		**0**		**0**		**0**
給料手当		0		0		0
福利厚生費		0		0		0
会議費		0		0		0
通信運搬費		0		0		0
消耗品費		0		0		0
会員支給品費		0		0		0
修繕費		0		0		0
印刷製本費		0		0		0
燃料費		0		0		0
光熱水料費		0		0		0
賃借料		0		0		0
保険料		0		0		0
租税公課		0		0		0
渉外費		0		0		0
委託費		0		0		0
記念品費		0		0		0
衛生費		0		0		0
雑費		0		0		0
支払負担金		0		0		0
経常費用合計	**50,000**	**246,088**	**48,600**	**48,600**	**2,013,068**	**2,013,068**
経常増減の部	**△50,000**	**△186,088**	**△48,600**	**△48,600**	**336,682**	**336,682**
一般正味財産増減額	**△50,000**	**△186,088**	**△48,600**	**△48,600**	**336,682**	**336,682**
一般正味財産期首残高		0		0	△28,647,152	△28,647,152
一般正味財産期末残高	**△50,000**	**△186,088**	**△48,600**	**△48,600**	**△28,310,470**	**△28,310,470**
正味財産期末残高	**△50,000**	**△186,088**	**△48,600**	**△48,600**	**△28,310,470**	**△28,310,470**

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	他１会員資質				他２会員拡大	
	他１例会企画	他１新人研修	他１会員研修	小計		小計
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金				**0**		**0**
受取入会金				0		0
②受取会費				**0**		**0**
正会員会費				0		0
特別会員会費				0		0
賛助会員会費				0		0
新入会員会費				0		0
③事業収益				**0**		**0**
登録料収益				0		0
広告料収益				0		0
販売収益				0		0
雑収益				0		0
④受取補助金等				**0**		**0**
受取地方公共団体補助金				0		0
⑤受取負担金				**0**		**0**
受取負担金				0		0
⑦雑収益				**0**		**0**
受取利息				0		0
雑収益				0		0
経常収益				**0**		**0**
【経常費用】						
①事業費	**82,567**	**37,947**	**97,778**	**218,292**	**32,349**	**32,349**
給料手当				0		0
福利厚生費				0		0
会議費				0		0
旅費交通費			35,820	35,820		0
通信運搬費	82	492	606	1,180		0
消耗品費	9,000	9,688	7,752	26,440		0
修繕費				0		0
印刷製本費		234		234	10,800	10,800
広報費				0		0
燃料費				0		0
光熱水料費				0		0
賃借料	54,480	8,760	37,110	100,350	11,940	11,940
保険料		6,360		6,360		0
諸謝金	16,705	6,000	2,050	24,755		0
租税公課	200	200		400		0

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	他１会員資質				他２会員拡大	
	他１例会企画	他１新人研修	他１会員研修	小計		小計
委託費			10,000	10,000		0
記念品費	2,000	55		2,055	9,609	9,609
衛生費				0		0
雑費	100	6,158	4,440	10,698		0
②管理費				**0**		**0**
給料手当				0		0
福利厚生費				0		0
会議費				0		0
通信運搬費				0		0
消耗品費				0		0
会員支給品費				0		0
修繕費				0		0
印刷製本費				0		0
燃料費				0		0
光熱水料費				0		0
賃借料				0		0
保険料				0		0
租税公課				0		0
渉外費				0		0
委託費				0		0
記念品費				0		0
衛生費				0		0
雑費				0		0
支払負担金				0		0
経常費用合計	82,567	37,947	97,778	218,292	32,349	32,349
経常増減の部	△82,567	△37,947	△97,778	△218,292	△32,349	△32,349
一般正味財産増減額	△82,567	△37,947	△97,778	△218,292	△32,349	△32,349
一般正味財産期首残高				0		0
一般正味財産期末残高	△82,567	△37,947	△97,778	△218,292	△32,349	△32,349
正味財産期末残高	△82,567	△37,947	△97,778	△218,292	△32,349	△32,349

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	収益事業共通	小計	法人会計	内部取引等消去	合計	
一般正味財産増減の部						
経常増減の部						
【経常収益】						
①受取入会金	34,000	34,000	85,000	0	170,000	
受取入会金	34,000	34,000	85,000	0	170,000	
②受取会費	1,532,500	1,532,500	3,831,250	0	7,662,500	
正会員会費	1,281,500	1,281,500	3,203,750	0	6,407,500	
特別会員会費	81,000	81,000	202,500	0	405,000	
賛助会員会費	8,000	8,000	20,000	0	40,000	
新入会員会費	162,000	162,000	405,000	0	810,000	
③事業収益		0	10,000	0	6,269,250	
登録料収益		0	10,000	0	370,000	
広告料収益		0		0	1,960,000	
販売収益		0		0	3,234,250	
雑収益		0		0	705,000	
④受取補助金等		0		0	110,000	
受取地方公共団体補助金		0		0	110,000	
⑤受取負担金		0	50,000	0	3,110,000	
受取負担金		0	50,000	0	3,110,000	
⑦雑収益		0	82,182	0	82,182	
受取利息		0	147	0	147	
雑収益		0	82,035	0	82,035	
経常収益	1,566,500	1,566,500	4,058,432	0	17,403,932	
【経常費用】						
①事業費	1,207,841	1,207,841		0	13,785,550	
給料手当	538,013	538,013		0	1,434,702	
福利厚生費	89,057	89,057		0	237,486	
会議費	33,900	33,900		0	110,400	
旅費交通費		0		0	53,360	
通信運搬費	101,258	101,258		0	278,892	
消耗品費	28,126	28,126		0	755,944	
修繕費	3,746	3,746		0	9,988	
印刷製本費	113,867	113,867		0	875,832	
広報費		0		0	667,200	
燃料費	38,904	38,904		0	109,436	
光熱水料費	54,091	54,091		0	161,241	
賃借料	166,637	166,637		0	885,050	
保険料		0		0	65,195	
諸謝金		0		0	30,323	
租税公課		0		0	14,600	

公益社団法人　弘前青年会議所

正味財産増減計算書内訳表

平成30年12月16日から令和01年12月15日まで

（単位：円）

科　　目	収益事業共通	小計	法人会計	内部取引等消去	合計	
委託費		0		0	7,692,216	
記念品費		0		0	21,987	
衛生費		0		0	27,324	
雑費	40,242	40,242		0	354,374	
②管理費		**0**	**2,955,466**	**0**	**2,955,466**	
給料手当		0	358,675	0	358,675	
福利厚生費		0	59,372	0	59,372	
会議費		0	22,600	0	22,600	
通信運搬費		0	67,505	0	67,505	
消耗品費		0	18,751	0	18,751	
会員支給品費		0	37,700	0	37,700	
修繕費		0	2,497	0	2,497	
印刷製本費		0	75,911	0	75,911	
燃料費		0	25,936	0	25,936	
光熱水料費		0	36,060	0	36,060	
賃借料		0	111,092	0	111,092	
保険料		0	8,440	0	8,440	
租税公課		0	2,150	0	2,150	
渉外費		0	553,774	0	553,774	
委託費		0	460,400	0	460,400	
記念品費		0	35,450	0	35,450	
衛生費		0	34,000	0	34,000	
雑費		0	26,828	0	26,828	
支払負担金		0	1,018,325	0	1,018,325	
経常費用合計	**1,207,841**	**1,207,841**	**2,955,466**	**0**	**16,741,016**	
経常増減の部	**358,659**	**358,659**	**1,102,966**	**0**	**662,916**	
一般正味財産増減額	**358,659**	**358,659**	**1,102,966**	**0**	**662,916**	
一般正味財産期首残高	△3,652,485	△3,652,485	36,366,537	0	4,066,900	
一般正味財産期末残高	**△3,293,826**	**△3,293,826**	**37,469,503**	**0**	**4,729,816**	
正味財産期末残高	**△3,293,826**	**△3,293,826**	**37,469,503**	**0**	**4,729,816**	

公益社団法人　弘前青年会議所

貸　借　対　照　表

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	当　年　度		前　年　度		増　　減	
【流動資産】						
現金	253,549	3.8	151,562	3.0	101,987	67.3
普通預金	5,216,453	78.3	3,775,743	73.8	1,440,710	38.2
定期預金	1,012,215	15.2	1,012,114	19.8	101	0.0
前払金	35,000	0.5	35,000	0.7	0	0.0
流動資産合計	**6,517,217**	**97.8**	**4,974,419**	**97.2**	**1,542,798**	**31.0**
【固定資産】						
電話加入権	144,000	2.2	144,000	2.8	0	0.0
固定資産合計	**144,000**	**2.2**	**144,000**	**2.8**	**0**	**0.0**
資産の部合計	**6,661,217**	**100.0**	**5,118,419**	**100.0**	**1,542,798**	**30.1**

公益社団法人　弘前青年会議所

貸　借　対　照　表

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	当　年　度		前　年　度		増　　減	
【流動負債】						
未払金	307,761	4.6	363,429	7.1	△55,668	△15.3
前受金	1,620,000	24.3	685,000	13.4	935,000	136.5
預り金	3,640	0.1	3,090	0.1	550	17.8
流動負債合計	1,931,401	29.0	1,051,519	20.5	879,882	83.7
負債の部合計	1,931,401	29.0	1,051,519	20.5	879,882	83.7
【正味財産】						
【一般正味財産】						
繰越一般正味合計	4,066,900	61.1	3,173,810	62.0	893,090	28.1
当期一般正味財産増加額	662,916	10.0	893,090	17.4	△230,174	△25.8
一般正味財産合計	4,729,816	71.0	4,066,900	79.5	662,916	16.3
正味財産合計	4,729,816	71.0	4,066,900	79.5	662,916	16.3
純資産の部合計	4,729,816	71.0	4,066,900	79.5	662,916	16.3
負債・純資産の部合計	6,661,217	100.0	5,118,419	100.0	1,542,798	30.1

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	公益事業会計	収益事業会計	法人会計	合計	内部取引等消去	
資産の部						
【流動資産】						
現金			253,549	253,549	0	253,549
普通預金			5,216,453	5,216,453	0	5,216,453
定期預金			1,012,215	1,012,215	0	1,012,215
前払金	17,500	10,500	7,000	35,000	0	35,000
流動資産合計	**17,500**	**10,500**	**6,489,217**	**6,517,217**	**0**	**6,517,217**
【固定資産】						
電話加入権			144,000	144,000	0	144,000
固定資産合計			**144,000**	**144,000**	**0**	**144,000**
資産の部合計	**17,500**	**10,500**	**6,633,217**	**6,661,217**	**0**	**6,661,217**

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	公益事業会計	収益事業会計	法人会計	合計	内部取引等消去	
負債の部						
【流動負債】						
未払金	106,311	63,786	137,664	307,761	0	307,761
前受金			1,620,000	1,620,000	0	1,620,000
預り金			3,640	3,640	0	3,640
本部勘定	29,106,409	3,491,181	△32,597,590	0	0	0
流動負債合計	**29,212,720**	**3,554,967**	**△30,836,286**	**1,931,401**	**0**	**1,931,401**
負債の部合計	**29,212,720**	**3,554,967**	**△30,836,286**	**1,931,401**	**0**	**1,931,401**
純資産の部						
【正味財産】						
【一般正味財産】						
繰越一般正味合計	**△28,647,152**	**△3,652,485**	**36,366,537**	**4,066,900**	**0**	**4,066,900**
当期一般正味財産増加額	△548,068	108,018	1,102,966	662,916	0	662,916
一般正味財産合計	△29,195,220	△3,544,467	37,469,503	4,729,816	0	4,729,816
正味財産合計	**△29,195,220**	**△3,544,467**	**37,469,503**	**4,729,816**	**0**	**4,729,816**
純資産の部合計	**△29,195,220**	**△3,544,467**	**37,469,503**	**4,729,816**	**0**	**4,729,816**
負債・純資産の部合計	**17,500**	**10,500**	**6,633,217**	**6,661,217**	**0**	**6,661,217**

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	公１地域発展	公２青少年育成	公３防災減災	公益事業共通	他１会員資質	他２会員拡大
資産の部						
【流動資産】						
現金						
普通預金						
定期預金						
前払金				17,500		
流動資産合計				**17,500**		
【固定資産】						
電話加入権						
固定資産合計						
資産の部合計				**17,500**		

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	公１地域発展	公２青少年育成	公３防災減災	公益事業共通	他１会員資質	他２会員拡大
負債の部						
【流動負債】						
未払金				106,311		
前受金						
預り金						
本部勘定	650,062	186,088	48,600	28,221,659	218,292	32,349
流動負債合計	**650,062**	**186,088**	**48,600**	**28,327,970**	**218,292**	**32,349**
負債の部合計	**650,062**	**186,088**	**48,600**	**28,327,970**	**218,292**	**32,349**
純資産の部						
【正味財産】						
【一般正味財産】						
繰越一般正味合計				**△28,647,152**		
当期一般正味財産増加額	△650,062	△186,088	△48,600	336,682	△218,292	△32,349
一般正味財産合計	△650,062	△186,088	△48,600	△28,310,470	△218,292	△32,349
正味財産合計	**△650,062**	**△186,088**	**△48,600**	**△28,310,470**	**△218,292**	**△32,349**
純資産の部合計	**△650,062**	**△186,088**	**△48,600**	**△28,310,470**	**△218,292**	**△32,349**
負債・純資産の部合計				**17,500**		

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	収益事業共通	法人会計	合計	内部取引等消去		
資産の部						
【流動資産】						
現金		253,549	253,549	0	253,549	
普通預金		5,216,453	5,216,453	0	5,216,453	
定期預金		1,012,215	1,012,215	0	1,012,215	
前払金	10,500	7,000	35,000	0	35,000	
流動資産合計	**10,500**	**6,489,217**	**6,517,217**	**0**	**6,517,217**	
【固定資産】						
電話加入権		144,000	144,000	0	144,000	
固定資産合計		**144,000**	**144,000**	**0**	**144,000**	
資産の部合計	**10,500**	**6,633,217**	**6,661,217**	**0**	**6,661,217**	

貸 借 対 照 表 （ 内 訳 表 ）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	収益事業共通	法人会計	合計	内部取引等消去		
負債の部						
【流動負債】						
未払金	63,786	137,664	307,761	0	307,761	
前受金		1,620,000	1,620,000	0	1,620,000	
預り金		3,640	3,640	0	3,640	
本部勘定	3,240,540	△32,597,590	0	0	0	
流動負債合計	**3,304,326**	**△30,836,286**	**1,931,401**	**0**	**1,931,401**	
負債の部合計	**3,304,326**	**△30,836,286**	**1,931,401**	**0**	**1,931,401**	
純資産の部						
【正味財産】						
【一般正味財産】						
繰越一般正味合計	**△3,652,485**	**36,366,537**	**4,066,900**	**0**	**4,066,900**	
当期一般正味財産増加額	358,659	1,102,966	662,916	0	662,916	
一般正味財産合計	△3,293,826	37,469,503	4,729,816	0	4,729,816	
正味財産合計	**△3,293,826**	**37,469,503**	**4,729,816**	**0**	**4,729,816**	
純資産の部合計	**△3,293,826**	**37,469,503**	**4,729,816**	**0**	**4,729,816**	
負債・純資産の部合計	**10,500**	**6,633,217**	**6,661,217**	**0**	**6,661,217**	

公益社団法人　弘前青年会議所

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	公１地域連携	公１ねぷた	公１まんじ札	公２青少年	公２わんぱく	公２ちびっこ
資産の部						
【流動資産】						
現金						
普通預金						
定期預金						
前払金						
流動資産合計						
【固定資産】						
電話加入権						
固定資産合計						
資産の部合計						

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	公１地域連携	公１ねぷた	公１まんじ札	公２青少年	公２わんぱく	公２ちびっこ
負債の部						
【流動負債】						
未払金						
前受金						
預り金						
本部勘定	613,347	17,851	18,864	61,478	74,610	50,000
流動負債合計	**613,347**	**17,851**	**18,864**	**61,478**	**74,610**	**50,000**
負債の部合計	**613,347**	**17,851**	**18,864**	**61,478**	**74,610**	**50,000**
純資産の部						
【正味財産】						
【一般正味財産】						
繰越一般正味合計						
当期一般正味財産増加額	△613,347	△17,851	△18,864	△61,478	△74,610	△50,000
一般正味財産合計	△613,347	△17,851	△18,864	△61,478	△74,610	△50,000
正味財産合計	**△613,347**	**△17,851**	**△18,864**	**△61,478**	**△74,610**	**△50,000**
純資産の部合計	**△613,347**	**△17,851**	**△18,864**	**△61,478**	**△74,610**	**△50,000**
負債・純資産の部合計						

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	公３防災減災	公益事業共通	他１例会企画	他１新人研修	他１会員研修	他２会員拡大
資産の部						
【流動資産】						
現金						
普通預金						
定期預金						
前払金		17,500				
流動資産合計		**17,500**				
【固定資産】						
電話加入権						
固定資産合計						
資産の部合計		**17,500**				

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	公３防災減災	公益事業共通	他１例会企画	他１新人研修	他１会員研修	他２会員拡大
負債の部						
【流動負債】						
未払金		106,311				
前受金						
預り金						
本部勘定	48,600	28,221,659	82,567	37,947	97,778	32,349
流動負債合計	**48,600**	**28,327,970**	**82,567**	**37,947**	**97,778**	**32,349**
負債の部合計	**48,600**	**28,327,970**	**82,567**	**37,947**	**97,778**	**32,349**
純資産の部						
【正味財産】						
【一般正味財産】						
繰越一般正味合計		**△28,647,152**				
当期一般正味財産増加額	△48,600	336,682	△82,567	△37,947	△97,778	△32,349
一般正味財産合計	△48,600	△28,310,470	△82,567	△37,947	△97,778	△32,349
正味財産合計	**△48,600**	**△28,310,470**	**△82,567**	**△37,947**	**△97,778**	**△32,349**
純資産の部合計	**△48,600**	**△28,310,470**	**△82,567**	**△37,947**	**△97,778**	**△32,349**
負債・純資産の部合計		**17,500**				

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	収益事業共通	法人会計	合計	内部取引等消去		
資産の部						
【流動資産】						
現金		253,549	253,549	0	253,549	
普通預金		5,216,453	5,216,453	0	5,216,453	
定期預金		1,012,215	1,012,215	0	1,012,215	
前払金	10,500	7,000	35,000	0	35,000	
流動資産合計	**10,500**	**6,489,217**	**6,517,217**	**0**	**6,517,217**	
【固定資産】						
電話加入権		144,000	144,000	0	144,000	
固定資産合計		**144,000**	**144,000**	**0**	**144,000**	
資産の部合計	**10,500**	**6,633,217**	**6,661,217**	**0**	**6,661,217**	

貸　借　対　照　表　（　内　訳　表　）

令和01年12月15日現在

（単位：円）

科　　目	収益事業共通	法人会計	合計	内部取引等消去		
負債の部						
【流動負債】						
未払金	63,786	137,664	307,761	0	307,761	
前受金		1,620,000	1,620,000	0	1,620,000	
預り金		3,640	3,640	0	3,640	
本部勘定	3,240,540	△32,597,590	0	0	0	
流動負債合計	**3,304,326**	**△30,836,286**	**1,931,401**	**0**	**1,931,401**	
負債の部合計	**3,304,326**	**△30,836,286**	**1,931,401**	**0**	**1,931,401**	
純資産の部						
【正味財産】						
【一般正味財産】						
繰越一般正味合計	**△3,652,485**	**36,366,537**	**4,066,900**	**0**	**4,066,900**	
当期一般正味財産増加額	358,659	1,102,966	662,916	0	662,916	
一般正味財産合計	△3,293,826	37,469,503	4,729,816	0	4,729,816	
正味財産合計	**△3,293,826**	**37,469,503**	**4,729,816**	**0**	**4,729,816**	
純資産の部合計	**△3,293,826**	**37,469,503**	**4,729,816**	**0**	**4,729,816**	
負債・純資産の部合計	**10,500**	**6,633,217**	**6,661,217**	**0**	**6,661,217**	

附 属 明 細 書

１．基本財産及び特定資産の明細

該当ありません。

２．引当金の明細

該当ありません。

財 務 諸 表 に 対 す る 注 記

１．継続企業の前提に関する注記

該当ありません。

２．重要な会計方針

（１）有価証券の評価基準及び評価方法
該当ありません。
（２）棚卸資産の評価基準及び評価方法
該当ありません。
（３）固定資産の減価償却の方法
該当ありません。
（４）引当金の計上基準
該当ありません。
（５）消費税等の会計処理
税込方式を採用しております。

３．会計方針の変更

該当ありません。

４．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

該当ありません。

５．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

該当ありません。

６．担保に供している資産

該当ありません。

７．固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

該当ありません。

８．債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

該当ありません。

９．保証債務等の偶発債務

該当ありません。

財 務 諸 表 に 対 す る 注 記

１０．満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当ありません。

１１．補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、以下のとおりです。

（単位:円）

補助金等の名　　称	交　付　者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
情っ張り大太鼓運行補助金	弘前市	0	110,000	110,000	0	一般正味財産
合　　計		0	110,000	110,000	0	

１２．基金及び代替基金の増減額及びその残高

該当ありません。

１３．指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

該当ありません。

１４．関連当事者との取引の内容

該当ありません。

１５．重要な後発事象

該当ありません。

１６．その他

該当ありません。

公益社団法人　弘前青年会議所

財 産 目 録

令和元年12月15日現在

（単位：円）

科目		金額		
Ⅰ．資産の部				
１．流動資産				
現金預金				
現金	手元保管	253,549		
普通預金	青森銀行津軽和徳支店	3,974,192		
	みちのく銀行下土手町支店	920,236		
	東奥信用金庫本店	205,636		
	青い森信用金庫弘前支店	116,389		
定期預金	青い森信用金庫弘前支店	1,012,215		
前払金	佐藤興産／家賃	35,000		
流動資産合計			6,517,217	
２．固定資産				
（1）その他の固定資産				
電話加入権	NTT東日本	144,000		
その他の固定資産合計		144,000		
固定資産合計			144,000	
資産合計				6,661,217
Ⅱ．負債の部				
１．流動負債				
未払金	事務局員／12月分給料　他	307,761		
前受金	竹内博之／正会員会費　他	1,620,000		
預り金	事務局員／源泉所得税	3,640		
流動負債合計			1,931,401	
負債合計				1,931,401
正味財産				4,729,816

管 理 費 配 賦 表

勘 定 科 目	法 人 全 体	公 益 会 計	収 益 会 計	法 人 会 計
会議費	20,000	20,000	0	0
旅費交通費	53,360	17,540	35,820	0
通信運搬費	8,870	7,690	1,180	0
消耗品費	680,942	654,502	26,440	0
印刷製本費	572,186	561,152	11,034	0
広報費	667,200	667,200	0	0
燃料費	5,693	5,693	0	0
光熱水料費	16,999	16,999	0	0
賃借料	440,684	328,394	112,290	0
保険料	65,195	58,835	6,360	0
諸謝金	30,323	5,568	24,755	0
租税公課	14,600	14,200	400	0
委託費	7,692,216	7,682,216	10,000	0
記念品費	21,987	10,323	11,664	0
衛生費	27,324	27,324	0	0
雑費	247,062	236,364	10,698	0
［ 事 業 費 ］	10,564,641	10,314,000	250,641	0
給料手当	1,793,377	896,689	538,013	358,675
福利厚生費	296,858	148,429	89,057	59,372
会議費	113,000	56,500	33,900	22,600
通信運搬費	337,527	168,764	101,258	67,505
消耗品費	93,753	46,876	28,126	18,751
会員支給品費	37,700	0	0	37,700
修繕費	12,485	6,242	3,746	2,497
印刷製本費	379,557	189,779	113,867	75,911
燃料費	129,679	64,839	38,904	25,936
光熱水料費	180,302	90,151	54,091	36,060
賃借料	555,458	277,729	166,637	111,092
保険料	8,440	0	0	8,440
租税公課	2,150	0	0	2,150
渉外費	553,774	0	0	553,774
委託費	460,400	0	0	460,400
記念品費	35,450	0	0	35,450
衛生費	34,000	0	0	34,000
雑費	134,140	67,070	40,242	26,828
支払負担金	1,018,325	0	0	1,018,325
［ 管 理 費 ］	6,176,375	2,013,068	1,207,841	2,955,466
［経 常 費 用］	16,741,016	12,327,068	1,458,482	2,955,466

◎ 12,327,068 ÷ 16,741,016 ＝ 0.7363

監査報告書

公益社団法人弘前青年会議所
2019年度　理事長　秋元　駿一　殿

2019年12月20日
公益社団法人弘前青年会議所

2019年度　監事　工藤慎敬　印

2019年度　監事　三國典央　印

私たちは、2018年12月16日から2019年12月15日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1．監査の方法の概要

（1）会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

（2）業務監査について、理事会及びその他会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2．監査意見

（1）活動計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく示していると認める。

（2）事業報告書の内容は真実であると認める。

（3）理事の職務遂行に関する不正の行為、又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

3．その他

以上

JCソング

一、JC　JC　JC
世界を結ぶ　若き団結
新しき世紀の　希望となりて
永遠に繁栄えん　我等の集い

二、JC　JC　JC
奉仕の理想　探究めつつ
祖国の進歩の　力となりて
先駆けゆかん　我等の集い

若い我等

一、若い我等が　手を取り合って
進む行く手の　青い空に
輝くJC　明るい希望
足なみをそろえて
行こうじゃないか

二、世界を結ぶ　若さの力
互に尽す　楽しさこそ
JCの理想だ　新しい日だ
足なみをそろえて
行こうじゃないか

三、若い我等の　心を集め
つくる集いに　未来をかけて
JCの仲間は　皆信じあう
足なみをそろえて
行こうじゃないか

明日のために

一、若さと若さが　手を結び
明日にいつも　向うのだ
豊かな未来　めざしつつ
日本の道を　創ろうよ
行こうJAYCEE
明日のために

二、心と心を　つなぎ合い
大きな虹を　かけるのだ
生きてることの　喜びを
すべての人に　投げかけて
行こうJAYCEE
明日のために

三、命と命が　満ちあふれ
光りとなって　燃えるのだ
世界の窓に　いつの日も
希望の夢は　はばたくよ
行こうJAYCEE
明日のため

(公社)弘前青年会議所
2020年度　基本資料

発　行：令和２年４月１日
印　刷：やまと印刷株式会社

磐石な組織運営と柔軟な対応強化

2020年度

独占スクープ 総務広報委員会

ついに発足！

2020.01.10

総務広報ニュース

号外

委員長
今井　和之
㈱日産サティオ弘前

二〇二〇年度総務広報委員会の委員長を拝命頂きました今井和之です。二〇一九年五月に入会し、まだ日が浅く初めての委員長で分からないことだらけですが、事前準備をしっかりとし、委員会メンバーと力を合わせ、磐石の態勢で臨みたいと思います。

また本年度当委員会の広報活動として、広報誌「あおいりんご」の作成及び発行を担当致します。本誌では、弘前ＪＣの運動内容や魅力を積極的に発信していきたいと思います。

さらに新たな取組として、アテンダンスポイントに替わり「弘前ＪＣアワード」を導入することで、弘前ＪＣの更なる活性化に貢献していきたいと思います。

まだまだ未熟ですが、皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、一年間しっかりと職務を全うしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

事務局長
大湯　幸世
㈱アップルファクトリージャパン

二〇二〇年度もＪＣ三信条「奉仕」「修練」「友情」を胸に自身の成長が出来るよう職務に当って参ります。ラストイヤーとなり年長者としての自覚を持ち、先輩から教わった事をより多くの後輩へ伝えるのもひとつの責任と思っている次第です。微力ではありますが弘前青年会議所をより良く後輩へ引き継げるよう頑張ります。

専務理事
吉川　裕之
吉川建設㈱

二〇二〇年度専務理事を務めさせて頂きます。対外的窓口、会の財政管理が主な職務になります。専務理事は激務であると、経験者よりよくお聞きしますが入会十二年の経験を活かし、会の円滑な運営のために、自分が出来る限界まで一年間全力で取り組む所存です。何卒宜しくお願い致します。

職務分掌

- ◆総会の企画・運営
- ◆理事会の運営
- ◆会議議事録の作成
- ◆アワードの企画・運営
- ◆基本資料、メンバーズリスト、名刺の作成
- ◆新年祝賀会の企画・運営
- ◆あおいりんごの作成・発行
- ◆その他（例会）

委員会メンバー紹介

委員
伊藤　英里
Grand club
TOPAZ

委員
下山 裕之
北星交通㈱

委員
福士　蔵
福士蔵土地家屋
調査士事務所

副委員長
三浦　聖吾
㈱よつば不動産
アパマンショップ
弘前店

～委員会の年間スケジュール～

1月：新年祝賀会、第103回通常総会、議事録作成
2月：理事会運営、議事録作成
3月：理事会運営、議事録作成
4月：理事会運営、議事録作成、あおいりんご発行予定
5月：理事会運営、議事録作成
6月：理事会運営、議事録作成
7月：理事会運営、議事録作成
8月：理事会運営、議事録作成
あおいりんご発行予定
9月：理事会運営、議事録作成
１０月：理事会運営、議事録作成
１１月：理事会運営、議事録作成、あおいりんご発行予定
１２月：理事会運営、議事録作成

公益社団法人弘前青年会議所　２０２０年度Sプロジェクト委員会

Cross.Sに新たな歴史を刻む！

委員長
菊池　勲
ワンダーテール

この度、Sプロジェクト委員会の委員長を務めることになりました。主に、Cross.S事業を担当します。これまで7回の開催を経て、今年で8回目を迎えます。これまで苦労を重ね築き上げてきたCross.S事業は地域に定着し、地域になくてはならない存在になっています。今年は新たなチャレンジを行う事業展開をしていきます。

委員会メンバーも私を筆頭に、子育て真っ最中の**太田副理事長**、とにかく子供と関わる取り組みが大好きな**三上常任理事**、事務レベルが高く影のまとめ役の**鎌田副委員長**、クラブDJの経験を持つ**成田君**、そして安定感と経験値抜群の**白石君**、ポテンシャルが高く音楽も詳しい期待の新人・**葛西君**、歌なら任せて**山形君**、フェスと言えばどこにでも飛んでいく炎の公務員・**石岡君**という最強のメンバーで今年のCross.S事業に臨んでいきます。

ひたむきに取り組んで参りますのでご指導のほど宜しくお願い致します。

担当常任理事
三上　優香
第一生命保険㈱

今年度、Cross.S事業の担当常任理事を務めさせて頂くことになりました。菊池委員長が目指す方向を見据えながら、全員リーダーで事業構築を進めて参ります。Cross.S事業が、地域や弘前市民にとってプラスの刺激となり、改めて弘前というまちについて想いを巡らせる機会となるよう挑戦して参ります。一年間宜しくお願い致します。

副理事長
太田　脩皓
平成ビル管理㈲

本年は副理事長の重責を預からせて頂くこととなりました。これまでのJCライフのなかで培ってきた様々な経験を基に、理事長を支え、委員長を鼓舞し、LOMの更なる発展のため、そして、より良い弘前の実現のために全力で邁進する所存でございます。

委員会の年間スケジュール

４月：例会担当
１月～８月：クロスエス準備
８月～９月：**クロスエス開催（予定）**

委員会メンバー

副委員長
鎌田　祥吾
㈱弘前公益社

委員
成田　智崇
文ちゃんラーメン

委員
白石　将一
㈱白石医療器

委員
石岡　和仁
弘前市役所

委員
山形　昌弘
㈲山形商店

委員
葛西　紘一
㈱かさい

職務分掌

- **地域連携事業の企画・運営**
- **４月例会担当**
- **その他**

伝統文化継承の礎となる

委員長
中村　浩樹
㈱テクノル弘前支店

この度まつりのこころ継承委員会の委員長を拝命致しました、中村浩樹と申します。当委員会では剛情張大太鼓運行事業を担当させて頂きます。

伝統文化である弘前ねぷたまつりに委員長として携われる事を光栄に思うと同時に身が引き締まる思いです。

剛情張大太鼓の運行は２０１８年に弘前青年会議所が復活させ、今年で３回目の運行となります。前年度に引き続き一般参加の方々と協力して弘前の伝統文化の素晴らしさと魅力を広く伝える事業になるよう努力していきます。また今年度は未来への「継承」をもう一つのテーマとして、運行マニュアルの作成やＰＲ動画の作成を考えております。今年度の事業を来年以降続く運行への礎とするのが私の役割と捉えております。

一年間宜しくお願い致します。

常任理事
三上　恵美
LOCOスタジオ

今年度は当委員会の常任理事という機会をいただき、同時に卒業という年になります。この貴重な時間を剛情張大太鼓の運行という華やかな事業に携わる事ができ、大変嬉しく思っております。

剛情張大太鼓の運行には昨年委員として初めて関わり、ねぷたまつり当日も大太鼓と共に出陣しました。当日まで一般参加の叩き手の方々が沢山練習をしているのを見ていたので、本番の凛々しい姿を見て喜びと感動と、弘前の伝統文化の素晴らしさを改めて感じました。

二年前に復活し、また皆さまの目に触れる機会を得た大太鼓の魅力を、多くの皆様に伝える事業になるよう精一杯努めて参りたいと思っております。

副理事長
太田脩皓
平成ビル管理㈲

本年は副理事長の重責を預からせて頂くこととなりました。これまでのＪＣライフのなかで培ってきた様々な経験を基に、理事長を支え、委員長を鼓舞し、ＬＯＭの更なる発展のため、そして、より良い弘前の実現のために全力で邁進する所存でございます。

委員会メンバー紹介

委員
小山内　健将
㈱角長

委員
大藪　貴雄
丸大㈱

副委員長
三上　祐介
㈲中央貨物

委員
野宮　智之
蛇蘭

委員
鈴木　由乃
弘前市役所

委員
工藤　晋一郎
㈱工藤工務所

委員会の年間スケジュール

３月：運行企画/検討　3月例会

４月：運行準備/告知開始

７月：太鼓及び囃子練習

８月：剛情張大太鼓運行

９月：運行振り返り

職務分掌

剛情張大太鼓の企画・運行

その他

未来を担う青少年の育成

委員長
成田　陽光
㈱成田農産

この度みどりの種委員会委員長を務めます成田陽光と申します。私共委員会はちびっ子ねぷたのお通りだい事業、みどりの種事業を担当致します。ちびっ子ねぷたのお通りだい事業では保育園等の子どもたちに、地域の文化であるねぷたを通し郷土文化への愛着を育む機会を提供致します。

みどりの種事業では子供たちが作物の栽培を通して食の大切を学びながら、世界における食糧事情を学び、世界的な課題に積極的に行動できるように成長できるような事業を構築しております。

子供たちの成長をサポートしつつ、共に学び続ける委員長でありたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

常任理事
工藤　正貴
(有)ダスキン津軽

みどりの種委員会、担当常任理事の工藤正貴です。成田委員長の思いを熱く、大きくできるよう力添えをさせてもらいます！理事は3期目となりますが、事業系委員会の担当は初めての経験ですので、委員長や参加してもらう子供たちと共に大きく成長できる1年になるよう努力したいと思います！

副理事長
大場　一巧
(有)チョウエイ

２０２０年度副理事長を務めさせていただきます大場と申します。一年間どうぞよろしくお願い致します。また本年はＪＣラストイヤーになりますので、悔いが残らないように全力で地域のため、会員の為に頑張りたいと思います。

委員会メンバー紹介

委員
工藤　靖史
㈱ユーアート

委員
石山　瑠衣
弘前卍蘭々

副委員長
木村　歩
㈱木村

委員（賛助）
馬場　和平
弘前市役所

委員
村山　大輔
イマジン㈱
弘前パーク
ホテル

委員
齊藤　雄太
㈱樋川自動車

職務分掌

- 青少年事業の企画・運営
- ちびっ子ねぷたのお通りだい実行委員会の運営
- その他

委員会の年間スケジュール

1月：各事業の企画
2月：ちびっこねぷたお通りだい事業実行委員会
3月：各事業の企画
4月：各事業の企画
5月：みどりの種事業実施
6月：みどりの種事業実施
7月：ちびっ子ねぷたのお通りだい事業実施
8月：みどりの種事業実施
9月：みどりの種事業実施
１０月：みどりの種事業実施
１１月：各事業の報告書作成
１２月：次年度への引き続き

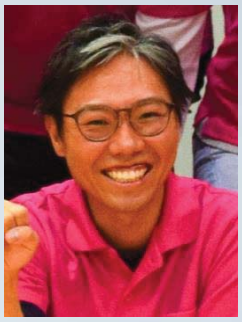
新しい気付きが小さな成長へ
小さな成長が大きな変化へ

委員長
猪股　裕一
ソニー生命保険㈱

本年度、リーダー育成委員会委員長を務めさせていただきます、猪股裕一と申します。当委員会では会員研修、新人研修に取り組んで参ります。

弘前ＪＣの発展と地域貢献のために会員一人一人が学び、成長する機会が必要です。会員研修では、会員が新たな気付きを得て実践することで、自発的に行動する人材の育成を目的とします。新人研修では、入会後間もない会員に対し、ＪＣについて理解をしてもらうことを目的とした研修を行います。また、今後のＪＣ活動・ＪＣ運動を楽しめるよう、新人会員同士の絆を深めることを目的とした研修も行います。

初めての委員長ということで不安や緊張もありますが、会員同士の協力をより強固に、全員が弘前ＪＣを益々好きになる機会に出来ればと考えております。常任理事、副理事長、委員の皆さんと協力しながら一年間、会員の皆様に貢献していきますので、宜しくお願い致します。



常任理事
下山　千嘉
弘前市役所

２０２０年度当委員会担当常任理事を拝命致しました下山千嘉です。私は賛助会員を経て２０１８年に入会させて頂きました。その間、先輩や会員から多くのことを学び、自分もそのような人になりたいと背中を追い続けてきました。今年度は猪股委員長とともに、我々が地域のリーダーとなる研修を実施して参りますので一年間宜しくお願い致します。

副理事長
成田　志穂
㈱白神焙煎舎

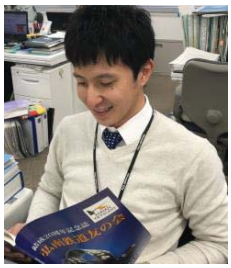
２０２０年度は、リーダー育成委員会の会員・新人研修事業の担当副理事長を務めさせていただきます。当委員会が研修事業を行うことで、会員へ学びの機会を提供し、会員の充実したＪＣ活動と成長に貢献できるよう、役割を精一杯努めたいと思います。

委員会メンバー！

委員
木村　真悦
キムズガレージ

委員
石戸谷　春菜
ラウンジwith
西弘酒場　ちり

副委員長
小田桐　正和
青い森信用金庫



委員
長内　遼太郎
弘前市役所

委員
竹内　博之
弘前市議会

委員
新戸部　大輝
㈱ユニオンパーツ

職務分掌

・会員研修の企画・運営

・新人研修の企画・運営

委員会の年間スケジュール

１月：
２月：
３月：
４月：
５月：
６月：
7月：会員研修
８月：
９月：会員研修、新人研修
１０月：
１１月：会員研修
１２月：

新人研修（適宜）

７０周年を７０名で！

委員長
野村　太郎
弘前市議会

２０２０年度会員拡大委員長を拝命いたしました野村太郎です。久々の理事ということで大変引き締まった気持ちです。２０１０年に入会させていただいてから、初めての会員拡大担当理事となります。皆様ご存知の通り、弘前青年会議所の会員の減少傾向は深刻な状況にあります。本年度は５２名でスタートしますが、会員数が三桁を超えていた時代を知る、多くの先輩方にとっては信じられない状況であると思います。この状況を何とか好転させていかなくてはなりません。我々ＪＣ運動の原点は会員拡大にあると考えます。ＪＣの理念に賛同し、自らもメンバーになり、そして、ＬＯＭにおける日々の活動の中で修練を重ね地域のリーダーに成長する。このかけがえのないチャンスを一人でも多くの地域の青年世代につかんでもらいたい。２０２０年度は、この思いを全メンバーで共有して会員拡大を実現させていく所存です。本年一年間、何卒よろしくお願いいたします。

常任理事
下山　千嘉
弘前市役所

２０２０年度会員拡大委員会担当常任理事を拝命致しました下山千嘉です。当ＬＯＭが持続し続けるためには、会員拡大が必須であります。野村委員長と共にＪＣの魅力にまだ気づいていない青年に対し、ＪＣの魅力や当ＬＯＭがこれまで行ってきた運動を訴え、一緒にＪＣ運動を行う仲間の拡大を目指して参ります。１年間宜しくお願い致します。

副理事長
成田　志穂
株式会社　白神焙煎舎

２０２０年度は会員拡大担当副理事長を務めます。理事長のもと、当会になくてはならない会員を発掘し、ＪＣ運動に魅力を感じて入会していただき、より多くの会員で弘前青年会議所を盛り立てていくための活動をしていきたいと思います。

委員会メンバー紹介

委員
大高　俊
アップルウェーブ㈱

委員
石岡　伸
㈱KANAMORI

副委員長
葛西　晋
㈱ブレーメン

２０２０年度会員拡大員会では随時、会員拡大情報を募集しています。ご家族、ご知人等にふさわしい方がおられましたら、ご紹介よろしくお願いいたします！！

職務分掌

・会員拡大窓口
・卒業式の企画・運営
・その他

委員会の年間スケジュール

１月：会員拡大
２月：会員拡大
３月：会員拡大
４月：会員拡大
５月：会員拡大
６月：会員拡大
７月：会員拡大
８月：会員拡大
９月：会員拡大
１０月：会員拡大
１１月：会員拡大
１２月：会員拡大、卒業式

ＳＪＧｓ検討委員会

Ｓｕｓｔａｉｎａｂｌｅ Ｈｉｒｏｓａｋｉ ＪＣ Ｇｏａｌｓ
～ 持続可能な弘前ＪＣの目標 ～

創立６０周年であった２０１１年から１０年、弘前ＪＣは２０２１年に創立７０周年を迎えます。 １０年という節目は過去を振り返り未来を見通す好機であり、弘前ＪＣでは毎年度の目標に加え、１０周年ごとに過去１０年間を振り返り検証し、その後の１０年間を見据えた長期ビジョンを掲げて運動を続けてきました。創立７０周年からの１０年は創立８０周年までの１０年であると同時に、国連サミット及び日本ＪＣが推進するＳＤＧｓ（Ｓｕｓｔａｉｎａｂｌｅ Ｄｅｖｅｒｏｐｍｅｎｔ Ｇｏａｌｓ～持続可能な開発目標～）達成までの１０年でもあります。

創立７０周年を迎える弘前ＪＣの運動がより地域や時代に根差したものになるように、連綿と紡がれてきた運動や地域との関わりを顧みて、一過性ではない持続可能な長期ビジョンを検討し、２０２１年度に引き継ぐことを目的として活動する委員会です。

職務分掌
- 長期ビジョンの準備
- 記念誌の準備
- その他

委員会メンバー
※各委員会より出向

総務広報委員会
三浦　聖吾　君

Sプロジェクト委員会
鎌田　祥吾　君

まつりのこころ継承委員会
三上　祐介　君

みどりの種委員会
木村　　歩　君

リーダー育成委員会
新戸部大輝　君

会員拡大委員会
石岡　　伸　君

副理事長
小山田 允紀

SJGs
Sustainable Hirosaki JC Goals

0th 10th 20th 30th 40th 50th 60th 70th 80th 90th 100th

1951 1961 1971 1981 1991 2001 2011 2021 2031 2041 2051